

と報告されて居る。(神經學雜誌第 23 卷第 1 號)

斯くの如く、スタйнаハの説を支持する報告もあるが、又、一方には反對説も少なくない。

例へば「ラツテ」犬、猫、猿等に就て、輸精管を結紮すると、動物は食欲佳良となり、元氣が旺盛で、體重が著しく増加し、性慾は手術後 1 週間前後から亢進し、1-2 ヶ月間持続する。即、大體に於て、若返りの状態を呈することは事實であるが、間もなく、手術前と同様の状態に歸り、或は寧ろ減退の兆を呈するものが多いとの報告もある。(藤田博士其他)

又、楠博士等の行へる臨牀的の成績に就ても、之を疑へる學者が少なくない。

要するに、スタйнаハ及び他の一部の學者の行へる、所謂、若返り法に就ては、學理的にも、亦、實際的にも種々の缺陷あるを免れない。恐らく、之は否定すべきものであると信する。

備考

(1) 輸精管の兩側結紮は、若返りの目的を達し得ないのみならず、一種の完全なる絶産法であるから、子供を希望する人士には行ひ得ない。

(2) フランスのヴォロノフ Voronoff は、類人猿の如き比較的高等なる猿の睾丸を人類に移植すると、大に若返ると唱へたが、其の成績は疑問とされて居る。

(3) 要するに、眞の若返りは必ずしも生殖腺の機能の如何にのみ關係するものではない。實に體細胞、即、全身を構成せる細胞の若返りでなければならない。

其三、腔脂膏による性週期の研究、及び、其の應用

第一節 緒 論

凡そ、性週期 Oestruszyklus, Sexualzyklus, (Oestrous cycle, Sex cycle) とは、性ホルモン(主として卵巣ホルモン)によつて惹起せらるる、女性の體內、特に女性生殖器に起る週期的の變化を意味する。

之の週期的變化 Zyklische Veränderung は、卵巣、子宮、腔等に於て、比較的、整然たる形態的變化を伴ふものであるが、腔脂膏も亦、其の結果として定

型的の變化を呈する。

故に若し、腔脂膏をば、一定の時間毎に採取して、之を顯微鏡下に檢する時は、體內に於て起りつつある性週期的變化をば、逆に推定し得べき道理である。

而して、腔脂膏の採取は、最も簡単に容易に行ひ得るのみでなく、試験動物に何等の傷害を與へないから、最も生理的状态に近い眞相を推定することが出来る。之を従來の子宮、腔等を摘出して、組織標本となして檢する如き不自然、不便、且、多大の日數を要する方法と比較すると、非常なる進歩と云はねばならぬ。

1917 年に、ストックカード及パパニコロウ Stockard and Papanicolaou 兩氏が、始めて本法を公けにして以來、多數の學者によつて追試せられ、又、各種の研究に應用されて以來、性ホルモンに關する研究は、長足の進歩を遂ぐるに至つた。

尙、本研究の結果は、臨牀上に貢獻し、社會問題、特に女性の生理衛生的方面の社會的改善にまで波及せんとする状態にある。實に學術の研究が社會を利することの偉大なるに感嘆する次第である。

第二節 性週期に關する研究の歴史

本研究は Stockard and Papanicolaou が「モルモット」に就ての研究を公けにせしを第一とする。

之に次で Long and Evans, Allen, Frei, Luntz, Selk, Stieve, Dierks, Allen and Doisy, Aschner, Zondek, 其の他、多數の學者の研究が現はれた。

本邦に於ても、水野、宮川、齋藤、寺田、森、佐野、三輪、高木、其の他諸氏の有益なる「アルバイト」がある。

備考

(1) Stockard and Papanicolaou (1917) は、初めて、モルモットに就て、其の性週期は、腔脂膏に混する細胞成分、其他の一定特有の變化によつて推知し得ること立證した。(Americ. Journ. of Anat. V. 22. 1917)

- (2) Long and Evans(1922)は、ラッテに就て、膣脂膏の週期的變化を研究した。(University Press, Berkeley, California, 1922)
- (3) Allen(1922)は、「マウス」に就て報告した。(Americ. Journal of Anat. V. 30, 31, 1922)
- (4) Frei u. Luntz(1929)は、牛に就て研究した。(Virch, Arch. f. path. Anat. u. path. Phys. Bd. 271 Heft 2, 1929)
- (5) Selk(1922)は「モルモット」に就て報告した(Americ. Journal of Anat. 30, 1922)
- (6) Stieve (1925)は、人類に就て研究した。(Zeitsch. f. mik. Anat. Forsch. 3H. 3, 1925)
- (7) Dierks (1927)は、人類に就て報告した。(Arch. f. Gyn. Bd. 130 1927)
- (8) Allen, Doisy 其他は、自然状態の濾胞液を、去勢動物に注射して、静止期から興奮期の状態に變化せしめ得ることを実験した。
- (9) Aschner は、卵巣及び胎盤からの抽出物を作り、之を用ひて性週期に及ぼす影響を實驗した。
- (10) Zondek は、マウスに就て卵巣ホルモンの效力検定法として、膣脂膏を利用すべきを唱へた。(Kl. Woch. 85 No. 22 1926)
- (11) Evans は、動物にて卵巣ホルモンを檢定する方法を公けにした。(Amer. Journ. of Phys. Bd. 77. 1926)
- (12) 水野遼意氏は、ラッテの性週期に就て報告した。(日本婦人科學會雜誌第21卷第5號, 6號)
- (13) 宮川米次, 及, 齋藤公平氏は、卵巣黄體の生物學的意義を明にする爲めに、モルモットの性週期に就て論じた。(實驗醫學雜誌13卷1號)
- (14) 齋藤公平氏は、性ホルモンの成生部位に關する實驗的研究を行ひ、主としてラッテの性週期を應用する研究方法を用ひた。(實驗醫學雜誌第11卷第10,12號及第12卷9號)
- (15) 寺田正周氏は、性週期と卵巣及子宮の機能に關する實驗的研究をした。(實驗醫學雜誌第11卷第5號)
- (16) 森茂樹氏は卵巣ホルモンと交尾期循環に就て、氏及び門下諸氏のアルバイトを綜合的に報告して居る。(日本內分泌學會雜誌第5卷第3號)

以上の他に尙、多數のアルバイト、報告等もあるが之を省略する。

第三節 性週期の分類

性週期そのものは勿論、生物的自然現象であるが、之を分類することは人爲的であるから、各人の意見の相違によつて、分類方法を異にする。

現今、多くの學者は次の如く分類して居る。

- (1) 興奮前期 Proöstrus
- (2) 興奮期 Östrus
- (3) 興奮後期 Metöstrus
 - a) 前半期
 - b) 後半期
- (4) 静止期 Diöstrus.

即、大體、以上の如き性週期的變化 *Zyklische Veränderung* が比較的、整然として繰り返して行はれて居る。

但、性週期の時間的経過は、種々の事情によりて、多少の變動を免れない。即、

(1) 動物の種類によりて異なること。

性週期が一回経過する時日、換言せば1性週期に要する時間は試験動物の種類によつて一様でない。例へば

動物の種類	1性週期に要する平均時間
マウス	6-8日間
ラッテ	4-6日間
モルモット	17日間

(2) 動物の個性によつて異なること。

同じ種類の動物でも、個性によりて、多少は性週期の時日的變化が異なることがある。(之は人類でも、月經の時日が必ずしも總ての婦人が同一でないと同様である。)

(3) 年齢の関係

幼若なる動物では、卵巢の發育が未だ充分でなく、従つて、卵巢ホルモンの産出も少ないから、性週期の發現を來さない。

ラッテに就ての觀察によると、幼若なる雌が漸次成長して、生後約 72 日に達すると、腔口を閉鎖せる膜 Membran が、次第に薄くなつて遂に破れる。之はラッテが性的に成熟せる徴候であると云はれる(Evans)。

然し、その時期に於ては、未だ性週期は不整であるものが多く、それよりも更に完熟期に入れる動物の方が整然として現はれ、従つて實際の目的にも好都合である。

(4) 季節の関係

冬期には一般に性週期が不完全、且、不規則である。反之、春期には整然たるものが多い。

(5) 栄養の関係

一般に栄養の不良なるものは、性週期も亦、不良である。

然しながら、栄養が餘りに過多に過ぐるものも亦、不整、不完全となり易い。

第四節 性週期に於ける腔脂膏の變化

腔脂膏は、性週期の各時期に従つて、特有の形態的變化を呈する。

(従つて、逆に、腔脂膏を検査せば、その検査時は、性週期の如何なる時期に當れるものかを推定することが出来る。)

今、参考の爲めに、白鼠 Ratte に就て、性週期の各時期に於ける腔脂膏の主なる形態的變化を述べる。(第 103 圖参照)

(I) 興奮前期(Proöstrus)に於ける腔脂膏の状態。

有核腔上皮細胞が多数に出現する。之は興奮前期に於ける特徴であつて、是等の細胞は群をなし、或は散存して存在する。

白血球は少数であるが、多くは退行變性に陥つて居る。

粘液は少量である。

(この期間は平均 15 時間繼續する。この時期には、外陰部は腫脹し、充血し、開大して居る)

(II) 興奮期(Oestrus)に於ける腔脂膏の状態。

無核腔上皮細胞が多数に出現することが特有である。是等の細胞は、扁平大形で、核が消失し、且、角化 verhornt の状態にある。尚、興奮前期に現はれた如き有核細胞は全く消失する。

白血球は殆んど存在しない。

粘液は僅に存在する。

(この時期は Zondek の所謂、陽性期 Schollenstadium, Schuppenmaximum と稱する期間である。時間は平均 24-30 時間繼續する。

外陰部は腔口が開大し、腫脹せるを特徴とする。)

(III) 興奮後期(Metöstrus)に於ける腔脂膏の状態

之は前半期と、後半期の 2 つに區別する。

(A) 前半期

角化せる腔上皮細胞は次第に崩壊する。

有核腔上皮細胞が少しく出現する。

(B) 後半期

角化せる腔上皮細胞は全く消滅する。

有核腔上皮細胞が少しく存在する。

白血球の少数が現はれる。

(興奮後期の期間は、平均 24-30 時間で、其中、後半期は約 5-10 時間である。

この時期には、外陰部の腫脹充血は消失する。)

(IV) 静止期(Diöstrus)に於ける腔脂膏の状態。

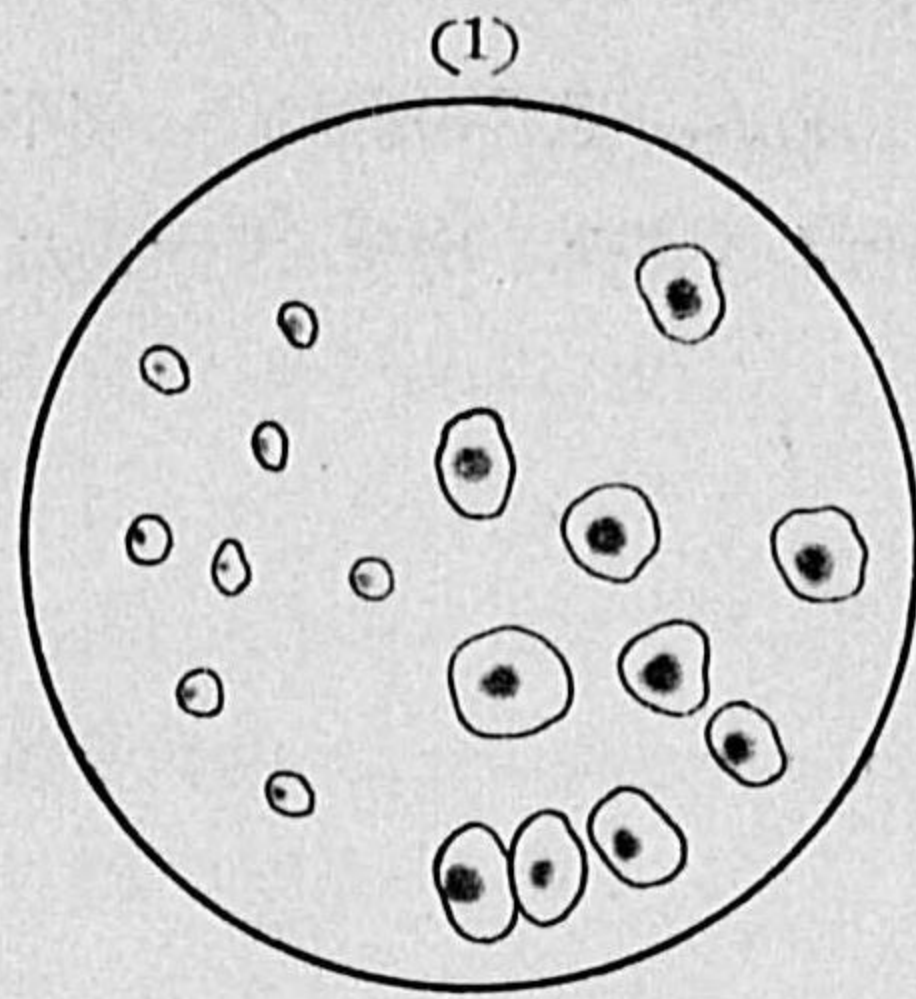
白血球が、極めて多数に出現することが特徴である。

有核腔上皮細胞は全く存在しないが、時には極めて僅に存在することもある。

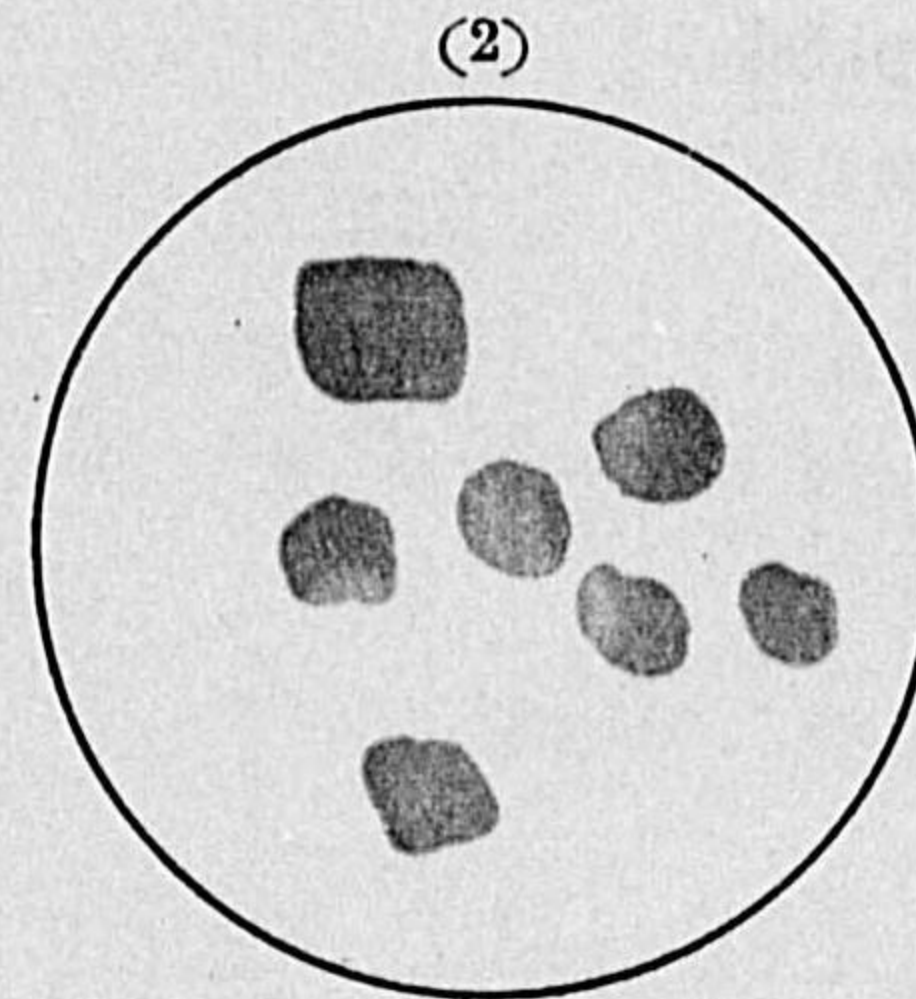
粘液は稍多数に存在せることがある。

(この静止期は、最も長時間續くもので、50-65 時間にも達する。)

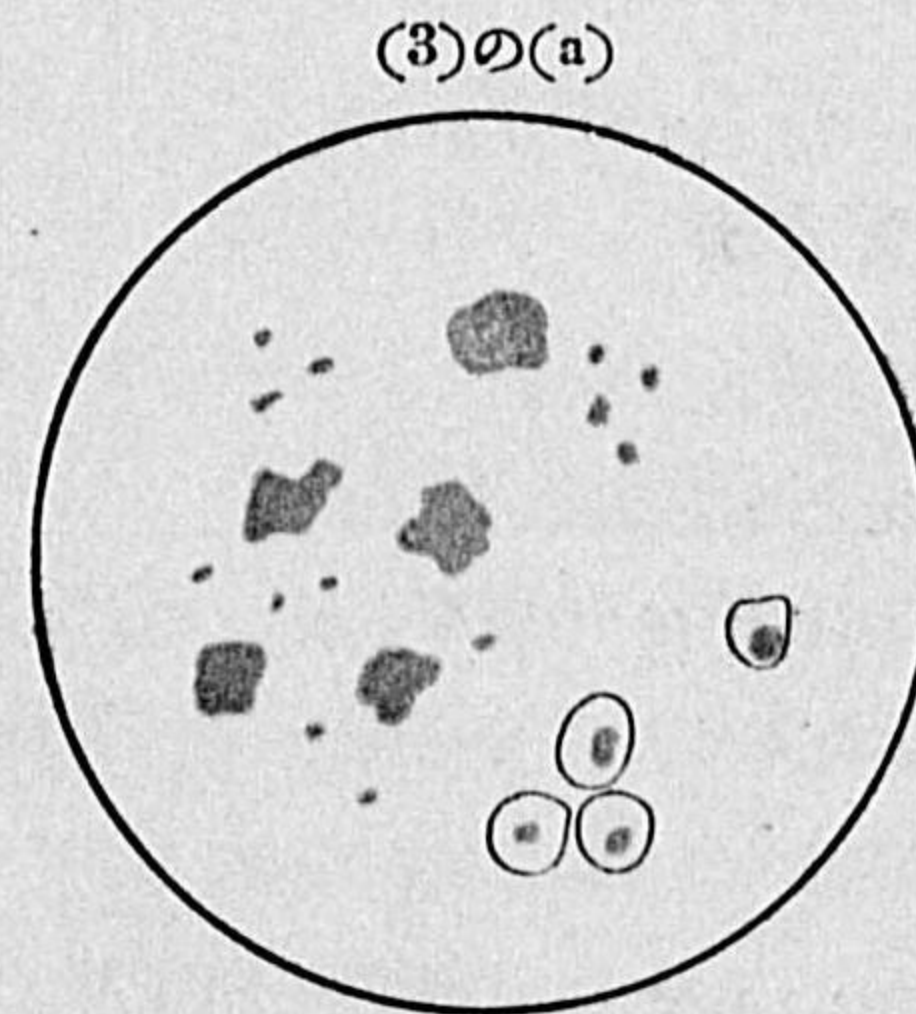
第 103 圖 腔脂膏の顯微鏡的
所見(省略圖)(著者原圖)



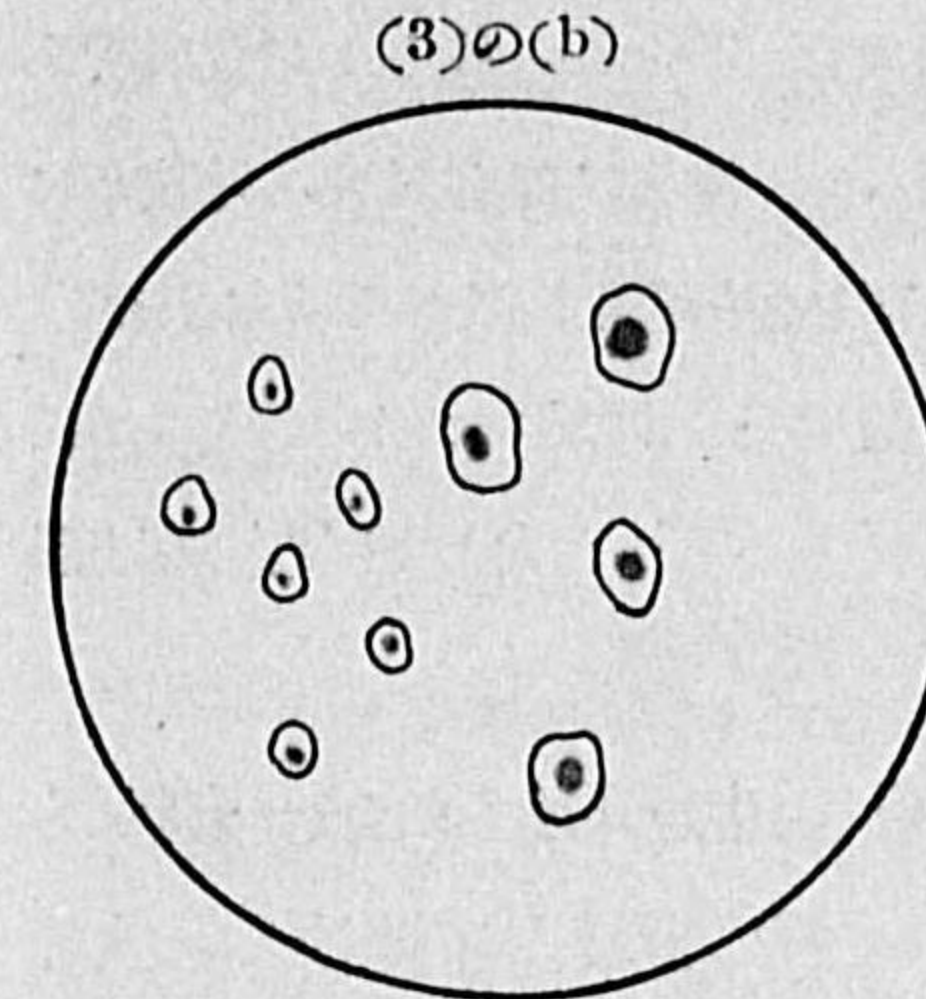
(1) 興奮前期(Proöstrus)
有核腔上皮細胞が多数に出現する。
白血球は少数であるが、多くは退行變性
に陥つて居る。
粘液は少量である。



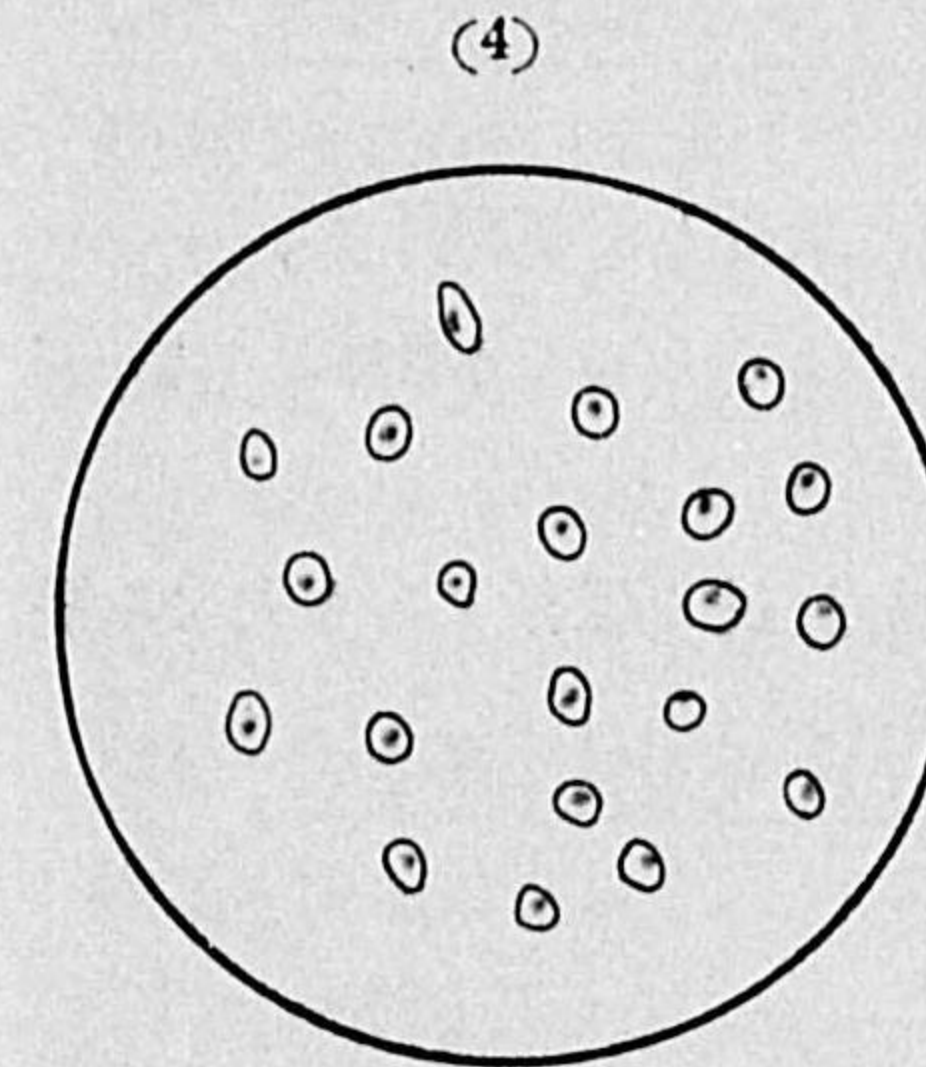
(2) 興奮期(Östrus)
無核腔上皮細胞が多数に現はれる。
白血球は殆ど存在しない。
粘液は僅に存することがある。



(3) 興奮後期(Metöstrus)
(a) 前半期
角化せる腔上皮細胞は次第に崩壊する。
有核腔上皮細胞が少しく出現する。



(3)の(b)
(b) 後半期
角化せる腔上皮細胞は全く消失する。
有核腔上皮細胞と白血球の少数が現はれ
る。



(4) 静止期(Diöstrus)
白血球が多量に存在する。
粘液は稍多量に存することがある。
(有核腔上皮細胞は存在しないのが普通で
あるが、時に僅に存することもある)

静止期に於ては、腔内に濕潤を認める。

静止期の終りに達すると、白血球は次第に減少し、有核腔上皮細胞が出現し初め、再びその興奮前期に移行する。

第五節 腔脂膏の検査方法

腔脂膏の検査は、試験動物の如何により、又、各人の意見によつて一様でない。茲にはラッテに就て、我が教室に於て實施せる方法を述べる。

今、成熟せる雌白鼠を、飼養箱から取り出し、實驗臺上に横へる。次で毛絲製の厚い手袋の中に追ひ込む。然る時、白鼠は喜んで自から進んで、手袋の中に入り込む。(之は最も自然に近い動物固定法である)

次で、白金耳を右手に持ち、左手に白鼠の尾を持ち舉げて、腔内に白金耳を

静に挿入して腔脂膏を掻き取る。(白金耳の輪は直径 2-3mm. のものが適當である。挿入する深さは、腔の中央部と思はるる迄が宜しい。挿入に際しては、外陰部に觸れない様に注意することが肝要である。又、腔壁に機械的障害を與へてはならぬ。)

次に、白金耳で掻き取つた腔脂膏は、豫め準備せる「オブジェクトグラス」に塗布して、塗末標本とする。之には種々の方法があるが、次の如き方法は最も簡便である。

今、清潔なる「オブジェクトグラス」の上に、0.85%生理的食鹽水を一滴たらし、之に白金耳に附着せるままの腔脂膏を混じ、静に攪拌して擴げる。次で空氣中で自然に乾燥するを待つて、メチールアルコールを滴下して乾燥せしめる。(或はメチールアルコール内に約 30 分間浸す。)

次で、ギムサ液 GiemsaLösung で染色したる後、水洗し、乾燥する。

(本實驗に用ゆるギムサ液は、血液染色に用ゆるものよりも少しく濃厚なるものが宜しい。即ち、40cc. の水に 50 滴の原液を溶せる程度がよい。)

以上の如くにして調製せる塗抹標本は、そのまま長く保存するも大なる變化を來さない。

備考 腔脂膏の検査に際して注意すべき事項

(I) 試験動物の選擇

白鼠は體重 150-220 瓦 のものが最も適當である。即ち、餘りに幼少なるもの、或は、老齡のものは性週期が無い、或は不整である。

(II) 性週期の豫備検査を行ふこと。

豫め多數の動物に就て、性週期が正常なるや否やを確かめ、比較的正常に経過するものを選択して、實驗に供するがよい。

ラッテ、即ち、白鼠の性週期は平均 4-6 日を以て反復するから、約 2-3 週期を豫備的に觀察するが宜しい。

(III) 飼養に就ての注意

白鼠は個々隔離して飼養する。又、食料を一定にすることが肝要である。即ち、水、玄米、小麥、野菜等を主食とし、其他に尙、時々、干いわし、パン、人參、肉、牛乳等を與ふるがよい。

食物の良否は著しく、性週期に對する影響を來すものである。

(IV) 検査の回数

1日2回、朝夕或は午前午後の兩度、時を定めて行ふ。ラッテは 4-6 日を以て1週期とするから、2-3 週期に亘つて連続的に検査することが肝要である。

第六節 腔脂膏の検査と其の應用

腔脂膏を利用して、性週期に及ぼす各種の影響を實驗せる報告は頗る多い。今、參考の爲めその主要なるものを総合的に記述する。

(I) 去勢 Kastration の影響

性週期が、整然と出現して居る白鼠の兩側卵巢を完全に剔出すると、早きは 7 日、遅くとも 10 日目には、性週期が消失して、靜止期のみとなる。(かかる動物を解屍して見ると、子宮及び腔に著しきアτροφイーを認める。)(Saito)

故に卵巢は、性週期の發現を保持し、且、子宮、腔等のアτροφイーを豫防し、發育を促すべき作用を有するホルモンを産出することを知る。

(II) 去勢後に於ける體內残留の、卵巢ホルモンの效力持續時間。

卵巢を完全に剔出すると、7-10 日目には性週期が消滅する。然し、去勢後尙、2-3 日間には時に興奮期の現はるることさへある。之は恐らく、去勢手術前に、既に卵巢を分離して、體內を循環せる卵巢ホルモン Ovariumhormon の効果に因るものである。

故に之の卵巢ホルモンが消費し盡された後は、引つづき靜止期のみとなつて興奮期が現はれない。(Saito)

以上の事實から考へると、人類に於ても、去勢後、恐らく一定の期間内は尙、卵巢ホルモンが體內に残留して居つて、その固有のホルモン作用を發揮し得るであらう。然しながら短時日内に最後の「ホルモン」も亦、消費し盡されるものと信ぜられる。

(III) 卵巢ホルモンの性週期に及ぼす影響

卵巢のホルモンは、之を抽出する部位によつて、效力が異なる如くである。即ち、

(A) 濾胞液 Follikelflüssigkeit

之は性週期の發現を促し、且、子宮の發育を促進する如き、特殊のホルモンを含有する。之は多くの學者の意見の一致する處である。(Allen, Doisy, Pratt, Carlson, Laqueur, Loewa, Zondek, Aschheim, 水野, 齋藤, 其他)

(B) 黃體 Corpus luteum

黃體の抽出物を、去勢ラッテに注射しても、性週期を恢復せしめ得ない。但、子宮の發育を促す作用はある。(Doisy, 齋藤)

(C) 間質腺 Zwischenrüsen

卵巢の間質腺組織中には、性ホルモン、及び、子宮の發育を促進する物質を含有する。又、間質腺は、破瓜期以前の時期に於ても、既に性ホルモンを産出する機能を有せる如くである。(Saito)

(IV) 性週期の發現と、性ホルモンの濃度 Konzentration

動物に性ホルモン、例へば卵巢ホルモンを注射しても、若し、使用量が一定の濃度に達しない時には、陽性の成績が現はれて來ない。換言せば、一定度以上の性ホルモンが作用しないと、性週期を發現せしめ得ない。反之、大量に作用せしむると、生理的限度を越へて、發情現象の持續期と、強度が増強されることがある。

今、マウスに濾胞水を、8-16 日間持續して注射すると、發情期が起るが、體内に於て一定の濃度に達して居る時に限り持續し、一定度以下に降ると最早繼續しない。(Tuisk, Journal of Physiol. Vol. LXIII. 2.)

(V) 性週期の發現と性ホルモン注射の時期

白鼠を去勢すると、7-10 日目に性週期が消失する。然し、手術後 10-11 日目から、卵巢濾胞水の注射を開始すると、確實に性週期を恢復せしめ得る。

反之、手術後、20 日間を経た後に注射を開始しても、性週期の恢復は極めて困難である。(Saito)。之は恐らく、去勢後、一定の時日を経ると、生殖器に於けるアτροφイーが餘りに強く進行して、之を恢復することの困難なるに依るものと思はれる。

故に人類に於ても、去勢による缺落症狀 *Ausfallerscheinung* を豫防する目的には、成るべく早期に注射、内服等を開始することが肝要である。

(VI) 胎盤と性週期との關係

胎盤、エッキスは性週期を興奮せしめる。又、胎盤を移植しても、同様の効果がある。

故に、胎盤は性週期を興奮せしむる如きホルモンを含有するとの説が多い。(Saito, Yamamoto, Ota)

(VII) 腦下垂體前葉の影響

腦下垂體前葉のホルモンは、著しく、性週期に對し、興奮的に作用する。(尙又、生殖器の發育をも促進する。)

(VIII) 副腎皮質の影響

副腎皮質 *Nebennierenrinde* は、白鼠の性週期に對して、興奮期を延長せしめ、靜止期を抑壓する。

故に副腎皮質ホルモンは、興奮的に作用するものと認められる。

(IX) 甲状腺及び胸腺の影響

是等のホルモンは、性週期を抑壓するらしい。

(X) ビタミンとの關係

ビタミンBの缺乏食を與へると、性週期が變調となり、遂には停止する。然し、ビタミンBの過剰を與へても、性週期には大なる影響が無い。故に一定度の Vitamin B が食物中に含有されて居る時は、それ以上の Vitamin B を與へても無意義であると思はれる。

(XI) 血液中に性ホルモンが含有せらるるや否やの研究

非妊娠時の婦人では、血液 1 リートル中に、平均 0.2-3.0 マウス單位の性ホルモンを含有する。

妊娠時には之が著しく増加する。

(XII) 尿中に性ホルモンが含有せらるるや否やの研究

妊婦の尿は、著しく多量の性ホルモンを含有する。然して、妊娠の月數の重なるに従つて多くなる。(Zondek, Aschheim, Saito, 白井, 其他)

(XIII) 乳汁中に性ホルモンが含有せらるるや否やの研究

性ホルモンは、乳汁中にも混じて排泄される。但、分娩後、一定の時日を経ると存在しなくなる。

(XIV) 卵巣ホルモンは経口的に與へて有效なりや

去勢動物に、卵巣ホルモンの比較的大量を経口的に與へると、能く、興奮期を出現せしめ得る。

例へば、マウスでは皮下注射量の約 20 倍を経口的に與へると有効である。

故に臨床的にも、卵巣ホルモンを経口的に與へて、充分に有効なるべきことが立證される。

(XV) 性週期と外界との關係

マウスに就ての實驗的研究によると、

- 1) 著しき高温又は低温は性週期に不良に影響する。
- 2) 著しき音響刺戟も同上である。
- 3) 日光を遮断するも亦、同上である。
- 4) 紫外光線は性週期を興奮せしめ、卵巣機能を旺盛ならしむ。

との事である。(池井)

以上の實驗は、動物試験であるから、そのまま直ちに人類に於ても斯くあるべしと推論し得ないが、而も、甚だしき高温又は低温、猛烈なる躁音、或は日光照射の不充分なる工場、等に勞働せる女工の生殖能力に、斯かる不良なる外界の事情が、何等かの悪影響を及ぼすべきは想像に難くない。

其四、齒牙とホルモンの關係**第一節 緒論**

齒牙とホルモンの間には、密接なる關係が存するものと信ぜられる。

然し、從來の内分秘研究が、動もすれば齒牙を閑却するの傾向があつた爲めか、充分に明瞭にされて居ないのは誠に遺憾とする處である。

第二節 齒牙はホルモンを産出するか

齒牙そのものが、内分秘作用を營んで、ホルモンを産出すると云ふ確實なる

實驗報告は無いと思はれる。

少なくとも、余自身は、齒牙には内分秘作用なきものと信じて居る。

但、宮川教授の下に行はれた實驗によると、

『齒牙細胞成分を生體に非経口的に注入すると、生ける同種細胞に直接作用を及ぼし、その注入量の如何、即、刺戟物質量の多少により、或は機能が亢進されて牙質形成は促進し、石灰化が緻密となり、發育が正調となる。或は又、機能が低下し、牙質形成の減退、石灰化の減少、發育障礙を惹起す。』とのことである。而して又、以上の所見から次の如く立論して居る。

『生齒、殊に齒牙交換時に於ける退化吸収組織成分は、そのまま排泄されるものでなく、所謂、アウトホルモン(Autohermon, 自家ホルモン)として、その母細胞に作用して、自家調節を營み、齒牙に於ける生活現象をして圓滑に進行せしむるものであろう。尙、其の他の齒牙發育、齒牙組織の新陳代謝等の如き、生活現象は、之の自家調節に負ふ處が大である。(柴田信、實驗醫學雜誌 12 卷 11 號)』

即、齒牙の崩壞によつて生ずる物質が吸収されて、之が血液中を循環し、再び齒牙に來つて、之を刺戟して、其の發育を促すと云ふ理論である。

之の自家ホルモン説、即、Autohormon Theorie は、他の殆んど總ての器官、組織等に於ても、行はれて居るとの説がある。(宮川博士)

故に齒牙に於ても亦、自家ホルモンとしての作用が有るかも知れない。然し之を以て、直ちに齒牙にホルモン産出機能があるとは斷言し得ない。何となれば眞の意味のホルモンと、所謂、自家ホルモンとは必ずしも同一物質でないからである。

第三節 ホルモンが齒牙に及ぼす影響

前述の如く、齒牙そのものには、恐らく内分秘作用が無いものと信ぜられるが、反對に、各種のホルモンは齒牙に微妙なる影響を與ふるものと思はれる。

(I) 生殖腺と齒牙との關係

試験動物の生殖腺、即、睾丸、又は卵巣を完全に摘出すると、齒牙形成時に

於ける石灰鹽類の新陳代謝を障礙する。又、齒牙の萌出速度を遅延せしめ、發育を著しく障礙する。(生田信保)

(II) 胸腺と齒牙との關係

胸腺を剔出すると、齒牙の石灰質が減少する。

(III) 上皮小體と齒牙との關係

試験動物の上皮小體 Epithelkörperchen を完全に摘出すると、カルチウム Ca の排泄が高まつて、血中のカルチウム含有量が減少することは既に述べた如くである。

之と同時に齒牙に於ても亦、石灰鹽類の減少を來し、脆弱となり、實質が缺損し、萌出速度が著しく減退し、齒牙の排列が不良となるとの報告が多い。(生田、其他)

結 論

要するに、齒牙そのものは、恐らく内分泌機能を有しない。然しながら、各種の内分泌器官、特に生殖腺、胸腺、上皮小體等のホルモンは、齒牙の發育に對し、促進的に作用するものと信ぜられる。

其五、主要なるホルモン製劑

「ホルモン」學說の理論的方面に關する大要は、前記諸章にて略、明瞭ならしめ得たりと信ずる。次に余は、是等「ホルモン」學說を基礎として如何なる「ホルモン」製劑が世に行はれつつあるかを示さんと欲する。斯くせば「ホルモン」學說の應用方面に於ける現代の大勢を觀取し得るのみならず、實地治療家にも何等かの貢獻をなし得べきを信ずる。

但、世界各國に於ける「ホルモン」製劑は頗る多く、全部之を収録することは容易でなく、且又、其必要も認めない。故に主要なるものに限ることとした。尙、是等藥品の有効無効に就ては、余自身未だ實驗を経ざるものもある故、全部に渡りて之を保證することは困難である。從て茲には、唯、創製者の意見を紹介する止むることとした。(尙、實藥と認むべきものは除外した)

(I) 睾丸「ホルモン」を主劑とせる藥品

(1) 乾燥睾丸實質 Orichic Substance Deciccated, (パークデビス)

本品は動物の睾丸を乾燥し、粉末となせる淡黄色の佳快なる香を帯べる細末で、製造者の言によれば其の 0.065 瓦は、新鮮なる睾丸實質の 0.78 瓦に相當し、神經衰弱、陰萎、糖尿病、肥大性攝護腺炎、ヒステリー性癲癇、濕疹、鱗屑症、肥胖症等に效ありと稱せられる。用量、一回 0.065-0.325 瓦、(必要により増量し得。)

(2) スペルマチン Spermatin, (帝國臟器藥研究所)

本品は淡黄色の液體で、青春期の男性動物の生殖腺、(睾丸及び攝護腺)を 37 度の温にて處理し、蛋白質、其他の夾雜物を除去せるもので、其一アンブーレ中に、有效成分 30 ミリグラムを含有すと云ふ。本劑は心身爽快、精力充實、疲勞減退、食慾亢進、體重増加、視力恢復等の效を奏し、且、陰萎、早漏、勃起力減退、神經衰弱、生殖器發育不全等に有效なりと稱せられる。

(3) オルヒック Orchic (ウイilson 研究所)

本品は、若き牡牛の睾丸より製せしもので、粉末及び錠劑がある。精液缺乏、陰萎、老衰、生殖器性神經衰弱、色慾缺乏、精神病及び發育不全等に有效なりと稱せられる。用量 0.13-0.65 尙、注射液もある。

(4) テステスヂッカ Testes sicca (Merck)

本品は牡牛の睾丸を乾燥し、粉末となせるもので、淡灰黄色の粉末である。その 1 瓦は新鮮なる睾丸の 6 瓦に相當する。

錠劑は一個に就き乾燥粉末 0.25 瓦を含有する。1日 2-8 錠とす。

(5) リクオール、スペルマチクス Liquor spermaticus (Merck)

動物の睾丸を薄く切り、同重量の「グリセリン」に 24 時間浸す。次で 5% 食鹽を加へ、高壓を加へてアルミニウム濾器過 Aluminiumfilter にて濾す。使用前に當り同量の滅菌蒸餾水にて稀釋する。皮下注射 2-8cc

(6) オルヒチチン Orchizichin

睾丸粉末に「レチチン」及 Muirapnama を加へたるものなりと云ふ。

(7) エッセンチア、スペルミニイニイ、ペール Essentia spermini (Poehl) 内服用

(8) スペルミニウム、ペール Sperminum (Poehl) 皮下注射用

(9) **スベルミン、ペール、ヂッカ** Spermin (Poehl) sicc. 注腸用

(10) **スベルミン**(伯林臓器薬品製造會社)

睾丸ホルモンを抽出し、蛋白其他の化合物を除去せるもので、神経衰弱、性的疾患(性交不能、早漏、陰萎)、ヒステリー、動脈硬化症、老衰、胃腸障害、精力減退、貧血、痛風、其他一般虚弱症等に有効なりと稱せられる。注射用、内用、錠剤等がある。

(11) **オルヒチン**(巴里ビラ會社)

睾丸及び攝護腺より抽出せし「ホルモン」で、生殖器性神経衰弱、性的機能障害、陰萎、老衰、精液缺乏、色慾減退、生殖器發育不全、心臟衰弱等に有効なりと稱せられる。注射液及び粉末がある。

(12) **プロクラミン** Procuramin(日新醫學社)

睾丸、攝護腺、腦下垂體前葉等の「ホルモン」の鹽酸鹽なりと云ふ。本品は神経衰弱、生殖器障碍(陰萎、早漏、勃起力減退)老衰、生殖器發育不全、其他、動脈硬變症、攝護腺炎、バセドウ氏病、喘息、攝護腺及び甲状腺官能不足等に有効なりと稱せられる。注射用及び錠剤がある。

(II) 卵巢ホルモンを主劑とせる藥品

(1) **乾燥卵巢實質** Ovarian Substance deciccated (パークデビス)

本品は動物の全卵巢を乾燥し、粉末となせる、淡黄色にして佳快なる香味を有せる粉末劑である。其の 0.065瓦 は新鮮卵巢の 0.39瓦 に相當する。經歇期、特に人工的月經閉止に發せる神経的及び榮養障碍の治療、妊娠性嘔吐、機能的月經不調、生殖器の小兒狀態、女子の神経衰弱等に有効なりと稱せられる。

用量 1日 0.13-0.26瓦 此量は治效を見るまで持續し必要あれば増量する。

(2) **乾燥卵巢黃體膠囊** Corpora Luea deciccated (パークデビス)

本品は牛及び豚の黃體より製出せるもので、淡黄色の粉末劑である。各個 0.325 瓦入の膠囊である。(本膠囊 1 個の内容量は、新鮮卵巢腺の 1.95瓦 に相當する)。

本品は卵巢切除に因する各種の症候、及び月經閉止に續發する神経障碍、月經困難、萎黃病、不妊症等に效ありと稱せられる。

(3) **流動黃體エックス** Soluble Extract Corpola lutea (パークデビス)

本品は新鮮なる黃體エックスを生理的食鹽水に溶解し、之に局所麻酔の目的を以て「クロトーン」を飽和せしめたるもので、1管の内容 1 錠中には 0.2 瓦の乾燥黃體に等しき量を含有する。淡黄色透明の液である。

適應症 機能的月經閉止、月經過少、生理的又は人工的月經閉止に伴ふ反射器官の神経的若くは充血に基く障害、月經時神経症、化膿性傳染又は機械的障害に基かざる不妊症、扁側の卵巢機能不全若くは轉位及之に對する他側卵巢の代償的機能不全、疾病又は機械的障害なくして反復する妊娠中絶、妊娠初期に來る嘔吐等に效ありと稱せられる。

(4) **ゲネグランドール** Geneglandol (三共株式會社)

本品は卵巢中より分離したる注射薬で、子宮發育不全兼月經異常、特に無月經、月經不順、月經過少、早期閉經等。子宮發育不全不妊症、交接時快感缺乏症、脱落症狀特に腰部以下の厥冷を訴ふるもの。授乳性生殖器萎縮に因する閉經及脱落症狀。陣痛先驅性流早産。妊娠嘔吐症竝に惡阻特に陣痛を發せるもの。陣痛抑制又は輕減を要する場合例へば過強陣痛、痙攣性陣痛、産婦輸送時産科手術準備中又は廻轉術等に有効なりと稱せられる。

(5) **ゲネステプトール** Genestyptol(三共株式會社)

本品は前者に似たるもので、次の諸症に有効なりと稱せられる。即、原因不明の子宮出血、所謂、卵巢性出血竝に慢性附屬器炎症時に於ける子宮出血又は月經過多。月經困難特に全身症狀の高度なるもの。婦人特に妊娠時に於ける頑固なる神経症狀、例へば頭痛、眩暈、不眠等。妊娠嘔吐竝に惡阻。カストラチオン、レントゲン及ラヂウム放射後に於ける脱落症狀(特に發作性頭部充血、顔面潮紅、發汗、溢血斑、蕁麻疹等を患ふるもの)

(6) **コープスルテウム錠**(ウキルソン研究所)

本品は妊娠動物の屠殺直後、未だ體温を保持する卵巢より分離したる黃體錠にして、發育不完全なる子宮を著しく増大せしめ、子宮發育不全に基因する無月經に對し、正常に月經を催起せしめ、又、卵巢切除後に來る種々の缺陷現象、例へば逆上、發汗眩暈等、及、生殖器障礙に因する種々の神経的症狀に著

效を有し、又、不妊症、妊娠悪阻嘔吐等に偉効ありと稱せられる。淡黄色の錠剤にして別に注射用アンプル入がある。之は可溶性卵巣黄體の 0.021 瓦を含有し、之に局所麻酔薬「クロールプタノール」を飽和せしめたる生理的食鹽水 16 滴を添加せるものである。

(7) **ルテイノール** (鹽野義商店)

本品は卵巣黄體より製せる注射薬で、妊娠嘔吐、卵巣機能不全、子宮發育不全、無月經等に有効なりと稱せられる。

(8) **オオホルミン** Oophormin (武田商店)

本品は動物の新鮮なる卵巣より抽出せる製剤で、缺落症状、閉經期障礙、無月經、月經僅少、月經困難、子宮萎縮、色慾減退、神經衰弱、不眠症、憂鬱症、子宮異常出血、子宮發育不全、卵巣機能障礙、手術後又はラヂウム、レントゲン等の治療後に惹起する婦人科的諸症等に有効なりと稱せられる。

(9) **オヴァリン** Ovarine (佛國ピラ會社)

牛又は羊の卵巣有機體の總成分である。適應症は月經障害、無月經、月經困難、月經痛、春期發動期障害、妊娠障害、月經閉止、卵巣機能不全、慢性ロイマチス、色慾減退、女子老衰なりと云ふ。

(10) **アゴメンジン** 及 **シストメンジン** (バーゼル化學工業會社)

「アゴメンジン」は「リバミン」を主劑として、月經催進の目的に使用し、「シストメンジン」は「ルテオリポイド」を主劑とせるものにして、月經制限の目的に使用して有効なりと稱せられる。

(11) **ヴェスダリン** Visdarin (國光製薬、及、鹽野義商店)

ヴェスダリンは極めて新鮮なる懷春期動物の卵巣を厳選し、之に低温遮光減壓の下に複雑にして周到なる理化學的操作を施して總括的に捕集したる純粹「ホルモン」を主體としたるもので、之が治療價値は雌性生體保続の源泉たる卵巣機能の障害に因由する疾病を除去し、一般新陳代謝能を旺盛ならしめ且つ著しく色慾を振起する的作用を有する。本品は著者指導の下に製せるものである。

適應症 諸般の卵巣機能變調に續發せる諸種の缺落症状(性慾減退、精神憂鬱、記憶力減退、不眠、頭痛、逆上、榮養障礙等。)子宮發育不全、不妊症、機能的月經不調、月經閉止期障害、原因不明の子宮出血、レントゲン、及、ラヂウム治療後に於ける婦人科的諸症状等。

鬱、記憶力減退、不眠、頭痛、逆上、榮養障礙等。)子宮發育不全、不妊症、機能的月經不調、月經閉止期障害、原因不明の子宮出血、レントゲン、及、ラヂウム治療後に於ける婦人科的諸症状等。

(12) **ギナンドール** Gynandol (友田)

水溶性卵巣濾胞ホルモンの有効成分を生理的食鹽水に溶解せるものなりと稱せられる。

(13) **プロクリマンチバ** Prokliman-Ciba

卵巣ホルモンを主體とし、尙、數種の薬品を加味せるものである。更年期障礙、其の他、婦人科的疾患に用ゆる。

(III) **腦下垂體ホルモンを主劑とせる薬品**

(1) **ピツイトリン** Pituitrin (パークデビス)

本品は腦下垂體後葉の「エキス」で、無色透明の液である。本劑は血管收縮によりて血壓を亢進せしめ、心臟收縮の振幅を増大し、其の運動を緩徐ならしむる效がある。又、妊娠子宮を收縮せしめて陣痛を催起せしむる。故に利尿、強心、陣痛催進の目的に著効を奏する。其他「アクロメガリー」血管運動神經病、蕁麻疹、紫斑病、夜尿症、尿崩症等に效ありと稱せられる。

用法 1回 0.5-1.0cc 皮下注射、尙、内服用「ピツイトリン」もある。

(2) **ピツグランドール** Pituglandol (ロッシュ)

本品は腦下垂體漏斗部の有効成分を抽出したる液で、其 1cc は 0.1 瓦の漏斗部に相當する。陣痛微弱に著効を奏する。

(3) **ピツイタリー液** Solution pituitary extract (マルフォード)

本品は腦下垂體後葉のエキス製剤で、榨腦水を添加して變質を豫防して居る。本品の 1cc は腦下垂體後葉の 0.2 瓦に相當する。子宮收縮、心臟鼓動の緩和、血壓亢進、乳汁分泌の作用ありと稱せられる。又、膀胱麻痺、甲狀腺肥大症にも有効なりと稱せられる。

(4) **アンツイトリン** Antuitrin (パークデビス社)

本品は腦下垂體前葉より抽出したる無色透明の液で、次の諸症に有効なり

と稱せられる。即、月経閉止、生殖器性小兒下垂體萎縮の脂肪過多症、身體及精神發育遲滯を兼ねたる 3 歳乃至 7 歳の神経性小兒、月經過多、蒙古型遲鈍、顛門の早期閉鎖及裂溝の化骨、前葉機能不全、(フローリッヒ氏症候群即ち生殖器萎縮性脂肪過多性として知らるる状態にして、身體の發育遲滯し、生殖器兒態或は生殖腺の萎縮と共に、脂肪過多症を顯著なるを特徴とす) 腦下垂體機能不全を發呈する小兒の生長及精神的發育を刺戟す、陰萎等。

(5) **乾燥腦下垂體前葉錠** (Anterior Lobe of Pituitary Body, Tablet (パークデビス社))

本品は腦下垂體前葉を乾燥粉末となし、更に錠劑となせるものである。本錠劑は灰白色をなし佳快の香味を有し、各錠毎に粉末 0.1625 瓦 を含有する。本劑は月経閉止、月經過多、同化機能障害、心身發育不全、泌尿器系の異常、癡呆、低能兒等に有效なりと稱せられる。

(6) **アストモリジン** Asthmolysin (ドクトル、カーデ製藥所)

本品は副腎エキス、及、腦下垂體抽出液との混和液にして透明にして極めて僅かに褐色を帯ぶ。其主效は喘息發作を鎮靜せしめ得ることである。其他、急性心臟衰弱、狭心性發作、假死、失神、肺炎、衄血、子宮出血、分娩後出血、肺出血、胃出血、齒科手術に因る出血等にも有效なりと稱せられる。用量 0.5-1.0cc 皮下、又は筋肉内注射。

(7) **スバスマリジン** (同上)

本品は「アストモリジン」に甲状腺及び上皮小體抽出液を配合せるもので、癲癇發作の覺醒を速かにし、回数を減ぜしめて治癒に導き得。又、小兒一般瘧疾(殊に所謂腦膜炎)に著效ありと稱せられる。

(8) **ヒポフヰジン** (獨逸ヘキスト社)

本品は腦下垂體の有効成分を化學的純粹の形に分離し硫酸鹽として結晶せしめ、更に千倍液となしたるもので、原發性及び續發性陣痛微弱、甚しき子宮失張出血豫防、後産期に於ける子宮出血、其他、強心劑として有效なりと稱せられる。

(9) **ゲブルチン** (鹽野義商店)

本品は腦下垂體から得たる有效物質の無菌性溶液で、陣痛微弱、弛緩性出血等に著效ありと稱せられる。

(10) **ピツイガン** (ヘンニング) Pituigan (Henning)

之は、腦下垂體から抽出せる液で陣痛微弱、正規分娩促進等に用ゆる。

(IV) 松葉腺ホルモンを主劑とせる藥品

(1) **乾燥松葉腺** (Pineal Glands Deciccated) (パークデビス社)

本品は幼牛の松葉腺を、無菌的に乾燥し、粉末となし、更に賦形藥を加へて錠劑となせるもので、其の 1 錠は新鮮なる松葉腺の 0.325 瓦 に相當す。淡黄白色を帯べる小錠劑である。

本品は機能的精神發育障礙、所謂、モンゴル様の状態を呈する兒童に效ありと稱せらるるも理論上頗る疑はしい。又、老年期に於ける精神力の早期衰弱症にして器質的變化無きものに應用して著效ありと稱せらるるも尙幾多の研究を要する。(前文、松葉腺の部参照)

用量 一日 3 回 1 錠宛

元來松葉腺「ホルモン」は本文に述ぶる如く、肉體並に精神の發育を適當に抑制して、正常なる發育を遂げしむるものである。然るに該ホルモンをば逆に低能挽回劑として試用し好結果を奏したりと論ぜる學者がある。例へば米國のパークレイ氏の如くであるが、尙幾多の研究を経て初めて確定せらるべき問題なりと信ずる。

(2) **松葉腺** Pineal Body (ウイルソン研究所)

若き犢の松葉腺より製せる乾燥粉末である。小兒發育不全、低能、早老等に效ありと稱するも疑はしい。

(V) 甲状腺ホルモンを主劑とせる藥品

(1) **チレオイド** Thyreoid Glands Deciccated (パークデビス社)

本品は動物の甲状腺を乾燥し、粉末となしたるもので、其 0.065 瓦 は新鮮なる甲状腺の約 0.325 瓦 に相當する。灰白黄色を帯び佳快なる香氣を有する。本劑を内服せば新陳代謝を亢進せしむるが爲め尿中の窒素、食鹽、硫酸、磷酸、等の排泄が高まり、脂肪の燃焼が盛んとなる爲め酸素の攝取、炭酸の排泄が増加し、従つて尿量は増加し、體重が減少する。

「チレオイド」は粘液水腫、「クレチン」病、肥胖病等に有効である。其他、濕疹、化骨不全、血友病、「アクロメガリー」、粘液性癡呆、氣管枝喘息、老耄病、鬱憂病等にも效ありと稱せられる。

用量 1回、0.1瓦 1日 1-3回内服

(12) **サイロプロテイン** Thyroprotein(パークデビス社)

本品は甲状腺の有効成分を抽出し、其 0.0013瓦 を生理的食鹽水 1.0cc に溶解し、防腐の目的にてクロレトーン 0.5% を添加し、「アンブレー」入となしたるもの。無色透明の液状である。本品は甲状腺のホルモン産出機能減退に因する諸疾患に效あること前者に同じ。

用量 1日 1回 1cc 皮下注射。

(13) **ヨードチリン** Jodothylin(バイエル合名會社)

甲状腺の沃度物質を含有せる製劑で、脂肪過多、粘液水腫、鞆皮症、尙癩病、陰萎等に有效なりと稱せられる。粉末及び錠劑がある。

(14) **チラーヂン**(武田商店)

本邦製、甲状腺製劑で、甲状腺腫、粘液水腫、脂肪過多症、骨筋發育不全、神經機能障礙、喘息、貧血、生殖器發育不全、月經過多症、子宮出血、慢性濕疹、魚鱗癬、脱毛症、紫斑病等に有效なりと稱せられる。

用量 内服、1日量 0.2-0.5瓦、1日 3回乃至數回注射、1回 2cc、1日 1-2回皮下注射。

(15) **チロイヂン**(佛國ピラ會社)

本品は羊の甲状腺「ホルモン」製劑で、體質變換、甲状腺腫、粘液水腫、クレチン病、氣管支喘息及び其の豫防、脂肪過多症、子宮出血、慢性皮膚病、皮膚硬化症、迷走、交感、末梢諸神經の機能障害、及、智力發育不全等に有效なりと稱せられる。

(16) **チレオイデクチン** Thyreoidectin(パークデビス社)

本品は動物の甲状腺を抽出し、甲状腺性悪液質、粘液水腫等を惹起せしめたる後、其血液を採取して調製したる帶褐赤色の粗なる粉末にして香味共に佳快である。本劑は甲状腺の「ホルモン」分泌過多に基因する疾患、特にバセ

ドウ氏病に有效なりと稱せらる。

用量 膠囊入 1回 1乃至 2個宛 1日 3回内服。

(17) **ロダーゲン** Rodagen(三共)

本品は甲状腺摘出術を行へる羊の乳汁を乾燥し、50%の乳糖を加味したる白色の粉末で、バセドウ氏病に效ありと稱せられる。

用量 1日 5.0-10.0瓦宛内服。

(8) **チロキシシン「ロッシュ」** Thyroxin, Roche.

甲状腺有効成分の人工集成品で、天然甲状腺エキスの如く分解の恐れがない。適應症としては、甲状腺機能不全に因する脂肪過多、發育障礙、粘膜水腫等に效ありと稱せられる。

(VI) **上皮小體「ホルモン」を主劑とせる藥品**

(1) **バラチロイド**(上皮小體錠) Parathyroid(パークデビス社).

本品は動物の上皮小體を乾燥し粉末となし、更に錠劑となせるもので白色の小錠劑である。各錠 0.0065瓦の有効成分を含有し、新鮮なる上皮小體の約 0.039瓦に相當する。

本品は上皮小體切除に原因せる「テタニー」、上皮小體の障礙に因する諸疾患に有效なりと稱せられる。

用量 1日 1-2回、1錠宛内服。

(2) **バラチロイズ** Parathyroids. (ウイルソン研究所)

牛の側甲状腺を乾燥せるもので、「テタニー」、舞踏病、震顫麻痺、急癇、尿毒症、一般痙攣症に有效なりと稱せられる。

(VII) **胸腺「ホルモン」を主劑とせる藥品**

(1) **サイマズグランド** Thymus Gland Desiccated(パークデビス)

本品は綿羊の胸腺を乾燥し、粉末となせる、淡黄色を帶び、佳快の香味を有せる製劑で、幼年者に於ける胸腺の退行變性に原因する疾患に用ひられる。

用量 1回 0.13瓦、1日 3-5回内服。

(VIII) 副腎「ホルモン」を主剤とする薬品

(1) 鹽化アドレナリン Solution Adrenalin chloride(三共)

本品は動物の副腎より抽出せしもので、「アドレナリン」を鹽化物となし1000倍に稀釋せし液である。其主なる作用として、血圧亢進、心臓興奮、末梢血管の收縮等がある。故に内臓出血、心臓衰弱、消炎、皮膚及び粘膜の止血等にも賞用せられ、各科に渡りて應用の範圍が極めて大である。

用量 皮下又は筋肉内注射は1回量 0.1-1.0cc、靜脈内注射、滅菌生理的食鹽水にて10萬倍に稀釋して用ゆ。内用、1回量 0.3-2.0cc 外用、原液或は15倍稀釋液を用ゆ。

(2) アドレナリン軟膏、吸入劑、坐薬等(3) 乾燥副腎末 Suprarenal Glands Desiccated(パークデビス)

本品は動物の副腎を乾燥して粉末となせるもので、灰白黄色をなし、一種の臭氣を帯べる粉末劑である。血圧亢進、心臓興奮等の作用ありて諸種の衰弱症に有效なりと稱せられる。

(4) 副腎全腺 Adrenal(Total gland)(ウイilson研究所)

主として牛の副腎を採取し乾燥粉末となせるもので、筋力弛緩、循環不足、グレーブ氏病、一般衰弱、悪液質、栄養不良等に有效なりと稱せられる。

(5) 副腎髓質 Adrenal(Medulla)(ウイilson研究所)

牛の副腎髓質を乾燥粉末となせるもので、毛細管出血の止血、局部充血の總ての症狀に於ける脈管收縮、アヂソン氏病、バセドウ氏病、急性傳染病に次で起る機能不全、心臓衰弱、慢性血圧下降、官能的神經病、無根恐怖症、憂鬱病、及、神經衰弱合併症、骨軟化病、喘息等に有效なりと稱せられる。

(6) 副腎皮質 Adrenal(Cortex)(ウイilson研究所)

牛の副腎皮質を乾燥粉末とせるものである。生殖腺發育不全、アヂソン氏病、骨質發育不良、骨折癒合促進等に有效なりと稱せられる。

(7) 鹽酸スブラレニン(獨逸ヘキスト社)

本品は人工的に合成せるもので、「オルト、デオキシフエニールエタノールメチラミン」なる組成を有し、其の化學的、生理學的性質は、副腎製劑と毫も異

なる事なく、外科、耳鼻咽喉科、泌尿科、内科、眼科、等各科に止血其他の目的に使用し得べしと云ふ。

(8) エピネフリン Epinephrine(バーゼル化學工業會社)

本品も人工的合成品で、旋光度左旋 51 度、効力は天然副腎有效成分に劣らず、而も耐久性なりと稱せられる。

(9) ボスミン Bosmin(第一製薬)

本品は、化學合成品にして「オルト、デオキシフエニールエタノールメチールアミンクロールヒドレート」である。而して其組成、理化學的性状、及、生理學的作用共に副腎より抽出せる「アドレナリン」に一致すと稱せられる。

(10) アドレノピチュイン Adrenopituitine(ピラ會社)

本品は副腎及腦下垂體後葉より、抽出せる有效成分を適當の比に混合せるものである。氣管支喘息の發作を鎮靜せしむる效がある。發作時に於て1ccを皮下又は筋肉内に注射する。

(IX) 膵臓「ホルモン」を主剤とする薬品

(1) インズリン(リリー社)

本文に詳述せる「インシュリン」と大體同じ。

(2) 膵臓總腺 Pancreas (Totalgland)(ウイilson研究所)

本品は牛又は豚の膵臓より採取せる乾燥粉末で、膵臓疾患に因する諸病に用ひられる。用量 0.13-0.65 を1日3回食前服用。

(3) ランゲリン(ザールブルッケン微生物研究所)

本品は膵臓ランゲルハンス氏島の「ホルモン」をば「トリプシン」「ペプシン」等の消化酵素によりて分解されず、小腸の下部に至りて遊離吸収せらるる如く考案し、内服によりて糖尿病を治療せんとするの薬品で、臨床上有效なりと稱せられる。(丸劑)

(4) インゼリン Inselin (友田)

ランゲルハンス氏島より抽出せる有效成分なりと稱せられる。

(5) インベリン Inverin (武田商店)

膵臓より抽出せる有效成分にして、内服により奏效すと稱せられる。粉末

及び錠剤がある。

(X) 胃腸ホルモンを主剤とせる薬品

(1) オチモン Ochimon.(武田商店)

本品は牛、豚等の新鮮なる胃及び十二指腸から抽出した胃腸ホルモン製剤である。其主要なる作用は、食慾を亢進せしめ、消化器、特に胃及腸管の衰弱せる機能を恢復せしめ、胃液、膵液、胆汁、腸液等の消化液の分泌を著明に増大せしむるにある。

適應症 一般の食慾不振、特に肺尖カタル、肺結核、貧血、消化不良、急性

慢性胃腸カタル、胃液缺乏、神経衰弱等に由来せる食慾不振等。

内服薬は淡黄色の粉末、注射薬は透明なる水溶液である。

本品は著者の指導による製品である。

(XI) 攝護腺「ホルモン」を主剤とせる薬品

(1) 攝護腺 Prostate(ウイルソン研究所)

本品は牛の攝護腺を乾燥し粉末となせるものである。攝護腺肥大、尿意頻數、慢性攝護腺漏、攝護腺に基因せる神経衰弱、攝護腺摘出等に有効なりと稱せられる。

用量 0.065-0.3 を1日3回食後服用。

(2) プロスタチン Prostatine(ピラ會社)

本品は豚又は牛の攝護腺より抽出せる總ホルモン製剤で、攝護腺炎、其他攝護腺に基因する一般症、神経衰弱、性交不能、性欲減退、去勢者、辜丸「ホルモン」の効果なき者等に有効なりと稱せられる。(注射液、及、糖衣錠)

(XII) 腎臓製剤

(1) 腎臓粉末(Kidney)(ウイルソン研究所)

牛、羊、豚等の腎臓全部を乾燥粉末となせるもので、腎臓に基ける腹水、水腫、尿量不足、泌尿閉止、蛋白尿、尿毒症等に有効なりと稱せられる。

用量 0.13-0.3 日3回食前服用。

(XIII) 脾臓製剤

(1) ネオ・ホルモナル Neo-Hormonal(獨逸シェーリング會社)

本品は動物の脾臓より抽出せし液で腸の蠕動を亢進し、便秘を治する效があると云ふ。静脈内又は筋肉内に注射する。

(XIV) 胎盤製剤

(1) 胎盤 Placenta(ウイルソン研究所)

主として羊の胎盤より製し、時に牛を用ゆる。乳汁缺乏に用ひられる。用量 0.13-0.65 を1日3回食後服用。

(2) 乾燥胎盤實質 Desiccated Placenta(パークデビス)

本品は新鮮なる牛の胎盤より脂肪を除去し、低温にて乾燥せしものである。黄褐色を帯べる粉末で膠囊入である。其1個は 0.325瓦 で新鮮なる胎盤 3.25瓦 に相當する。催乳薬として用ひられる。

用量 1回1個宛1日3回服用。

(3) ラクチフェリン(三共)

胎盤製剤にして催乳の效ありと稱せられる。注射用。

(4) カナフェミン Kanafemin,

胎盤から抽出せるホルモんで、月經異常、乳汁分泌不全等に效ありと稱せられる。

(XV) 耳下腺製剤

(1) 耳下腺 Parotid(ウイルソン研究所)

牛の耳下腺より製したる乾燥物質である。月經痛、異常月經、骨盤神経痛、流行性耳下腺炎に效ありと稱せられる。

(XVI) 肝臓ホルモンを主剤とせる薬品

(1) ヤクリトン Yakriton(三共)

本品は、肝臓より抽出せる肝臓解毒ホルモんで、各種の毒物を解毒する効果があると稱せられる。

用法 皮下注射、注腸等。

(2) レバホルモン(吉萬)

肝臓エキスの注射剤である。主として貧血に用ゆる。

[附 録]

「ホルモン」に関する本邦に於ける文獻

は し が き

「ホルモン」に関する世界に於ける文獻は、比較的重要なるものみにも數萬を以て數ふべく、之を悉く讀破し、且、其要點を記述するは到底不可能なる事業である。幸にして歐米各國に於て發表せられたる古い文獻はビーヅル著、内分泌學 Biedl, *Innere Sekretion* 第III卷に悉く網羅しあるが故、篤學の士は之に就て涉獵せられんことを希望する。而して本邦に於ても「ホルモン」に関する研究報告は頗る多く、其の内容價值に於て敢て先進諸國に比し劣ることが無い。然るに多くは邦文を以て綴られたるが故、世界的に紹介せらるるもの少なきは誠に本邦醫學の爲め遺憾であると云はねばならぬ。

本邦の醫學に関する雜誌は約三百種を以て數ふべく、之を全部閱覽することは決して容易の業でない。故に余は主として日本醫事雜誌索引、及、醫學中央雜誌に収録せられたる論著抄録中より「ホルモン」に関する事項を集め、一日の下に探り得せしめんことを企圖した。蓋、之によりて本邦に於ける「ホルモン」學說の大勢を看取し得べく、更に海外に於ける文獻と併せて通覽する時、初めて眞に世界的の眼光を以て「ホルモン」學說を大觀し得る次第である。

末端肥大症に就て、緒方銈次郎（緒方病院研究會醫事會報第 52）、（中外醫事新報 314）。

アヂソン氏病患者の皮膚組織所見二例、山極勝三郎（東京醫學會雜誌 8 卷 18 號）。

（以上、日本醫事雜誌索引、明治 25 年度乃至 27 年度所載）

「アクロメガリー」の一例，川原汎（愛知醫學會雜誌 13），（醫事新聞 478）。

アヂソン氏病屍の顯微鏡的所見，峯秀世（顯微鏡 3）。

アヂソン氏病と「エオジン」白血球，遠山椿吉（顯微鏡 1）。

アヂソン氏病の一例，筒井八百珠（東京醫事新誌 932）。

アヂソン氏病の一例，峯秀世（中外醫事新報 361, 362, 364）。

甲狀腺療法，谷口長雄（熊本縣醫學會雜誌 1）。

アヂソン氏病の一例，伊藤俊夫（中外醫事新報 417）。

アヂソン氏病の一例，小島浦三郎（中央醫學會雜誌 20）。

アヂソン氏病に就て，片山國嘉（東京醫學會雜誌 11）。

アヂソン氏病の病理に就て，田中祐吉（東京醫事新誌 997）。

（以上，日本醫事雜誌索引，明治 28 年度乃至 29 年度所載）。

血管腺の官能，附臓器療法，大澤謙二（東京醫事新誌 1000-1003）。

沃度は健康なる甲狀腺中缺くべからざる成分乎，三輪信太郎（東京醫事新誌 1017）。

（以上，同索引明治 30 年度所載）

甲狀腺肥大の右葉竝に峽部剔出治療，古川誠助（成醫會月報第 193 號）。

甲狀腺摘出後に發したる喉頭麻痺の一治驗，佐藤信郎（大日本耳鼻咽喉科會報 4）。

臓器療法，岡田忠英（中外醫事新報 431, 437, 438, 439, 441）。

（以上，同索引明治 31 年度所載）

胸腺死に就て，高山正雄（中外醫事新報 470）。

眼病の臓器療法，三宅良一（藝備醫事 32）。

（以上，同索引明治 32 年度所載）。

胸腺死の第二例に就て，高山正雄（東京醫學會雜誌 14）。

テタニー，三浦謹之助（醫事新聞 577）。

糖尿病性脂肪便に對する膵臓製劑療法に就て，増山正信（東京醫事新誌 1183, 1184）。

正規妊娠時に於ける腹膜及卵巣の變化に就て，木下正中（東京醫學會雜誌 14）。

カストラチオン一百回の報告竝に術後に發する婦人の特徴，緒方正清（東京醫學會雜誌 14）。

（以上，同索引明治 33 年度所載）。

甲狀腺錠の治驗，古川市次郎（徳島醫學會雜誌 41）。

一二の臓器療法に就て，佐藤勤也（好生館醫事研究會雜誌 8）。

（以上，同索引明治 34 年度所載）

鹽化「アドレナリン」と「コカイン」又は「オイカイン」との混合液注射實驗，小西健太郎（東京醫事新誌 1285）。

鹽化「アドレナリン」の眼科的醫治應用に就て，山田義雄（臺灣醫學會雜誌 4）。

鹽化「アドレナリン」の耳鼻咽喉科的應用に就て，高田千賀太（臺灣醫學會雜誌 4）。

「アドレナリン」，川原汎（中央醫學會雜誌 46）。

「アドレナリン」に就て，竹内一郎（東京醫事新誌 1262）。

「アドレナリン」の瞳孔散大作用，竹内一郎（醫事新聞 625），（日本眼科學會雜誌 6）。

「アドレナリン」は「コカイン」の麻醉作用を増盛す，小倉開始（好生館醫事研究會雜誌 9）。

虎列刺患者に「アドレナリン」の治驗二例，田村稔續（東京醫事新誌 1279）。

自家發見の新止血藥「アドレナリン」に就て，高峰讓吉（濟生學會醫事新報 112）。

自家發見「アドレナリン」及「タカヂアスターゼ」に就て，高峰讓吉（大阪醫學會雜誌 1），（成醫會月報 241），（好生館醫事研究會雜誌 9）。

「スコルブート」に「アドレナリン」を用ひて奇效を奏したる患者の實驗，佐藤英太郎（東京醫事新誌 1276），（醫事新聞 623）。

膵臓と糖尿病との關係，田中祐吉（大阪醫學會雜誌 2）。

「アドレナリン」の瞳孔散大作用に就て，竹内式郎（日本眼科學會雜誌 6）。

副腎中の血壓増進成分，高峰讓吉（醫海時報 42），（日本醫事週報 377）。

副腎越幾斯の應用に就て，潮脇壽雄（成醫會月報 241）。

副腎製劑の眼科に於ける效用，須田卓爾（東京醫事新誌 1256），（醫事新聞 614）。

「アクロメガリー」の一例，長尾美知（醫事新聞 641）。

（以上，同索引明治 35 年度所載）

「アドレナリン」の製法，高峰讓吉（藥學雜誌 260）。

バセドウ氏病に對する「アドレナリン」の應用，久木田盛哉（醫事新聞 641）。

甲状腺研究第二回報告，岸一太（臺灣醫學會雜誌 15）。

甲状腺の缺損並に其動物試験，吉川春次郎（醫事新聞 634）。

傳染病に於ける甲状腺，柏村貞一（東北醫學會報 23）。

松葉腺肥大，河本重次郎（日本眼科學會雜誌 7）。

バセドウ氏患者の甲状腺摘出の成績に就て，佐藤達次郎（醫事新聞 629）。

副腎「エキス」主治效用，瀬脇壽雄（胃腸病研究會會報 21）。

（以上，同索引明治 36 年度所載）

「アクロメガリー」に就て，佐々木喜右衛門（海軍醫事報告摘要 41）。

巨大發育症に就て附討論，菅之芳（東京醫事新誌 1355），（醫事新聞 66）。

「アドレナリン」糖尿に就て，附，傳染病熱との關係，増山正信（東京醫事新誌 1355）。

「アドレナリン」の血管神經疾患に對する效能に就て，谷口長雄（鎮西醫報 87）。

甲状腺腫摘出後に發したる帝太尼の一例，谷口長雄（鎮西醫報 85）。

糖尿病と腺臟との關係に就て，山添貞三（岡山醫學會雜誌 169）。

糖尿病に於ける腺臟病理補遺，山添貞三（東京醫事新誌 1362）。

糖尿病は果してランゲルハンス氏島の變化に因するや，田中祐吉（中外醫事新報 586）。

副腎のランゲルハンス氏島に就て並に同島と糖尿病との關係，林直助（京都醫事衛生誌 129）。

（以上，同索引明治 37 年度所載）

バセドウ氏病の胃解剖實驗，山本五郎（明治 36 年，日本消化機病學會雜誌第 2 卷第 2 號）。

甲状腺に就て，矢島將雄（明治 36 年，千葉醫學專門學校々友會雜誌第 23 號）。

鼓膜に對する「アドレナリン」の治驗，齋藤傳六（大日本耳鼻咽喉科會々報第 9 卷第 4 號）。

所謂胸腺死に就て，西内條綱（成醫會月報第 264 號）。

（以上，醫學中央雜誌第 1 卷所載）

副腎の「ランゲルハンス」島に就て，並に同島と糖尿病との關係，林直助（明治 37 年京都醫事衛生誌第 129 號）。

「テタニー」に就て及び溫熱刺戟に因する運動神經の興奮性に就ての注意，櫻田龜一郎（明治 37 年，東京帝國大學紀要，第 5 冊第 3 號，官報第 6402 號）。

「アドレナリン」糖尿に就て，附，傳染病熱との關係，増山正信（明治 37 年，第 2 回日本內科學會會誌第 1 冊）。

「アドレナリン」の血管神經疾患に對する效能に就て，谷口長雄（明治 37 年鎮西醫報 87 號）。

（以上，醫學中央雜誌第 2 卷所載）

チレオイゲン療法に據て治癒せる粘液水腫の一例，佐々木隆興（神經學雜誌第 3 卷第 12 號）。

鹽化「アドレナリン」及「タカヂアスターゼ」の效能並に副作用の實驗，芳澤鷹之助（臺灣醫學會雜誌 38 號）。

鹽化「アドレナリン」の利尿作用に就て，久恒忠治（臺灣醫學會雜誌第 29 號）。

「アドレナリン」發見以前に於ける副腎成分の作用說に就て，田中祐吉（醫事新聞第 693 號）。

（以上，醫學中央雜誌第 3 卷所載）

「アクロメガリー」の一例，武谷廣吉（醫學中央雜誌第 4 卷論說）。

（以上，醫學中央雜誌第 4 卷所載）

「アドレナリン」の脚氣衝心症應用に就て，坂上弘藏（東京醫事新誌第 1542 號）。

（以上，醫學中央雜誌第 5 卷所載）

電氣過興奮性小兒に於ける上皮小體の所見に就て，柳瀬實次郎（醫事新聞第 708 號）。

胸腺肥大問題修補，多田學三郎（官報第 7460 號）。

糖尿病ニ於ケル膵臓ノ關係, 田中祐吉, 甲斐第二 (醫事新聞第754號)。
 辜丸の間質細胞に就テ, 河西健次 (官報 7419 號)。

(以上, 醫學中央雜誌第6卷所載)

辜丸ノ間質細胞ニ就テ, 河西健次 (第1回滿州醫學會々誌)。
 バセドウ氏病に於ける血液所見, 黒川健士 (日本外科學會雜誌第10回第2號)。

(以上, 醫學中央雜誌第7卷所載)

バセドウ氏病に於ける眼球突出の理由に就テ, 河本重次郎 (日本眼科學會雜誌
 第14卷第7號)。

副腎, 胎盤エムルヂオン及び所謂, 稻垣氏脚氣毒素注入後に於ける副腎の變化
 (動物試驗), 増本誠一郎 (日本婦人科學會雜誌第5卷第3號)。

(以上, 醫學中央雜誌第8卷所載)

卵巢移植に就テ, 樋口繁次 (成醫會月報第347號)。
 胎盤の化學的集成補遺, 樋口繁次 (成醫會月報第351號)。
 甲狀腺實質性淋巴系統と甲狀腺分泌とに就テ, 松永茂助 (静岡縣醫學會々報第
 31號)。

「ホルモン」に就テ, スターリング講演(於東京) (東京醫學會雜誌第25卷第
 13號)。

内分泌に就テ, 林春雄 (日本消化機病學會雜誌第10卷第4號)。
 南京鼠に對する動物性雄性生殖細胞の生物學的研究, 太田朝次 (中央醫學會雜
 誌第101號)。

辜丸の化學的研究, 戸谷銀三郎 (第3回滿州醫學會々誌)。
 側甲狀腺の一般的知見に就テ, 保田收藏 (福岡醫科大學雜誌第5卷第2號)。
 副腎の組織的研究, 長與又郎, 黒田昌恵 (第3回日本醫學會々誌)。

(以上, 醫學中央雜誌第9卷所載)

内分泌腺の相互作用に就テ, 加藤豊次郎 (東北醫學會々報第65號)。
 再び「ゼクレチン」に就テ, 松尾巖 (日本消化機病學會雜誌第11卷第5號)。
 「アドレナリン」の副作用及其使用時の注意, 林春雄 (東京醫事新誌第1749號)。

「ホルモナル」の治療的應用に就テ, 溝口喜六 (日本消化機病學會雜誌第11卷
 第4及第5號)。

(以上, 醫學中央雜誌第10卷所載)

胎盤の「フラスファチーデ」に就テ(第二回報告), 榊忠三郎 (東京醫學會雜誌第
 27卷第5號)。

膵のランゲルハンス氏細胞群簇に就テ, 大澤岳太郎 (東京醫事新誌第1800號)。
 攝護腺液及精液の精蟲に及ぼす響影に就テ, 廣川和一 (醫學中央雜誌第11卷
 838頁)。

甲狀腺の新陳代謝に及ぼす影響, 佐伯矩 (醫學中央雜誌第11卷914頁)。
 子宮及卵巢「ホルモン」ノ生物學的研究(第二回報告), 吉村良雄 (京都醫學雜誌
 第10卷第2號)。

「ゼクレチン」の吸收に就テ, 松尾巖 (日本內科學會雜誌第1卷第4號)。
 「アドレナリン」葡萄糖分解酵素との關係, 假家昇一, 三宅一之 (日本內科學會
 雜誌第1卷第5號)。

胸腺内分泌に就テ, 林春雄 (日新醫學第3年第4號)。
 胸腺の生理及病理, 清水茂松 (日新醫學第3年第4號)。
 胸腺機能知見補遺(第一報), 胸腺細胞溶解素に就テ, 清水茂松 (東京醫學會雜
 誌第27卷第18號)。

「チモリジン」(胸腺細胞溶解素)に就テ(第一報), 清水茂松 (東京醫學會雜誌第
 27卷第8號)。

慢性膵臓間質炎に就テ, 附ランゲルハンス氏島の本態, 佐藤爲治 (醫學中央雜
 誌第11卷441頁)。

副腎皮質の知見補遺, 川島慶治 (醫學中央雜誌第11卷346頁)。
 副腎殊に「アドレナリン」の臨牀的病理上に於ける意義, 小川瑳五郎 (日新醫學
 第3年第3號)。

「アドレナリン」糖尿の成立に關する實驗的研究(第一回報告), 假家昇一, 三宅
 一之 (大阪醫學會雜誌第12卷第5號)。

甲狀腺機能の病理及其物質の治療的作用, 瀬尾雄三 (日新醫學第2年第8號)。

松葉腺の疾患，武谷廣吉（日新醫學第3年第2號）。

胎盤の藥理的作用に就て，樋口繁次（醫學中央雜誌第11卷134頁）。

胎盤壓搾汁及「エツキス」の組成及作用に就て，樋口繁次（醫學中央雜誌第11卷134頁）。

卵巢の移植に就て，下井精一（日本婦人科學會雜誌第8卷第1號）。

（以上，醫學中央雜誌第11卷所載）

睾丸の間細胞に關する知見補遺，石橋松藏（日本病理學會々誌第3卷）。

山羊胎兒ラ氏島の發生に就て，徳光美福（日本病理學會々誌第3卷）。

内分泌に關する標品の示説，高橋信美（東京醫學會雜誌第28卷第13號）。

内分泌殊に甲状腺及副甲状腺の機能に就て，三浦操一郎（京都醫事衛生誌第240號）。

糖尿病に關する研究，膵臓の内外兩分泌間の關係に就て，景山萬治（京都醫學雜誌第11卷第1號）。

「ピットリソリン」の作用に就て，伊東政一（中央醫學會雜誌第114號）。

胎兒「ホルモン」の乳汁分泌に對する疑義，武井武男，河内亦七郎（日本婦人科學會雜誌第9卷第2號）。

胎盤内の内分泌に就て，栗原金彌（臺灣醫學會雜誌第140號）。

「アドレナリン」血管硬變に關する實驗的研究，片瀬炎（東京醫學會雜誌第28卷第3號）。

粘液水腫の知見補遺，特に糖トランツ，アドレナリン糖尿及血液變化，加茂貫一郎（中外醫事新報第824號）。

沃度と甲状腺（實驗的研究），中村八太郎（第5回日本病理學會總會）。

バセドウ氏病——甲状腺中毒，小川瑳五郎（日新醫學第3年第10號）。

甲状腺中毒症の試験的證明に就て，森武美（東京醫學會雜誌第28卷第22號）。

甲状腺機能亢進症に伴ふ下痢に就て，武者素行（ポケット臨床月報第4年第1號，十全會雜誌第97號）。

（以上，醫學中央雜誌第12卷所載）

人の卵巢及子宮に於ける重屈折性リボイドの現存に就て，足立捨次郎（官報

第945號）。

内分泌に關する病理學的研究，中村八太郎（第6回病理學會）。

内分泌に關する生物學的研究，林春雄（第6回病理學會）。

所謂クローム親和細胞のヘンレー氏クローム反應に就て，附同上細胞に於けるアドレナリンの一新顯微化學的證明法，緒方知三郎，緒方章（第6回病理學會）。

各種疾患に於ける副腎アドレナリン含有量竝に含有量測定標準としての顯微化學的證明法の價值，大野精七（第6回病理學會）。

實驗的感染に由る鼠の胸腺の組織的變化に就て，竹内清（第6回病理學會）。

胸腺の肥大及萎縮，石橋松藏（第6回病理學會）。

内分泌臓器の相互的關係殊に糖尿病の疑義に就て，徳光美福（第6回病理學會）。

實驗的ヂフテリーに於ける腦下垂體の變化に就て，田中幸一（第6回病理學會）。

再び「アドレナリン」及局所麻醉藥の併用に就て，附局所麻醉の末梢血管に對する作用の實驗的補説，安藤秀三（京都醫學會雜誌第11卷第4號）。

腦下垂體製劑（殊にピツグランドール）の血壓及末梢血管に及ぼす作用，清水茂松，江島眞平（東京醫事新誌第1921號）。

腦下垂體越幾斯の生理的作用に就て（第一回報告），信藤準藏（近畿婦人科會々報第1號）。

胸腺移植實驗（第一報），頓宮寛（日本外科學會雜誌第15回第1號）。

睾丸と攝護腺との相互關係，秦勉造（日本外科學會雜誌第16回第1號）。

甲状腺異常に因る一侏儒に就て，多賀壽康（日本外科學會雜誌第16回第1號）。

巨大發育症に就て，穂積榮次郎（日本外科學會雜誌第16回第1號）。

甲状腺腫の外科的事項（殊に療法に就て），阿部賚夫（臺灣醫學會雜誌第141號）。

甲状腺腫の地方病學的及實驗的事項，藤林賢治（臺灣醫學會雜誌第138, 9號）。

黄体に就て，相馬又二郎（日本婦人科學會雜誌第10卷第2號）。

卵巢の機能に就て，谷口彌三郎（京都醫事衛生誌第250號）。

腦下垂體製劑に關する實驗二例，飯島貫一（治療及實驗第2卷第12號）。

腦下垂體と副腎，松野義光（日本婦人科學會雜誌第10卷第2號）。

「アドレナリン」注射による卵巣の組織的變化，藏光長次郎（日本婦人科學會雜誌第 10 卷第 2 號）。

アドレナリン持續注射による子宮の變化に就て，大原盛三（日本婦人科學會雜誌第 10 卷第 2 號）。

胸腺死の一例，青木醇一（兒科雜誌第 186 號）。

妊娠中兩側卵巣摘出の妊娠に及ぼす影響，藤村元張，廣瀬豊一（醫學中央雜誌第 13 卷第 19 號）。

（以上，醫學中央雜誌第 13 卷所載）

胸腺移植及摘出實驗，頓宮寛（日本外科學會雜誌第 16 回第 1 號）。

大脳下垂體の移植試験に就て，森武美（日本外科學會雜誌第 16 回第 2 號）。

腎臓内分泌に其の血糖調節に及ぼす影響に就て，板倉武（東京醫學會雜誌第 20 卷第 3 號），（東京帝國大學醫科大學紀要第 1 卷第 15 號第 1 冊）。

攝護腺と睾丸との相互關係に就ての試験的研究，秦勉造（東京醫學會雜誌第 19 卷第 9 號）。

「ゲブルチン」に就て，長島耕夫（大阪醫學會雜誌第 15 卷第 6 號）。

産科に於ける「ピツイトリン」の價值並に其使用法，白木正博（實驗醫報第 1 年第 9 號）。

卵巣内に於ける一種の間質細胞に就て，明城彌三吉（東北醫學會雜誌第 1 卷）。

ラングハンス氏巨大細胞の「インドフェノールテキサダール」反應に就て，牧野融（南滿醫學會雜誌第 3 卷第 3 號）。

「アхроメガリー」の發生及之と腦下垂體の異常との關係に就て，加茂貫一郎（京都醫學雜誌第 12 卷第 4 號）。

「アドレナリン」の同族體に就て，磯野周平（官報 1129 號）。

「アドレナリン」系統に就て，緒方知三郎（日新醫學第 6 年第 4 號）。

腺臟性糖尿病に於けるラングハンス氏島の意義，上村直親（東京醫學會雜誌第 30 卷第 9 號）。

胎盤毒と之に對する腎臓患者の解毒能力とに就て，小畑惟清（東京醫學會雜誌第 30 卷第 21 號）。

胎盤の自家融解に對する血清の作用，柏原長弘（近畿婦人科會々報第 2 號）。

胎盤の化學的成分の研究（第一回報告），原田隆（近畿婦人科會々報第 2 號）。

胎盤の化學的知見補遺（第二回報告），原田隆（京都帝國大學紀要第 1 卷第 3 號）。

生殖細胞の價值並に同種遺傳分子の減退，大串菊太郎（醫海時報 1071-1075 號）。

腦下垂體疾患に於ける尿酸排泄に關する知見追加，中村新（日本內科學會雜誌第 4 卷第 6 號）。

攝護腺の發育，解剖，並に病理解剖に就ての研究，秦勉造（官報第 1242 號）。

卵巣「エツキス」の生殖器に對する作用に就て，井關忠雄（日本婦人科學會雜誌第 11 卷第 2 號）。

體溫に關する知見補遺（第三回報告）腦下垂體と體溫調節との關係に就て，橋本正員（日新醫學第 5 年第 8 號）。

腦下垂體と婦人生殖器との相互關係に就て，岡林秀一（近畿婦人科會々報，第 3 號）。

副腎ト腦下垂體トノ相互關係ニ就テ，渡邊範介（近畿婦人科會々報第 3 號）。

卵巣の化學的研究，谷口彌三郎（近畿婦人科會會報第 2 號）。

黃體及黃體を除去したる卵巣基質の生物學的機能に就て，附生殖器發育不全療法，谷口彌三郎（日本婦人科學會雜誌第 11 卷第 2 號）。

卵巣の化學的集成の知見補遺（第一回報告），牝牛の黃體及黃體を除去せる卵巣基質中の酵素に就て，谷口彌三郎（京都帝國大學紀要第 1 卷第 3 號）。

卵巣機能の生物學的研究，谷口彌三郎（中外醫事新報第 883 號）。

卵巣濾胞に就て，井關忠雄（近畿婦人科會々報第 2 號）。

卵巣内分泌の血球殊に淋巴球に及ぼす影響，南川欣司（近畿婦人科會會報第 2 號）。

乳汁分泌に對する實驗的研究（第一回報告及第二回報告），土肥衛（近畿婦人科會會報第 2 號第 3 號）。

睾丸間質組織の病理的變化，石橋松藏（醫事新聞 952-955 號）。

脚氣屍副腎「アドレナリン」含有量に就て，大野精七（東京醫學會雜誌第 30 卷第 21 號）。

- 内分泌に關する一二補遺, 中村八太郎 (第7回日本病理學會誌)。
- 雄鶏の胸腺一部剔出後に於ける辜丸の變化に就て, 川上漸 (同上)。
- 辜丸間細胞に就て, 石橋松藏 (同上)。
- 去勢の人工的動脈硬變に及ぼす影響に就て 村田宮吉, 片岡茂樹 (同上)。
- 妊娠に於ける副腎組織の所見, 新保十寸穗 (同上)。
- 副腎皮質の腺分泌に及ぼす影響に就て 徳光美福 (同上)。
- 先天性魚鱗癬の臟器知見補遺, 徳光美福 (同上)。
- 上皮小體の組織的知見補遺, 附, 震顛麻痺症の一例, 徳光美福 (同上)。
- 腦下垂體甲狀腺及上皮小體に關する研究, 加茂貫一郎 (同上)。
- 細菌毒竝に化學的毒物に因する腦下垂體の變化に就て, 足立修, 田中幸一 (同上)。
- 松葉腺の解剖及病理解剖補遺, 植村俊二 (同上)。
- 松葉腺の病理追加, 長與又郎 (同上)。
- 多發性血液腺硬化症, 植村俊二 (同上)。
- 「アドレナリン」糖尿に對する家兔の雌雄兩性に於ける體質の差異, 大串菊太郎, 富田朋介 (大阪醫學會雜誌第 16 卷第 1 號)。
- 内分泌に就て, 徳光美福 (東北醫學會雜誌第 1 卷第 1 冊)。
- 腺及副腎の抑制的交互作用に關する疑義, 加茂貫一郎 (京都醫學會雜誌第 13 卷第 2 號)。
- 兒犬に於ける胸腺剔出後の血壓, 頓宮寛 (東京醫學會雜誌第 30 卷第 12 號)。
- 内分泌方面よりせる血清糖化酵素の研究, 角田俊吉 (日本內科學會雜誌第 4 卷第 3 號)。
- (以上, 醫學中央雜誌第 14 卷所載)
- 體溫調節に關する實驗的研究 (第三回報告), 腦下垂體と體溫調節の關係に就て, 橋本正員 (官報第 1188 號)。
- 副腎皮質の腺分泌に及ぼす影響に就て, 徳光美福 (東北醫學會雜誌第 1 卷第 3 冊)。
- 腦下垂體製劑の摘出蛙眼瞳孔散大作用に就て, 南條進 (京都醫學專門學校校友會雜誌第 73 號)。

- 副腎と網膜との關係に就て, 藤田秀太郎 (日本眼科學會雜誌第 20 卷第 9 號)。
- 藤田氏論文「副腎と網膜との關係に就て」を讀む, 熊谷直樹 (日本眼科學會雜誌第 20 卷第 12 號)。
- 妊娠子宮越幾斯及乳腺越幾斯の毒性に就て(第一回報告), 市川鴻一 (東北醫學雜誌第 1 卷第 3 冊)。
- 牛の甲狀腺を以て飼養したる金線蛙胎仔に於ける聽器の發育狀態に就て, 中村豊 (大日本耳鼻咽喉科學會會報第 22 卷第 4 號)。
- 腦下垂體腫瘍の手術に就て, 和田徳太郎 (大日本耳鼻咽喉科學會會報第 22 卷第 4 號)。
- 末梢神經軸索の再生機轉に及ぼす甲狀腺の影響に就て, 横井濟 (日新醫學第 5 年第 12 號)。
- 胸腺死に就て, 三田定則 (人性第 12 卷第 6 號)。
- 腦下垂體腫瘍に因する視神經炎の二例, 鹿野武十 (眼科臨床醫報第 130 號)。
- 血液再生と甲狀腺, 横井濟 (好生館醫事研究會雜誌第 24 卷第 3, 4 號)。
- 尿崩症に關する實驗的研究, 宗玄順吉 (東北醫學雜誌第 2 卷第 1 冊)。
- 胎盤毒の研究, 小畑惟清 (東京醫學會雜誌第 30 卷第 22 號)。
- 「アドレナリン」の河豚毒素に對する解毒作用補遺, 木村茂太郎 (北越醫學會雜誌第 31 年第 6 號)。
- 「アドレナリン」注射及腺摘出が肝臟及筋肉上に及ぼす影響に就て, 岩野俊治 (京都醫學會雜誌第 14 卷第 6 號)。
- 肥胖病の甲狀腺療法に就て, 染川福治 (大阪醫學會雜誌第 16 卷第 2 號)。
- 松葉腺腫瘍の二例, 長與又郎 (神經學會雜誌第 16 卷第 5 號)。
- 松葉腺腫瘍の一例, 岡本久人 (神經學會雜誌第 16 卷第 9 號)。
- 尿崩症を伴へる腦下垂體腫瘍, 石橋松藏 (神經學會雜誌第 16 卷第 5 號)。
- 胎盤毒の研究(第二回報告)子癩の本態, 小畑惟清 (東京醫學會雜誌第 31 卷第 19 號)。
- 胎盤毒性に就て, 久慈直太郎 (朝鮮醫學會雜誌第 18 號)。

- 單尿崩症病理解剖補遺, 村田宮吉 (大阪醫學會雜誌第 16 卷第 4 號)。
 所謂胸腺腫に就て, 市川厚一 (癌第 11 年第 3 冊)。
 卵巣免疫血清及感作組織の移植に就て, 緒方政次郎 (京都醫學會雜誌第 14 卷第 1 號)。
 腦下垂體免疫血清知見補遺, 緒方政次郎 (兒科雜誌第 206 號)。
 尿崩症患者に於ける實驗的研究, 岸本道夫, 向井元享 (兒科雜誌第 208 號)。
 細菌毒竝に一二化學毒物に因する腦下垂體の變化に就て, 附腦下垂體製劑を以てせる小實驗, 田中孝一, 足立修 (兒科雜誌第 209 號)。
 生殖生理研究の大勢, 越智眞逸 (京都府立醫學專門學校々友會雜誌第 77 號)。
 含水炭素新陳代謝に對するランゲルハンス氏島の意義(第一回報告) 家兎の腺管結紮後に於ける血糖の状態, 上村直親 (東京帝國大學醫科大學紀要第 17 卷第 1 號)。
 含水炭素新陳代謝に對するラ氏島の意義(第二回報告), ラ氏島の細胞溶解性免疫血清 (東京帝國大學醫科大學紀要第 17 卷第 1 號)。
 乳汁分泌に對する實驗的研究(第三回報告), 土肥衛 (近畿婦人科學會々報第 5 號)。
 内分泌の見地より見たる流行性耳下腺炎, 結城玄通 (朝鮮醫學會雜誌第 17 號)。
 兩側甲狀腺腫の手術式に就て, 澤村榮美 (東京醫事新誌 2059, 2060 號)。
 副腎の機能に就て, 佐多芳久 (千葉醫學專門學校雜誌第 92, 93 號)。
 乳兒「テタニー」の一例, 池原南 (醫學中央雜誌第 277 號)。
 「アドレナリン」作用に因りて期外收縮を起せる緩徐脈の一例に就て, 其期外收縮の原因を論ず, 時田典二 (醫事新聞, 第 987 號)。
 「アドレナリン」注射の血液粘稠度に及ぼす影響に就て, 山田詩郎 (中外醫事新報第 893 號)。
 側甲狀腺腫の知見, 和田圭城 (日本外科學會雜誌第 18 回第 1 號)。
 甲狀腺結核, 附甲狀腺結核とバセドウ氏病との關係, 植村俊二 (日本外科學會雜誌第 18 回第 1 號)。
 甲狀腺中毒症の實驗的研究, 土井留之助 (日本外科學會雜誌第 18 回第 1 號)。

- 「アドレナリン」靜脈注射と肝臟との關係, 吉永端三 (日本外科學會雜誌第 18 回第 1 號)。
 腦下垂體「エツキス」の胎兒に及ぼす作用に就て, 増本誠一郎 (日新治療第 1 號)。
 松葉腺腫瘍の一例, 土田卯三郎 (神經學雜誌第 17 卷第 1 號)。
 生殖腺と第二次的性徴との關係に就ての實驗, 高橋信美 (日本外科學會雜誌第 18 回第 1 號)。
 腦下垂體腫瘍患者血清の血管收縮作用に就て, 草間常三, 坂本輯 (日本內科學會雜誌第 5 卷第 4 號)。
 (以上, 醫學中央雜誌第 15 卷所載)
 胸腺淋巴質に現はる症候に就て, 伊藤祐彦 (醫學中央雜誌第 16 卷第 1 號)。
 胸腺のエオヂン嗜好細胞に就て, 石橋松藏 (第 8 回日本病理學會總會演說)。
 副腎アドレナリン含有量に關する實驗的研究, 並に脚氣屍副腎内アドレナリン増加の原因に就て, 綠川浩 (第 8 回日本病理學會總會)。
 脚氣屍に於ける副腎, 新保十寸穂 (第 8 回日本病理學會總會演說)。
 胸腺淋巴質に現はる症候に就て, 伊藤祐彦 (醫學中央雜誌第 16 卷第 2 號)。
 内分泌病理に關する研究追加, 中村八太郎 (第 8 回日本病理學會總會演說)。
 腦下垂體の孤在性護膜腫の一例, 附尿崩症に關する疑義, 日野善松 (神經學雜誌第 17 卷第 5 號)。
 甲狀腺試食と實驗的動脈硬變, 村田宮吉, 片岡茂樹 (第 8 回日本病理學會總會演說)。
 胎盤浸出液の毒性に就て, 土肥衛 (日本婦人科學會雜誌第 12 卷第 7 號)。
 腦下垂體と婦人生殖器との相互關係に就て, 岡林秀一 (官報第 1722 號)。
 含水炭素新陳代謝に關係を有する諸内分泌臟器の研究殊に副腎皮質と睪臟との相互關係に就て, 徳光美福 (日新醫學第七年第 7, 8 號)。
 内分泌臟器飼養實驗殊に甲狀腺蝌蚪反應に就て, 石原誠 (日新醫學第 6 年第 11 號)。
 卵巣全剔出後に於ける血液の變化殊に甲狀腺との關係に就て, 水谷通治 (好生館醫事研究雜誌第 25 卷第 2, 3 號)。

- 化學上より見たる羊水の起源, 上野道故 (日本婦人科學會雜誌第 12 卷第 7 號)。
 副腎の大小及重量に就て, 羽太銳治 (順天堂醫事研究雜誌第 548 號)。
 飯匙蛇毒に因する腎臟及副腎の變化に就て, 羽太銳治 (皮膚科及泌尿器科雜誌第 17 卷第 9 號)。
 卵巢製劑「ゲネグランドール」及「ゲネスチプトール」の臨牀的研究, 谷口彌三郎 (治療藥報第 158 號)。
 胎盤蛋白質の金屬結合體に對する妊婦梅毒の尿の反應實驗 (第一回報告), 大石貞夫 (日本婦人科學會雜誌第 12 卷第 12 號)。
 哺乳獸及人の胎盤竝に胎兒に於ける糖原質の分布附是等組織に於ける糖原質發生の生物學的意義に就て, 安藤畫一 (近畿婦人科學會々報第 5 號)。
 尿崩患者に於ける實驗的研究, 岸本道夫, 向井元享 (日本內科學會雜誌第 5 卷第 9 號)。
 卵巢移植に就て(子宮の存否が卵巢移植成績に影響を有するや), 林榮 (近畿婦人科學會々報第 5 號)。
 胸腺淋巴質に就て, 林春雄 (近世醫學第 4 卷第 10 號)。
 粘液水腫の病理解剖殊に腦下垂體の變化に就て, 加茂貫一郎 (官報第 1697 號)。
 「ピツイトリン」の硬膜下反復注射に因する家兎中樞神經組織の病理解剖的變化に就て, 淺山忠愛 (日本內科學會雜誌第 5 卷第 4 號)。
 內分泌臟器の血液糖に對する相互關係に就て, 横森賢治郎 (日新醫學第 8 年第 2 號)。
 バセドウ氏病に於ける眼筋の變化に就て, 松本保三 (中央眼科醫報第 10 卷第 8 號)。
 胎盤浸出液の家兎白血球に及ぼす影響竝に妊婦の白血球に關する知見, 安藤畫一 (東京婦人科學會雜誌第 13 卷第 5 號), (臨床醫學第 6 年第 6 號)。
 「アドレナリン」, 「エフェドリン」及「ミドリアチン」中毒に因る實驗的動脈硬化症に就て, 清野謙次, 東原一雄 (京都醫學會雜誌第 15 卷第 6 號)。
 慢性腎臟炎に於ける「アドレナリン」散瞳反應, 加藤豐次郎, 渡邊正雄 (東北醫學雜誌第 3 卷第 3 冊)。

- 生殖腺の移植による動物體の反應に就きて, 角田隆, 日下仁 (日新醫學第 8 年第 2 號)。
 尿崩症, 稻田龍吉 (福岡醫科大學雜誌第 11 卷第 2 號), 東京醫事新誌第 2083, 2084 號)。
 粘液水腫, 武谷廣吉 (診療鈔報第 2 卷第 13 號)。
 腎臟の毒質及其所在性質に就て, 梅田信義, 越智眞逸 (日新醫學第 8 年第 5 號)。
 內分泌臟器と含水炭素新陳代謝との關係に就て, 坂本恒雄 (第 16 回日本內科學會)。
 甲狀腺物質の含水炭素物質代謝に及ぼす影響に就て, 上村直親 (東京醫學會雜誌第 32 卷第 22 號)。
 胸腺浸出液の骨組織培養の發育に及ぼす影響に就て, 桂秀三 (東京醫學會雜誌第 32 卷第 21 號)。
 人及家畜動物に於ける松葉腺の生理的構造及病的變化に就て, 植村俊二 (官報第 1944 號)。
 松葉腺の病理, 長與又郎 (神經學雜誌第 18 卷第 1 號)。
 松葉腺腫瘍に就て, 田村於菟 (岡山醫學會雜誌第 346 號)。
 上皮小體の迷走神經内轉移, 中村舒 (神經學雜誌第 18 卷第 4 號)。
 副睪丸切除の爾他生殖腺に及ぼす影響に就きて, 大原武夫, 鈴木堅造 (東北醫學雜誌第 3 卷第 3 冊)。
 輓近に於ける兒科治療學の進歩の一斑, 臟器療法, 笠原道夫 (實驗醫報第 4 年第 41 號)。
 甲狀腺異常に因する一侏儒に就て, 多賀壽康 (日本外科學會雜誌第 18 回第 4 號)。
 甲狀腺腫の手術的治驗に就て, 河本壽登 (朝鮮醫學會雜誌第 22 號)。
 卵巢機能の障礙に就きて, 谷口彌三郎 (日新醫學第 8 年第 1 號)。
 腦下垂體エキステに「ピツイトリン」の卓效を奏したる眼症例に就て, 増田隆 (中央眼科醫報第 10 卷第 10 號)。
 「アドレナリン」の運動末梢裝置に對する作用に就て, 奥島貫一郎 (岡山醫學會雜誌第 339 號)。

副腎皮質の移植, 徳光美福 (東北醫學雜誌第2卷第3冊)。

(以上, 醫學中央雜誌第16卷所載)

内分泌臓器が血糖に對する相互關係に就て, 横森賢治郎 (朝鮮醫學會雜誌第22號)。

尿崩症の腎機能に關する實驗, 折本勝治 (東北醫學雜誌第3卷第3冊)。

バセドウ氏病のレントゲン放射線治療に就て, 古谷滋夫 (臨牀醫學第7年第4號)。

去勢の牛「ヒポフィゼ」に對する影響, 坂口勇 (日本泌尿器病學雜誌第7卷第3號)。

内分泌病理に關する研究追加(第2), 中村八太郎 (第9回日本病理學會演説)。

睾丸間質細胞と腦下垂體との關係に就て, 速水猛 (第9回日本病理學會演説)。

尿崩症を來せる腦下垂體化骨の一例, 河北眞太郎 (第9回日本病理學會演説)。

甲状腺に關する研究(第2回報告), 殊に其重量的關係, 堀澤治吉 (第9回日本病理學會演説)。

バセドウ氏病に於ける内分泌臓器所見(第1回報告), 加藤守吉 (第9回日本病理學會演説)。

卵巢の化學的研究(第3回報告), 谷口彌三郎 (日本婦人科學會雜誌第14卷第5號)。

腺内分泌に關する實驗的補遺, 横森賢次郎 (南滿醫學會雜誌第6卷第3號)。

乳腺越幾斯及妊娠子宮越幾斯兩腺越幾斯に就て(其2), 臓器越幾斯B毒に就て(第一回報告), 市川鴻一 (東北醫學會雜誌第3卷第3冊)。

卵巢及甲状腺切除後に於ける腦下垂體に就て, 廣瀬豊一 (日本婦人科學會雜誌第14卷第5號)。

卵巢黃體製劑に就きて, 増本誠一郎 (日本婦人科學會雜誌第14卷第5號)。

甲状腺腫に關する臨牀的並に形態學的研究, 加藤守吉 (日本外科學會雜誌第20回第2號)。

アヂソン氏病, 稻田龍吉 (實驗醫報第5年第55號)。

胸腺淋巴體質に就て, 南部敏三 (軍醫團雜誌第80號)。

人類胎盤に於ける生理的機能(緒論), 内野洪平 (日本婦人科學會雜誌第14卷

第4號)。

鶏の甲状腺の組織學的研究, 木村省三 (鎮西醫報第185號)。

性の問題を論じ生殖腺の内分泌に及ぶ, 高橋信美 (國家醫學雜誌第387號)。

人體腦下垂體及之に關する實驗的研究(其一), 廣瀬豊一 (大阪醫學會雜誌第18卷第6號)。

腦下垂體及副甲状腺萎縮に歸すべき全身發育不全患者, 岡田襄 (京都醫學會雜誌第16卷第3號)。

バセドウ氏病患者血中血管收縮性物質の多寡及甲状腺大切除術の之に及ぼす影響に就て, 秋武六一郎 (日本外科學會雜誌第20回第2號)。

バセドウ氏病の「レントゲン」及「ラヂウム」療法, 村上幸多 (日本外科學會雜誌第20回第8號)。

バセドウ氏病甲状腺大切除前後に於ける血液像所見, 成瀬俊男 (日本外科學會雜誌第20回第2號)。

甲状腺摘出實驗, 石原勝 (日本外科學會雜誌第20回第2號)。

内分泌臓器を以て飼養せる標本供覽, 池上五郎 (日本婦人科學會雜誌第1卷第5號)。

甲状腺疾患の尿診斷並にランベの所論を駁す, 木内幹 (日本醫界第275號)。

内分泌腺の研究第一篇腺臟と甲状腺側甲状腺との關係に就て, 小島政治 (官報第2042號)。

「バラビオーゼ」を應用せる實驗的研究(其2), 生殖腺の變化を中心として觀察せる各臓器殊に内分泌臓器の態度に就て, 松山陸郎 (日新醫學第8年第12號)。

バセドウ氏病, 野口雄三郎 (醫海時報第1294, 1295號)。

甲状腺機能知見, 浮田友樹 (兒科雜誌232號)。

胸腺免疫血清が幼犬の新陳代謝に及ぼす影響(第1報), 檜林篤三 (兒科雜誌第233號)。

内分泌と聽器との關係に就きて實驗的研究, 吉井丑三郎, 東海林重信 (大日本耳鼻咽喉科會報第25卷第3, 4號)。

バセドウ氏病に於ける植物性神経系統の機能的検査成績及之に及ぼす甲状腺

腫大切除術の影響, 加來正武 (日本外科学會雑誌第 20 回第 2 號)。

バセドウ氏病患者八十名に於ける糖尿及蛋白尿の臨床的觀察, 爲末好武 (日本外科学會雑誌第 20 回第 2 號)。

人體胎盤及脱落膜の内分泌機能に關する細胞學的研究, 藤村元張 (東京醫學會雑誌第 33 卷第 15 號)。

卵巢機能障碍の療法に就て, 谷口彌三郎 (治療藥報第 165 號)。

腦下垂體腫瘍の一例, 松島利兵衛, 西堀新次郎 (臨床醫學第 7 年第 2 號)。

バセドウ氏病甲状腺腫の組織的變化, 横町佐藏 (日本外科学會雑誌第 20 回第 2 號)。

バセドウ氏病に於ける胸腺副腎腦下垂體松果腺所見, 加藤守吉 (日本外科学會雑誌第 20 回第 2 號)。

胸腺肥大症補遺, 齋藤秀雄 (東京醫事新誌第 2158 號)。

腦下垂體腫瘍, 稻田龍吉 (東京醫事新誌第 2158 號)。

粘液水腫の 3 例, 中原匡, 原撰 (福岡醫科大學雑誌第 12 卷第 5 號)。

(以上, 醫學中央雑誌第 17 卷所載)

松果腺畸形腫に就て, 鷲津三郎 (軍醫團雑誌第 87 號)。

副腎甲状腺劑の血糖量及血脂肪量に及ぼす影響に就て, 岡田襄 (軍醫 雑誌第 87 號)。

「アドレナリン」の脈搏及血壓に對する逆反應に就て, 前川重一 (日本内科学會雑誌第 8 卷第 2 號)。

出血後の内分泌臓器, 本名文任 (日本外科学會雑誌第 21 回第 2 號)。

甲状腺中毒症の血液粘稠度並に其實験的研究, 大原八郎 (日本外科学會雑誌第 21 回第 2 號)。

中毒症甲状腺腫手術後に於ける一過性食餌糖尿に就て, 大原八郎 (日本外科学會雑誌第 21 回第 2 號)。

バセドウ氏病に於ける生殖腺所見, 加藤守吉 (日本外科学會雑誌第 21 回第 2 號)。

「モルモット」の實驗的バーロー氏病に於ける副腎の變化に就て, 森川信義

(日本病理學會雑誌第 10 年)。

副腎皮質の研究續報, 徳光美福 (日本病理學會雑誌第 10 年)。

内分泌病理に關する研究追加 (第 3), 中村八太郎 (日本病理學會雑誌第 10 年)。

バセドウ氏病に於ける内分泌臓器所見 (第 2 同報告), 加藤守吉 (日本病理學會雑誌第 10 年)。

甲状腺試食による「アドレナリン」型硬變の發生に就て (第 2 同報告), 村田宮吉 (日本病理學會雑誌第 10 年)。

腦脊髄の溶血素生成並に「ピツイトリン」の腦脊髄液に及ぼす作用に就て, 蓮井直衛 (日新醫學第 9 年第 4 號)。

乳汁分泌を喚起すべき胎盤中の或物質は果して濾膜を透過するや, 土肥衛 (醫學中央雑誌第 18 卷第 4 號)。

乾燥甲状腺を以て飼養せる動物の消化器に於ける變化に就て, 橋本寛敏 (日本内科学會雑誌第 8 卷第 3 號)。

豚剔出動物に於ける血中糖化酵素の變化に就きて, 附該動物に於ける Löwi 氏反應に就きて, 大里俊吾 (日本内科学會雑誌第 8 卷第 3 號)。

「アドレナリン」血管作用の煮沸に因りて受くる影響に就て, 高畑惠 (中外醫事新報第 957 號)。

「アドレナリン」及種々なる腺臓器エキスの靜脈に對する作用, 津金巨摩雄 (成醫學會月報第 452 號)。

「アドレナリン」の體温調節に及ぼす作用に就て, 近藤清吾 (日本内科学會雑誌第 7 卷第 7 號)。

各種内分泌腺の子宮收縮に及ぼす影響に就て (第 1 同報告), 狭間章雄 (日本婦人科学會雑誌第 15 卷第 2 號)。

中毒性甲状腺の血液所見並に手術的療法の血液及循環器系統に及ぼす影響に就て, 關口蕃樹, 大原八郎 (醫學中央雑誌第 28 卷第 6 號)。

乳腺越幾斯及妊娠子宮越幾斯, 附肺臟越幾斯に就て (其 3), 市川鴻一 (東北醫學會雑誌第 4 卷第 3 冊)。

- 「ゲネグランドール」應用例, 山縣六郎 (治療報第 174 號)。
- 乳汁分泌に關する實驗的研究, 土肥衛 (近畿婦人科學會雜誌第 7 號)。
- 甲狀腺劑の治療的應用, 館卯太郎 (臨牀月報第 116 號)。
- 甲狀腺の機能に就て, 辻寛治 (京都醫學會雜誌第 16 卷第 12 號)。
- バセドウ氏病患者の甲狀腺大部分切除前後に於ける植物性神經系緊張度の藥學的機能検査成績, 渡邊信吉 (神經學雜誌第 19 卷第 2 號)。
- バセドウ氏病に於けるレントゲン療法價值に就て, 附同類似症のレントゲン療法成績, 堀政明 (金澤醫學專門學校十全會雜誌第 25 卷第 1 號)。
- 粘液水腫の一例, 三瀬宗造 (臨牀醫學第 8 年第 2 號)。
- バセドウ氏病七十二例の眼症狀臨床的觀察, 森可也 (日本眼科學會雜誌第 23 卷第 9 號)。
- バセドウ氏病に於ける視力障碍, 甲野謙三 (眼科臨牀醫報第 171 號)。
- 甲狀腺試食のコレステリン型動脈硬變に及ぼす影響及び之に依るアドレナリン型動脈硬變の發生, 村田宮吉 (大阪醫學會雜誌第 18 卷第 2 號)。
- 甲狀腺試食によるアドレナリン型動脈硬變の發生に就て, 阪井要 (大阪醫學會雜誌第 18 卷第 2 號)。
- アツシュネル氏現象に關する研究, 特にアツシュネル氏現象の持續的に強度に存するものと或種の内分泌病竝に或體質異常との關係に就て, 坂本輯 (神經學雜誌第 19 卷第 7 號)。
- 「ピットリン」の腎臟分泌機能に及ぼす影響に就て, 竝に尿崩症に關する實驗補遺, 本多操 (近畿婦人科學會々報第 7 號)。
- 副腎の形態大さ及び重さに就て, 新保十寸穂 (福岡醫科大學雜誌第 12 卷第 5 號)。
- アヂソン氏病の二例, 皆見省吾 (皮膚科及泌尿科雜誌第 20 卷第 4 號)。
- 卵巣乳腺の相互關係補遺, 藤光長次郎 (十全會雜誌第 24 卷第 12 號)。
- 「アドレナリン」及鹽酸の破傷風毒素に及ぼす作用に就て, 小林六造 (細菌學雜誌第 291 號)。
- 甲狀腺機能知見補遺, 浮田友樹 (兒科雜誌第 243 號)。
- 火傷後に來る副腎及脾臟の變化竝に火傷後の死因及副腎と皮膚との相互關係

- に就て, 中田篤郎 (官報 2375 號)。
- 類宦官症, 角尾晉 (日本內科學會雜誌第 8 卷第 7 號)。
- 内分泌腺越幾斯或は製劑の滑平筋臟器に對する作用の研究 (第 2 回報告) 一 二 卵巣製劑の雌雄生殖器腸管竝に心臟に對する作用に就て, 原正平 (大正婦人科學會々報第 8 號)。
- 腦下垂體の生物學的研究, 齋藤豊 (成醫會月報第 452 號)。
- 胎盤浸出液の毒性に就て, 土肥衛 (大正婦人科學會報第 8 號)。
- 甲狀腺腫及バセドウ氏病に對するラヂウムの應用に就て, 今泉禎 (南園會雜誌第 2 號)。
- 甲狀腺腫に就て, 藤本順, 上瀬節三 (中央醫學會雜誌第 27 卷第 1 號)。
- アヂソン氏病に於けるアイロースキー及ピットルフ兩氏の反應竝に最近に於ける色素論, 皆見省吾 (皮膚科泌尿器科雜誌第 21 卷第 1 號)。
- バセドウ氏病特に其療法, 小澤修造 (醫事新聞第 1052 號)。
- 内分泌臟器機能の實驗的研究, 原田重雄 (東京醫學會雜誌第 35 卷第 1 號)。
- バセドウ氏病の手術後に於ける脈搏疾患に就て, 森武美 (實驗醫報第 6 年第 71 號)。
- 上皮小體免疫素の構成に就て, 岸勇 (東京醫學會雜誌第 33 卷第 22 號)。
- 持續的に強度なるアツシュネル氏現象と或種の内分泌病症竝に或體質異常との關係に就て, 坂本輯 (福岡醫科大學雜誌第 13 卷第 1 號)。
- 胸腺淋巴腺體質, 中村復一郎 (日本外科學會雜誌第 21 回第 12 號)。
- 甲狀腺劑の血液像特にエオジン嗜好細胞に及ぼす影響に就て, 上小澤能敏 (醫學中央雜誌第 18 卷第 22 號)。
- 家兔卵巣に對する硬レントゲンの作用に就て, 白木正博 (日本婦人科學會雜誌第 16 卷第 1, 2, 3 號)。
- 内分泌腺越幾斯或は製劑の滑平筋臟器に對する作用研究 (第 3 回報告) 一 二甲狀腺製劑の雌性生殖器竝に腸管に對する作用に就て, 原正平 (大正婦人科學會々報第 8 號)。
- 副腎のアドレナリン含量に就て, 栗山重信 (臨牀醫學第 8 年第 1 號)。

卵巣と胎盤との相互的關係に關する實驗的研究，廣瀬豊一，（日本婦人科學會雜誌第 15 卷第 5 號）。

（以上，醫學中央雜誌第 18 卷所載）

甲狀腺機能に關する知見補遺殊に該機能と食物との關係に就て，辻寛治，（醫學中央雜誌第 19 卷第 1 號）。

内分泌病理に關する研究追加，中村八太郎，（日本病理學會第 11 回總會）。

バセドウ氏病に於ける内分泌臟器所見，加藤守吉，（日本病理學會第 11 回總會）。

馬の胸腺に就て，江島眞平，（日本病理學會第 11 回總會）。

胸腺肥大に就て，内藤八郎，（日本病理學會第 11 回總會）。

早期アクロメガリー症の一異型，奥村隆俊，（日本內科學會雜誌第 9 卷第 2 號）。

各種麻醉劑催眠劑，興奮劑，内分泌機並に溫冷等が腦髓の官能的活動及血管に及ぼす影響に就て，山北又十郎，（日本內科學會雜誌第 9 卷第 2 號）。

「アドレナリン」分泌に對する知覺神經刺激の影響に就て，小玉作治，（日本內科學會雜誌第 9 卷第 2 號）。

家兎睾丸に於けるエツキス線放射，附ゼルトリー毛細胞の機能的意義並に間質細胞の分泌機轉に就て，富田朋介，（日本病理學會第 11 回總會）。

甲狀腺と免疫體との關係，木村敬義，（東大法醫學教室集談會）。

「アドレナリン」過血糖に對する卵巣の作用，望月寛一，（東大法醫學教室集談會）。

膵臟の内分泌に關する研究，熊谷岱藏，平井毅，佐藤基，（日本內科學會雜誌第 9 卷第 2 號）。

生殖腺内分泌研究（第一回報告）男性生殖腺と含水炭素代謝，螺良四郎，（日本內科學會雜誌第 9 卷第 2 號）。

アドレナリン排出に關する實驗的研究，森田松兵衛，（日本內科學會雜誌第 9 卷第 2 號）。

日本成人甲狀腺の沃度含有量に就て，福島東作，（日本內科學會雜誌第 9 卷第 2 號）。

再び食物と甲狀腺との關係は就て，辻寛治，（日本內科學會雜誌第 9 卷第 2 號）。

胸腺淋巴腺體質に就て，中村復一郎，（慶應醫學第 1 卷第 6 號）。

摘出子宮に及ぼす各種内分泌腺の相互作用，飯島貫一，（日本婦人科學會雜誌第 15 卷第 5 號）。

鶏の胸腺皮質の網狀織に就て，木村省三，（鎮西醫報第 191 號）。

胸腺の本性を論じ，頭腸の範圍に於ける粘膜皺襞の意義に及ぶ，木村省三，（第 28 回日本解剖部學會），（岡山醫學會雜誌第 367 號）。

副腎と胃潰瘍との關係，赤木四郎，（日本外科學會雜誌第 22 回第 2 號）。

睾丸移植（續報），中田瑞穂，（日本外科學會雜誌第 22 回第 2 號）。

アドレナリン排出と内臟交感神經，森田松兵衛，（福岡醫科大學雜誌第 14 卷第 1 號）。

肢端異常肥大症の發生と地理的關係，三藤香吉，（日本內科雜會學誌第 8 卷第 12 號）。

アヂソン氏病患者供覽，行徳健助，（日本內科學會雜誌第 8 卷第 10 號）。

各種内分泌腺の子宮收縮に及ぼす影響に就て（第 2 回報告），胎盤ホルモンの子宮收縮に及ぼす影響，狹間章雄，（九州醫學會雜誌第 24 回）。

バセドウ氏病に於ける膵臟所見，加藤守吉，（日本外科雜會學誌第 22 回第 6 號）。「アドレナリン」注射による動脈音の發生に就て，合屋友五郎，（醫學中央雜誌第 19 卷第 9 號）。

人類卵巣越幾斯の生物學的研究（第 1 回報告），人類卵巣越幾斯の血壓降下作用，柏原長弘，（大正婦人科學會々報第 9 號）。

「シストメジン，チバ」の小實驗，齋藤友三，（東京醫事新誌第 2236 號）。

「アドレナリン」過血糖症知見補遺（第 2 報），栗山重信，松田鶴，（兒科雜誌第 247 號）。

「アドレナリン」蜘蛛膜下腔注射が血壓に及ぼす作用に就て，笠原道夫，（京都醫學會雜誌第 18 卷第 2 號）。

下垂體腫瘍の一例に於ける臨床的並に剖檢的所見に就て，中村豊，（南園會雜誌第 2 號）。

腦下垂體の有効成分に就ての研究，齋藤豊，（東京醫學會雜誌第 35 卷第 8 號）。

含水炭素代謝に對する甲狀腺及副腎の關係に於ける實驗的研究，栗山重信，

- (官報第 2699 號)。
- 内分泌の腫瘍に及ぼす影響に就て(第 1 回報告), 栃木勇, (細菌學雜誌第 308 號)。
- 甲狀腺の免疫に就て, 華阜照, (細菌學雜誌第 308 號)。
- 甲狀腺末チレオイドに依る氣管枝喘息の治驗及鎮咳劑の補助療法としての價值, 山崎直人, (治療藥報第 184 號)。
- 甲狀腺及副甲狀腺の機能並に異常, 三浦恒助, (日本微生物學會雜誌第 15 卷第 3 號)。
- 侏儒に於ける二, 三の實驗, 附 甲狀腺劑の沃度含有量に就て, 福島東作, (醫事新聞第 1071 號)。
- 侏儒, 三浦謹之助, (神經學雜誌第 20 卷第 6 號)。
- 腦下垂體腫瘍と宦官症各一例, 關場不二彦, (北海醫報第 16 卷第 2 號)。
- 粘液水腫の一症例, 岩城恵伍, (北越醫學雜誌第 36 年第 1 號)。
- 甲狀腺試食のコレステリン型動脈硬變に及ぼす影響及アドレナリン型動脈硬變の發生に就て, 村田宮吉, (大阪醫學會雜誌第 18 卷第 2 號), (官報 2695 號)。
- 甲狀腺と精神病, 柳保三郎, (醫海時報第 1402 號)。
- 大腦グリヲシムに併發せる尿崩症の内分泌臟器の所見, 佐藤清, (醫事新聞第 1046 號)。
- 腦下垂體の研究(第 2 回), 梶原猶次郎, 吉永俊光, (鎮西醫報第 192 號)。
- 腦下垂體の研究, 梶原猶次郎, 吉永俊光, (實驗治療第 5 號)。
- 去勢後の血糖の變化に就て, (第 1 回報告), 附 二三内分泌臟器製劑が血糖に及ぼす影響, 中並進, (慶應醫學第 1 卷第 7 號)。
- バセドウ氏病瘵に關する病理的知見, 加藤守吉, (南滿醫學會雜誌第 8 卷第 4 號)。
- 副腎皮質の研究續報, 徳光美福, (東京醫事新誌第 2185 號)。
- 實驗的家兎アヂソン氏病様症狀の發現に就て(豫報), 梅本英太郎, (實驗醫學雜誌第 5 卷第 2 號)。
- 甲狀腺——植物性神經系との關係に就ての實驗的研究, 上村直親, (朝鮮醫學會雜誌第 30, 31 號)。

- 「ピツイトリン」と胎兒娩出, 鈴木龍太郎, (治療藥報第 195 號)。
- 妊娠早期中絶と「ゲネグランドール」(けねぐらんどーる) 應用 100 例に就ての統計的觀察, 角碩夫, (鎮西醫報第 191 號)。
- 「アドレナリン」の體溫調節に及ぼす作用, 近藤清吾, (京都帝國大學醫學部紀要第 3 卷第 2 號), (官報 2718 號)。
- 腦下垂體性侏儒, 稻田龍吉, (實驗醫報第 68 號)。
- 胎盤越幾斯の毒性及腎臟炎と子癇との關係, 今井環(日本婦人科學會雜誌第 16 卷第 1 號)。
- 乳汁分泌に關する實驗的並に分娩後に於ける泌乳機に於ける臨床的研究(豫報), 平田勇吉, (順天堂醫事研究會雜誌第 563 號)。
- 「ヒスタミン」の血管作用に就て, 山口清治, (醫學中央雜誌第 19 卷第 18 號)。
- 内分泌機轉の細胞學的考察(標本供覽), 塚口利三郎, 高木耕三, (大阪醫學會雜誌第 20 卷第 10 號)。
- 「アドレナリン」の藥物學的作用に就て, 杉田直樹, (內科學會雜誌第 19 卷第 4 號)。
- 松葉腺腫瘍の一例, 山中崔之, (中央眼科醫報第 14 卷第 2 號)。
- 乳腺越幾斯及妊娠子宮越幾斯に就て, 市川鴻一, (官報 2686 號)。
- 腦下垂體(腦下體, 腦粘液腺), 山尾清實, (醫學及醫學人第 4 卷第 9 號)。
- 内分泌に就て, 松村茂秀, (東京醫專校友會雜誌第 4 號)。
- 所謂若返り法問題に就て, 中原徳太郎, (醫海時報第 1426 號)。
- アヂソン氏病に於ける皮膚色素沈着に就て, 都築加壽保, (千葉醫學專門學校雜誌第 133 號)。
- 甲狀腺免疫血清に就て, 長岡秀四郎, (日本微生物學會雜誌第 15 卷第 5 號)。
- 糖尿に就て, 柏戸留吉, (近世醫學第 7 卷第 11 號)。
- 一二内分泌臟器製劑或は抽出液の血糖量に及ぼす影響, 檜林篤三, (中外醫事新報第 970, 971, 972, 973 號)。
- バセドウ氏病のレントゲン治療成績批判, 種村式, (中央醫學會雜誌第 27 卷第 5, 6 號)。
- 各種臟器製劑のアドレナリン分泌に及ぼす影響に就て, 徳光美福, (滿鮮之醫

界第 8 號)。

腦下垂體の有効成分に就ての研究(第 2 回報告), 齋藤豊 (東京醫學會雜誌第 35 卷第 12 號)。

副交感神経毒の血糖並に アドレナリン過血糖に及ぼす影響に就て, 齋藤糸平 (慶應醫學第 1 卷第 10 號)。

腦下垂體侏儒, 瀧本庄藏 (日本内科學會雜誌第 9 卷第 7 號)。

生殖腺内分泌研究(第一報), 男性生殖腺と含水炭素代謝, 螺良四郎 (日本内科學會雜誌第 9 卷第 9 號)。

内分泌と血液中の脂肪及類脂肪體の關係に就て, 岡田襄 (醫學中央雜誌第 19 卷第 24 號)。

スタイナー氏法に依る家兎輸精管結紮後辜丸の組織的研究, 帖佐直善 (臺灣醫學會雜誌第 219 號)。

腦下垂體後葉浸出物中に於ける「ヒスタミン」の存在及び血圧昇騰成分に関する豫報, 永山武美 (成醫會雜誌第 459 號)。

腦下垂體越幾斯製劑の滑平筋に對する效力比較 (大正婦人科學會雜誌第 10 號)。

(以上, 醫學中央雜誌第 19 卷所載)

副腎皮質新官能續報, 徳光美福 (朝鮮醫學會雜誌第 30 卷第 31 號)。

胸腺肥大, 齋藤秀雄 (治療及處方第 25 號)。

高度の視野同心性狹窄を起したる「アクロメガリー」の一例, 馬島鏡三 (中央眼科醫報第 13 卷第 10 號)。

「アドレナリン」の眼窩内注射と眼内壓との關係に就て, 牛島實 (中央眼科醫報第 14 卷第 3 號)。

「バラビオーゼ」を應用せる實驗的研究, 松山陸郎 (官報第 2806 號)。

「バラビオーゼ」による内分泌研究, 後藤直 (東京醫學會雜誌第 36 卷第 1 號)。

相良氏の記載せる尿崩症例の病理解剖的研究殊に松葉腺及間腦底部の變化に就て, 中村八太郎 (十全會雜誌第 27 卷第 4 號)。

癩癩に副腎摘出, 伊藤準三 (實驗醫報第 88 號)。

中毒性甲状腺腫の血液及循環器系統に関する研究並に是等に及ぼす手術的影響

に就て, 大原八郎 (官報 2678 號)。

組織體外培養法及び脱落症によりて實驗せる家鷄胸腺の骨發育に及ぼす影響に就て, 桂秀三 (東京醫學會雜誌第 36 卷第 1 號)。

バセドウ氏病に來る眼裂哆開症, 増田隆 (中央眼科醫報第 14 卷第 4 號)。

家兎卵巢に對する硬レントゲン線の作用に就て, 白木正博 (官報第 2857 號)。

生殖腺と體質との關係, 宮田朋介 (南滿醫學會雜誌第 1 卷第 2 號)。

内分泌殊に胸腺に就て, 谷津直彦 (東京醫事新誌第 2223 號)。

副腎アドレナリン含有量に関する實驗的研究(第 1 回報告), 高橋喜一 (北越醫學會雜誌第 36 年第 6 號)。

胎盤より得たる催乳劑の臨床的效果に就て, 土肥衛 (大正婦人科學會々報第 10 號)。

バセドウ氏病論の現況と其手術的療法に関する管見, 植村俊二 (近世醫學第 9 卷第 1 號)。

辜丸内分泌に就て(第 1 回報告)辜丸移植に関する研究, 中田瑞穂 (日本外科學會雜誌第 23 卷第 1 號)。

甲状腺全別出が妊娠の経過及胎兒の發育に及ぼす影響に就て, 浮田友樹 (京都帝國大學醫學部紀要第 3 卷第 2 號), (官報第 2771 號)。

内分泌腺の相互關係(新陳代謝及消化作用と内分泌腺との關係), 坂本和二郎 (臨床醫學第 10 卷第 1, 2 號)。

松葉腺腫瘍症の一例, 片平重次 (臺灣醫學會雜誌第 221 號)。

尿崩症に就て, 相良摠六 (十全會雜誌第 27 卷第 4 號)。

副腎機能不全の一新徴候, 染川福治 (治療藥報第 197 號)。

バセドウ氏病, 額田晉 (内科醫學會雜誌第 18 卷第 5 號)。

バセドウ氏病に於ける心臟病變, 橋本寛敏 (醫事新聞第 1080 號)。

甲状腺腫の原因に関する實驗的研究, 泉伍朗 (東京醫事新誌第 2278 號)。

生理的乳汁分泌作用に就て, 高橋統閏 (岡山醫學會雜誌第 383 號)。

アドレナリン中毒に因る肝臟の病變, 横森賢治郎 (南滿醫學會雜誌 10 卷第 2 號)。

バセドウ氏病に就て, 高根一二 (東京醫學會雜誌第 36 卷第 3 號)。

- 胎兒妊娠子宮各越幾斯の乳腺に及ぼす影響, 保阪孝雄 (日本婦人科學會雜誌第 17 卷第 3 號)。
- 「アドレナリン」の新呈色反應, 佐多芳久 (臨床醫學第 9 年第 5 號)。
- 腦下垂體の有效成分に就ての反應, 齋藤豊 (東京醫學會雜誌第 36 卷第 5 號)。
- 腦下垂體性侏儒の一例, 瀧本庄藏 (中外醫事新報第 1013, 1014 號)。
- 多發性内分泌臟器障礙と診定せる 例, 岡田襄 (臨床醫學第 10 年第 6, 7 號)。
- 「アクロメガリー」の一例, 岡部養逸 (福岡醫科大學雜誌第 15 卷第 4 號)。
- 内分泌臟器機能の實驗的研究, 原田重雄 (官報第 2967 號)。
- 甲状腺レントゲン(ラヂウム)放射の含水炭素同化作用に及ぼす影響, 種村式渡邊健太郎 (愛知醫學會雜誌第 29 卷第 3 號)。
- 甲状腺の缺損に因する疾病, 三浦恒助 (日本微生物學會雜誌第 15 卷第 5 號)。
- 腦下垂體の機能疾病並に治療, 三浦恒助 (日本微生物學會雜誌第 15 卷第 6 號)。
- 乳腺分泌に関する實驗的研究, 池上五郎 (日新醫學第 11 卷第 4 號)。
- 乳汁分泌寡少者に対する自己乳汁注射例, 池上五郎 (朝鮮醫學會雜誌第 35 號)。
- 卵巢及胎盤「ホルモン」と妊娠分娩との關係, 谷口彌三郎 (近世醫學第 9 卷第 4 號)。
- カルチウム新陳代謝とアドレナリン(第 2 回報告), 井上猛夫 (東京醫學會雜誌第 36 卷第 6 號)。
- 滑平筋臟器に於ける「アドレナリン」及「アトロピン」の拮抗作用, 郷原瞭 (京都帝國大學醫學部紀要第 3 卷第 3 號)。
- 日本人に於ける單純性並に中毒性甲状腺腫の化學的研究, 加藤守吉 (日本外科學會雜誌第 23 回第 3 號)。
- 甲状腺腫原因に関する實驗的研究, 泉伍朗 (日本外科學會雜誌第 23 回第 3 號)。
- 内分泌と聽器及上氣道, 鳥居恵二 (大日本耳鼻咽喉科會々報第 28 卷第 2, 3 號)。
- 「バラビオーゼ」動物を應用せる卵巢内分泌の研究(第 1 回報告), 後藤直 (東京醫學會雜誌第 36 卷第 9 號)。
- 「アドレナリン」中毒に因る肝臟の病變, 横森賢治郎 (實驗醫學雜誌第 6 卷第 5 號)。

- 「インフアンチリズム」の一例, 塚本政治 (十全會雜誌第 27 卷第 8 號)。
- 睾丸移植の臨床的並に實驗的研究, 石山福三郎 (日本外科學會雜誌第 23 回第 3 號)。
- 輸精管結紮後に於ける白鼠の生物學的研究, 二川元次郎 (日本外科學會雜誌第 23 回第 3 號)。
- 輸精管結紮切離後に於ける白鼠睾丸の組織學的變化, 二川元次郎 (日本外科學會雜誌第 23 回第 3 號)。
- スタイナツハ氏若返り法に関する實驗的研究, 町田實俊 (日本外科學會雜誌第 23 回第 3 號)。
- 小兒赤痢及疫痢に於ける「アドレナリン」の分泌狀態, 附 動脈音の發生に就て (醫學中央雜誌第 15 卷)。
- 血中アドレナリンの化學的定量, 岡本京太郎
- 形態學上より見たる 副腎髓質内に於ける 靜脈血管筋層特異形像の機能上の意義及「アドレナリン」との關係に就て, 柏木正俊 (日新醫學第 11 卷第 10 號)。
- 睾丸間細胞, 長與又郎 (實驗醫報第 6 卷第 8 號)。
- 「アドレナリン」の生理的作用に就て, 杉田直樹 (內科學雜誌第 19 卷第 3 號)。
- 「アドレナリン」の藥物學的作用に就て, 杉田直樹 (內科學雜誌第 19 卷第 4 號)。
- 胸腺の生理並に胸腺死, 杉田直樹 (內科學雜誌第 19 卷第 1 號)。
- 内分泌學上より見たるバセドウ氏病の症候及療法, 杉田直樹 (內科學雜誌第 18 卷第 6 號)。
- 腦下垂體より起る種々の疾患に就て, 杉田直樹 (內科學雜誌第 19 卷第 2 號)。
- 内分泌と神經病, 杉田直樹 (內科學雜誌第 18 卷第 1, 2, 3, 4, 5 號)。
- 甲状腺エキスの「アドレナリン」に對する過敏作用, 小野貞衛 (福岡醫科大學雜誌第 14 卷第 3 號)。
- スタイナツハ氏若返り法及之に関する諸批判, 岩城清士 (東北醫學雜誌第 5 卷第 4 號)。
- 熱線の睾丸に及ぼす作用(熱睾丸)(第 1 回報告豫報), 福井信立 (中外醫事新

報第 1028 號)。

腦下垂體の生物學的研究補遺, 齋藤豊 (日本婦人科學會雜誌第 17 卷第 6, 7 號)。

原發性卵巢性バセドウ氏病に就て, 西田道雄 (中外醫事新報第 1016 號)。

免疫體及び異種蛋白と「ホルモン」との関係 (第 1 回報告), 各種ワクチン免疫

血清及細菌毒素の副腎内アドレナリン含有量並に其分泌量に及ぼす影

響に就て, 徳光美福 (醫學中央雜誌第 20 卷第 19 號)。

内分泌に就て, 林春雄 (近世醫學第 8 卷第 2, 3, 6, 7 號)。

内分泌に就て, 山尾清實 (醫學及醫學人第 4 卷第 3, 4, 5, 7, 8 號)。

松葉腺に就て, 山尾清實 (醫學及醫學人第 4 卷第 10 號)。

腦下垂體浸出液に就て, 今井環 (日本醫事新報第 43 號)。

スタイナツハ氏の若返り法に就て, 國友鼎 (研瑤會雜誌第 154 號)。

甲狀腺腫, 佐藤三吉 (日本之醫界第 12 卷第 34 號)。

種々なる腦下垂體製劑の效力比較, 齋藤治 (岡山醫學會雜誌第 395 號)。

免疫體及び異種蛋白と「ホルモン」との関係 (第 1 回報告) 其一各種ワクチン免疫

血清及び細菌毒素の副腎内アドレナリン含有量並に其分泌量に及ぼす

影響, 徳光美福 (醫學中央雜誌第 20 卷, 第 20 號)。

膝ラ氏鳥細胞の顆粒及其染色法, 鶴飼哲 (東北醫學雜誌第 6 卷第 34 冊)。

副腎機能減退乃至消失に因する諸臓器の變化殊に副腎皮質と甲狀腺との關係,

徳光美福 (東北醫學雜誌第 6 卷第 3, 4 冊)。

「アクロメガリー」に就て, 岡部養逸 (福岡醫科大學雜誌第 15 卷第 2 號)。

腦下垂體製劑並に「ヒスタミン」の一尿崩症患者に對する作用比較, 好本節, 喜

多靜枝 (岡山醫學會雜誌第 385 號)。

腦下垂體腫瘍の一稀例, 中島實 (中央眼科醫報第 14 卷第 11 號)。

「アドレナリン」の蜘蛛膜下腔注射が體温に及ぼす影響, 池田誠一 (中外醫事新報第 1013 號)。

免疫體及び異種蛋白と「ホルモン」との関係 (第 1 回報告), 其一各種ワクチン

免疫血清及細菌毒素の副腎内アドレナリン含有量並に其分泌量に及ぼ

す影響に就て, 徳光美福 (醫學中央雜誌第 20 卷第 21 號)。

耳下腺と生殖腺との相互關係作用 (其一), 土屋直義 (福岡醫科大學雜誌第 16 卷第 1 號)。

日本人腦下垂體の大きさ及重さ, 岡部養逸 (福岡醫科大學雜誌第 16 卷, 第 1 號)。

去勢手術を施せる家兎胸腺に就て, 淺田爲義 (福岡醫科大學雜誌第 16 卷第 1 號)。

副睪に就て, 衣川穰 (十全會雜誌第 28 卷第 3 號)。

胎盤毒に關する研究 (其一) 胎盤毒の毒作用, 石崎伸三郎 (慶應醫學第 2 卷第 11 號)。

腦下垂體製劑が脈搏血壓尿血液等に及ぼす影響, 戸出軍兵 (岡山醫學會雜誌第 393, 394 號)。

乳汁分泌の生理學補遺, 高橋統閏 (岡山醫學會雜誌第 395 號)。

副甲狀腺機能研究 (第一回報告), 赤松純一 (福岡醫科大學雜誌第 15 卷第 7 號)。

上皮小體異所的發見標本供覽, 執行作彌 (福岡醫科大學雜誌第 15 卷第 7 號)。

内分泌に關する二三の稀有なる疾病と皮膚變化, 遠山郁三 (皮膚科及泌尿器科雜誌第 22 卷第 5 號)。

内分泌と皮膚疾患, 松本信一 (皮膚科及泌尿器科雜誌第 22 卷第 6 號)。

スタイナツハ氏説の批判, 工藤得安 (日新醫學第 11 年第 9, 10 號)。

内分泌と瓦斯代謝並に分娩時血糖量との關係, 大平易 (日本內科學會雜誌第 10 卷第 12 號)。

生殖腺と血液瓦斯, 飯塚直彦 (日本內科學會雜誌第 10 卷第 12 號)。

甲狀腺機能と免疫體產出との關係, 木場武雄 (日本內科學會雜誌第 10 卷第 12 號)。

甲狀腺機能と各臓器組織内溶解性含窒素物との關係に就て, 劉陸一 (日本內科學會雜誌第 10 卷第 12 號)。

甲狀腺機能と鹽類新陳代謝に及ぼす影響に就て, 内田理一郎 (日本內科學會雜誌第 10 卷第 12 號)。

諸種毒物による「リベミー」殊に之に對する甲狀腺物質の影響, 奥岩吉 (日本內科學會雜誌第 10 卷第 12 號)。

甲状腺エキスの血管に対する作用に就て, 錦織末富 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 12 號)。

一種の「ワゴトニー」症三例殊に該症に対する甲状腺劑の影響, 大崎正巳 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 12 號)。

甲状腺及び生殖腺との血液炭酸瓦斯との關係, 國行榮次 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 12 號)。

バセドウ氏病に関する二三實驗に就て, 空地純一 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 12 號)。

腺臓の内分泌に関する研究(續報), 熊谷岱藏, 佐藤基 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 12 號)。

「アドレナリン」血糖過多に就て, 小原敏夫 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 12 號)。

腦下垂體越幾斯が胃液分泌に及ぼす影響, 柴田彌三郎 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 12 號)。

「アドレナリン」「ニコチン」及「ピロカルピン」に因て起る神経節細胞の變化, 高楠了超 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 12 號)。

(以上, 醫學中央雜誌第 20 卷所載)

犬の甲状腺の細胞學的研究, 高木耕三 (Folia anatomica japonica 第 1 卷第 2 號)。

海猿の胎生及び生後に於ける睾丸間質細胞, 工藤得安 (Folia anatomica japonica 第 1 卷第 3 號)。

腦下垂體製劑「ピツグランドール」の血管作用竝に其「アドレナリン」との關係, 山口清治 (日新醫學第 11 卷第 7 號)。

副腎アドレナリン分泌に対する知覺神經刺激の影響, 小玉作治 (日本内科学會雜誌第 9 卷第 10 號)。

急性死と胸腺の残留竝に胸腺淋巴性體質に対する疑義, 中田篤郎 (國家醫學雜誌第 425 號)。

眼と内分泌, 早野龍三 (朝鮮醫學會雜誌第 38 號)。

胸腺摘出の家兎脚氣様疾患に及ぼす影響, 首藤守彦 (第 13 回日本病理學會)。

胸腺微毒, 藤井靜雄 (第 13 回日本病理學會)。

腺移植の研究, 鶴岡哲 (第 13 回日本病理學會)。

上皮小體の同種族間移植, 伊澤好爲 (第 13 回日本病理學會)。

再び鶏に於ける松葉腺別出試験, 伊澤好爲 (第 13 回日本病理學會)。

人類の黄体の發生, 萩野久作 (第 13 回日本病理學會)。

内分泌原理に関する研究追加(第 6) 殊に一二疾患に於ける内分泌腺所見, 中村八太郎 (第 13 回日本病理學會)。

腎臓乳劑の非經口的注入により生ぜる萎縮腎, 木村次郎 (第 13 回日本病理學會)。

甲状腺機能と赤血球の滲透性抵抗, 奥岩吉 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 9 號)。

甲状腺が皮下に注入せる物質の尿中排泄に及ぼす影響, 岡野勇吉 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 10 號)。

「ピツイトリン」の血圧及び利尿に及ぼす影響, 嵩敏 (東北醫學雜誌第 6 卷第 3, 4 冊)。

熱線の睾丸に及ぼす作用(第 1 回報告), 福井信立 (中央醫事新報第 1028 號)。

人類黄體の研究, 萩野久作 (北越醫學會雜誌第 38 年第 1 號)。

片側睾丸に壊死性變化を起さしめたる時の他側睾丸の態度, 中村八太郎 (十全會雜誌第 27 卷第 6 號)。

甲状腺機能障礙に於ける血液酸素結合解離曲線, 飯塚直彦 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 11 號)。

甲状腺機能と血圧及脈搏との關係(第 1 報), 錦織末富 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 9 號)。

甲状腺機能と体内各臓器中に於ける「カルチウム」含有量との關係, 内田理一郎 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 11 號)。

甲状腺腫病患者的の甲状腺部に施せる温竝に冷罨法の影響, 空地純一 (日本内科学會雜誌第 10 卷第 8 號)。

バセドウ氏病患者の植物性神経系緊張状態に関する藥效學的及臨牀的觀察特に夫等に及ぼす甲状腺腫大切除の影響, 渡邊信吉 (日新醫學第 12 年第 4 號)。

- 粘液水腫病患者供覽，行徳健助（十全會雜誌第 27 卷第 8 號）。
- 松葉腺腫瘍症の一例，塚本政治（十全會雜誌第 27 卷第 11 號）。
- 肥胖性生殖器不全的營養障礙患者に於ける 内分泌機能の實驗的觀察特に「ヒステイヂーン」の與ふる效果，金井徳二郎（日新醫學第 11 卷第 5 號）。
- 甲狀腺嚢腫，上島誠一郎（日本外科學會雜誌第 24 回第 2 號）。
- 胸腺エツキス線照射の實驗的研究(豫報)，坂田敬之（日本外科學會雜誌第 24 回第 2 號）。
- 母獸内分泌異常の其胎兒に及ぼす影響，浮田友樹，服部峻治郎，楠瀬熊威（小兒科雜誌第 263 號）。
- 「アドレナリン」による動脈硬變に對する二三物質の作用に就て，松岡謙之助（醫學中央雜誌會 20 卷第 4 號）。
- 上皮小體の礦質代謝に對する關係(カルシウム代謝)，小川蕃（南滿醫學會雜誌第 11 卷第 2 號）。
- 副腎皮質と甲狀腺との相互的關係，徳光美福（朝鮮醫學會雜誌第 39 號）。
- 辜丸間細胞の物質代謝に及ぼす影響，螺良四郎（東京醫學會雜誌第 37 卷 3 號）。
- アクロメガリー，吳建（實驗醫報第 101 號）。
- 物質代謝と内分泌との關係に就て，林春雄（近世醫學第 9 卷第 89 號）。
- 生殖腺内分泌と皮膚疾患との關係，中川清（皮膚科及泌尿器科雜誌第 22 卷第 9 號）。
- 「アドレナリン」による動脈硬變に對する二三物質の作用に就て(承前)，松岡謙之助（醫學中央雜誌第 20 卷第 5 號）。
- 副甲狀腺のカルシウム代謝及「テタニー」に對する關係，小川蕃（朝鮮醫學會雜誌第 41 號）。
- 副腎アドレナリン含有量に關する實驗的研究(第 2 回報告)，中樞性糖尿の副腎アドレナリン含有量に及ぼす影響に就て，高橋喜一（北越醫學會雜誌第 38 年第 1 號）。
- 甲狀腺結核に就て，伊藤肇（中外醫事新報第 1027 號）。
- 所謂ゼクレチンの膽汁排出に及ぼす影響，石山福三郎（日本外科學會雜誌第

- 24 回第 2 號）。
- カキ心臟に對するアドレナリンの作用，角田博（大日本生理學會第 2 回例會）。
- クロロフォルム及ウレタンが副腎アドレナリン分泌に及ぼす影響，小玉作治（大日本生理學會第 2 回例會）。
- 副腎アドレナリン分泌と副腎アドレナリン含有量との關係に就きて，小玉作治（大日本生理學會第 2 回例會）。
- エーテル麻酔による犬血糖量及副腎 アドレナリン含有量の變化，藤井猪十郎，高井公民（大日本生理學會第 2 回例會）。
- 「ストリヒニン」の「アドレナリン」感作作用に就て，鴨井楠征（大日本生理學會第 2 回例會）。
- 「ヒスタミン」の血壓作用に及ぼす「アドレナリン」の影響，藤井美知男（大日本生理學會第 2 回例會）。
- 辜丸移植(第 4 報)，中田瑞穂（日本外科學會雜誌第 24 回第 2 號）。
- 白鼠バラビオーゼを應用せる卵巢内分泌の研究，後藤直（日本婦人科學會雜誌第 18 卷第 34 號）。
- 胎盤の類脂肪物質殊に「フォスファーチード」及「ステアリン」の増減，渡邊範介（日本婦人科學會雜誌第 17 卷第 5 號）。
- 辜丸又は同製劑の腦下垂體及辜丸に及ぼす 影響に關する實驗的研究，小出貞次郎（海軍々醫會雜誌第 39 號）。
- 甲狀腺と免疫體との關係，杜陵山人（醫海時報第 1436 號）。
- 腦下垂體腫瘍，加藤義夫（日本之醫界第 12 卷第 24 號）。
- 「アドレナリン」注射後の血液像，清水義介（北越醫學會雜誌第 37 年第 6 號）。
- 「アドレナリン」注射後の血液像殊に血小板數，久保昂（日本之醫界第 12 卷 20, 21, 22 號）。
- 墨汁注入後の生體のアドレナリン反應，原素行（東京醫學會雜誌第 36 卷第 12 號）。
- 乳汁分泌寡少者に對する腦下垂體後葉越幾斯注射例，池上五郎（日本婦人科學會雜誌第 17 卷第 5 號）。

- 胎盤より得たる催乳劑の臨牀的效果(追加報告), 土肥衛, 中島治郎(日本婦人科學會雜誌第 17 卷第 5 號)。
- 各種内分泌腺の子宮收縮に及ぼす影響(第 2 回報告), 甲狀腺及び人胎兒内臓の摘出子宮の收縮に及ぼす影響, 挾間章雄(日本婦人科學會雜誌第 17 卷第 5 號)。
- 胎盤浸出液の毒作用に就て, 石崎仲三郎(日本婦人科學雜誌第 17 卷第 5 號)。
- 「アドレナリン」のアセトン體排泄に及ぼす影響, 田原盛(兒科雜誌第 268 號)。
- バセドー氏病患者に見たる氣管黴毒及黴毒性甲狀腺炎, 鰐淵源(大日本耳鼻咽喉科會々報第 28 卷第 6 號)。
- 嚥下時運動性と甲狀腺腫, 伊藤肇(醫事新誌第 2316 號)。
- 「ゼクレチン」に就て(第一報), 中川知一(大阪醫學會雜誌第 22 卷第 6 號)。
- 甲狀腺滲濾液の作用に就て, 飯島貫一(東京醫學會雜誌第 37 卷第 4 號)。
- 骨格筋疲勞に對する「アドレナリン」の効果(豫報), 廣川讓(北越醫學會雜誌第 37 年第 6 號)。
- 松葉腺機能に關する實驗的研究, 伊澤好爲(岡山醫學會雜誌第 398 號)。
- 松葉腺飼養の海猿の成長及發達に及ぼす影響, 伊澤好爲(岡山醫學會雜誌第 398 號)。
- 鹽化アドレナリンのヂフテリー毒素中和作用, 小出諒(細菌學雜誌第 331 號)。
- 内分泌に就て(生殖不全或は生殖缺損), 林春雄(近世醫學第 9 卷第 12 號)。
- 「アドレナリン」の排泄に關する實驗的研究, 附 黃疸出血性スピロヘータ病患者に於けるアドレナリン腹腔内注入に就ての臨牀的知見, 森田松兵衛(福岡醫科大學雜誌第 16 卷第 1 號)。
- 胎盤ホルモンの催乳作用に關する臨牀的試驗, 齋藤二郎(現代の醫學第 4 卷第 4 號)。
- 甲狀腺機能と筋創治療との關係, 日下部周利(日本內科學會雜誌第 11 卷第 1 號)。
- 甲狀腺機能障礙に因る末梢神經の組織學的變化, 松浦篤實(日本內科學會雜誌第 11 卷第 1 號)。

- 甲狀腺エキスの細菌に對する作用, 熊取成次(中外醫事新報第 1041 號)。
- 合成アドレナリンの三つの光學的異性體が横紋筋疲勞恢復に及ぼす効果の差異, 倉矢徹(中外醫事新報第 1038 號)。
- アドレナリン血糖過多と筋肉糖原との關係に就て, 小原敏雄(日本內科學會雜誌第 11 卷第 2 號)。
- 所謂スタイナー氏手術を行ひたる六十七例の經過, 神保三部(神經學雜誌第 23 卷第 1 號)。
- アドレナリン注射後等壓食鹽溶液其他に因る血糖増加並に高壓に就て, 三藤香吉(醫學中央雜誌第 21 卷第 13 號)。
- 人體に於ける睾丸移植例に就て, 中田瑞穂(東京醫事新報第 2301 號)。
- 胸腺別出實驗成績, 好本節(兒科雜誌第 271 號)。
- アドレナリン注射後等壓食鹽溶液其他に因る血糖増加並に高壓に就て, 三藤香吉(醫學中央雜誌第 21 卷第 14 號)。
- 免疫とホルモンとの關係, (第 2 回報告)凝集素と諸内分泌臓器との關係, 徳光美福(同上)。
- 交感神經と内分泌, 植松七九郎(神經學雜誌第 23 卷第 23 號)。
- 卵巣機能催進劑として注射用「オオホルミン」の治驗に就て, 樋口繁治, 伏島興雄(日本婦人科學會雜誌第 18 卷第 11 號)。
- 免疫體と「ホルモン」との關係, (第 2 回報告), 徳光美福(醫學中央雜誌第 21 卷第 15 號)。
- 甲狀腺機能の鹽類新陳代謝に及ぼす影響, 内田理一郎(日本內科學會雜誌第 11 卷第 1 號)。
- 松葉腺腫瘍, 上原幾久治, 宗武彦(日本內科學會雜誌第 10 卷第 4 號)。
- 各種ワクチン免疫血清及び細菌毒素の副腎内アドレナリン含有量並に其分泌量に及ぼす影響, 徳光美福(朝鮮醫學會雜誌第 43 號)。
- 人の腦下垂體の病理解剖學的組織學的變化, 爲森彌三郎(京都醫學會雜誌第 20 卷第 11 號)。
- 熱線の睾丸に及ぼす作用(熱睾丸)と之が組織學的衛生學的及内分泌學的研究,

- 福井信立 (日新醫學第 12 年第 10 及 11 號)。
- 尿崩症の臨牀的知見補遺, 奥田瑞穂 (長崎醫學會雜誌第 1 卷第 1 號)。
- Insulotoxin 糖尿病の研究(第 1 報), 倉上由一 (長崎醫學會雜誌第 1 卷第 2 號)。
- 女子類宦官症の臨牀的觀察, 鹽澤善市 (千葉醫學會雜誌第 2 卷第 1 號)。
- 腺臟浸出液のアドレナリン過血糖に及ぼす影響に就て, 室橋民衛 (兒科雜誌第 266 號)。
- 痙攣とアドレナリンとの關係に就て, 合屋友五郎 (兒科雜誌會 268 號)。
- 人の腦下垂體の病理解剖學的組織學的變化, 爲森彌三郎 (京都醫學會雜誌第 20 卷第 12 號, 第 21 卷第 1 號)。
- 甲狀腺と溶血素との關係, 澤野哲三 (中外醫事新報第 1018 號)。
- 「インシュリン」三浦謹之助 (實驗醫報第 110 號)。
- 腺臟内分泌に関する研究(續報), 熊谷岱藏, 佐藤基 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 3 號)。
- 甲狀腺機能と免疫體產出との關係に就て(第 1 回報告), 甲狀腺機能とアレキシン產生との關係に就て, 木場武雄 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 5 號)。
- 腺臟機能と免疫體產生との關係に就て(第 2 回報告), 甲狀腺機能と人工免疫との關係に就て, 木場武雄 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 7 號)。
- 甲狀腺機能と胃腸運動との關係に就て, 木場武雄 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 3 號)。
- 甲狀腺試食に因る循環器及腎臟の病理組織學的變化, 松岡謙之助 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 4 號)。
- 諸種毒物に依る「リベミー」特に之に對する甲狀腺物質の影響に就て(第 1 回報告)奥岩吉 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 6 號)。
- 外界氣温の甲狀腺に及ぼす影響に就て, 野坂綱定 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 8 號)。
- 甲狀腺が臟器組織自家融解作用に及ぼす影響に就て, 劉陸一 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 6 號)。
- アドレナリン反應による甲狀腺機能亢進症の診斷に就て, 空地純一 (日本內

- 科學會雜誌第 11 卷第 7 號)。
- 甲狀腺機能不全症, 馬場辰二 (實驗醫報第 108 號)。
- 地方性甲狀腺腫の實驗研究, 清水彦太郎 (臺灣醫學會雜誌第 231 號)。
- 定期性四肢麻痺を併發せるバセドー病患者供覽, 尾河順太郎 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 3 號)。
- ピツイトリン硬膜下注入の腦脊髄に及ぼす影響に就て, 藤野磊三 (中外醫事新報第 1024 號)。
- 副腎切除動物の結核感染試験, 加藤謙一 (結核第 1 卷第 2 號)。
- 生殖腺と血液の酸素結合力(第 2 回報告), 飯塚直彦 (第 21 回日本內科學會總會)。
- 腺臟の内分泌に関する研究(續報), 熊谷岱藏, 鈴木松太郎 (第 21 回日本內科學會總會)。
- 「インシュリン」「アドレナリン」及び「ピツイトリン」の紫外線吸収スペクトルに就て, 鹽谷卓爾 (第 21 回日本內科學會總會)。
- インシュリンによる糖尿病治療の實驗, 岡壽郎 (第 21 回日本內科學會總會)。
- 糖尿病のインシュリン療法に就て, 横田素一郎, 影浦尙視, 岡三友 (第 21 回日本內科學會總會)。
- インスリンの臨牀的實驗に就て, 楠五郎雄 (第 21 回日本內科學會總會)。
- 糖尿病患者に對する「インスリン」の效果に就て, 中西壽太, 黒澤豊 (第 21 回日本內科學會總會)。
- 定期性四肢麻痺症に對する「インスリン」の效果に就て, 辻寛治 (第 21 回日本內科學會總會)。
- 「インスリン」の血糖降下作用機轉に就ての實驗的研究(第 1 回報告), 永末修 (第 21 回日本內科學會總會)。
- 「インスリン」に関する實驗的知見補遺(第 1 回報告), 北村邦太郎 (第 21 回日本內科學會總會)。
- 肝臟を損傷せる家兎の血糖量に及ぼす「インスリン」の作用に就て, 大森精一 (第 21 回日本內科學會總會)。

- 腺腫ホルモンと「アドレナリン」との拮抗作用に就て, 小原敏雄 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 「アドレナリン」と「インスリン」が血糖及び脂肪量に及ぼす影響比較, 田近稔 (第 21 回日本内科学會總會)。
- きさんと一むの過脂肪血に對するインスリンの作用, 黒川利雄 (第 21 回日本内科学會總會)。
- アドレナリンの反復注射による機能變化に就て, 久島環 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 内分泌腺殊に甲状腺腦下垂體及副腎の血糖量に及ぼす相互關係に就て, 若林麟之助 (第 21 回日本内科学會總會)。
- アドレナリン及ピロカルピン注射の脊髄癆患者筋緊張に及ぼす影響に就て, 前野哲夫 (第 21 回日本内科学會總會)。
- アドレナリン及ピロカルピンの筋の電氣的興奮性に及ぼす影響に就て, 辻守昌 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 甲状腺機能と肝臟並に筋肉内含グリコーゲン及びクレアチン, クレアチニン量の消長, 劉陸一 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 甲状腺機能と實驗的胃潰瘍との關係, 錦織末富 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 二三毒物による組織脂肪浸潤に對する甲状腺機能の影響に就て, 奥岩吉 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 甲状腺内に於ける動物吻合の有無に就て, 執行作彌 (福岡醫學大學雜誌第 16 卷第 2 號)。
- 甲状腺異常筋の本態に就て, 執行作彌 (東京醫事新誌第 2358 號)。
- 副甲状腺機能研究(第 1 回報告), 赤松純一 (大日本耳鼻咽喉科會々報第 28 卷第 6 號)。
- 上皮小體異所的發見標本供覽, 執行作彌 (大日本耳鼻咽喉科會々報第 28 卷第 6 號)。
- 類宦官症の二例, 土肥章司 (皮膚科及泌尿器科雜誌第 23 卷第 8 號)。
- 甲状腺が肝臟及腎臟の色素排泄機能に及ぼす影響, 日下部周利 (第 21 回日本内

- 科学會總會)。
- 高度の筋無力症を伴へる中毒性甲状腺腫に就て, 細貝伸一 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 外界氣温及び食物が「ラツテ」副腎に及ぼす影響に就て, 野坂綱定 (同上)。
- 沃度新陳代謝に及ぼす副腎の影響に就て, 空地純一 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 腦下垂體の病理及生理に關する實驗的研究, 齋藤權左衛門, 阪本輯 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 尿崩症に關する二三の實驗, 藤井尙久 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 筋無力症特に二三臟器製劑の效果に就て, 龜井晰 (第 21 回日本内科学會總會)。
- 副腎の外科, 原勇三 (實驗醫報第 109 號)。
- 辜丸移植の臨床的並に實驗的研究, 石山福二郎 (醫事新聞第 1102 號)。
- アドレナリン及ピロカルピン注射に因る神經節細胞の變化並にこれによりて鑑別せる臟器内神經細胞の配屬に就て, 高楠了超 (京都醫學雜誌第 21 卷第 1 號)。
- 胎盤毒に關する研究(其二), 胎盤毒の本態に就て, 石崎伸三郎 (慶應醫學第 2 卷第 12 號)。
- 胎盤毒に關する研究(其三), 胎盤毒の本態の毒作用に就て, 石崎伸三郎 (慶應醫學第 2 卷第 12 號)。
- インシュリンによる糖尿病治療豫報, 岡壽郎 (日本内科学會雜誌第 11 卷第 8 號)。
- 實驗的糖尿犬に於ける腺腫エツキスの血糖に及ぼす影響に就て, 佐藤基 (日本内科学會雜誌第 11 卷第 9, 10 號)。
- 糖尿病者の糖尿排泄に關する統計的研究, 松下憲發, 滑川覺造 (日本内科学會雜誌第 11 卷第 11 號)。
- 甲状腺機能と過敏症との關係に就て, 木場武雄 (日本内科学會雜誌第 11 卷第 11 號)。
- 甲状腺機能と各臟器組織内含窒素物との關係に就て, 劉陸一 (日本内科学會雜誌第 11 卷第 9, 10 號)。
- 内分泌に就て臟器療法, 林春雄 (近世醫學第 9 卷第 11 號)。

バセドウ氏病の原因及治療に關する實驗的竝に臨床的研究, 辻寛治 (治療藥報第 220 號)。

バセドウ氏病の初期診斷, 五斗欽吾 (實驗醫報第 113 號)。

インスリン知見綜攷, 伊藤正義 (日新醫學第 12 年第 12 號)。

糖尿病の膵臓ホルモン(インスリン)療法, 戸谷銀三郎, 原猪吉 (東洋醫學雜誌第 1 卷第 3 號)。

インスリンに就て, 小澤修造, 楠三智夫 (治療及處方第 43 號)。

アヂソン氏病の一例, 宮尾眞吉 (皮膚科及泌尿器科學雜誌第 23 卷第 9, 10 號)。

腦下垂體結核, 江口勝四郎 (第 14 回日本病理學會)。

腦下垂體の前葉に於ける特殊核封入體, 照山昇 (第 14 回日本病理學會)。

胸腺網狀組織, 首藤守彦 (第 14 回日本病理學會)。

脾臓剔出後に於ける胸腺の變化, 坂本修 (第 14 回日本病理學會)。

甲狀腺膠樣質内に於ける空胞形成に就て, 岡室徳之助 (第 14 回日本病理學會)。

内分泌病理に關する研究追加(第七)殊に甲狀腺の間質に注意す, 中村八太郎 (第 14 回日本病理學會)。

ゼルトリー氏細胞に就て, 土屋直義 (第 14 回日本病理學會)。

睾丸の内分泌に關する實驗的研究, 藤田宗一 (第 14 回日本病理學會)。

異性生殖腺乳劑皮下注射による内分泌臓器殊に生殖腺の變化に就て, 馬淵享三郎 (第 14 回日本病理學會)。

人胎盤注射による人工黃體の發生に就て, 足立貫一 (第 14 回日本病理學會)。

體外組織培養より見たる各臓器相互の機能的觀察(第 2 回報告)主として内分泌臓器に就て, 石橋松藏, 高島克己 (第 14 回日本病理學會)。

インスリンがビタミン B 缺乏症に及ぼす影響, 郷隆 (第 14 回日本病理學會)。

バセドウ氏病のレントゲン放射治療, 藤浪剛一 (實驗醫報第 113 號)。

バセドウ氏病に於ける心臟のレントゲンの觀察, 山崎温 (千葉醫學會雜誌第 2 卷第 2 號)。

胎盤より得たる催乳劑の臨床的效果, 土肥衛 (治療藥報第 223 號)。

胎盤毒に關する研究補遺, 大川恭徳 (成醫會雜誌第 468 號)。

インシュリンと内分泌腺竝に妊婦との關係, 工藤得安, 秋葉隆 (北越醫學會雜誌第 255 號)。

婦人科領域に於ける臓器療法に就て, 木下正中 (治療及處方第 40 號)。

(以上, 醫學中央雜誌第 21 卷所載)。

生殖腺と血液酸素結合力, 飯塚直彦 (醫學中央雜誌第 22 卷第 1 號)。

糖尿病と「インシュリン」松尾巖 (實驗醫報第 112 號)。

「インシュリン」の生理作用 永井潛 (藝備醫事第 320 號)(實驗醫報第 113 號)。

「インシュリン」に就て, 稻田龍吉 (實驗醫報第 113 號第 114 號)。

副腎の内分泌と其醫療的應用, 福島東作 (治療新報第 384 號)。

甲狀腺機能と血壓及脈搏との關係(第 2 報), 錦織末富 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 12 號)。

甲狀腺乾粉試食に依る家兎腎臓の組織學的變化に就て, 松岡謙之助 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 4 號)。

甲狀腺乾粉試食に因る家兎心臟の組織學的變化に就て, 松岡謙之助 (日本內科學會雜誌第 11 卷第 4 號)。

バセドウ氏病甲狀腺内分泌成分に對する臨床的觀察, 小川蕃, 松岡正男 (日本外科學會雜誌第 10, 11 號)。

バセドウ氏病に就て, 福島東作 (治療及處方第 46 號)。

黴毒とバセドウ氏病, 鹽谷卓爾 (實驗醫報第 114 號)。

乳汁及乳腺の女性生殖器に及ぼす影響に關する實驗的研究 附脾副腎甲狀腺腦下垂體の變化, 吉川仲 (日本婦人科學會雜誌第 19 卷第 1, 2 號)。

月經催進劑「アゴメンジン, チバ」の効果に就て, 矢田城太郎 (日本外科學會雜誌第 19 卷第 2 號)。

卵巣及甲狀腺の「アドレナリン」作用に及ぼす影響, 原正平 (日本婦人科學會雜誌第 9 卷第 5 號)。

兩側卵巣除去後の子宮變化と臓器製劑との關係に就て(第 2 報), 前原俊夫 (日本婦人科學會雜誌第 19 卷第 5 號)。

人胎盤注射による人工黃體發生に就て, 足立貫一 (日本婦人科學會雜誌第 19 卷

- 第 5 號)。
- 卵巢の脾移植, 久慈直太郎 (日本婦人科學會雜誌第 19 卷第 5 號)。
- 胎盤の藥物學的研究, 小榮次郎 (日本婦人科學會雜誌第 19 卷第 5 號)。
- 白鼠卵巢間質腺とラヂウム放射線, 竹村賢一郎 (日本婦人科學會雜誌第 19 卷第 5 號)。
- 甲狀腺の病理解剖的方面, 福士政一 (第 14 回日本病理學會)。
- 甲狀腺の臨床的及化學的方面, 福島東作 (第 14 回日本病理學會)。
- 甲狀腺製劑飼養が可移植性動物腫瘍の發育に及ぼす影響, 本田蘭 (第 14 回病理學會)。
- 腦下垂體癌腫の一例, 高泉正暉 (癌第 17 年第 3 冊)。
- 内分泌腺摘出の骨癒合に及ぼす影響, 村上謙次郎 (日新醫學第 13 年 6 號)。
- 胸腺癌毒に就て, 藤井靜雄 (日本醫學專門學校雜誌第 1 卷第 1 號)。
- 胸腺に於ける一種の網狀組織に就て, 首藤守彦 (大阪醫學會雜誌第 23 卷第 5 號)。
- 生殖腺と體質との關係に就て, 富田朋介 (大阪醫學會雜誌第 23 卷第 2, 3, 4 號)。
- 睾丸移植家兎の卵巢の變化に就て, 福山良三 (京都府立醫科大學雜誌第 95 號)。
- 實驗的輸精管結紮切斷後に於ける 睾丸の組織學的研究, 大久保一雄 (福岡醫科大學雜誌第 17 卷第 3 號)。
- 諸種細菌體及び其毒素に因る 妊娠時卵巢及子宮の形態學的研究(第 1 報), 第一墨汁注入による變化, 太田鑒吉 (日本微生物學會雜誌第 18 卷第 3 號)。
- 「ビタミン」と胸腺との關係に就て, 首藤守彦 (大阪醫學會雜誌第 23 卷第 1 號)。
- 臟器毒による生殖腺の變化に就て, 福山良三 (京都府立醫科大學雜誌第 96 號)。
- 人の腦下垂體肥大及萎縮に就て, 昭山昇 (京都醫學會雜誌第 21 卷第 3 號)。
- 所謂セクレチンの本態に就て, 服卷勝見 (福岡醫科大學雜誌第 17 卷第 3 號)。
- 臟器製劑の摘出蛙心臟に對する作用に就て, 永瀬正太 (京都醫學會雜誌第 21 卷第 3 號)。
- 副腎結紮家兎に於ける「ヒスタミン」血壓作用に就て, 藤井美知男 (南滿醫學

- 會雜誌第 12 卷第 7 號)。
- 開腹手術後に併發するメテオリズムスに腦下垂體越幾斯の應用, 原正平 (東洋醫學雜誌第 13 卷第 3 號)。
- 甲狀腺の形態に就て, 執行作彌 (大日本耳鼻咽喉科會々報第 29 卷第 1 號)。
- 甲狀腺動脈に就て, 執行作彌 (大日本耳鼻咽喉科會々報第 29 卷第 1 號)。
- 臟器越幾斯の血液凝固促進作用, 太田原清喜 (長崎醫學會雜誌第 2 卷第 1 號)。
- バセドウ氏病患者手術後に於ける症狀と植物神經系統緊張度の關係, 小川蕃, 松岡正男 (學會)。
- 「インスリン」に依る血液像, 奥村隆俊, 光村利一 (愛知醫學會雜誌第 31 卷第 4 號)。
- 「サルバルサン」及 2, 3 過血糖惹起性藥劑のアドレナリン分泌及副腎内含有量に及ぼす影響に就て, 片岡八束 (朝鮮醫學會雜誌第 46 號)。
- 尿崩症に關する 2, 3 の實驗, 黒瀬巖 (岡山醫學會雜誌第 409 號)。
- 「インスロトキシ」糖尿病の研究(第 2 報), 倉上由一 (長崎醫學會雜誌第 2 卷第 1 號)。
- 血液の糖分及殘餘窒素含量に及ぼす甲狀腺の影響, 附甲狀腺と 2, 3 の内分泌腺との相互關係, 岡田實秋 (長崎醫學會雜誌第 2 卷第 3 號)。
- 甲狀腺腫手術前後の氣管の變化に就て「エツキス」線學的研究 向井又吉 (醫學中央雜誌第 2 卷第 6 號)。
- 甲狀腺製劑の神經に及ぼす作用, 神山源治, 中島角次郎 (愛知醫學會雜誌第 31 卷第 4 號)。
- 最新ホルモン學說, 越智眞逸 (現代の醫學第 5 卷第 1, 2, 3, 4, 5 號)。
- 副甲狀腺剔出「テタニー」の本態に就て, 小川清次 (東京醫學會雜誌第 38 卷第 8 號)。
- バセドウ氏病患者血液アドレナリン含有量に對する 甲狀腺摘出の影響, 並に諸型バセドウ氏病 甲狀腺壓搾浸出液が家兎副腎 アドレナリン分泌に及ぼす影響, 小川蕃 (日本外科學會雜誌第 25 回第 2 號)。
- 胸腺 X 線照射の實驗的研究, 坂田敬之 (日本外科學會雜誌第 25 回第 2 號)。

- 「アドレナリン」の蜘蛛膜下腔内注入が血糖に及ぼす影響に就て，中島誠一（中外醫事新報第 1042 號）。
- 甲状腺及上皮小體別出と化骨作用，淺田爲義（日本外科學會雜誌第 25 回第 2 號）。
- 上皮小體が副腎 アドレナリン分泌に及ぼす影響，小川蕃（日本外科學會雜誌第 25 回第 2 號）。
- 上皮小體甲状腺が骨及假骨内カルチウム含有量に及ぼす影響に就て，小川蕃（日本外科學會雜誌第 25 回第 2 號）。
- 胸腺淋巴性體質，戸川篤次（日本醫事週報第 1442 號）。
- 睾丸間細胞のヒストゲネーゼに就て，大久保一雄（皮膚科及泌尿器科雜誌第 23 卷第 6 號）。
- 糖尿病と「インシュリン」，倉上由一（治療及處方第 47 號）。
- 「インシュリン」注射が腦脊髄液糖量に及ぼす影響に就て，笠原道夫，上谷榮吉（中外醫事新報第 1050 號）。
- 「インシュリン」の蜘蛛網膜下腔内注射が血糖尿に及ぼす影響，大國二郎（中外醫事新報第 1053 號）。
- 「インスリン」及糖尿病患者に於ける治療效果に就て，井上猛夫（治療及處方第 4748 號）。
- 内分泌に就て，林春雄（近世醫學第 10 卷第 3, 6, 7, 8 號）。
- 内分泌腺エツキスの胃機能に及ぼす影響に就て(其一)，腦下垂體エツキスが胃液分泌及胃内容排出に及ぼす影響，柴田彌三郎（日本内科學會雜誌第 12 卷第 1 號）。
- 2,3 毒物による組織の脂肪浸潤に對する甲状腺機能の影響に就て，奥岩吉（日本内科學會雜誌第 12 卷第 1 號）。
- 甲状腺製劑の胃液分泌に及ぼす影響，杉村一郎（十全會雜誌第 29 卷第 8 號）。
- アデイソン氏病患者供覽，尾河順太郎（日本内科學會雜誌第 12 卷第 1 號）。
- 免疫體と「ホルモン」との関係(第 2 回報告)，凝集素と諸内分泌臓器との関係，徳光美福（朝鮮醫學會雜誌第 47 號）。

- 甲状腺の抗体産出に及ぼす影響に就て，操坦道（福岡醫科大學雜誌第 16 卷第 5, 6 號）。
- 結核感染とランゲルハンス氏島，松崎香住(結核，第 2 卷第 2 號) 副腎機能と結核感染副腎切除感染に及ぼす影響，副腎實質注射の結核感染に及ぼす影響，加藤謙一（結核，第 2 卷第 2 號）。
- 上皮小體摘出が骨折治癒竝に骨内カルチウム含有量に及ぼす影響に就て，小川蕃（朝鮮醫學會雜誌第 47 號）。
- 上皮小體と副腎の相互作用に就て，小川蕃（朝鮮醫學會雜誌第 47 號）。
- 「アドレナリン」皮下注射による植物神経系検査に就て，豊田實（海軍々醫會雜誌第 41, 42 號）。
- 甲状腺劑の尿量及食鹽排泄量に及ぼす影響に就て，池田東洋（臨牀第 1 卷第 4 號）。
- 「ワゴトニー」を伴へる發育不全症特に甲状腺劑の効果に就て，錦織末富（臨牀第 1 卷第 5 號）。
- 睾丸内分泌と脂肪との關係を論ず，牧野武喜（岡山醫學會雜誌第 412 號）。
- バセドウ氏病と女性生殖腺との關係に就きて興味ある一實驗例，松本薫（日本婦人科學會雜誌第 19 卷第 7 號）。
- 甲状腺竝に卵巢の含水炭素代謝に及ぼす影響に就て，篠田糺（日本婦人科學會雜誌第 19 卷第 9 號）。
- 甲状腺及副甲状腺摘出後の齒牙發育の變化，生田信保（朝鮮醫學會雜誌第 46 號）。
- 上皮小體別出後の齒牙の變化，生田信保（朝鮮醫學會雜誌第 44 號）。
- 甲状腺の形態に關する研究，附上皮小體(傍甲状腺)の形態，執行作彌（福岡醫學大學雜誌第 17 卷第 89 號）。
- 睾丸巨大細胞，平光吾一，椎名順一（北海道醫學會雜誌第 2 年第 1 號）。
- 宦官の研究(第 1 回報告)，小川蕃，朴昌薫（朝鮮醫學會雜誌第 48 號）。
- 雄蛙の第 2 次性徴に關する一新知見，朴澤進，中臺元治（朝鮮醫學會雜誌第 49 號）。
- 「アドレナリン」及「ピロカルピン」注射に因る神経節細胞の變化，高楠了超

- (日新醫學第 14 年第 1 號)。
- 睪丸内分泌に関する實驗的研究, 藤田宗一 (實驗醫學雜誌第 8 卷第 6 號)。
- 實驗的ビタミンA缺乏症に於ける臟器變化, 片岡八束 (朝鮮醫學會雜誌第 48 號)。
- 内分泌臟器相互の機能的關係, 石橋松藏, 高島克巳 (千葉醫學會雜誌第 2 卷第 1 號)。
- 「アドレナリン」作用を増強せしむる甲状腺劑成分に就て, 久保昂 (慶應醫學第 4 卷第 5 號)。
- 諸臟器浸出液及び諸臟器製劑竝に浸漏浸出液及び血清等の含蛋白質液のアドレナリン作用に及ぼす影響, 久保昂 (慶應醫學第 4 卷第 6 號)。
- 内分泌腺の萎縮に関する研究, 第一, 所謂, 多胸腺性内分泌機能不全症に就て, 新井寛治 (東北醫學雜誌第 7 卷第 4, 5 冊)。
- 「アドレナリン」の血色素還元性, 立花次郎 (千葉醫學會雜誌第 2 卷第 1 號)。
- 「インスリン」に就て, 古谷登 (臨牀第 1 卷第 3 號)。
- 糖尿病療法としての「インスリン」價值に就て, 若林麟之助 (臨牀第 1 卷第 4 號)。
- 「インシュリン」の檢定法に就て 秦佐八郎, 西村正治 (細菌學雜誌第 339, 340 號)。
- 「インシュリン」療法に就て, 佐谷有吉 (皮膚科及泌尿科雜誌第 24 卷第 6 號)。
- 「インシュリン」による糖尿病治療豫報, 岡壽郎 (近世醫學第 11 卷第 2, 3 號)。
- 「インシュリン」にて治療せる糖尿病患者の一例, 内藤誠一, 呂日新 (臺灣醫學會雜誌第 232 號)。
- 「インシュリン」注射の血液成分に及ぼす影響に就て(第 2 報), 血液水分の變化, 石本義太郎 (北越醫學會雜誌第 39 年第 3 號)。
- 「インシュリン」注射の血液成分に及ぼす影響に就て(第 1 報), 血清蛋白殘餘窒素及び血清リポイド附血糖の變化, 櫻井虎雄, 古谷淳, 井上清文 (北越醫學會雜誌第 39 年第 3 號)。
- 2, 3 ホルモン製劑の血管作用, 吳元錫 (滿鮮の醫界第 43 號)。
- 「インシュリン」の二三血液成分に及ぼす影響に就て(續報), 古谷淳, 櫻井虎雄

- (北越醫學會雜誌第 39 年第 4 號)。
- 「インシュリン」應用範圍に就て, 神品芳盛 (臨牀醫學第 3 年第 3 號)。
- 「インシュリン」の内分泌腺竝に妊娠との關係に就ての實驗的研究 秋葉隆, 工藤得安 (北越醫學會雜誌第 39 年第 3 號)。
- 「インシュリン」注射による血糖量及腦脊髄液糖量降下の相互的關係(續報), 上谷榮吉 (中外醫事新報第 1060 號)。
- 「インシュリン」注射が腦脊髄液眼房水竝に血液含糖量に及ぼす影響, 井上浩 (北越醫學會雜誌第 39 年第 3 號)。
- 定期性四肢麻痺症に對する「インシュリン」の效果に就て, 辻寛治 (臨牀第 1 卷第 6 號)。
- 副交感神經毒の血糖に及ぼす影響に就て(第 3 回報告), 「アドレナリン」並びに「インシュリン」との關係, 櫻井虎雄 (北越醫學會雜誌第 39 年第 4 號)。
- 高度の筋無力症を伴へる中毒性甲状腺腫, 空地純一 (日本內科學會雜誌第 12 卷第 4 號)。
- 甲状腺別出家兔に於ける血色素生成に及ぼす「トリプトファン」輸入の影響, 平澤清藏, 大谷善明 (日本內科學雜誌第 10 卷第 11 號)。
- 甲状腺變調性兒態症, 螺良四郎 (日本內科學雜誌第 10 卷第 10 號)。
- 甲状腺アドレナリン混合飼育に於ける蛙蝌蚪の變化, 蓮見喜一郎 (千葉醫學會雜誌第 2 卷第 5 號)。
- 「アドレナリン」の呼吸運動に對する作用, 久野寧 (南滿醫學堂雜誌第 12 卷第 8 號)。
- 「インシュリン」に就て, 永山武美 (日本醫事週報第 1498 號)。
- 副甲状腺別出テタニーの本態に就て, 小川清次 (東京醫學會雜誌第 38 卷第 10 號)
- 内分泌腺越幾斯の胃機能に及ぼす影響に就て, 柴田彌三郎 (京都醫學會雜誌第 21 卷第 8 號)。
- 内分泌腺越幾斯が胃機能に及ぼす影響に就て(其 3), 胸腺, 睪丸及卵巢越幾斯が胃液分泌内容排出に及ぼす作用, 柴田彌三郎 (京都醫學會雜誌第 21 卷第 8 號)。

- 諸種毒物に據るリベミー特に之に對する甲狀腺物質の影響に就て(第2回報告), 奥岩吉(日本内科學會第12卷第5號)。
- 沃度新陳代謝に及ぼす甲狀腺並に副腎の影響, 空地純一(中外醫事新報第1063, 1064號)。
- 甲狀腺機能と肝臟並に筋肉組織内含グリコゲン, クレアチン, クレアチニン, 量の消長, 劉陸一(日本内科學雜誌第12卷第6號)。
- 甲狀腺が肝臟及腎臟の色素排泄機能に及ぼす影響, 日下部周利(中外醫事新報第1062號)。
- 副腎に及ぼす諸種影響に關する實驗的研究(第1報), 外界氣温の副腎に及ぼす影響に就て, 野坂綱定(日本内科學會雜誌第12卷第5號)。
- 糖尿病患者血液脂肪量並に尿中アセトン體に及ぼすインシュリン治療例, 樋口隆藏, 田近稔(近世醫學第11卷第8號)。
- 月經催進劑「アゴメジン, チバ」の効果, 矢田城太郎(實驗治療第37號)。
- 「グイスダリン」にて妊娠, 中塚修二(日新治療第87號)。
- 「ラクチフェリン」使用の成績一例, 岡崎繁信(治療藥報第226號)。
- 「ラクチフェリン」使用報告, 富田惠之(治療藥報第226號)。
- 「インシュリン」と内分泌腺並に妊娠との關係に就ての實驗的研究(第2回報告の2), 秋葉隆(東京醫事新誌第2380, 2381號)。
- 異性生殖腺乳劑皮下注射に因る内分泌臟器, 就中生殖腺に及ぼす變化の組織學的研究, 馬淵享三郎(日本婦人科學會雜誌第19卷第5, 6號)。
- 「アドレナリン」の人工合成品「ボスミン」の臨牀的價値に就て, 大原八郎(近世醫學第11卷第7號)。
- 日本人に於ける單純性並に中毒性甲狀腫の化學的研究(第1報), 1, 甲狀腺腫の蛋白に關する研究(其1), 總窒素蛋白及水分含有量に就て並に該含有量と甲狀腺腫組織像との關係, 加藤守吉(日本外科學會雜誌第25回第8號)。
- 「アドレナリン」製劑の效力比較研究, 藤井富夫(愛知醫學會雜誌第31卷第6號)。

- 「インシュリン」の話, 秦佐八郎(日本醫事週報第1460號, 第1470號)。
- 糖尿病の統計的觀察, 村山富治, 山口尙文(日本内科學會雜誌第12卷第7號)。
- 糖尿病の治療法特に「インシュリン」療法, 影山尙視(東京醫事新誌第2377, 2379號)。
- 甲狀腺腫, 辻寛治(日本醫事週報第1478號)。
- 沃度と甲狀腺腫, 神品芹盛(臨牀醫學第12年第5號)。
- 睾丸内分泌と脂肪との關係, 牧野武喜(治療藥報第230號)。
- 側副甲狀腺腫の二例, 河石九二夫(愛知醫學第23卷第5號)。
- 生殖腺の脂肪代謝(第1報), 伊藤斯郎(皮膚科紀要第4卷第2號)。
- 甲狀腺結核に就て, 大坪豊(醫事新聞第1150號)。
- 「インシュリン」と内分泌腺並に妊娠との關係に就ての實驗的研究(第1報告), 秋葉隆(東京醫事新誌第2360, 2361號)。
- 甲狀腺と體温調節との關係, 岡田實秋(大日本生理學會第3回例會)。
- 膵臟ホルモンの肝臟造糖原作用に對する作用, 佐藤基(大日本生理學會第3回例會)。
- 膵臟ホルモンによる血糖降下と肝臟グリコゲン生成との關係に就て(健康家兔に於ける實驗), 黒川利雄(大日本生理學會第3回例會)。
- 蛋白質及び其分解産物のアドレナリン作用に及ぼす影響, 久保昂(慶應醫學第4卷第10號)。
- サルヴアルサン及び二三過血糖惹起性藥劑のアドレナリン分泌及び副腎内含量に及ぼす影響, 片岡八束(中外醫事新報第1065, 1066, 1067, 1068號)。
- 腦下垂體製劑ゲウドリンの雌性生殖器並に摘出腸管に對する作用, 小笠原清(實驗治療第42號)。
- 卵巢黃體を發生せしむる胎盤X物質, 廣瀬豊一, 照内潤亮(日本婦人科學會雜誌第18卷第5號)。
- 類宦官症の二例, 土肥章司(十全會雜誌第23卷第8號)。
- アドレナリンエーテル及ピロカルピンが家兔消化液の糖排泄に及ぼす影響, 平山宗造(大日本生理學會第3回例會)。

- ニコチンが副腎 アドレナリンに及ぼす影響, 菅原正 (大日本生理學會第 3 回例會)。
- ストリキニーネが副腎アドレナリン排出量に及ぼす影響, 渡邊政之助 (大日本生理學會第 3 回例會)。
- コフェイン屬藥物の副腎アドレナリン排出量, 渡邊政之助 (大日本生理學會第 3 回例會)。
- アドレナリンが家兎血液凝固時間に及ぼす影響, 平山宗造 (大日本生理學會第 3 回例會)。
- 臓器越幾斯の毒性に関する研究(第 1 回報告), 吉村良一 (京都醫學會雜誌第 20 卷第 1 號)。
- 家兎副腎あどれなりん量に就て, 今村美多 (慶應醫學第 4 卷第 9 號)。
- 甦生臓器に對するアドレナリンの作用, 久保昂 (東京醫事新誌第 2390 號)。
- 副腎皮質に関する實驗的研究特に特殊餌食に因する副腎の變化に就て, 森茂樹 (日本微生物學會雜誌第 17 卷第 2 號)。
- 睾丸中間細胞に就て, 木村嘉一 (京都府立醫科大學雜誌第 94 號)。
- 人胎盤注射による人工的黃體の發生に就て, 足立貫一 (大阪醫學會雜誌第 23 卷第 89 號)。
- 睾丸移植家兎の卵巢の變化に就て, 福山良三 (京都府立醫科大學雜誌第 95 號)。
- 上皮小體摘出後に於ける甲狀腺の變化に就て, 三輪太郎 (朝鮮醫學雜誌第 49 號)。
- バセドウ氏病に於ける臓器製劑の影響に就て, 空地純一 (臨牀第 1 卷第 9, 10 號)。
- 筋無力症の二例特に甲狀腺及副腎製劑の効果に就て, 劉陸一 (臨牀第 2 卷第 1 號)。
- 甲狀腺疾患に於ける血小板變化に就て, 錦織末富 (臨牀第 2 卷第 1 號)。
- 各種内分泌の血糖量に及ぼす影響殊に其相互關係に就て, 若林麟之助 (日本內科學雜誌第 12 卷第 9 號)。
- 肝臓竝に筋肉内糖原質含有量に及ぼす「インスリン」及甲狀腺の影響に就て,

- 劉陸一 (日本內科學雜誌第 12 卷第 7 號)。
- 糖尿に就て, 郭秀夫 (日新治療第 73 號)。
- 糖尿病の治療法に就て, 影浦尙視 (長崎醫學會雜誌第 2 卷第 2 號)。
- 糖尿病新治療劑インスリンに就て, 田村憲造 (日本醫事新報第 88 號)。
- 「インシュリン」殊に其中毒症に就て, 岸松郷 (臨牀醫學第 12 年第 5, 7 號)。
- 糖尿病のインシュリン療法に関する經驗, 河野豊 (岡山醫學會雜誌第 421 號)。
- アヂソン氏病患者供覽, 長谷川龜之助 (臨牀醫學第 12 年第 7 號)。
- 甲狀腺副甲狀腺剔出後の犬に就ての血清化學的研究, 關根歡太郎 (東京醫學會雜誌第 37 卷第 11 號)。
- バセドウ氏病に於ける「ヒペルアドレナリンネミー」, 小川蕃, 松岡正男 (朝鮮醫學會雜誌第 41 號)。
- 「インスリン」應用による糖尿病性白内障手術の一例, 向後新次 (眼科臨牀醫報第 19 年第 9 號)。
- 「アドレナリン」及「インスリン」注射時の家兎胎兎の血液含糖量竝に同肝臓「グリコゲン」量, 堀田四郎 (東京醫學會雜誌第 38 卷第 11 號)。
- 乳汁及乳腺の女性生殖器に及ぼす影響に関する實驗的研究, 吉川仲 (日本婦人科學會雜誌第 18 卷第 5 號)。
- 胎盤の催乳作用に就て, 谷口彌三郎, 青木道治, 上野繁 (日本婦人科學會雜誌第 18 卷第 6 號)。
- 卵巢切除後に於ける子宮と臓器製劑との關係, 前原俊男 (日本婦人科學會雜誌第 18 卷第 5 號)。
- 「レチテーン」に依る臓器特に雌性生殖器の變化に就て, 中本完二 (京都府立醫科大學雜誌第 94 號)。
- 甲狀腺「ホルモン」の研究殊に甲狀腺靜脈血の「ホルモン」, 徳永美福 (中外醫事新報第 1061, 1062 號)。
- 「アドレナリン」及び「インシュリン」による血液内糖量と脂肪量との相對的關係, 樋口隆藏, 口邊稔 (中外醫事新報第 1061 號)。
- 「インシュリン」の皮間注射が血糖量に及ぼす影響, 上谷榮吉 (中外醫事新報第

- 1061 號)。
 「ネオサルバルサン」注射後血液中「アドレナリン」様物質の消長，大久保一雄
 (中外醫事新報第 1065 號)。
 腺臓の内分泌に関する研究，熊谷信藏，鈴木松太郎 (日本内科学會雜誌第 12 卷
 第 9 號)。
 赤血球の沈下反應竝に其原因的研究 (第 3 報告)，卵巢竝に其製劑が家兎の赤
 血球沈下速度に及ぼす影響，小笠原清 (近畿婦人科学會雜誌第 6 卷第 4
 號)。
 胎盤浸出液の臨床的實驗 (第 2 回報告)，平田勇吉 (北海道醫學雜誌第 1 年第 1
 號)。
 分娩後に於ける乳汁分泌作用私見，平田勇吉 (北海道醫學會雜誌第 1 年第 2 號)。
 卵巢黃體發生に関する一新實驗，西塚泰順 (近畿婦人科学會雜誌第 6 卷第 4 號)。
 交感神経系に作用する藥物殊に「アドレナリン」及「コカイン」の尿分泌に及ぼ
 す影響，濱田健男 (皮膚科及泌尿器科雜誌第 24 卷第 9 號)。
 甲状腺飼育の蠶に及ぼす影響に就て，寺尾新，若林直喜 (日本之醫界第 14 卷
 第 13 號)。
 甲状腺劑試食による中枢神経の變化に就て，巨繁 (神經學雜誌第 24 卷第 2 號)。
 甲状腺と實驗的胃潰瘍 (又は糜爛) との関係に就て，錦織末富 (日本内科学會雜
 誌第 12 卷第 8 號)。
 「ピツイトリン」の腺臓分泌に及ぼす影響に就て，小野純一 (中外醫事新報第
 1070, 1071 號)。
 甲状腺の移植に関する實驗的研究，木村辰三 (日本外科實験第 1 卷第 1 號)。
 諸型バセドウ氏病患者血液「アドレナリン」含有量竝に之に對する甲状腺切
 除術の影響，小川蕃 (朝鮮醫學會雜誌第 47 號)。
 腦下垂體製劑「ドウドリン」の雌性生殖器竝に摘出腸管に對する作用，特に「ピ
 ツイトリン」との效力比較，小笠原清 (近畿婦人科学會雜誌第 7 卷第 1 號)。
 「レチチン」注射による卵巢竝に子宮の變化，中本完二 (近畿婦人科学會雜誌第
 7 卷第 1 號)。

- 結核「モルモット」に於ける副腎の變化に就て，清川涉 (醫學中央雜誌第 22 卷
 第 23 號)。
 肝靜脈，門脈，及，耳靜脈に於ける血糖量に及ぼす「インシュリン」の影響に
 就て，千賀春吉 (同上)。
 副腎分泌を主宰する交感神経，今村美多 (慶應醫學第 4 卷第 12 號)。
 諸種の藥劑の「アドレナリン」含有量に及ぼす影響，今村美多 (慶應醫學第 4 卷
 第 12 號)。
 部分的營養障礙に因る臓器の變化に就て，林良材 (京都醫學雜誌第 24 卷第 11
 號)。
 「インシュリン」，「アドレナリン」及，甲状腺エツキス」の別出腸管運動に對
 する作用に就て，木場武雄 (中外醫事新報第 1069 號)。
 「アルコール」に因る卵巢及子宮の變化 (靜脈内注射による實驗的研究)，中本
 完二 (近畿婦人科学會雜誌第 7 卷第 3 號)。
 人の正常卵巢に分布する神経に就て，中本完二 (同上 第 4 號)。
 臓器療法に就て，助川喜四郎 (東京醫事新誌第 2371 號)。
 「アドレナリン」劑の實驗的竝に臨床的研究，藤井富夫 (大日本耳鼻咽喉科會々
 報第 30 卷第 6 號)。
 肝臓派門脈及耳靜脈に於ける血糖量に及ぼすインシュリンの影響に就て，(承
 前)，千賀春吉 (醫學中央雜誌第 447 號)。
 腦下垂體の病理及生理に関する實驗的研究，坂本輯，齋藤權左衛門 (日本内
 科学會雜誌第 12 卷第 9 號)。
 睾丸内分泌に関する實驗的研究，中田瑞穂 (日本外科学會雜誌第 24 回第 7, 8
 號)。
 失血の病的生理の研究第 1 報，失血時に於けるアドレナリンの態度，原勇三，
 (日本外科学會雜誌第 24 回第 8 號)。
 バセドウ氏病の眼搏動，秋谷博愛 (中央眼科醫報第 16 卷第 8 號)。
 (以上，醫學中央雜誌第 22 卷所載)
 バセドウ甲状腺腫組織の手術後治療現象に就て，加藤守吉 (福岡醫科大學雜誌

第 18 卷第 2 號)

- 甲状腺過剰症の實驗的研究, 藤井貞 (東京醫學會雜誌第 38 卷第 8 號)
- 甲状腺腫の原因に関する實驗的補遺, 田部浩 (岡山醫學會雜誌第 419 號)
- バセドウ甲状腺腫組織の分類, 加藤守吉 (福岡醫科大學雜誌第 18 卷第 2 號)
- 慢性モルフィン中毒症の研究, 堀内正重 (南滿醫學會雜誌第 12 卷第 9,10 號)
- 腔分泌物と腔グリコゲン及び卵巢内分泌作用との相互關係に就ての研究
(第一回報告)三浦久治 (日本微生物學會雜誌第 18 卷第 14 號)
- 血液及リンパエツキスの血糖に對する影響に就て, 佐藤基 (日本內科學會雜誌第 12 卷第 10 號)
- アドレナリン反復注射による機能變化に就て, 其一, 血糖に関する研究, 久島環 (日本內科學會雜誌第 12 卷第 10 號)
- 肝臓を損傷せる家兎の血糖量に及ぼすインシュリンの作用に就て, 大森精一 (日本內科學會雜誌第 12 卷第 10 號)
- インシュリンに関する實驗的知見補遺, 北村邦太郎 (日本內科學會雜誌第 12 卷第 10 號)
- 急性熱性病患者に於けるインスリン及葡萄糖の併用に就て, 大里俊吾, 大場利正 (治療及處方第 59 號)
- 甲状腺機能障礙に於ける血液炭酸瓦斯に就て國行榮次(中外醫事新報第 1074 號)
- 大脳下垂體の分泌方法, 照山昇 (京都醫學雜誌第 22 卷第 1 號)
- 熱睾丸に就て, 福井信玄 (海軍軍醫學會雜誌第 45 號)
- 雌性動物に於けるスタイナツハ氏若返りの實驗的研究, 永島良之輔 (日本微生物學雜誌第 18 卷第 12 號)
- 人胎盤のリポイドに関する研究, 餘田忠吾 (大阪醫學會雜誌第 22 卷第 12 號)
- 婦人科と甲状腺, 池上五郎 (鎮西醫報第 199 號)
- コフェインは交感神經麻痺毒なりや(コフェインとアドレナリトとの拮抗作用)に就て, 伊藤謙 (京都醫學雜誌第 21 卷第 12 號)
- アドレナリの臓器に及ぼす作用は果して純末梢性のものなりや(第一回報告)アドレナリンに對する腎血管の態度に就て, 梶原, 濱田, (大阪醫學會雜

誌第 24 卷第 2 號)

- 家兎摘出心臓に於けるアドレナリンとアセチルヒヨリン並にピロカルピンとの作用の相互干涉に就て, 菊地武彦 (京都醫學雜誌第 21 卷第 12 號)
- 蛙及家兎摘出心臓に於けるアドレナリンの作用に及ぼす葡萄糖の影響に就て菊地武彦, (京都醫學雜誌第 21 卷第 12 號)
- 各種動物の副腎アドレナリン含有量, 今村美多 (慶應醫學第 5 卷第 1 號)
- アドレナリンの筋作用知見補遺, 田中兵次郎 (京都醫學雜誌第 21 卷第 12 號)
- 實驗的饑餓並に甲状腺劑中毒に於ける家兎中樞神經に於ける變化附, プルキシエー氏細胞の過敏性に就きて, 巨繁 (神經學雜誌第 24 卷第 8,10 號) (第 225 卷第 1 號)
- 人の腦下垂體肥大及萎縮の病理, 照山昇 (京都醫學雜誌第 21 卷第 9 號)
- 兩側睾丸摘出後二十年を経過せる攝護腺變化の一例, 高岡達也 (福岡醫科大學雜誌第 18 卷第 1 號)
- 輸精管結紮切斷後に於ける睾丸の組織學的研究, 大久保一雄 (福岡醫科大學雜誌第 18 卷第 1 號)
- ヒスタミン中毒と過敏症シヨツクとの關係, 百合野順太郎 (福岡醫科大學雜誌第 18 卷第 3 號)
- 甲状腺別出動物に於ける被動性過敏症, 千穂峯藏 (細菌學雜誌第 351 號)
- インスリンの文獻的考察, 吉田重彌 (現代之醫界第 6 卷第 4,6,7,9 號)
- インスリン治験例, 小澤修造, 伴野孫三郎 (大阪醫學會雜誌第 23 卷第 2 號)
- インシュリンと血糖との關係, 大内直 (成醫會雜誌第 475 號)
- 糖尿病とインシュリン, 加藤尙義 (實地醫家と臨牀, 第 1 卷第 1 號)
- インシュリンに関する實驗的知見補遺, 北村邦太郎(京都府立醫大雜誌第 98 號)
- 胸腺の機能と幼若なる生體の發育との關係, 附, 生物學的機能調節に関する一新解説, 宮川米次, 和田馨 (實驗醫學雜誌第 8 卷第 12 號)
- 副腎に及ぼす諸種影響に関する實驗的研究(第二報)種々なる食餌の副腎に及ぼす影響に就て, 野坂綱定 (日本內科學會雜誌第 12 卷第 11 號)
- 糖尿病患者に對するインシュリンの效果に就て, 中西壽太, 黒澤豊 日本內科

- 學會雜誌第 12 卷第 11 號)
- インシュリンと内分泌腺に妊娠との關係に就ての實驗的研究, 秋葉隆 (東京醫事新誌第 2398 號)
- 迷走神經の腺液分泌に及ぼす影響, 中川知一, 桓田與二郎, 松本安太郎 (日新醫學第 14 年第 5 號)
- 自家「ゼクレチン」と他の「ゼクレチン」の腺分泌作用の效力比較試驗, 中川知一 (大阪醫學會雜誌第 23 卷第 12 號)
- 破傷風に於ける「アドレナリン」分泌状態に就ての實驗, 三木利一 (日本內科學會雜誌第 12 卷第 11 號)
- 甲状腺が諸種臓器のオキシターゼに及ぼす影響に就て, 奥岩吉 (日本內科學會雜誌第 13 卷第 1 號)
- 上皮小體の摘出後の齒牙發育の變化, 生田信保 (朝鮮醫學會雜誌第 47 號)
- 睾丸と血液炭酸瓦斯との關係に就て, 國行榮次 (中外醫事新報第 1076 號)
- 去勢の免疫に血球に及ぼす影響に関する研究補遺(其一)和田喜作 (大阪醫學會雜誌第 24 卷第 1 號)
- アドレナリン鎮吐作用に就て(第一回報告)井尻又五郎 (治療藥報第 233 號)
- 粘液水腫の一例, 齋藤文雄 (日本內科學會雜誌第 12 卷第 12 號)
- 黄体を除去せる卵巢製剤の家兎子宮に及ぼす作用に就て, 前原俊男 (近畿婦人科學會雜誌第 7 卷第 4 號)
- アドレナリンの臓器に及ぼす作用は果して純末梢性のものなりや(第一回報告)アドレナリンに對する腎血管の態度に就て, 梶原三郎, 濱田健男 (大阪醫學會雜誌第 24 卷第 2 號)
- インスリンの家兎摘出腸管に對する作用, 千賀春吉 (東洋醫學雜誌第 2 卷第 4 號)
- インシュリン作用の機轉にインシュリンによる水血症に就て, 岡田清三郎 (千葉醫學會雜誌第 3 卷第 1 號)
- インシュリン治療の臨床的觀察, 岡田清三郎 (千葉醫學會雜誌第 3 卷第 1 號)
- 手術後に於けるバセドウ氏病の再發, 福島東作 (實驗醫報第 124 號)
- アクロメガリーに就て見たる二三の事項, 三藤香吉 (岡山醫學會雜誌第 421 號)

- 甲状腺切除動物の瓦斯新陳代謝(第一報)高橋義藏 (岡山醫學會雜誌第 421 號)
- バセドウ氏病の外科的療法殊に甲状腺切除術の直後並に永久成績に就て, 加藤守吉 (日本外科學會雜誌第 26 回第 3 號)
- バセドウ氏病甲状腺腫一例切除の他側腺葉に及ぼす影響, 加藤守吉 (日本外科學會雜誌第 26 回第 3 號)
- 甲状腺機能と胃の潰瘍性變化との關係に就て, 甲斐原秀雄 (日本外科學會雜誌第 26 回第 5 號)
- 卵巢と血液「カルシウム」量との關係に就て, 向井久市, 山岡秀夫 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)
- 沃度劑のラツテ生殖腺並に甲状腺に對する影響, 大野精七 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)
- 鉛鹽類の家兎卵巢及子宮に及ぼす影響に就て, 田原三夫 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)
- 類宦官症の一例, 長山泰政, 富原敏也, 阪本利雄 (神經學雜誌第 24 卷第 2 號)
- 色慾異常症並に興奮型白癡の睾丸摘出例に就て, 長山泰政 (神經學雜誌第 24 卷第 2 號)
- 人胎盤注射による人工黄体發生に就て, 足立貫 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)
- 妊娠と黄体, 廣瀬豊一 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)
- 卵巢と組織學的研究殊に黄体に就て, 戸刈近太郎 (日本婦人科學會雜誌第 0 卷第 5 號)
- カストラチオン後に於ける子宮の萎縮と臓器製剤との關係, 前原俊男 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)
- 子宮えむるじおん内生殖器に及ぼす影響第 1 報告, 高楠榮, 武田正房, (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)
- アドレナリン子宮に對する逆反應に就て, 狹間章雄 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)
- 卵巢と副腎, 後藤直, 川名晃 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 5 號)

- 腦下垂體腫瘍の二例, 湖崎清一 (中央眼科醫報第 17 卷第 6 號)。
 耳下腺の機能に関する研究, 土屋直義 (日新醫學第 14 年第 8,9 號)。
 睾丸剔出が新陳代謝に及ぼす影響, 伊藤斯郎 (皮膚科紀要第 5 卷第 1,2 號)。
 睾丸と温熱との問題, 福井信立 (皮膚科紀要第 5 卷第 3 號)。
 男性生殖腺脱落に困する外的性徴特に陰莖の變化に就て, 伊藤斯郎, 安達與五郎 (皮膚科紀要第 5 卷第 3 號)。
 乳汁分泌催進劑 ラクチフェリンの臨床的實驗報告, 津山良三郎 (醫學中央雜誌第 456 號)。
 甲狀腺と體温調節との關係, 岡田實秋 (長崎醫學雜誌第 2 卷第 2 號)。
 二三内分泌腺製劑の胃液酸度に及ぼす影響, 任明宰 (朝鮮醫學會雜誌第 52 號)。
 インスリンの血液成分に及ぼす影響に就て, 秋谷實 (東京醫學會雜誌第 38 卷第 11 號)。
 クロロホルム及エーテル麻醉の家兎副腎アドレナリン含有量に及ぼす影響, 江村守一 (日本外科學會雜誌第 26 回第 6 號)。
 眞性侏儒の一例に就て, 鈴木諒爾 (日本外科學雜誌第 26 回第 6 號)。
 腦下垂體腫瘍の一例, 湖崎清一 (中央眼科醫報第 17 卷第 1 號)。
 實驗的テタニーの免疫體含量に及ぼす影響, 松山穰, 訖摩武人, (兒科雜誌第 294 號)。
 腦下垂體腫瘍(兩側顯顳側半盲症)の一例, 湖崎清一 (眼科臨牀醫報第 235 號)。
 歐米の醫學界とインスリン研究, 小川堯五郎 (日新醫學第 14 年第 5 號)。
 インスリン其他三四物質の血液酸素結合力並に血液カタラーゼに及ぼす影響に就て, 飯塚直彦, 下野陽之助 (臨牀第 2 卷第 3 號)。
 余の創製したるインベルシン(内服用腺内分泌劑)の治療的價値に就て, 氏原均一 (日本消化機病學會雜誌第 24 卷第 3 號)。
 妊娠及び産褥各期に於ける, 子宮卵巢及胎盤の中性脂肪及びコレステリン含有量に就て, 鈴木甚吉 (醫學中央雜誌第 459 號)。
 アドレナリンの脚氣患者循環器に對する作用, 香川昇三 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。

- 子宮間質腺に就て, 村岡千仞 (近畿婦人學會雜誌第 8 卷第 2 號)。
 妊娠惡阻にインスリンの應用に就て, 村岡千仞 (同上)。
 デキタリス餌食に依る家兎の副腎變化に就て, 鴨井楠樞 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 クロロホルム及びエーテル麻醉の副腎アドレナリン含有量に及ぼす影響に就て, 江村守一 (日本外科學會雜誌臨時號)。
 日本人睾丸の組織學的及統計學的研究, 大家武夫 (日本外科學會雜誌臨時號)。
 甲狀腺と免疫體產生との關係に就て, (第 1 報)免疫凝集素に及ぼす影響, 櫻井郷三 (日本外科學會雜誌臨時號大正 14 年 3 月)。
 甲狀腺摘出後に現出する血液の變化, 岡田實秋 (日本外科學會雜誌臨時號)。
 甲狀腺製劑試食に由る家兎の諸臟器殊に胸腺變化に就て, 大井和光 (日本外科雜誌臨時號)。
 睾丸剔出が新陳代謝に及ぼす影響(第 2 回報告)脂肪新陳代謝に就て, 伊藤斯郎 (皮膚科紀要第 6 卷第 1 號)。
 睾丸と脂肪新陳代謝との關係に関する一知見併せて實驗的鼠咬症に於ける血液リポイド量の消長に就て, 伊藤斯郎, 阿部正富 (皮膚科紀要第 6 卷第 2 號)。
 尿崩症に関する一般臨牀的觀察(第 1 及び第 2 報)藤井尙久, 松原富士雄, (醫學中央雜誌第 461 號)。
 副腎髓質に就て, 別所正泰 (熊本醫學會雜誌第 1 卷第 4 號)。
 副腎に就て, 柴田至 (東京醫學會雜誌第 38 卷第 10 號)。
 甲狀腺膠樣質内に於ける空胞形成に就て, 岡室德之助 (京都府立醫科大學雜誌第 48 號)。
 上皮小體並に甲狀腺と骨(第 1 報告), 小川蕃 (日本外科學會雜誌第 26 回第 1 號)。
 尿崩症に関する一般臨牀的觀察(第 1 及び第 2 報) 藤井尙久, 松原富士雄, 醫學中央雜誌第 462 號)。
 バンチ氏病附類宦官症, 大野章三 (實地醫家と臨牀第 2 卷第 3 號)。
 内分泌病理に関する一二の事項, 中村八太郎 (第 15 回日本病理學會)。

- 副腎實質成分注射の結核感染に及ぼす影響, 加藤謙一 (結核第 3 卷第 3 號)。
 バセドウ氏病及び甲狀腺試食動物に於ける頸部交感神経節の變化に就て, 松浦篤實 (日本内科學雜誌第 13 卷第 3 號)。
 甲狀腺「エツキス」の摘出家兎心臓に及ぼす作用, 錦織末富 (日本内科學會雜誌第 13 號第 3 號)。
 甲狀腺機能と血清内諸種酵素との關係, 中村種一 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 甲狀腺上皮細胞を以て處置したる免疫血清が甲狀腺に及ぼす影響に就て, 日下部周利 (日本内科學雜誌第 13 卷第 3 號)。
 甲狀腺機能障礙竝にインスリン及びアドレナリン注射の副腎に及ぼす影響に就て, 野坂綱定 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 甲狀腺腫の藥物的療法に就て, 辻寛次 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 腺臓内分泌と迷走神経, 星騰吾 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 ピットリンの腺臓分泌に及ぼす影響に就て, 小野純一 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 腺臓内分泌に関する續報熊谷岱藏, 鶴飼哲 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 ピットリンの家兎腦脊髄液糖量に及ぼす影響に就て, 玉木梧郎 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 尿崩症に関する觀察及び二三藥物の尿利に及ぼす影響, 藤井尙久 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 血液炭酸瓦斯量より見たるモルフィンと内分泌腺との關係に就て, 國行榮次 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 諸種内分泌の血液内脂肪及び類脂肪體に及ぼす影響特に其相互關係に就て, 奥岩吉 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 内分泌機能と生體內乳酸量の消長に就て, 劉陸一, 寺田幸保 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 黄体を除去せる卵巣製劑の子宮に及ぼす作用, 前原俊男 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 10 號)。

- 卵巣黄体製劑の臨牀的應用に關する實驗的研究, 増本誠一郎 (日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 6 號)。
 別出モルモット小腸蠕動の生理的竝に藥物的觀察, 武田三郎 (朝鮮醫學會雜誌第 55 號)。
 アドレナリンの臓器に及ぼす作用は果して純末梢性のものなりや第 2 報アドレナリンに對する腎血管の態度, 梶原三郎 (大阪醫學會雜誌第 24 卷第 7 號)。
 所謂アドレナリンの迷走神経性作用に就て, 松島厚吉 (京都醫學會雜誌第 22 卷第 7 號)。
 腦下垂體の扁平上皮細胞に就て, 清野博 (大阪醫學會雜誌第 24 卷第 10 號)。
 辜丸細精管内多核巨態細胞に就て, 高木明茂 (愛知醫學會雜誌第 32 卷第 6 號)。
 去勢のアナフェラキシに及ぼす影響に就て, 上月實, 羽田野義夫 (中外醫事新報第 1084 號)。
 内分泌臓器間の相互關係に關する實驗的研究(第 1 報), 小池龜代治 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 組織培養に對する糖量の關係, 密田常三 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 二三の非糖尿病性アチドージスに對するインスリン及び葡萄糖の影響に就て, 大場利正 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 インスリンの糖尿病患者窒素新陳代謝に及ぼす影響に就て, 溝上三保 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 正常動物の蛋白質新陳代謝竝に尿中アセトンと人體に及ぼすインスリンの影響に就て, 青木主計 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 インスリンの血液像に及ぼす變化竝にアドレナリン及び甲狀腺との關係に就ての實驗的臨牀的研究, 若林麟之助 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 インスリン注射による血液成分變化に就て, 紅谷庄吾 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
 インスリン注射の尿中クレアチンクレアチニン, 及び窒素量に對する關係に就て森良介, 瀧田源三郎, 楡山健男 (日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。

- 血液糖化酵素作用に及ぼすインスリンの影響竝に其他二三の觀察に就て，菅谷保之（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- 糖尿病に於ける含水炭素忍容力に對するインスリンの影響に就て 長沼良章（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリン作用就中 其血糖に及ぼす影響に就て，清水東四郎（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリン注射に因る水血症竝に 血液濃縮機轉に就て，堀野計一（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリンの脂肪量に及ぼす影響，中村環（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリン及びアドレナリンに因る血糖の筋肉内消費に就て，楠五郎雄（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- 糖尿病の輕重判定の標準及びインスリン作用の機轉に就て，岡田清三郎（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリンの血糖降下作用機轉に關する 實驗的研究（第 2 回報告）永末修（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリンの作用に就て，向井元亨，松岡文七（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリン注射に因り起る肝臟其他臟器の組織的變化に就て，尾河順太郎（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリン作用機轉の組織學的研究（第 1 回報告）落合國太郎（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- インスリン作用機轉に就て，戸谷銀三郎（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- 糖尿病患者の食餌療法及びインスリン療法效果の比較，横田素一郎（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- 甲状腺摘出家兎の血糖價に就て，武谷凱三（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- 腦下垂體機能低下動物の血糖價竝に二三内分泌臟器製劑の之に及ぼす影響に就て，齋藤權左衛門（日本内科學會雜誌第 13 卷第 3 號）。
- 内分泌腺と神經系統殘に交感神經との關係に就て，三浦謹之助（神經學雜誌

- 第 25 卷第 4 號）。
- 腦下垂體腫瘍の二例，湖崎清一（中央眼科醫報第 17 卷第 6 號）。
- アドレナリン近接體の血糖に及ぼす影響に就て，近野政次（大阪醫學會雜誌第 24 卷第 2 號）。
- 糖尿病に於けるセクレチンの運命に關する實驗的研究 中川知一，原田三樹男（大阪醫學會雜誌第 24 卷第 11 號）。
- 諸種血管に注入せるセクレチンの腓液及び胆汁分泌に及ぼす比較試驗，谷口積（大阪醫學會雜誌第 24 卷第 11 號）。
- セクレチンの萎腎臟に及ぼす作用に就て（豫報）藤井覺（大阪醫學會雜誌第 24 卷第 11 號）。
- 腓液よりインスリン製造の實驗に就て，西崎弘太郎，西原周平（衛生試驗所彙報第 25 號）。
- アドレナリンの反復注射に因る機能變化に就て（其 1）血糖に關する研究，久島環（日新醫學第 15 年第 1 號）。
- インスリン概説，大澤勝（滿鮮之醫界第 46 號）。
- 内分泌と免疫體發生の關係（第 1 回豫報）石原俊士（日本婦人科學會雜誌第 20 卷第 8 號）。
- インスリン注射に因り乳汁成分に及ぼす影響，上谷榮吉（兒科雜誌第 299 號）。
- 粘液水腫の臨床及解剖所見，和久井豐一（兒科雜誌第 299 號）。
- グアニヂンの筋緊張に及ぼす效果に就きて，藤田卯二六（東京醫學會雜誌第 38 卷第 1 號）。
- 喰菌作用に及ぼす甲状腺物質の影響に就て，行徳俊則（福岡醫科大學雜誌第 18 卷第 12 號）。
- 上皮小體と胃腸運動，武田三郎（朝鮮醫學會雜誌第 54 號）。
- 諸種内分泌の血液内脂肪及び類脂肪體に及ぼす影響特に 其相互關係に就て（第 1 報）實驗的方面，奥岩吉（内分泌學雜誌第 1 卷第 3,4 號）。
- インスリン（腓ホルモン浸出）液の文獻的考察，吉田重彌，半野武夫（現代の醫學第 6 卷第 1 號）。

糖尿病療法としてのインスリンの價値に就て補遺, 若林麟之助 (内分秘學雜誌第 1 卷第 1,2 號)。

インスリンの血液像に及ぼす變化竝に之がアドレナリン及び甲狀腺との關係に就ての實驗的臨床的研究 第一篇インスリンの家兎及び人間(非糖尿病及び糖尿病患者)血液像に及ぼす影響, 若林麟之助 (内分秘學雜誌第 1 卷第 1,2 號)。

インスリンの血液像に及ぼす變化竝に之がアドレナリンの關係に充ての實驗的臨床的研究第二篇インスリン, アドレナリン及び甲狀腺が血液像に及ぼす相互關係に就て, 若林麟之助 (内分秘學雜誌第 1 卷第 4 號)。

インスリン作用の機轉竝にインスリンによる水血症に就て, 岡田清三郎外九名 (東京醫學會雜誌第 38 卷第 11 號)。

インスリン治療の臨牀的觀察, 岡田清三郎, 外九名 (同上)。

副腎に及ぼす諸種影響に關する 實驗的研究(第 3 報)甲狀腺竝にインスリン及アドレナリンの副腎に及ぼす影響に就て, 野坂綱定 (内分秘學雜誌第 1 卷第 4 號)。

バセドウ氏病治療に就て斷片, 森安連吉 (近世醫學第 12 卷第 1 號)。

バセドウ氏病及甲狀腺過給動物に於ける頸部交感神經節の變化に就て, 松浦篤實 (内分秘學雜誌第 1 卷第 1,2 號)

肋膜腔内に於ける吸收作用に及ぼす甲狀腺機能の影響に就て, 井倉訣 (内分秘學雜誌第 1 卷第 3 號)

結核菌毒素の副腎竝びに甲狀腺に及ぼす影響に就て, 野坂綱定 (内分秘學雜誌第 1 卷第 1,2 號)

脚氣患者竝に犬ヅタミンB 缺乏症に於ける甲狀腺機能に關する 實驗的研究補遺, 空地純一 (内分秘學雜誌第 1 卷第 1,2 號)。

ヒヨリン及アセチルヒヨリンの腸運動に及ぼす作用に就て, 武部伴吉 (十全會雜誌第 30 卷第 8 號)。

腦下垂體腫瘍, 杉原仁彦 (日本內科學會雜誌第 13 卷第 7 號)。

諸種副腎製劑の比較研究, 藤井富夫 (大日本耳鼻咽喉科會報第 31 卷第 3 號)。

二三内分秘腺有效成分の絹糸草に及ぼす影響に就て(第 1 回報告)蓮見喜一郎 (千葉醫學會雜誌第 3 卷第 1 號)。

甲狀腺摘出が藥物作用に及ぼす影響に就て, 石橋三郎 (京都醫學會雜誌第 22 卷第 8 號)。

胸腺及淋巴腺デアスターゼに及ぼす影響, 樋渡雋二郎 (大阪醫學會雜誌第 24 卷第 11 號)。

インスリンの藥物學的知見補遺, 吳光錫 (朝鮮醫學會雜誌第 57 號)。

子宮及卵巢内分泌の研究(第 1 報告)子宮及卵巢の生體灌流法, 附, 子宮竝に卵巢血管の藥物學的性質に就て, 横山茂樹 (朝鮮醫學會雜誌第 57 號)。

睾丸内分泌の研究(第 1 報告)睾丸の生體灌流法及睾丸ホルモンの藥物學的性質に就て, 片岡八束 (朝鮮醫學會雜誌第 57 號)。

利尿に就て, 稻田龍吉 (實驗醫報第 128 號)。

輸精管結紮の睾丸内分泌に及ぼす影響に就て, 二川元治郎 (岡山醫學會雜誌第 416, より第 424 號に至る)。

緑内障に對するアドレナリン硝子體腔内注射療法, 市川清 (中央眼科醫報第 17 卷第 11 號)。

インスリン皮下注射が眼房水糖量に及ぼす影響に就て, 大國二郎 (中外醫事新報第 1057 號)。

アドレナリンの呼吸制止作用の本態, 小阪隆雄 (滿洲醫學雜誌第 3 卷第 1 號)。
所謂ゼクレチンの動物實驗的, 化學的及顯微化學的研究, 服卷勝見 (福岡醫科大學雜誌第 18 卷第 5 號)。

アドレナリン反復注射に依る機能變化に就て(其 2)血行器に關する研究(上, 下), 久島環 (日本內科學會雜誌第 13 卷第 8 號)。

甲狀腺及アドレナリンの生體臟器内乳酸含量に及ぼす影響, 劉陸一 (内分秘學雜誌第 1 卷第 1 號第 2 號)。

インスリンの生體臟器乳酸含量に及ぼす影響に就て, 寺田幸保 (内分秘學雜誌第 1 卷第 1 號第 2 號)。

實驗的萎縮腎の副腎變化に就て, 鴨井楠樞 (日本內科學雜誌第 13 卷第 8 號)。

- インスリンと内分泌腺並に妊娠との關係に就ての實驗的研究(第2報告の1)
秋葉隆 (東京醫事新誌第2372號)。
- 腦下垂體の利尿作用に就て, 野口猪之助 (醫海時報第1627號)。
- 腦下垂體腫瘍の二例, 湖崎清一 (眼科臨牀醫報第238號)。
- 副腎皮質の研究(第1回報告)(1)總輸膽管結紮後の脂肪新陳代謝に就て 堀
江憲治 (滿洲醫學雜誌第3卷第1號)。
- 體質に及ぼす内分泌の影響, 上田春治郎 (近世醫學第12年第9, 10號)。
- 日本人の睾丸の組織學的及統計學的研究(其1)發育に關する研究(其2)間細
胞に就て, 大家武夫 (日本外科學會雜誌第26回第8號)。
- 種々の處置が赤血球沈降速度に及ぼす影響に就て, 藤田小五郎 (京大皮膚科
紀要, 第6卷第5號)。
- 胃液鹽酸缺乏時に於ける腺液分泌状態に就て(第2回報告), 永井菊夫 (中外
醫事新報第1082號)。
- 腺臓の内分泌に就て, 桂重鴻 (實驗醫報第133號)。
- インスリンの作用機轉に就て, 岡島癸己郎, 大國二郎 (滿洲醫學會雜誌第3卷
第1號)。
- インスリン注射に因る血糖量及腦脊髄液糖量降下の相互的關係に就て, 上谷
榮吉 (中外醫事新報第1057號)。
- インスリン注射による家兎血液水分變化に就て, 附, インスリンの腎臓機能
に及ぼす影響に就て, 石木義太郎 (東京醫事新誌第2421號)。
- インスリンの血糖降下作用機轉に關する實驗的研究(第1回報告), 永末脩
(東京醫學會雜誌第40卷第1號)。
- インスリンの血糖降下作用機轉に關する實驗的研究(第二回報告), 永末脩
(東京醫學會雜誌第40卷第1號)。
- 糖尿病療法批判, 福島寛四 (近世醫學第12卷第8號)。
- 水並に食鹽排泄試験に顯はれたる甲状腺劑の作用に就て, 百瀬宗, 大島四郎
(北海道醫學雜誌第3年第2號)。
- 急性腺臓炎成因に關する研究補遺並に該疾患經過中の生植物化學的變化に

- 就て, 日影菫 (日本外科學會雜誌第26回第10號)。
- 植物神經系緊張異常及びビタミン缺乏食飼養家兎に於ける創傷治癒速度に
就て, 大庭國紀, 澤江太郎(日本外科會雜誌第26回第8號)。
- 甲状腺エキスの迷路機能に及ぼす影響, 吉田璋也 (大日本耳鼻咽喉科會々報第
31卷第5號)。
- 單簡なる輸精管切除術, 光田健輔 (皮膚科及泌尿器科雜誌第25卷第6號)。
- 生殖腺と脂肪代謝(續報), 伊藤斯郎 (皮膚科紀要第6卷第5號)。
- アドレナリンの瓦斯代謝に及ぼす影響に就て, 千賀春吉 (京都醫學雜誌第22
卷第9號)。
- 家兎臟器粥のストリヒニンに對する減毒作用に就て, 上井敬三 (京都醫學雜
誌第22卷第3號)。
- 種々の藥物の注射が蠶兒の背脈管に及ぼす影響, 小笠原登 (京都醫學雜誌第22
卷第6號)。
- 血管神經を切斷せる血管に對するアドレナリンの作用に就て, 早川與一郎
(京都醫學雜誌第22卷第3號及第9號)。
- チレナグロブリンの血清化學的研究, 石塚生 (日本外科學會雜誌第26回第9
號)。
- インスリンの眼科手術成績に對する效果, 附, 糖尿病性白内障手術實驗例。
向後新次 (臨牀月報第183號)。
- 涙液分泌に及ぼす, 數種藥劑の影響に就て, 市原文雄 (中央眼科醫報第17卷
第12號)。
- 瞳孔を變化する藥劑の作用に影響する要約に就きて, 竹田升 (神經學雜誌第25
卷第4號)。
- 松果腺腫の一例 松澤謙吾, 俣野一郎 (神經學雜誌第26卷第2號)。
- 腦下垂體越幾斯の乳腺に及ぼす組織的影響に就て, 附, 家兎乳腺の組織學的
研究, 玉川和 (十全會雜誌第30卷第7號)。
- 咯血に對する臟器製止血劑クラウデンの治驗報告, 長島豊治 (治療及處方
68號)。

高度の心臓不全に對するインシュリン葡萄糖の併用に就て，大里俊吾，大場利正（實驗醫報第 131 號）。

大里博士の心臓不全に對する葡萄糖インシュリンの併用療法を讀む，山川章太郎（實驗醫報第 133 號）。

腎硬化症患者竝に腎健康者の利尿に對するピツグランドール，及，アドレナリンの作用に就て，内藤勝（東北醫學雜誌第 8 卷第 2 冊）。

類宦官症殊に其血液像に就て，志田信男，李鐘綸（朝鮮醫學雜誌第 60 號）。
バセドウ氏病の診斷及療法，吾妻俊夫（治療新報第 427 號）。

腺ホルモン注射による血液の物理的性質及血液像の影響，菊地捷三，得田慶市（東北醫學雜誌第 8 卷第 3, 4 冊）。

X線及手術的去勢の子宮に及ぼす影響の比較研究，三林隆吉（近畿婦人科學會雜誌第 8 卷第 1 號）。

雌性生殖器の食餌性變化及其が妊孕に關する實驗的研究（第 1 報告），洲崎隆一（近畿婦人科學會雜誌第 9 卷第 1 號）。

妊娠産褥及正常時に於ける家兎子宮，喇叭管竝に腔に就てアドレナリン作用の比較研究，堅石薫喜（近畿婦人科學會雜誌第 9 卷第 1 號）。

月經困難症の原因に就て，飯島直（日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 4 號）。

卵巣移植に就て，前原俊男（近畿婦人科學會雜誌第 9 卷第 1 號）。

（以上，醫學中央雜誌第 23 卷所載）。

生殖生理に就て，越智眞逸（臨牀第 2 卷第 7 號）。

「インシュリン」の血清二三成分に及ぼす影響，櫻井，古屋，井上（The Journal of Biochemistry. 第 4 卷第 2 號）。

血液の解糖力に就て第四報，「インシュリン」と赤血球解糖作用 川島好兼（The Journal of Biochemistry. 第 4 卷第 3 號）。

脂肪増殖性生殖器發育不全に尿崩症を合併せる一例，附，本病と腦下垂體及び其の附近に於ける病的變化との原因的關係に就て，金子悟（北越醫學會雜誌第 40 年第 5 號）。

「インシュリン」作用機轉の組織學的研究，落合國太郎（南滿醫學會雜誌第 12

卷第 12 號）。

甲状腺製劑試食による家兎の諸臓器，殊に胸腺に於ける變化に就て，大井和光（北越醫學會雜誌第 40 年第 3 號）。

家鶏白米病と年齢竝に生殖腺殊に睾丸との關係に就て（第 2 回報告）今村美多（臨牀醫學第 12 年第 8 號）。

部分營養障礙に關する實驗的研究（第 1 編）白鼠飼養試験，林良材（京都醫學雜誌第 21 卷第 5 號）。

饑餓に因る臓器の變化に就て部分的營養障礙に關する實驗的研究第 2 編其 2 林良材（京都醫學雜誌第 21 卷第 7 號）。

部分的營養障礙に因る臓器重量の變化に就て，部分的營養障礙に關する實驗的研究第 2 編其 4，林良材（京都醫學雜誌第 21 卷第 9 號）。

内服用腺臟ランゲンハンス氏島製劑ランゲリンの効果に就て，一松美利（治療及處方第 65 號）。

甲状腺腫に就て，辻寛治（日新醫學第 13 年第 4 號）。

バセドウ氏病，島菌順次郎（臨牀醫學第 14 年第 1 號）。

松果腺腫瘍，上原幾久治，宗武彦（臨牀醫學第 12 年第 2, 3 號）。

熱傷に因る副腎アドレナリン含有量の變化竝にアドレナリンの熱傷死に對する治療的效果，若生良穂，原勇三（日本外科學會雜誌第 27 回第 1 號）。

副腎及び脾臓の機能的相互關係に就きて，榊原亨（日本外科學會雜誌第 27 回臨時號）。

脾臓の胃腸運動に及ぼす機能に就て，木下益雄，川瀬潔（日本外科學會雜誌第 27 回臨時號）。

類宦官症の二例，關根元治（皮膚科及泌尿器科雜誌第 26 卷第 3 號）。

部分的營養障礙に因る内分泌臓器の變化に就て部分的營養障礙に關する實驗的研究第 2 編（其 5），林良材（京都醫學雜誌第 21 卷第 10 號）。

臓器製劑による精神病患者治験例，岡部慎爾（實驗治療第 53 號）。

甲状腺膠樣質内に於ける空胞形成に就て，岡室徳之助（京都府立醫科大學雜誌第 98 號）。

- 煙草エキス又はニコチンによる甲状腺の變化に就て, 岡室徳之助 (日本微生物學會雜誌第 19 卷第 12 號)。
- 膵臓ホルモンの糖尿病治療効果に就て, 小原敏雄 (治療及處方第 56, 57, 59, 62, 64, 72 號)。
- 膵臓ホルモンによる糖尿病治療に就て, 熊谷岱藏 (東北醫學雜誌第 7 卷第 4, 5 號)。
- 諸型バセドウ甲状腺浸出液が家兎副腎アドレナリン分泌に及ぼす影響, 小川 蕃 (朝鮮醫學會雜誌第 47 號)。
- 二三内分泌腺製劑の家兎眼壓に及ぼす直接影響に就て, 船石晋一 (南滿醫學會雜誌第 12 卷第 7 號)。
- 一陣痛催進劑の臨牀的效用に就て, 所秀造 (近世醫學第 11 卷第 23 號)。
- 胸腺肥大の一例, 長峰菊夫 (臨牀醫學第 14 年第 1 號)。
- 胸腺肥大の臨牀的診斷 田中國夫 (兒科雜誌第 294 號)。
- 類宦官症例, 關根元治 (日本泌尿器病學會雜誌第 15 卷第 1 號)。
- アヂソン氏病, 塚田進 (皮膚科及泌尿器科雜誌第 26 卷第 1 號)。
- 犬の膵臓重量に就て, 倉上由一 (長崎醫學會雜誌第 3 卷第 26 號)。
- 上皮小體竝に甲状腺と胃(腸)運動機能(豫報)武田三郎 (朝鮮醫學會雜誌第 46 號)。
- 甲状腺及上皮小體の生理學補遺第 1 報告瓦斯新陳代謝に對する 甲状腺と上皮小體との關係, 高橋義藏, (岡山醫學會雜誌第 436 號)。
- 内分泌諸臟器細胞を以て蟬蚪(Bufo bufo Japonicus(Schleg)Rana nigromaculata)の飼養實驗, 附, 胸腺の機能と幼若なる生體の發育との關係(第 2 報), 宮川米次, 和田馨 (實驗醫學第 10 卷第 2 號)。
- 人體上皮小體の正常及び病理組織學的研究, 黒川清元 (慶應醫學第 5 卷第 8 號)。
- 甲状腺の代償性肥大に關する實驗的研究, 附, 頸部交感神經節摘出と甲状腺, 岡室徳之助 (日本微生物學會雜誌第 20 卷第 8 號)。
- 生理的竝に病的狀態に於ける家兎辜丸セルトリ氏細胞の形態的變化に就て

- 鈴木仙次郎 (日本微生物學會雜誌第 20 卷第 8 號)。
- 犬膵臓別出後アドレナリン注射及耐糖試験に對する 血液含糖量に就て, 倉上由一 (長崎醫學會雜誌第 3 卷第 2 號)。
- Insulotoxin 糖尿病の研究第 2 報, 倉上由一 (長崎醫學會雜誌第 3 卷第 2 號)。
- 重症糖尿病患者の食餌療法に就て, 附, 尿量比重及含糖量に關する一二の觀察, 行森璣 (海軍々醫會雜誌第 43, 44 號)。
- バセドウ氏病のインシュリン療法, 千賀春吉 (滿洲醫學雜誌第 3 卷第 2 號)。
- インスリンの血液像に及ぼす變化竝にこれがアドレナリン及び甲状腺との關係に就ての實驗的臨牀的研究, 第 3 篇, 甲状腺機能障礙患者に於けるインスリンによる血液像の變化, 若林麟之助 (内分泌學雜誌第 1 卷第 5 號)。
- 甲状腺水腫の化學的成分に關する報告, (殊に沃度含量に就て) 續報, 廣畑龍造, 渡邊治 (臺灣醫學會雜誌第 243 號)。
- 腦下垂體腫瘍手術治驗例竝に其病理的組織的所見, 關口蕃樹 (日本外科學會雜誌第 27 回臨時號)。
- 仔豚に於ける 胸腺摘出試験に就て, 津田誠次 (日本外科學會雜誌第 27 回臨時號)。
- ゼクレチンに關する研究, 西川恒彌 (成醫會雜誌第 484 號)。
- ゼクレチンの赤血球沈降速度に及ぼす影響, 高階徑世 (大阪醫學會雜誌第 25 卷第 4 號)。
- インシュリンに關する實驗的研究, 池谷潤 (東京醫學會雜誌第 39 卷第 12 號)。
- バセドウ氏病に於ける 内分泌臟器の病理學的研究, 照山昇 (日本醫事週報第 1510, 1511, 1512 號)。
- 非經口的に生體内に注入せられたる 胸腺細胞成分の胸腺竝に他臟器に及ぼす影響に就て, 和田馨 (實驗醫學雜誌第 10 卷第 3 號)。
- 幼若白鼠松果腺摘出後に現はるる 形態變化殊に生殖腺と腦下垂體, 伊澤好爲 (岡山醫學會雜誌第 436 號)。
- 正常動物(犬)の蛋白質新陳代謝竝に尿中アセトン體に及ぼすインスリンの影響に就て, 青木主計 (内分泌學雜誌第 1 卷第 6 號)。

- インスリンの糖尿病患者窒素新陳代謝に及ぼす影響, 溝上三保 (内分秘學雜誌第 1 卷第 6 號)。
- インスリンの内用及び舌塗擦用製剤の使用, 勝部近義 (實驗醫報第 129 號)。
- 甲状腺飼養時蛋白質新陳代謝に及ぼすインスリンの影響に就て, 千賀春吉 (滿洲醫學雜誌第 4 卷第 2 號)。
- 乳斑糖原性の消長より見たる中樞性糖尿に於けるアドレナリン血症の疑義, 濱崎幸雄 (岡山醫學會雜誌第 434 號)。
- 内分秘腺製剤の瓦斯代謝に及ぼす影響並に其相互關係に就て, 北光三 (内分秘學雜誌第 1 卷第 6 號第 2 卷第 1, 2 號)。
- 松果腺及び睾丸の重複剔出に依る實驗的研究, 横尾秋夫 (内分秘學雜誌第 1 卷第 6 號)。
- 甲状腺物質過給による臓器内及び外神経節細胞の變性に就て特に甲状腺物質が植物神経に及ぼす組織學的影響, 松浦篤實 (内分秘學雜誌第 1 卷第 6 號)。
- ヒポゲニタリズム患者供覽, 多々見徳元 (臨牀醫學第 14 年第 5 號)。
- バセドウ氏病, 岡田清三郎 (實驗醫報第 136 號)。
- アドレナリンの呼吸中樞に及ぼす作用, 螺良四郎 (實驗醫報第 137 號)。
- 多腺性内分秘機能不全症, 岡 通 (實驗醫報第 137 號)。
- 内分秘と精神病, 黒澤良臣 (醫事公論第 618 號)。
- 上皮小體機能に關する實驗的研究, 小川蕃 (日本外科學會雜誌第 27 回第 1 號)。
- 臺灣に於ける地方病性甲状腺腫の實驗的研究, 帖佐直喜 (臺灣醫學會雜誌第 241 號)。
- 甲状腺摘出後の血液に現はるる變化(物理化學的)補遺, 岡田實秋 (長崎醫學會雜誌第 3 卷第 4 號)。
- 尿崩症の腎臟機能に就て, 藤井尙久 (東京醫學會雜誌第 39 卷第 12 號)。
- 腦下垂體の官能に關する實驗的研究(其 1) 脱落症狀及び一部障礙によりて觀たる腦下垂體の生理的機能, 田邊博憲 (慶應醫學第 6 卷第 5 號)。
- 蟾及び蛙に及ぼすインスリンの影響に就て, (其 1), 石川, 渡邊, 岡野 (成

- 醫會雜誌第 484 號)。
- 副腎剔出による諸臓器グリコーゲン分布の變化に就て, 中野理 (北越醫學會雜誌第 41 卷第 1 號)。
- インスリンによる血像の變化(動物試験), 後藤五郎 (神經學雜誌 25 卷 7 號)。
- 剔出家兎子宮に對するピツイトリンの作用に就て, 佐波古直明 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5 號)。
- 甲状腺の病理解剖的研究, 福士, 江口 (日本醫學專門學校雜誌第 1 卷第 2 號)。
- 副腎皮質の機能に關する實驗的研究, (第 1, 副腎と糖代謝) 鹽澤七晟 (實驗醫學雜誌第 10 卷第 2 號)。
- 同前(第 2, 副腎機能生體の抵抗力) 同上, 同上,
- 同前(第 3, 副腎とコレステリン代謝) 同上, 同上;
- ヒヨリンの新機能に關する研究並にゼクレチン及び腸活素の本態に關する研究補遺, 大野良藏 (日本外科學會雜誌第 27 回臨時號)。
- 無月經に「グイスダリン」の使用報告, 中塚修二 (日新治療第 93 號)。
- 臓器エキスの比較研究, 鶴田靜齋 (近畿婦人科學會雜誌第 9 卷第 2 號)。
- 卵巢内分秘素の生殖器に及ぼす影響に就て, 水野達意 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5, 6 號)。
- ラジウムの卵巢に及ぼす作用, 堤 (慶應醫學第 4 卷第 3, 4 號)。
- 子宮に及す内分秘的影響の機能に關する實驗的研究, 横田茂樹 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5 號)。
- 妊娠家兎の内分秘臓器機能の組織學的生物化學的研究(第 1 報) 正常妊娠時腎臟機能研究の續報(學會), 山田康 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5 號)。
- 卵巢濾胞水及黃體の性週期並に生殖器に及ぼす影響に就て(學會), 水野達意 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5 號)。
- 卵巢の家兎血液に及ぼす影響に就て, 諏訪幸雄 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5 號)。
- 臓器エキスの血液凝固促進作用に就て, 大田原清 (長崎醫學會雜誌第 4 卷第 2 號)。

- 甲状腺中毒に於けるアセトン體に就て, 中野督一 (實驗醫學雜誌第 9 卷第 9 號)。
- 各種ホルモンのインスリン分泌に及ぼす影響に就て (1) インスリンの分泌経路に就て, 山田立義 (熊本醫學雜誌第 2 卷第 1 號)。
- インスリンの作用に對する他種ホルモンの影響に就て, 上野鎮也 (熊本醫學會雜誌第 2 卷第 1 號)。
- インスリンの正常犬に於ける尿中炭素及び窒素の排泄に及ぼす影響に就て, 細田農夫 (大阪醫學會雜誌第 25 卷第 7 號)。
- 血中アドレナリン物質點滴定量法, 近野政治 (大阪醫學會雜誌第 25 卷第 3 號)。
- 非經口的に注入せる肺臓乳劑の實驗的肺結核に及ぼす影響に就て, 溝淵忠雄 (結核第 4 卷第 4 號)。
- 非經口的に注入せる肺臓粉末浸出液の健康肺臓並に結核肺臓に及ぼす影響に就て, 溝淵忠雄 (結核第 4 卷第 4 號)。
- 腦下垂體の分泌に關する組織化學的研究, 高橋皓 (北海道醫學雜誌第 3 年第 5 號)。
- デフテリー毒に因するアドレナリン分泌障礙 (細菌毒素の生理學的研究其 2) 田所良吉 (慶應醫學第 5 卷第 7 號)。
- 臓器毒の研究附 タヒフィラキンの成因に就て, 須古秀雄 (朝鮮醫學會雜誌第 63 號)。
- レントゲン線放射線丸機能の藥物學的研究, 鈴木元晴 (朝鮮醫學會雜誌第 62 號)。
- 腺の生理に關する論文(第 1) 甲状腺胸腺及び脾臓と骨髓との關係, 中尾秀雄 (日本外科學會雜誌第 27 回第 1 號)。
- 内外分泌腺臓器製劑の精神病者含血糖量に及ぼす影響に就て, 渡邊鍵太郎 (神經學雜誌第 26 卷第 7 號)。
- 子宮發育不全症患者(月經困難症を有するもの及び有せざるもの)の植物性神経系統の緊張状態血液像並に血像に及ぼす卵巣製劑の影響に就て, 飯島直 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5 號)。

- 妊婦の消化管に就ての研究, 管野力, 岡林恭 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5 號)。
- 腺ホルモン作用が糖輸入の結果に及ぼす影響, 黒川利雄 (東北醫學雜誌第 8 卷第 1 號)。
- 筋肉肝臓組織汁の糖分解作用に關する腺臓エキスの影響, 佐藤基 (東北醫學雜誌第 8 卷第 1 號)。
- ホルモン學說に關する最近の思潮, 越智眞逸 (京都府立醫科大學雜誌第 100 號)。
- 主要なる生物學的研究方法に就て, 越智眞逸 (日新醫學第 14 年第 6, 7 號)。
- 生體に非經口的に注入せる卵巣組織成分(濾胞液黄體及び間質腺)の卵巣及び其他諸臓器に及ぼす影響に就て, 寺田正周 (實驗醫學雜誌第 10 卷第 7 號)。
- 腺分泌物と腔壁グリコゲンと卵巣内分泌作用との相互關係に就ての研究, 三浦久治 (日本微生物學會雜誌第 20 卷第 10 號)。
- 副腎に及ぼすレントゲン放射線の影響, 松田知三 (慶應醫學第 6 卷第 7 號)。
- 副腎のX線放射と血糖量の變化, 松田知三, 岡添武 (慶應醫學第 6 卷第 7 號)。
- レントゲン去勢に關する研究, 福井政憑 (慶應レントゲン學叢書第 1 卷)。
- モルヒネ習慣性の原因に就て, 川上理作 (臨床醫學第 13 年第 3 號)。
- 腦下垂體越幾斯の乳腺に及ぼす影響に就ての續報, 玉川和 (日本婦人科學會雜誌第 21 卷第 5 號)。
- 早期去勢ラツテの腦下垂體變化に就て, 忽滑谷精一 (成醫會雜誌第 487 號)。
- 副腎皮質腫瘍に關する綜説, 河野教信 (成醫會雜誌第 487 號)。
- 腦下垂體成分のアカガヘル皮膚色素細胞に對する作用, 高橋皓, 須賀井正謙 (北海道醫學雜誌第 4 年第 3 號)。
- 人工集成左旋性エピネフリンの藥效價に就て, 横田壽照, 多賀谷巽 (成醫會雜誌第 488 號)。
- 腦血管の藥理(1)アドレナリンの作用(補遺)三輪誠, 尾崎正道, 城下良平 (北海道醫學雜誌第 4 年第 3 號)。
- 腦血管の藥理(2)ピツイツリンの作用, 三輪誠, 尾崎正道, 城下良平 (北海道

- 醫學雜誌第4年第3號)。
- 腎臓血管の薬理(第2報)脳下垂體製劑の作用, 尾崎正道 (北海道醫學雜誌第3年第2號)。
- 腎臓血管の薬理(4)ヂキタリス劑並びにアドレナリンの作用, 尾崎正道 (北海道醫學雜誌第4年第3號)。
- 結核感染ランゲルハンス氏島及び結核毒素とランゲルハンス氏島 松崎香住 (結核第4巻第5號)。
- 結核感染の脾臓に及ぼす影響實驗的研究, 高龜良樹 (結核第4巻第5號)。
- 結核と生殖腺(1), 加藤謙一 (結核第4巻第5號)。
- インスリン注射の乳汁成分に及ぼす影響, 上谷榮吉 (兒科雜誌第301號)。
- 小兒非糖尿病アシドーシスのインスリン療法に就て, 三宅宗一 (兒科雜誌第310號)。
- 副腎アドレナリン含有量に関する實驗的研究(2)中樞性糖尿の副腎アドレナリン含有量に及ぼす影響に就て, 高橋喜一 (北越醫學會雜誌第40年第4號)。
- 副腎アドレナリン含有量に関する實驗的研究(1) (亞硝酸曹達の副腎アドレナリン含有量に及ぼす影響に就て), 高橋喜一 (北越醫學會雜誌第4巻第4號)。
- チレオイデンの水, 食鹽水及び色素排泄に及ぼす影響に就て, 百瀬宗, 大島四郎 (北海道醫學雜誌第3年第5號)。
- 甲状腺上皮細胞を以て處置したる免疫血清が甲状腺に及ぼす影響に就て, 日下部周利 (内分秘學雜誌第2巻第2號)。
- 水代謝機能に及ぼす甲状腺の影響 杉田隼人 (日本婦人科學會雜誌21巻5號)。
- 胎盤の内分秘作用に就て, 谷口彌三郎 (日本醫事新報第103,104號)。
- 婦人科疾患に對する臓器療法に就て, 山崎清 (治療新報第425號)。
- 冷血動物(龜)に對するインスリンの態度, 田桑眞男 (京都府立醫科大學雜誌1巻第1號)。
- アミノ酸の生理學的研究補遺(一) 諸種アミノ酸及び其誘導體のアドレナリン過血糖に及ぼす影響, 近野政次 (大阪醫學會雜誌第25巻第2號)。

- アミノ酸の生理學的研究補遺(2)血中アドレナリン物質點滴定量法, 近野正次 (大阪醫學會雜誌第25巻第4號)。
- ゼクレチンに關する研究, 西川恒彌 (成醫會雜誌第487號)。
- 副腎内分秘の研究, 内藤史郎 (朝鮮醫學會雜誌第58號)。
- 生體灌流法による甲状腺内分秘の研究(1) 甲状腺の生體灌流法に就て, 寺坂源雄 (朝鮮醫學會雜誌第58號)。
- 甲状腺の腸管の藥物學的反應に及ぼす影響, 館政明 (京都醫學雜誌第23巻第2號)。
- 人の松葉腺解剖及病理, 照山昇 (京都醫學雜誌第22巻第6號)。
- インシュリン作用の組織學的研究, 尾河順太郎 (東京醫事新誌第2443,2444號)。
- 諸種疾患に於ける甲状腺の化學的及病理組織學的變化に就て, 野坂綱定 (内分秘學雜誌第2巻第1號)。
- 甲状腺物質, アドレナリン及びインシュリンの筋肉ラクトアチドゲン及び諸臓器總磷酸含量に及ぼす影響に就て, 寺田幸保 (内分秘學雜誌第2巻第2號)。
- 甲状腺機能と血清内諸種酵素との關係に就て, 中村種一 (内分秘學雜誌第2巻第1號)。
- 本邦人胎兒初生兒小兒及青春期に於ける甲状腺沃度含有量に就て, 野坂綱定 (内分秘學雜誌第2巻第1巻)。
- 甲状腺劑の用途, 前田正文 (治療及處方第78號)。
- 甲状腺劑と筋無力症, 久保朝二 (實驗醫報第140號)。
- 甲状腺中毒性下痢と全副腎粉末, 錦織末富 (實驗醫報第136號)。
- 不全型粘液水腫及ネフローゼ, 岡貞亮 (神經學雜誌第26巻第7號) (福岡醫科大學雜誌第19巻第4號)。
- 粘液水腫, 佐多芳久 (テラピー第1年第2號)。
- 肥胖性生殖腺不全の營養障礙症の一例, 青木主計, 清成要平 (内分秘學雜誌第2巻第2號)。
- 類宦官症, 西野忠治郎 (實驗醫報第141號)。

- 内科領域に於けるチバエピネフリンの臨牀的治療, 中西春一 (治療及處方第 77 號)。
- 腦下垂體機能障礙に於ける基礎新陳代謝, 菊池清一 (北海道醫學雜誌第 4 年第 3 號)。
- 腦下垂體機能障礙に於ける血糖の消長に就て, 倉本周三, 石井圭器夫 (北海道醫學雜誌第 4 年第 3 號)。
- 腦下垂體腫瘍, 上野寛一 (神經學雜誌第 26 卷第 7 號) 福岡醫科大學雜誌第 19 卷 4 號)。
- 尿崩症に於ける含水炭素代謝關係, 藤井尙久 (日本消化器病學會雜誌第 25 卷第 6 號)。
- 尿崩症患者供覽, 垣内善八 (日本內科學會雜誌第 14 卷第 7 號)。
- ピツイトリンの血糖に及ぼす影響に關する實驗, 藤井尙久 (日本消化器病學會雜誌第 25 卷第 7 號)。
- 二三腺臟ホルモン製劑の生物學的比較研究, 桐田健三郎 (實驗消化器病學第 1 卷第 4 號)。
- インシュリンによりて腦溢血様症狀を呈せる一例, 比留間惠三 (治療及處方第 69 號)。
- インシュリンの脂肪及糖に及ぼす影響に關する臨牀的並びに實驗的研究, 中村環 (千葉醫學會雜誌第 4 卷第 4 號)。
- インシュリンの正常犬尿中炭素及窒素量に及ぼす影響に化て, 細田農夫 (大阪醫學會雜誌第 25 卷第 9 號)。
- 補償療法としてのインシュリン, 竹田正次 (日本消化器病學會雜誌第 25 卷第 4 號)。
- インシュリンの對糖尿病治療的價值と意義並に其適應に就て, 竹田正次 (實驗醫報第 141 號)。
- インシュリンの臨牀的應用に就て, 岡田清三郎 (實驗醫報第 141 號)。
- 非糖尿病者に於けるインシュリン應用の現況, 原素行 (治療新報第 439 號)。
- 食餌性リベミーに對するインスリンの影響, 奥岩吉 (內分泌學雜誌第 2 卷第 2 號)。

- 糖尿病患者に於けるインシュリン寡血糖症狀, 竹田正次 (實驗醫報第 139 號)。
- 卵巢及子宮內分泌の研究(2)子宮に及ぼす內分泌的影響の機轉に關する實驗的研究, 横山茂樹 (朝鮮醫學會雜誌第 66 號)。
- 卵巢及子宮內分泌の研究(3)卵巢灌流液及び卵巢製劑の藥物學的作用, 横山茂樹 (朝鮮醫學會雜誌第 67 號)。
- 副甲狀腺摘出動物瓦斯新陳代謝, 高橋義藏 (岡山醫學會雜誌第 433 號)。
- 甲狀腺及上皮小體の生理補遺(3)クレアチン及クレアチニン新陳代謝に對する甲狀腺と上皮小體との關係, 高橋義藏 (岡山醫學會雜誌第 442 號)。
- 腺臟還流試験に於けるセクレチン及び迷走神經の分泌作用に就て, 吉岡繁雄, 勝部育郎 (大阪醫學會雜誌第 25 卷第 10 號)。
- セクレチンの性狀に關する研究, 谷口積 (大阪醫學會雜誌第 25 卷第 12 號)。
- 赤血球の抵抗に及ぼす脾臟及セクレチンの影響, 稻松四郎 (大阪醫學會雜誌第 25 卷第 12 號)。
- 內分泌(辜丸卵巢), 石川日出鶴丸 (生理學研究第 3 卷第 7 號)。
- アドレナリン過血糖に及ぼすアミノ酸の影響に就て, 近野政次 (大阪醫學會雜誌第 24 卷第 7 號)。
- インシュリンの體內水分交換に及ぼす影響に就て 第一報インシュリンの血液濃度並に淋巴流に及ぼす影響, 城下良平 (北海道醫學雜誌第 3 年第 4 號)。
- 摘出臟器の藥物學的實驗, 森島庫太 (治療及處方第 80 號)。
- 急性モルフィン中毒に對するアトロピンロベリンヘキセトン及アドレナリンの影響に就て, 岩崎利三郎 (日本藥物學雜誌第 3 卷第 3 號)。
- ピツイトリンの生體家兎子宮に對する作用に就て, 佐波古直明 (日本藥物學雜誌第 2 卷第 1 號)。
- インスリンの長期注射による諸臟器の變化特に內分泌臟器の變化に就て, 武藤忠次 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。
- アドレナリン過血糖並に糖尿に就ての臨牀的觀察特に之れと肝臟疾患との關係に就て, 大森清一 (實驗消化器病學第 1 卷第 9 號)。
- アドレナリンによる部分的白血球移動の本態に就て, 平岡辰二, 任明宰 (朝

- 鮮醫學會雜誌第 69 號)。
- 餓餓の實驗的研究(2)餓餓家兎に於けるアドレナリン過血糖, 州崎敬三 (醫事新聞第 1201 號)。
- インシュリン及其他數種物質の膽汁分泌に及ぼす影響に就ての實驗的研究, 櫻井英一 (東京醫學會雜誌第 40 卷第 7 號)。
- インシュリンの血清及唾液中に於けるヂアスターゼに及ぼす影響, 平岡辰二 任明幸 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。
- 筋肉のデヒドラーゼに對するインスリンの作用, 成田央介 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。
- インスリンの尿液分泌に及ぼす影響 武藤忠次 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。
- インスリンの作用機轉に關する研究 武藤忠次 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。
- アドレナリンの血壓作用に就て 小川政治 (日本醫學會雜誌第 1 卷)。
- ピツイトリンの家兎別出子宮に對する作用に就て, 佐波古直明 (日本藥物學雜誌第 1 卷)。
- 胸腺別出による骨及び齒牙發育の變化, 生田信保 (朝鮮醫學會雜誌第 73 號)。
- 甲狀腺及副甲狀腺摘出後の齒牙發育の變化, 生田信保 (齒科學報 30 卷 3 號)。
- 植物性神經毒及ホルモンと無機鹽類との關係に就て, (第 1 報告) アドレナリン血液内無機鹽類に及ぼす影響に就て, 茂在照外 3 氏 (醫學中央雜誌第 24 卷第 21 號)。
- 白鼠の甲狀腺に就て, 山下秀之助 (北海道醫學雜誌第 4 年第 5 號)。
- 甲狀腺及上皮小體の生理補遺 (4) 甲狀腺及上皮小體の組織酸化力に及ぼす影響, 高橋義藏 (岡山醫學會雜誌第 443 號)。
- 囊に於けるセクレチンの利尿作用に就て, 藤井覺 (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 2 號)。
- 腺液灌流試驗に於けるセクレチン及迷走神經の分泌作用に就て, 吉岡繁雄, 勝部育郎 (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 3 號)。
- 甲狀腺及上皮小體の生理補遺 (2) 糖新陳代謝に對する甲狀腺及上皮小體の影響, 高橋義藏 (岡山醫學會雜誌第 442 號)。

- 腦下垂體別出後に見たる諸臟器の變化, 生田信保 (朝鮮醫學會雜誌第 70 號)。
- 腦下垂體の官能に關する實驗的研究(其 2) 腦下垂體障礙後に於ける個體の體質及内分泌臟器の變化, 田邊博憲 (慶應醫學第 6 卷第 6 號)。
- 植物性神經毒及ホルモンと無機鹽類との關係に就て, (第 2 報告) ピロカルピン注射の血液内無機鹽類に及ぼす影響に就て, 茂在照他三氏 (醫學中央雜誌第 24 卷第 23 號)。
- セクレチン及迷走神經の家兎尿液分泌作用に就て, 勝部育郎 (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 4 號)。
- 骨筋灌流試驗に於ける糖消失に及ぼすインスリンの影響, 菊名寛一 (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 3 號)。
- 肝臟の解毒ホルモンに就ての研究, 佐藤彰 (東北實驗醫學第 8 卷第 2 號)。
- 肝臟解毒ホルモンの研究(2)(英文)吉松駿一, 佐藤彰 (東北實驗醫學第 8 卷第 2 號)。
- 肝臟解毒ホルモン(ヤクリトン)(8)(英文), 佐藤彰, 櫻田彬 (東北實驗醫學第 8 卷第 3 號)。
- 肝臟解毒ホルモン(ヤクリトン)に就て(4) 佐藤彰 (東北實驗醫學第 8 卷第 3 號)。
- 生體内解毒機能に及ぼすインスリンの作用に就て 長谷川成一, 内藤業太郎 (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 3 號)。
- 牛の肝臟の含窒素浸出分に就て, 樋渡吉治 (Journal of Biochemistry 第 7 卷第 1 號)。
- 肝臟とアドレナリン 小川正春 (京都帝國大學醫學部紀要第 7 卷第 2 號)。
- 甲狀腺機能亢進を惹起したる家兎の心臓に就ての藥物學的究研, 桑波田景雄 (日本藥物學雜誌第 4 卷第 3 號)。
- 諸種内分泌臟器製劑のモルフィン毒性に及ぼす影響に就て, 藤井美知男 (日本藥物學雜誌第 3 卷第 3 號)。
- 移植腫瘍に於けるインスリン様物質の存在に就て, 一色嗣武 (臨牀醫學第 15 年第 4 號)。

頸部交感神経と甲状腺との関係に就ての實驗的研究, 加藤守吉 (神經學雜誌第 25 卷第 4 號)。

睾丸別出の免疫體に及ぼす影響に就て凝集素に関する實驗, 村上賢三 (十全會雜誌第 32 卷第 2 號)。

免疫體とホルモンとの關係殊に凝集素と睾丸との關係, 尹日善 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。

免疫體とホルモンとの關係殊に副腎皮質と凝集素との關係に就て, 片淵秀雄 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。

免疫體とホルモンとの關係殊に大脳下垂體と凝集素との關係, 梅田薫 (朝鮮醫學會雜誌第 65 號)。

免疫體とホルモンとの關係殊にインスリンと凝集素との關係, 野崎美穂 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。

免疫體とホルモンとの關係殊に肝臓と凝集素との關係, 金明學 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。

免疫とホルモンとの關係溶血素とホルモンとの關係, 徳光美福 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。

免疫體とホルモンとの關係, 徳光美福 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。

甲状腺機能の免疫學的研究, 小倉勇雄 (日本微生物學會雜誌第 20 卷第 17 號)。

甲状腺機能の免疫學的研究 (2) 甲状腺機能の免疫性血球凝集素產生に及ぼす影響, 小倉勇雄 (日本微生物學會雜誌第 20 卷第 17 號)。

甲状腺機能の免疫學的研究 (3) 甲状腺機能の免疫性沈降素產生に及ぼす影響, 小倉勇雄 (日本微生物學會雜誌第 21 卷第 1 號)。

甲状腺機能の免疫學的研究 (4) 甲状腺機能の免疫性菌凝集素產生に及ぼす影響, 小倉勇雄 (日本微生物學會雜誌第 21 卷第 2 號)。

甲状腺機能の免疫學的研究(知見補遺) 甲状腺機能の正常溶血素, 溶血性補體, 正常菌凝集素に及ぼす影響に就て, 小倉勇雄 (日本微生物學會雜誌第 21 卷第 2 號)。

胸腺の凝集素竝に過敏症に及ぼす影響に就て, 附, 過敏症と副腎アドレナリン

含有量との關係, 小川安太郎 (日本微生物學會雜誌第 20 卷第 14 號)。

結核毒素に因る海猿副腎の變化, 森茂樹, 本田蘭 (內分泌學雜誌第 2 卷第 4 號)。

植物性神經毒及ホルモンと無機鹽類との關係に就てピツイトリン注射の血液内無機鹽類に及ぼす影響に就て, 茂本照 (醫學中央雜誌第 24 卷第 24 號)。

副腎アドレナリン含有量に對する二三瘧疾毒の影響, 三條英一 (兒科雜誌第 311, 316 號)。

歳時による蝦蟇副腎アドレナリン含有量の變化に就て, 飯野豊 (兒科雜誌第 311, 316 號)。

血液及臟器フェルメントに對する腺臓ホルモン影響に就て(1), 内田謙益 (兒科雜誌第 311, 316 號)。

瞳孔のアドレナリン散大と頸部交感神経との關係に就て, 市原文雄 (中央眼科醫報第 18 卷第 6, 7 號)。

(以上, 醫學中央雜誌第 24 卷所載)。

甲状腺製劑の雞胎兒發育に及ぼす實驗的研究, 岡田實秋, (日本內分泌學會雜誌第 3 卷第 1 號)

繩縛, 麻醉, 開腹することなく, 痛を起すことなく, 犬副腎よりの血液を集むる方法, 佐武安太郎, 外二名, (Tohoku Journal of experimental medicine 第 8 卷第 6 號)

奇怪瞳孔反應による血液中エピネフリンの測定, 菅原正, (The Journal of Biophysics 第 2 卷第 1 號)

兩側副腎摘出後の血糖量及血液凝固時間に就て 岡田實秋, (日本內分泌學會雜誌第 3 卷第 1 號)

アドレナリンのヒスタミン血管擴張作用に及ぼす影響 藤井美知雄 (The Journal of Biophysics 第 1 卷第 3 號)

クロロフォルム及ウレタンの副腎分泌に及ぼす影響 小玉作治, (The Journal of Biophysics 第 1 卷第 3 號)

アドレナリンと血液脂肪竝に類脂肪體に及ぼす影響に就て 柴田經一郎, (北

- 越醫學會雜誌第40年第6號)
 副腎皮質及髓質越幾斯の血中脂肪及脂肪含量に及ぼす影響に就て 河野 勉
 (日本内分泌學會雜誌第3卷第1號)
 鶏胎兒に於ける副腎アドレナリンの發現時期並に解卵經過に伴ふ副腎アドレ
 ナリン含量の増加に就て, 奥田瑞穂 (日本内分泌學會雜誌第3卷第1號)
 インシュリン注射量と中毒症狀に就て, 大原義司 (日本内分泌學會雜誌第3卷
 第1號)
 甲状腺と結合血糖 鎌田愛治, (日本内分泌學會雜誌第3卷第1號)
 犬に於けるエーテル性過血糖及糖尿に就て, 藤井猪十郎, 高井高民 (The
 Journal of Biophysics 第1卷第3號)
 主要なる生物學的研究方法に就て及び之が示説 越智眞逸 (京都府立醫科大學
 雜誌第103號)
 副腎分佈神經に就て 倉尙貞, (京都府立醫科大學雜誌第1卷第1號)
 コレステリン型動脈硬變に對する甲状腺有效成分に就て 小田美穂, (日本内
 分泌學會雜誌第3卷第1號)
 所謂甲状腺便秘に就て 横森賢次郎 (治療及處方第8號)
 性週期と卵巢及子宮機能に關する實驗的研究 寺田正周, (實驗醫學雜誌第11
 卷第5號)
 卵巢ホルモンに關する知見 佐藤清, (臨床醫學第15年第2號)
 ホルモン學說に關する最近の思潮 越智眞逸, (京都府立醫科大學雜誌第100號)
 糖尿に於けるセクレチンの運命 中川知一, 原田三樹男 (The Journal
 of Biophysics 第2卷第1號)
 膵臓灌流試験に於けるセクレチン及び迷走神經の分泌作用に就て, (日本外科
 醫學會雜誌第4卷第1號)
 セクレチンの流血内血球及血色素に及ぼす影響 松本安太郎, (The Journal of
 Biophysics 第1卷第5號)
 セクレチンの血小板數に及ぼす影響 松本安太郎, (The Journal of Biophysics
 第2卷第1號)

- 赤血球抵抗に及ぼす脾臓及セクレチンの影響 稻松四郎, (大阪醫學會雜誌第26
 卷第5號)
 セクレチンの作用と肝臓との關係に就て 勝部育郎, (大阪醫學會雜誌第26卷第
 4號)
 小腸運動に及ぼすセクレチンの作用 垣田與二郎, 西井長一郎, (The Journal
 of Biophysics 第2卷第1號)
 兩側副腎剔出後の白鼠瓦斯新陳代謝に就て 横山武夫, 端山經道, (京都醫學
 雜誌第24卷第3號)
 肝臓の生物學的研究 稻葉通明, (The Journal of Biophysics 第2卷第1號)
 甲状腺のゴルギ氏器官に就て 石丸四郎, (Folia Anatomica Japonica 4卷1號)
 動脈硬變症の實驗的研究補遺, 陳舊なるバセドウ氏病甲状腺腫乾粉試食に因
 る動脈硬變 今井實, (滿州醫學雜誌第5卷第4號)
 膵臓酵素に因る甲状腺の變化に就て 岡室徳之助, (京都醫學雜誌第22卷第9號)
 膵臓ラ氏島の研究 特に α 及 β 細胞に就て 宮入清四郎, (東京醫學會雜誌第
 41卷第5號)
 摘出マウス子宮に緊縮劑價值檢定材料として用ひ得べきか 佐野十九一, (藥
 學雜誌 531號)
 胎盤の毒性に就ての實驗的研究 沖津亘, (朝鮮醫學會雜誌第73號)
 扁桃腺浸出液の藥物學的研究(1)人肥大扁桃腺浸出液の藥物學的研究, 須古
 義雄, (朝鮮醫學會雜誌第72號)
 扁桃腺浸出液の藥物學的研究(2)牛扁桃腺浸出液の藥物學的研究, 須古義
 (朝鮮醫學會雜誌第72號)
 コカインに對する肝臓の解毒作用に就て, 日下毅一, (日本藥物學雜誌第4卷第
 1,2號)
 アドレナリン死に對する諸種藥物の拮抗作用に就て 佐波古直明, (近畿婦人
 科雜誌第9卷第3號)
 過血糖を標準として窺ひたるアドレナリン作用の研究(第一報)アドレナリン
 生體內に於ける運命並にアドレナリン適用部位と過血糖との關係に就

- ての研究, アドレナリンと過血糖と糖尿との關係 國香哲三郎 (日本藥物學雜誌第 2 卷第 3 號)
- アドレナリン熱に關する研究 阿部龍夫, (慶應醫學第 7 卷第 4 號)
- 副腎アドレナリン量に及ぼす植物性神経系の影響に就て 阿部龍夫, (慶應醫學第 7 卷第 4 號)
- インシュリンの副腎アドレナリン含有量に及ぼす影響 阿部龍夫, (慶應醫學第 7 卷第 5 號)
- アドレナリンの臓器に及ぼす作用は果して純末梢性のものなりや(3)腎血管のアドレナリンに對する態度に就て 梶原三郎, (日新醫學 16 年第 8 號)
- アドレナリンの血管收縮作用に及ぼす諸種藥物の影響に就て 長澤博, (京都醫學雜誌第 22 卷第 5 號)
- アドレナリンの效用と其適用部との關係に就て 小川政治, (日本藥物學雜誌第 4 卷第 1, 2 號)
- アドレナリンによる灌流囊肝臟出糖に及ぼすチロジン並にロイチンの影響に就て 梶原, 長谷川, (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 1 號)
- 副腎摘出白鼠に於ける諸種藥劑の血管作用に就て 端山經道, (京都府立醫科大學雜誌第 102 號)
- 臨牀上アドレナリン應用に當りての注意二三 田村憲造, (セラピー第 2 年第 7 號)
- 鹽酸ピロカルピンの副腎分泌機能に及ぼす作用 松岡喬, (北海道醫學雜誌第 4 年第 5 號)
- インシュリンの減血糖作用に及ぼすアトロピンの影響に就て 瀬尾辰雄, (慶應醫學第 6 卷第 8 號)
- 心臟機能の自家調節に就て 奥野徹, (東京醫學會雜誌第 40 卷第 12 號)
- 高血壓病の臓器製劑療法 倉上由一, (治療及處方第 87 號)
- インシュリンの血小板に及ぼす影響 祝洋之助, (內分泌學雜誌第 2 卷第 3 號)
- 脾臟別出家兎の血小板に對するインシュリン及甲状腺ホルモンの相互作用 祝洋之助, (日本內分泌學雜誌第 3 卷第 1 號)

- アドレナリン注射による部分的白血球移動の本態に就て 平岡, 任明, (朝鮮醫學會雜誌第 76 號)
- 生殖腺摘出後の齒牙發育の變化 生田信保, (朝鮮醫學會雜誌第 54 號)
- 鶏胎兒に於ける副腎アドレナリンの發現時期並に鶏卵孵化に伴ふ副腎アドレナリン含量の増加に就て 奥田瑞穂, (長崎醫學會雜誌第 5 卷第 3 號)
- 骨格筋灌流試験に於ける糖消失に及ぼすインシュリン影響 菊名寛一, (大阪醫學雜誌第 26 卷第 6 號)
- 胎盤エキストラクトの雌性生殖器系並に他臓器に及ぼす影響に就て 鈴木仙次郎, (千葉醫學會雜誌第 3 卷第 2 號)
- 去勢のコーベル氏腺及ぼす影響 中島鎌太郎, (北海道醫學雜誌第 3 年第 6 號)
- 胸腺摘出後に於ける齒牙及び骨の變化に就て 生田信保 (朝鮮醫學會雜誌第 69 號)
- 內分泌腺と齒牙發育との關係に就て 生田信保 (朝鮮醫學會雜誌第 74 號)
- 齒牙細胞成分の非徑口的投與の齒牙の構造及齒牙發育の影響 柴田信 (齒科新報第 19 卷第 11, 12 號)
- 別出蛙心臟に於けるアドレナリンの藥物學的知見補遺 鹽谷信男 (朝鮮醫學會雜誌第 75 號)。
- 心臟に對するアドレナリン及カルチウム作用の少々注意すべき事實 村瀬, 中島 (愛知醫學會雜誌第 33 卷第 6 號)
- 血液腺(內分泌腺)の臨牀的意義に就て 菅沼清次郎 (治療及處方第 86 號)
- 內分泌の神経系統に對する影響 福島東作 (醫學輯覽第 23 號)
- 內分泌臓器間の相互關係に對する實驗的研究 小池龜代治 (日本內科學會雜誌第 14 卷第 3 號第 11 號)
- 甲状腺沃度含有量に關する研究 野坂綱定 (日本內科學會雜誌第 14 卷第 9 號)
- 非徑口的に注入せる甲状腺細胞成分の血糖量に及ぼす影響に就て 櫻井信太郎 (實驗醫學雜誌第 11 卷第 3 號)
- 甲状腺試食並に別出が幼若動物の骨發育特に骨端線に及ぼす影響に就て 西村俊一 (內分泌學雜誌第 2 卷第 6 號)

- 諸種毒物に対する甲状腺の態度, 飯坂直彦 (内分泌學雜誌第 1 卷第 4 號)。
 臨床的カロリメトリー研究 (2) 健康者並に疾患特に甲状腺疾患に於ける基礎新陳代謝に就て 伊藤、鄭、林、(朝鮮醫學會雜誌第 69 號)。
 結核患者の甲状腺機能状態に就て, 高橋皓 (北海道醫學雜誌 3 年第 3 號)。
 バセドウ氏病患者に併發せる急性胃擴張症に就て, 末松、勝部 (内分泌學雜誌 1 卷第 4 號)。
 再び破瓜期假性バセドウ氏病に就て, 横森賢治郎 (實驗醫報第 146 號)。
 バセドウ氏病とインシュリン, 竹田正次 (診斷治療第 14 卷第 1 號)。
 バセドウ氏病の臓器療法に就て, 森安連治 (セラピー第 3 年第 9 號)。
 バセドウ氏病と沃度, 小林義雄 (醫事公論第 738 號)。
 バセドウ氏病沃度療法に就て, 櫻井英一 (臨牀醫學第 13 年第 9 號)。
 バセドウ氏病の治療方針, 太田賢一郎 (セラピー第 3 年第 4 號)。
 不全型バセドウ氏病に就て, 橋本寛敏 (診斷治療第 14 卷第 4 號)。
 粘液水腫の一例特に甲状腺劑の影響に就て, 空地純一 (臨牀第 2 卷第 4 號)。
 甲状腺完全形式缺損の一例, 佐藤進 (岡山醫學會雜誌第 433 號)。
 悪性甲状腺腫, 小林義雄 (醫事公論第 724 號)。
 インシュリンの作用と體細胞の糖收容力との關係, 黒川利雄 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 9 號)。
 膵臓ホルモンの淋巴に及ぼす影響, 桂高鴻, 小塚喜四郎 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 9 號)。
 インシュリンの膵臓外分泌に及ぼす影響, 吉田武夫 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 9 號)。
 インシュリンの膵臓外分泌に及ぼす影響に就て, 小野純一 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 9 號)。
 インシュリンによる横紋筋内血流速度酸素消費及び血糖量の變化に就て, 木村小太郎, 高橋廣治, (日本内科學會雜誌第 14 卷第 9 號)。
 食餌性リペミーとインシュリンとの關係, 奥岩吉 (日本内科學會雜誌 第 14 卷第 9 號)。

- インシュリンが動物の諸種臓器及び全身脂肪含有量に及ぼす影響に就て, 木村節次郎, 新田一衛 (内分泌學會雜誌第 2 卷第 6 號)。
 インシュリン注射の尿中クレアチン, クレアチニン及窒素量に對する關係に就て, 森良介, 瀧田源三郎, 槍山健男 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 3 號)。
 インシュリン作用によりて肝臓及び其他臓器に起る組織學的變化に就て, 尾河順太郎 (日本内科學會雜誌第 24 卷第 1180 頁)。
 インシュリンの血糖降下作用機轉に關する實驗的研究(第二回報告), 永末修 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 3 號)。
 インシュリンと採血内糖分解酵素との關係, 岸松郷 (京都醫學雜誌第 23 卷第 12 號)。
 インシュリン注射による血液成分變化に就て, 紅谷庄吉 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 3 號)。
 インシュリン注射に因る水血症並に血液濃縮機能に就て, 堀野計一 (千葉醫學雜誌第 5 卷第 3 號)。
 含水炭素中間新陳代謝並に對するインスリン及ビタミンの作用, 篠田義市 (近世醫學第 12 卷第 7, 9, 10 號)。
 糖尿病に於ける含水炭素收容力に對するインスリンの影響に就て, 長沼良平 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 5 號)。
 補償療法としてインシュリン, 竹田正次 (日本内科學會雜誌第 25 卷第 6 號)。
 糖尿病インシュリン療法と食餌との關係, 竹田正次 (内外治療第 1 年第 5 號)。
 糖尿病のインシュリン療法, 竹田正次 (治療及處方第 76, 77, 79, 80 號)。
 糖尿病のインシュリン療法, 特に抗インシュリン性糖尿病に就て, 竹田正次 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 9 號)。
 インシュリン注射の回数に就て, 竹田正次 (セラピー第 3 年第 9 號)。
 糖尿病患者の食餌療法及びインシュリン療法效果比較, 横田 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 3 號)。
 食餌療法とインシュリン療法とは輕症糖尿病患者に對し何れが有效なりや,

- 横田 (日新醫學第 16 年第 8 號)。
- 糖尿病とインスリン, 篠田義市 (日本消化機病學會雜誌第 24 卷第 4 號)。
- 糖尿病の膵ホルモン療法, 熊谷岱藏 (日新醫學第 15 年第 3 號)。
- インベリンの臨牀實驗, 桐田健三郎 (内外治療第 1 年第 4 號)。
- インシュリン使用上の注意, 福島寛四 (セラピー第 3 年第 6 號)。
- インシュリンに就て, 坂田康藏 (日本之醫界第 15 卷第 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74 號)。
- 腦下垂體と體温(烏を以ての實驗), 西村八郎 (醫學中央雜誌第 25 卷 421 頁)。
- 饑餓時に於けるアドレナリン注射の家兎肝糖原量に及ぼす影響に就て, 松井慶事 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 9 號)。
- インスリン及甲状腺物質が諸臓器のオキシダーゼに及ぼす影響, 森健吉, 安田徳太郎 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 9 號)。
- インスリン及甲状腺物質が諸臓器のオキシダーゼに及ぼす影響, 森健吉 (内分泌學雜誌第 2 卷第 6 號)。
- アドレナリン, インシュリン, ビツイトリンの血液カタラーゼに及ぼす影響に就て, 吉田米太郎 (實驗消化器病學第 1 卷第 11 號)。
- ビツイトリンの膵臓分泌に及ぼす影響に就て, 小野純一 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 3 號)。
- ビツイトリンの家兎腦脊髄液糖量に及ぼす影響, 玉木梧郎 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 3 號)。
- 腦下垂體の官能に関する實驗的研究(其三)
- 腦下垂體障礙後に於ける血糖の變化に就て, 田邊博憲 (慶應醫學第 6 卷第 9 號)。
- 腦下垂體摘出家兎の體質異常に就て 附. 腦下垂體とオステオマラチーとの關係, 楠五郎雄 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 1 號)。
- 腦下垂體性惡液質の症候に就て, 齋藤權左衛門, 武谷凱三 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 11 號)。
- 腦下垂體性侏儒, 松尾巖 (實驗醫報第 145 號)。

- 腦下垂體製劑の應用, 吾妻俊夫 (近世醫學第 12 卷第 11 號)。
- 尿崩症の治療と腦下垂體後葉製劑特にアトニンに就て, 伊藤正義 (内外治療第 2 年第 2 號)。
- 尿崩症, 加藤豊次郎 (東京醫事新 2401, 2402 號)。
- 諸種内分泌の血液内脂肪及び類脂肪體に及ぼす影響 特に共相互關係に就て, 奥岩吉 (日本内科學會雜誌第 14 卷第 3 號)。
- 内分泌と神経系統との關係, 福島東作 (醫學輯覽第 21 號)。
- 臓器製劑の實驗に際して特に注意すべき要點, 越智眞逸 (内外治療第 2 年第 6 號)。
- 動物體内に於て甲状腺物質がキヌーレン酸排泄に及ぼす影響, 中尾武夫 (實驗消化器病學第 2 卷第 2 號)。
- 膵ホルモンと鹽類代謝, 武内宗四郎 (東北醫學雜誌第 10 卷第 3 冊)。
- 家兎盲腸粘膜に於けるインシュリン様病質に就て, 御前慶造 (岡山醫學會雜誌第 446 號)。
- 腎臓血管の藥理 (2) 腦下垂體後葉製劑の作用, 尾崎正道 (北海道醫學雜誌第 3 年第 3 號)。
- 臓器製劑に就ての經驗, 山崎清 (内外治療第 2 年第 6 號)。
- 産婦人科に於ける臓器製劑應用に就ての經驗, 谷口彌三郎 (内外治療第 2 年第 6 號)。
- 腔分泌物と腔グリコゲン及び卵巣内分泌作用との相互關係に就ての研究, 三浦久治 (日本微生物學會雜誌第 19 卷第 11 號)。
- 腦下垂體別出の一新法に就て, 生田信保 (朝鮮醫學會雜誌第 65 號)。
- アクロメガリー(肢端肥大症), 慶大茂木外科所藏 (臨牀醫學寫眞圖譜第 6 卷第 5, 6 號)。
- 兩側副腎を除去したる白鼠の體温調節並に其新陳代謝機能, 端山經道, 横山武夫 (京都府立醫科大學雜誌第 103 號)。
- 内分泌物質は如何にして分離されたるか, 辻寛治 (内分泌學會雜誌第 1 卷第 5 號)。

- 肝臓の解毒ホルモン(ヤクリトン)の研究(5), 尿素中毒に対する豫防的效果に就て, 櫻内彬, 佐藤彰 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 9 卷1 號)
- 消化管特に胃及腸管のホルモンに就ての研究(一), 越智眞逸 (京都府立醫科大學雜誌第1 卷第2 號)。
- セクレチンの作用と肝臓との關係に就て, 勝部育郎 (大阪醫學會雜誌第26 卷第7 號)。
- 十二指腸粘膜抽出液の利尿作用に関する實驗的研究, 三宅一之 (大阪醫學會雜誌第24 卷第3 號)。
- セクレチンの利尿作用に就て, 櫻井清香 (大阪醫學會雜誌第24 卷第8 號)。
- 胃粘膜より硫酸を以て抽出し得る蠕動ホルモン様物質に就て, 湯川啓吾 (實驗消化器病學第2 卷第2 號)。
- アドレナリンが副腎よりのアドレナリン分泌に及ぼす影響, 菅原正, 齋藤靜, 根本衛 (Tohoku Journal of Experimental Medicine 第9 卷第2, 3 號)。
- ストリキニーネが犬の副腎よりのアドレナリン分泌速度に及ぼす影響, 渡邊政之助, (Tohoku Journal of Experimental Medicine 第9 卷第2, 3 號)。
- アドレナリンの一新證明法, 築地美暢 (福岡醫科大學雜誌第20 卷第7 號)。
- インシュリン痙攣時に於ける正常犬血液の化學的變化に就て, 永末修, 松井慶事 (日本內科學會雜誌第15 卷第5 號)。
- 人の松果腺の解剖及病理, 照山昇 (內分泌學雜誌第1 卷第4 號)。
- 諸種細菌毒による甲状腺の組織學的變化, 飯塚直彦 (內分泌學雜誌1 卷3 號)。
- 胸腺レントゲン刺戟放射による尋常性乾癬の療法に就て, 鳥居環 (日本レントゲン學會雜誌第2 卷第1 號)。
- バセドウ病に対するX光線治療に就て, 上原純之助 (海軍軍醫學會雜誌第16 卷第1 號)。
- 副腎別出の雌性生殖器に及ぼす影響に就て, 北川重夫 (東京醫學會雜誌第40 卷第12 號)。
- 甲状腺中毒による雌性生殖腺の變化に関する實驗的研究, 松本清治 (東京醫

- 學會雜誌第40 卷第12 號)。
- 兩側副腎別出と骨折治癒現象に就て, 小林隆義 (日本藥物學雜誌第5 卷第1, 2 號)。
- アドレナリン熱に関する研究, 阿部龍夫 (慶應醫學第7 卷第4 號)。
- 副腎アドレナリン量に及ぼす植物性神経系の影響に就て, 阿部龍夫 (慶應醫學第7 卷第4 號)。
- 過血糖を標準として窺ひたるアドレナリン作用の研究(2) アドレナリン過血糖に及ぼす交感神経毒の影響に就て, 附, アドレナリン過血糖と糖尿との關係, 國香哲三郎 (日本藥物學雜誌第5 卷第1, 2 號)。
- 血管神経を切断せる血管に対するアドレナリンの作用に就て, 早川與一郎 (京都醫學會雜誌第22 卷第9 號)。
- 細菌毒素のアドレナリン分泌に及ぼす影響に就て, 小野清八 (日本藥物學雜誌第5 卷第1, 2 號)。
- 副腎皮質製劑インテレニンの藥物學的作用に就て, 藤井美知男 (日新醫學第17 年第1 號)。
- インシュリンの子宮作用, 錦見慶介 (日本藥物學雜誌第5 卷第1, 2 號)。
- インシュリンに関する實驗的研究, 池谷潤 (東京醫學會雜誌第41 卷第7 號)。
- 食鹽中樞と甲状腺, 杉田隼人 (日本藥物學雜誌第5 卷第1, 2 號)。
- 食鹽中樞と副腎(アドレナリン内分泌), 阿部龍夫, 佐藤盛二 (日本藥物學雜誌第5 卷第1, 2 號)。
- 甲状腺を別出せる家兎の心臟に就ての藥物學的研究, 桑波田景雅 (日本藥物學雜誌第5 卷第3 號)。
- 甲状腺とアセトニトリール解毒に及ぼす諸種ホルモンの影響に就て, 財津龍三 (日本藥物學雜誌第5 卷第3 號)。
- 甲状腺を別出せる家兎の心臟に就て藥物學的研究, 桑波田景雅 (日本藥物學雜誌第5 卷第1, 2 號)。
- 甲状腺の代償性肥大に関する實驗的研究, 岡室徳之助 (京都府立醫科大學雜誌第103 號)。

- 特に廣汎性骨轉移を示せる悪性腫瘍剖検に於る上皮小體に就て, 黒川清之
 (日本内分泌學會雜誌第3卷第3號)。
 胸腺組織の腸内迷入に就て, 鈴江 (乳兒學雜誌第2卷第2,3號)。
 マウス副腎の組織學的竝に組織發生學的研究, 別所 (愛知醫學會雜誌第34卷
 第6號)。
 結核感染の副腎に及ぼす影響に就て, 高龜 (結核 第3卷第8號)。
 (以上, 醫學中央雜誌第25卷所載)
 臨床上必要なる神經主宰に就て, 越智眞逸 (日本醫事新報第175號)。
 蟄に於ける腦下垂體と皮膚 Melanophoren との關係, 挾間文一 (長崎醫學會
 雜誌第5卷第4號)。
 内分泌腺エツキス竝にヒスタミンの腺外分泌に對する作用の實驗的研究,
 小野純一 (北海道醫學雜誌第5年第2號)。
 鹽酸グアニジンが犬副腎よりのアドレナリン分泌及血糖含有量に及ぼす影響,
 菅原, 多田 (Tohoku Journal of Experimental Medicine 第9卷第4號)。
 鹽酸ベータテトロヒドロナフチールアミンが猫副腎よりのアドレナリン分泌
 に及ぼす影響, 菅 (Tohoku Journal of Experimental Medicine 第9卷第4
 號)。
 呼吸とアドレナリン, 淺田一 (醫海時報第1674號)。
 精系又は睾丸組織注射による白鼠生殖腺の官能的及組織的變化に就て, 森棟
 賢隆 (日本藥物學雜誌第5卷第1,2號)。
 子癩内分泌腺臟器の病理特に其甲状腺に於ける新所見, 昭山昇 (内分泌學雜
 誌第1卷第3號)。
 アドレナリン中毒による睾丸の病變に就て, 江口勝二 (實驗醫學雜誌第11卷
 第8號)。
 睾丸内分泌に關する實驗的研究, 藤田宗一 (醫事公論第689號)。
 二, 三内分泌臟器製劑が鳩の白米病に及ぼす影響に就て, 城野寛 (滿州醫學
 雜誌第6卷第4號)。
 インスリン注射後の初期血糖上昇に就て, 小室昌義 (日本内分泌學會雜誌第3

- 卷第1號)。
 インスリン血糖降下に及ぼす諸種物質の作用に就て, 織田, 小室, (日本内分
 泌學會雜誌第3卷第1號)。
 インシュリン及びアドレナリンによる血糖の筋肉内消費に就て, 楠五郎雄
 (日本內科學會雜誌第14卷第3號)。
 病的液體の結合糖竝に之に對するインシュリンの影響, 北村邦太郎 (日本内
 分泌學會雜誌第3卷第1號)。
 インシュリンの腺外分泌に及ぼす影響, 武藤忠次 (朝鮮醫學會雜誌第77號)。
 インシュリンの摘出平滑筋臟器に對する作用に就ての疑義, 久保園善次郎
 (日本内分泌學會雜誌第2卷第6號)。
 脾臟別出家兔血小板數に及ぼすインシュリン及甲状腺ホルモンの相互作用
 祝洋之助 (日本内分泌學會雜誌第3卷第2號)。
 インシュリンの副作用に就て, 南, 岩鶴 (治療及處方第90號)。
 甲状腺別出の腺内分泌に及ぼす影響, 山田立義 (熊本醫學會雜誌第3卷第3
 號)。
 網狀織内皮細胞の機能に及ぼす甲状腺の影響に就て, 宮村, 小川 (日本内分
 泌學會雜誌第3卷第2號)。
 甲状腺物質過給による臟器内及び外神經節細胞の變性に就て, 松浦 (日本内
 分泌學會雜誌第1卷第6號)。
 甲状腺と胎盤との關係に就て, 久保園善次郎 (日本内分泌學會雜誌第3卷第1
 號)。
 甲状腺試食動物に於ける腦下垂體の組織學的變化に就て, 清成, 西村 (日本
 内分泌學會雜誌第3卷第1號)。
 甲状腺疾患の基礎新陳代謝竝に二三特種處置の影響, 龜井 (日本内分泌學會
 雜誌第3卷第2號)。
 甲状腺とグリコーゼ, 今西義男 (日本内分泌學雜誌第3卷第1號)。
 甲状腺と血液凝固時間及び血液中フィブリノーゲン含有量との關係, 佐々木,
 市川 (日本内分泌學會雜誌第3卷第1號)。

- 諸種内分泌の血液内脂肪及類脂肪體に及ぼす影響(2), 奥岩吉 (日本内分泌學會雜誌第 1 卷第 5 號)。
- バセドウ氏病患者血清の平滑筋に對する作用に就て, 久保園善次郎 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 1 號)。
- 粘液水腫, 特に其心臟の變化に就て, 大江, 武内 (東北醫學雜誌第 10 卷第 3 冊)。
- 臟器藥特に腺臟及び甲狀腺製劑に就て, 氏原均一 (内外治療第 2 卷第 6 號)。
- アドレナリンの一新證明法に就て, 築地美暢 (日本內科學雜誌第 14 卷第 11 號)。
- アドレナリンの血中脂肪體竝に類脂肪體に及ぼす影響, 柴田經一郎 (日本內科學雜誌第 14 卷第 11 號)。
- 副腎皮質エツキスの家兎摘出子宮運動に對する作用に就て, 久保園 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 1 號)。
- 結核毒素による「モルモット」副腎の變化, 森茂樹 (日本内分泌學會雜誌第 2 卷第 4 號)。
- 副腎の組織呼吸に對するインシュリン及びアドレナリンの作用に就て, 長谷川忠三 (十全會雜誌第 32 卷第 5 號)。
- アデソン氏病の臨牀及病理的所見に就て, 日下部周利, 井上實知, 溝上三保 (内分泌學雜誌第 1 卷第 5 號)。
- 鞏皮症の一例殊に本症と内分泌臟器就中副腎に於ける病變との原因的關係に就て, 倉本周三 (北海道醫學雜誌第 5 年第 3 號)。
- 眞性侏儒の一例 (ナノソミア, インファンチリス) 就て, 若林春治 (北越醫學會雜誌第 42 年第 3 號)。
- 胸腺及び生殖腺が骨發育に及ぼす影響に就て, 清成要平 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 1 號)。
- ビタミン B 缺乏食飼養動物の諸種臟器脂肪含有量に及ぼす影響に就て, 大村節次郎 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 1 號)。
- 類宦官症の一例に於ける二三の觀察, 附, 兒態症の一例, 藤井尙久, 多々見徳元

- (グレンツゲビート第 1 卷第 4 號)。
- 内分泌腺の血液の呼吸(酸素消費量)に及ぼす影響に就て, 塚本榮七郎 (日本內科學雜誌第 14 卷第 11 號)。
- アドレナリン注射による眼壓變化の機轉に就て, 中島實 (日本眼科學會雜誌第 30 卷第 11 號)。
- 副腎の組織呼吸に對するインシュリン及アドレナリンの作用に就て, 長谷川忠三 (十全會雜誌第 30 卷第 5 號)。
- 肺臟の組織呼吸に及ぼすインシュリン及びアドレナリンの作用に就て, 長谷川忠三 (十全會雜誌第 32 卷第 7 號)。
- 諸種臟器組織のオキシターゼに及ぼす影響, 安田徳太郎 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 1 號)。
- セクレチンの家兎血液瓦斯に及ぼす影響, 三宅一之, 佐谷春隆 (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 11 號)。
- 赤血球沈降速度に關する研究特にセクレチン及脾臟の影響, 高階徑世 (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 11 號)。
- 主要なる生物學的研究方法に就て(綜説), 越智眞逸 (日新醫學第 14 年第 6, 7 號)。
- 諸種副腎製劑の血管作用に關する比較研究, 藤井富夫 (愛知醫學會雜誌第 34 卷第 9 號)。
- ラツテ副腎の組織學的竝に組織發生學的研究, 別所正恭 (愛知醫學會雜誌第 34 卷第 11 號)。
- アデソン氏病成因研究の趨勢, 梅原信正 (醫事公論第 755 號)。
- 松果腺別出の甲狀腺發育の影響に就て, 秋山成六 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 5 號)。
- 自鼠に於ける副腎全別出及自家移植に就て, 秋山成六 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 5 號)。
- 臟器療法と臟器製劑の治療的價值, 近藤尙二 (東京醫事新誌第 2511 號)。
- 副腎と腸チフス, 加藤耕藏 (日本傳染病學雜誌第 2 卷第 1 號)。

- バセドウ氏病に関する研究, 加藤守吉 (日本外科學會雜誌第 1, 2, 3, 4, 5, 7 號)。
 肝臓の解毒作用知見補遺, 齋藤二郎 (兒科雜誌第 305 號)。
 尿素中毒に對するヤクリトンの豫防的效果, 櫻田, 佐藤 (兒科雜誌第 323 號)。
 家兔發育狀態と副腎アドレナリン量に對するレントゲン線の影響との關係,
 松田知三 (醫事新聞第 1211 號)。
 副腎アドレナリン量に對するレントゲン線と動物毛色との關係, 松田知三
 (醫事新聞第 1211 號)。
 人胎盤の研究, 朝岡稻太郎 (日新醫學第 17 年 3 號)。
 諸種臓器抽出液の哺乳動物心臓特に冠狀血管に對する作用に就て, 河野成章
 (大阪醫學會雜誌第 26 卷第 12 號)。
 血液凝固に関する研究(特にセクレチンの影響に就て), 高階經世 (大阪醫學
 會雜誌第 26 卷第 12 號)。
 内分泌腺と血清内諸酵素との關係に就て, 小池親鑑 (熊本醫學會雜誌第 3 卷第
 6 號)。
 諸種内分泌と臓器組織呼吸に就て, 前田 (日本内分泌分會雜誌第 3 卷第 4 號)。
 アドレナリンの血液脂質に及ぼす影響に就て, 柴田經一郎 (東京醫學會雜誌
 第 41 卷第 11 號)。
 胃粘膜浸出液の利尿作用に就て, 石川考壽 (慶應醫學第 7 卷第 6 號)。
 生體灌流法による甲状腺内分泌の研究, 寺阪源雄 (朝鮮醫學會雜誌第 82 號)。
 インズリンの藥物學的知見補遺, 吳之錫 (朝鮮醫學會雜誌第 77 號)。
 アドレナリンが呼吸中樞に及ぼす影響に就て, 來須正男 (日本外科寶函第 4
 卷第 4 號)。
 植物性神経系毒殊にアドレナリン及びピロカルピンの乳腺分泌機能に及ぼす
 影響, 高橋四郎 (京都醫學雜誌第 24 卷第 7 號)。
 蛙腎臓に對する腦下垂體後葉製劑作用, 風呂中不二夫 (朝鮮醫學會雜誌第 84
 號)。
 甲状腺機能知見補遺, 浮田, 吉富 (兒科雜誌第 323 號)。
 再び副甲状腺に就て, 平井金三郎 (兒科雜誌第 320 號)。

- 先天性粘液水腫患者供覽, 齋藤, 田 (日本内泌學會雜誌第 15 卷第 8 號)。
 ホルモンの分泌路に関する研究(一)腺及睾丸ホルモンに就て, 武藤忠次 (朝
 鮮醫學會雜誌第 78 號)。
 インシュリンの血糖降下機轉に就て, 松岡文七 (日新醫學第 17 卷第 5 號)。
 破傷風毒液の靜脈内注射が犬の副腎よりのアドレナリン分泌速度に及ぼす影
 響に就て, 渡邊政之助 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 10
 卷第 1, 2 號)。
 消化管内に與へられたるアドレナリンの血糖に及ぼす影響に就て, 櫻井虎雄
 (東京醫事新誌第 2534 號)。
 實驗的糖尿に對するアドレナリンの影響に就て, 中島豊 (日本藥物學雜誌第 5
 卷第 3 號)。
 人體睾丸全摘出の植物性神経系統, 及, 中間新陳代謝物質並に腦下垂體及副
 腎機能に及ぼす影響に就て, 吉田元庸(日本外科學會雜誌 28 回 6 號)。
 バセドウ甲状腺別出後の發熱血壓上昇及脈搏頻數に就て, 小川蕃 (日本外科
 學會雜誌第 28 回臨時號)。
 バセドウ氏病の治療法, 日野一郎 (治療及處方第 89 號)。
 インシュリンの卵巢に及ぼす影響の組織的研究, 水美登利 (十全會雜誌第 32
 卷第 10 號)。
 卵巢別出後の脱落症狀に就て, 西井壽吉 (グレンツゲベート第 2 卷第 2 號)。
 稀有なる腦下垂體腫瘍, 新井寛治 (東北醫學雜誌第 10 卷第 3 冊)。
 腦下垂體腫瘍の二例, 祝洋之助 (日本内泌學會雜誌第 3 卷第 5 號)。
 副腎摘出家兔に於けるウレタン過血糖に就て, 館宏, 平山宗造 (The Tohoku
 Journal of Experimental Medicine 第 10 卷第 3 號)。
 須藤井上氏法によるエピネフリン測定用一新比色計, 兒嶋武夫 (Tohoku Jou-
 rnal of Experimental Medicine 第 10 卷第 3 號)。
 ヒポフィーゼの内分泌に就て, 佐藤銀一 (東京醫學會雜誌第 41 卷第 12 號)。
 腦下垂體のホルモンに就て, 野口猪之助 (海軍軍醫會雜誌第 15 卷第 4 號)。
 内分泌物質の物質代謝調節作用に就て, 高畑哲五郎 (熊本醫學會雜誌第 3 年 6

- 號)。
- 細胞酵素生成に對する諸内分泌物質の態度に就て, 高畑哲五郎 (内分泌學雜誌第 3 卷第 5 號)。
- アドレナリン溶液の分解速度に就て, 上田勝 (醫局及藥局第 4 卷第 11, 12 號)。
- 甲狀腺のアセトニトリール解毒に及ぼす諸種ホルモンの影響に就て, 財津龍三 (長崎醫學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- 腎臓の水分竝にクロールナトリウム排泄に關する實驗的研究(三) 腎臓の水分竝にクロールナトリウム排泄に及ぼす腦下垂體後葉ホルモンの影響に就て, 財津龍三 (長崎醫學會雜誌第 5 卷第 4 號)。
- インシュリンの徑口的投與に就て, 阪口康藏 (實驗醫學第 151 號)。
- インシュリン療法, 阪口康藏 (日本醫事新誌第 188, 189, 191, 199 號)。
- インシュリンに關する臨牀的竝に實驗的知見, 竹田正次 (醫海時報第 1684 號)。
- インシュリンの筋肉内糖消費及グリコリゼに對する作用に就て, 本間純 (日本內科學會雜誌第 15 卷第 5 號)。
- インシュリンと水代謝との關係, 竹田正次, 岡本金作 (内分泌學雜誌第 3 卷第 1 號)。
- 脾臓と甲狀腺との交互作用に關する研究 Kottman 氏反應による知見, 綱島義人 (岡山醫學會雜誌第 39 年第 10 號)。
- 網狀織内細胞の機能に及ぼす甲狀腺の影響に就て, 宮村三郎, 小川吾七郎 (内分泌學會第 3 卷第 1 號)。
- 甲狀腺とプリン代謝との關係に就ての研究(一) 犬ぶりん代謝に及ぼす甲狀腺の影響, 若林鱗之助 (内分泌學雜誌第 2 卷第 2 號)。
- 甲狀腺とプリン代謝との關係に就ての研究(二) 甲狀腺機能障礙患者のプリン代謝に就て甲狀腺劑投與の影響, 若林鱗之助 (内分泌學雜誌第 2 卷第 3 號)。
- 甲狀腺機能障礙の際に於ける赤血球沈降速度に就て, 上野直 (内分泌學雜誌第 2 卷第 5 號)。
- 甲狀腺機能障礙が赤血球沈降速度に及ぼす影響の本態に就て, 上野直 (内分

- 泌學雜誌第 2 卷第 5 號)。
- 粘液水腫, 飯塚直彦 (診斷と治療第 14 卷第 9 號)。
- 甲狀腺劑及び其使用に關する注意, 木場武雄 (治療新報第 468 號)。
- 副腎の組織呼吸に對するインスリン及びアドレナリンの作用に就て, 長谷川忠三 (日本內科學會雜誌第 15 卷第 5 號)。
- 尿崩症に關する實驗的研究, 黒瀬 (岡山醫學會雜誌第 456 號)。
- 生殖腺ホルモン製劑の內科的應用に就て, 横森賢治郎 (テラピー第 4 年第 1 號)。
- 黃體を除去せる牛卵巣エキスが雌家兔脾臓の血小板抑留作用に及ぼす影響, 大塚珍三 (醫學中央雜誌第 26 卷 729 頁)。
- 種々の内分泌腺及若干の植物神經毒の血液呼吸に及ぼす影響竝に其相互關係に就て, 塚本 (日本內科學會雜誌第 15 卷第 5 號)。
- 晩近に於けるホルモン療法の趨勢, 松岡謙之助 (内分泌學雜誌第 3 卷第 4 號)。
- 蟲様垂の生物學的研究, 岡野友藏 (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 2 號)。
- 腦下垂體の生理に關する實驗的研究, 楠 五郎雄 (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 5 號)。
- アドレナリン反覆注射が糖質代謝に及ぼす影響に就て, 知見補造, 中川 (醫事新聞第 1234 號)。
- アドレナリン及びインスリンの血液内鹽素に及ぼす影響, 田村實眞 (朝鮮醫學會雜誌第 87 號)。
- ピットリンの子宮作用に就て, 岡崎義質 (日本藥物學雜誌第 6 卷第 1 號)。
- 内分泌と體質及び疾病, 中村八太郎 (日本之醫界第 17 卷第 86 號)。
- 免疫體とホルモン殊に副腎皮質と凝集素との關係, 片淵秀雄 (朝鮮醫學會雜誌第 77 號)。
- 免疫體とホルモンとの關係(一), 肝臓物質に依る凝集素變動の本態に就て, 金明學 (朝鮮醫學會雜誌第 79 號)。
- 免疫體とホルモンとの關係(二), 腎臓物質に依る凝集素變動の本態に就て, 金明學 (朝鮮醫學會雜誌第 79 號)。

ホルモンと免疫體との關係に就て特に卵巣濾胞水及黃體乳劑注射による凝集價變動の本態に就て(一), 凝集素に及ぼす濾胞水の作用, 今村豊八 (日本内科學會雜誌第 15 卷第 9 號)。

免疫體とホルモンとの關係に就て, 梅田 (朝鮮醫學會雜誌第 79 號)

外科領域に於けるインスリン療法, 木村辰三 (臨牀醫學第 14 年第 11 號)。

胎盤食鹽水浸出液胎盤製劑並に卵巣黃體製劑の乳汁分泌に及ぼす影響, 高橋四郎 (京都醫學雜誌第 24 卷第 9 號)。

胎盤エキスの藥物學的作用に就て, 小榮次郎 (近畿婦人科學會雜誌第 11 卷第 1 號)。

副腎別出の雌性生殖器に及ぼす影響に關する實驗的研究, 北川重夫 (日本婦人科學會雜誌第 22 卷第 11 號)。

腔分泌液に就て研究, 三浦久治 (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 1 號)。

粘液水腫性侏儒の口腔内所見, 垣見庸三 (口腔病學雜誌第 1 卷第 3 號)。

(以上, 醫學中央雜誌第 26 卷所載)

發熱論(體溫), 稻田龍吉 (醫學中央雜誌第 27 卷 1 號)。

家禽副甲狀腺別出, 山岡弘輝 (京都帝大醫學部記要第 8 卷第 2 號)。

消化管特に胃及腸管のホルモンに就ての實驗的研究(2) 越智眞逸, 井上維 (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 3 號)。

腺臟ホルモンと鹽類代謝, 武内宗四郎 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 10 卷第 4 號, 第 5 號)。

瀉血が家兔副腎アドレナリン(フォリン)含有量に及ぼす影響, 館宏 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 10 卷第 5 號)。

インシュリンが瀉血性過血糖に及ぼす影響, 館宏 (The Tohoku Journal of Medicine 第 10 卷第 5 號)。

窒息血が過血糖を起すはアドレナリンによるか, 館宏, 齋藤靜 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 10 卷第 5 號)。

カルチウム新陳代謝に及ぼすアドレナリンの影響に就て, 大野一信 (熊本醫學會雜誌第 3 卷第 3 號)。

燐中毒に於てアドレナリン及びヂウレチン投與が血糖に及ぼす影響に就て, 近藤治三郎 (朝鮮醫學會雜誌第 88 號)。

兩側睾丸別出後一ヶ月並に二十ヶ年を経過せし二屍體の病理學的研究, 太田二也 (福岡醫科大學雜誌第 20 卷第 7 號)。

ピットリットリンと水分代謝, 黒潮巖 (日本内科學會雜誌第 16 卷第 2 號)。

インシュリン注射の血液成分並に血壓に及ぼす影響に就て, 紅谷庄吾 (千葉醫學會雜誌第 4 卷第 3 號)。

腦血管の神經支配, 來須正男 (日本外科學會雜誌第 29 回臨時號)

腦下垂體腫瘍のレントゲン學的診斷に就て, 齋藤眞, 中島實 (日本外科學會雜誌第 29 回臨時號)。

唾液腺機能に因する實驗的研究, 石田俊孝 (日本外科學會雜誌第 29 回臨時號)。

腺ホルモンの研究, 武内宗四郎, 佐藤基, 小塚喜四郎 (日本内科學會雜誌第 16 卷第 2 號)。

甲狀腺ホルモンが基礎新陳代謝及びアドレナリン過血糖に及ぼす影響, 小腦延髓囊内注射と靜脈内注射との比較, 大鹿隆 (日本内科學會雜誌第 16 卷第 2 號)。

甲狀腺ホルモンによる窒素新陳代謝亢進に對するキニーネの影響に就きての臨牀的及實驗的研究, 青木主計 (日本内分秘學會雜誌第 3 卷第 6 號)。

甲狀腺劑及び其使用に關する注意, 木場武雄 (治療新報第 468 號)。

甲狀腺機能に關する二三の知見, 山下秀之助 (日本鐵道協會雜誌第 14 卷第 2 號)。

バセドウ氏病の治療法(殊にルゴール溶液内服に就て), 橋本寛敏 (内外治療第 1 年第 2 號)。

卵巣黃體の窒素新陳代謝に及ぼす影響に就て, 青木主計 (日本内分秘學會雜誌第 3 卷第 6 號)。

アクロメガリーの一例, 若林春治 (北越醫學會雜誌第 41 年第 4, 5, 6 號)。

消化器系統特に胃腸蟲様垂及肝臟のホルモンに就て, 越智眞逸 (日本内分秘學會雜誌第 4 卷第 2 號)。

- 副腎アドレナリン分泌研究推移, 小玉作治 (熊本醫學會雜誌第4卷第3號)。
- 副腎糖定量方法之概況, 閻德潤 (民國醫學雜誌第6卷第1號)。
- アドレナリン及びピツイトリンの腎臟糸球體毛細血管に及ぼす作用並に其利尿作用に就て, 岡田正矩 (岡山醫學會雜誌第40年第3號)。
- 犬屍體血管に對するアドレナリン及び二三藥物の作用に就て, 中川知一, 木下海雄, 松本安太郎, 秋山久雄 (大阪醫學會雜誌第27學第2號)。
- 食慾と饑餓並に食慾缺亡の治療, 伊澤爲吉 (治療及處方第95號)。
- 甲状腺性侏儒, 松尾巖 (東西醫學大觀第1年第3冊)。
- 副腎皮質越幾斯の家兎摘出子宮運動に對する作用に就て, 久保園善次郎 (日本內分泌學會雜誌第3卷第5號)。
- 墨汁注入がインスリン及びアドレナリン血糖作用に及ぼす影響に就て, 小室昌義 (日本內分泌學會雜誌第4卷第1號)。
- アドレナリン及びインスリンの血糖作用に對する脾臟の態度に就て, 小室昌義 (日本內分泌學會雜誌第4卷第1號)。
- 攝護腺剔出による諸種內分泌臟器の變化に就て, 山下義夫 (日本內分泌學會雜誌第4卷第1號)。
- 攝護腺と血液瓦斯, 山下義夫 (日本內分泌學會雜誌第4卷第1號)。
- 性ホルモン成生部位に關する實驗的研究(一), 性周期發現に關する考察, 齋藤公平 (實驗醫學雜誌第11卷第10號)。
- 性ホルモン成生部位に關する實驗的研究(二), 性周期發現に對する成熟濾泡水の作用 齋藤公平 (實驗醫學雜誌第11卷第10號)。
- 性ホルモン成生部位に關する實驗的研究(三), 性周期發現に對する成熟濾泡水以外の卵巢組織(黃體間質腺)の作用 齋藤公平 (實驗醫學雜誌第11卷第11號)。
- 性ホルモン成生部位に關する實驗的研究(四), 性周期發現に關する胎盤, 子宮粘膜炎の作用 齋藤公平 (實驗醫學雜誌第11卷第12號)。
- 性ホルモン成生部位に關する實驗的研究(五), 第一篇より第四篇に至る實驗

- の總括, 齋藤公平 (實驗醫學雜誌第11卷第12號)。
- 卵巢黃體の生物學的意義黃體ホルモンに就て, 宮川米次, 齋藤公平 (東京醫事新誌第2554號)。
- 乳腺の生體染色并に腦下垂體越幾斯の作用との關係, 玉川和 (日本婦人科學雜誌第22卷第10號)。
- 家兎腦下垂體前葉乳劑の注射による人工黃體形成に就て, 久保不二太郎 (大阪醫學會雜誌第27卷第6號)。
- 熱の生理と病理, 越智眞逸 (生理學研究第5卷第3號)。
- 副甲状腺ホルモンに關する研究, 稻葉通明 (日本內科學會雜誌第16卷第2號)。
- インスリンの筋肉内糖消費及グリコリーゼに及ぼす作用, 本間純 (臨床醫學第15年第7, 8, 9號)。
- 諸種哺乳動物並に人間摘出子宮に於けるインスリンの藥理的的研究, 錦見慶介 (愛知醫學會雜誌第35卷第5號)。
- アドレナリンの血壓作用再興の機能に就て, 和田侗 (東京醫學會雜誌第42卷第5號)。
- 摘出マウス子宮は子宮緊縮劑價值檢定材料として用ひ得べきか, 佐野十九一 (藥學雜誌第542號)。
- アルコール中毒による甲状腺の變化に就て, 山下秀之助 (北海道醫學雜誌第6年第5號)。
- 去勢動物に於ける甲状腺細胞内ゴルジ氏装置の態度, 山下秀之助 (北海道醫學雜誌第6年第5號)。
- バセドウ氏病甲状腺の變化, 福士政一 (日本醫科大學雜誌第1卷第4號)。
- 大部分剔出後の殘餘腺臟の變化に就て, 宮入清四郎 (東京醫學會雜誌第42卷第7號)。
- アドレナリンの胃液分泌殊に其酸度に及ぼす影響に就ての實驗 (治療藥報第299, 300號)。
- インシュリンの胃運動機能に及ぼす作用に就て, 瀧本庄藏 (實驗消化器病學

- 第3巻第2號)。
- 胃の機能に對するインシュリンの作用, 飯野斐 (實驗消化器病學第3巻第2號)。
- 葡萄糖の腺外分泌に及ぼす影響并に之とインスリンとの關係, 鈴木猛 (日本消化器病學會雜誌第27巻第6號)。
- 胸腺研究(二), 胸腺萎縮及再生に關する實驗的研究, 高嶋彪雄 (北越醫學會雜誌第42年第3號)。
- 結核毒素の白鼠副腎に及ぼす影響, 秋山成六 (日本內分泌學雜誌第4巻第3號)。
- ライヂッヒ氏間細胞に關する綜説, 山田尚允 (成醫學會雜誌第501號)。
- 乳腺機能及び生殖腺に及ぼす高氣温の影響, 家原毅男, 江馬正夫 (日本微生物學病理學雜誌第22巻第6號)。
- 生殖腺及甲狀腺の高氣温に由る變化に就て, 江馬正夫 (日本微生物學病理學雜誌第22巻第6號)。
- ゼクレチン注射による脾臓の色素排出に就て, 木津盈之助 (實驗消化器病學第3巻第2號)。
- インシュリンの窒素代謝に及ぼす影響に就て, 氏原繁 (實驗消化器病學第3巻第2號)。
- インスリンの家兎血清 K 及び Ca 量に及ぼす影響に就て, 久保園善次郎 (日本內分泌學雜誌第4巻第1號)。
- インスリンの臨牀的應用殊に糖尿病以外の疾患に對する應用に就て, 若林麟之助 (テラピー第4年第10, 12號第5年第1號)。
- 本邦人疾患屍の副腎脂肪及び類脂肪體含量, 河野勉 (日本內分泌學雜誌第4巻第1號)。
- 諸種內分泌と副腎脂肪及び類脂肪體含有量に就て, (附血液及び卵巢の脂肪及び類脂肪體含量に就て) 河野勉 (日本內分泌學雜誌第4巻第1號)。
- 胸腺と臟器組織呼吸に就て 附 甲狀腺との相互關係, 前田盛久 (日本內分泌學雜誌第4巻第1號)。
- 上皮小體及ヒヨリンの窒素新陳代謝及食鹽排泄に及ぼす影響, 青木主計 (日

- 本內分泌學雜誌第4巻第1號)。
- 甲狀腺及生殖腺が肝臟及筋肉クリコゲン量に及ぼす影響に就て, 千野一布, 村尾勝雄 (日本內分泌學雜誌第4巻第1號)。
- 甲狀腺機能障礙動物血清の平滑筋に對する作用に就て, 久保園善次郎 (日本內分泌學雜誌第4巻第1號)。
- インスリンの眼壓に及ぼす作用に就て, 廣石甫 (日本眼科學會雜誌第30巻第10號)。
- 蟲様垂の生物學的研究, 岡野友藏 (京都府立醫科大學雜誌第1巻第4號)。
- 副腎皮質の機能に關する實驗的研究, 近藤藤平 (京都府立醫科大學雜誌第2巻第2號)。
- 蜘蛛膜下腔内に注入せるアドレナリンの血壓に及ぼす作用に就て, 中川知一, 木下海雄 (大阪醫學會雜誌第27巻第7號)。
- 食鹽中樞と甲狀腺內分泌, 大堀泰一郎 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。
- 甲狀腺とアドレナリン過血糖, 岡添武 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。
- 大腦垂體後葉物質の尿成生に及ぼす影響に就て, 岸金城 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。
- 甲狀腺過剩症の乳腺及卵巢に及ぼす影響に就て, 淺田弘太郎 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。
- 動物體内に於けるインシュリンの破壊竝に之とインシュリン痙攣との關係に就て, 挾間文一 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。
- 或種の藥物によりて中毒せられたる家兎子宮に於けるアドレナリンの逆作用に就て, 久保田環 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。
- 腦下垂體後葉ホルモンの分布に及ぼす卵巢并に胎盤ホルモンの影響, 阿南新二 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。
- 腎臟浸出液の利尿作用に就て, 小林數之介 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。
- 卵巢及子宮內分泌の藥理學的知見補遺(一), 去勢せる家兎子宮の二三藥物に對する態度及び卵巢ホルモンの去勢に因る家兎子宮の退行病變に對する拮抗作用に就て, 武田正房 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。

- バセドウ氏病并に甲状腺機能亢進症に於けるトルコ鞍のレントゲン學的考察
岩佐健次 (日本レントゲン學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- バセドウ氏病に對する X 光線療法に就て, 上原純之助 (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 3 號)。
- 甲状腺機能知見補遺, 浮田友樹, 吉富目折 (兒科雜誌第 330 號)。
- 消化管特に胃及腸管ホルモンに就ての實驗的研究(三), 消化管内容排出作用に及ぼす實驗的觀察, 越智眞逸 (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 5 號)。
- 精蟲の研究, 越智眞逸 (生理學研究第 5 卷第 7 號)。
- インスリン作用に對する青酸の影響に關する補遺, 河村長治 (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 5 號)。
- 睪ホルモンの吸収に就て, 桂重鴻, 小塚喜四郎 (中外醫事新報第 1092 號)。
- インシュリンと副腎, 大原義司 (熊本醫學會雜誌第 3 卷第 1 號)。
- 腦下垂體分泌に關する研究, 石井信太郎 (實驗醫學雜誌第 12 卷第 3 號)。
- 非徑口的に注入したる甲状腺成分の生體に及ぼす影響に就て(三), 病理解剖學的知見, 石川省三 (實驗醫學雜誌第 12 卷第 8 號)。
- 非徑口的に注入せる甲状腺成分の生體に及ぼす影響に就て(四), 第一回第二回第三回報告の總括並に結論, 石川省三 (實驗醫學雜誌第 12 卷第 8 號)。
- 胸腺の實驗的研究, 大村得三 (社會醫學雜誌第 492 號)。
- 諸種細菌免疫馬副腎アドレナリン含有量并に其組織學的所見に就て, 綠川浩 (實驗醫學雜誌第 12 卷第 4 號)。
- ホルモンの分泌路に關する研究(二), 辜丸ホルモンの分泌に就て, 武藤忠次 (朝鮮醫學會雜誌第 91 號)。
- 甲状腺剔出の喰菌作用に及ぼす影響に就て甲状腺と喰菌作用研究, 森喜作 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第 1 號)。
- 甲状腺物質(チレオイゲン及アンチチレオイゲン)注射の喰菌作用に及ぼす影響に就て, 甲状腺と喰菌作用 森喜作 (大阪醫學會雜誌 27 卷 1 號)。
- 甲状腺偏側剔出の動物流血中喰菌作用に及ぼす影響に就て, 甲状腺と喰菌作用研究, 森喜作 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第 1 號)。

- 甲状腺錠チレオイゲン及アンチチレオイゲン(メビウス)飼養の動物流血中喰菌作用に及ぼす影響甲状腺と喰菌作用研究, 森喜作 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第 1 號)。
- 甲状腺物質飼養の甲状腺剔出動物流血中喰菌作用に及ぼす影響に就て, 甲状腺と喰菌作用研究, 森喜作 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第 1 號)。
- 抗甲状腺血清の血行内喰菌作用に及ぼす影響に就て, 甲状腺の喰菌作用研究, 森喜作 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第 1 號)。
- 煮沸の甲状腺喰菌作用促進物質に及ぼす影響に就て甲状腺の喰菌作用研究, 森喜作 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第 1 號)。
- 骨發育殊に骨端化現象并に骨カルチウム量に及ぼす生殖腺の影響に就て, 清成要平 (日本内分秘學會雜誌第 4 卷第 5 號)。
- 胸腺試食并に剔出動物の諸種内分秘臓器の變化に就て, 西村俊一 (日本内分秘學會雜誌第 4 卷第 1 號)。
- 胸腺が骨發育に及ぼす影響并骨發育に及ぼす胸腺及甲状腺の關係に就て, 清成要平 (日本内分秘學會雜誌第 3 卷第 5 號)。
- 脾臓剔出家兔血液諸成分の變化及之に及ぼす影響, 上野直 (日本内分秘學會雜誌第 4 卷第 1 號)。
- 腦下垂體後葉エキスピツイトリンの中樞作用に就て, 玉木梧郎 (東京醫學會雜誌第 42 卷第 8 號)。
- 類宦官症の二例, 清成要平, 末松務 (日本内分秘學會雜誌第 4 卷第 6 號)。
- 結核毒素の白鼠副腎に及ぼす影響, 秋山成六 (日本内分秘學會雜誌第 4 卷第 3 號)。
- 副腎皮質と諸種内分秘臓器との關係に就て, 西村俊一 (日本内分秘學會雜誌第 4 卷第 1 號)。
- 糖尿病性疾患のインシュリン療法, 小澤修三, 岩鶴龍三 (診斷と治療第 15 卷第 1 號)。
- インシュリン療法に關する經驗, 西尾榮治 (實地醫家と臨床第 3 卷第 7 號)。
- 糖尿病内服薬ジンタリンに就て, 小澤修造, 近藤喜久雄外三氏 (東西醫學大

観第9巻)。

内服インシュリンの効果, 中村環 (治療及処方第97號)。

再び定期性四肢麻痺症に対するインスリンの効果に就て, 辻寛治 (日本内分泌學會雜誌第4巻第2號)。

インスリン注射後の初期血糖上昇に就て, 小室昌義 (日本内分泌學會雜誌第4巻第6號)。

インスリンの血清蛋白量に及ぼす影響及之と他の内分泌との相互關係に就て, 上野直 (日本内分泌學會雜誌第4巻第1巻)。

甲状腺機能と結合血糖及遊離血糖曲線, 鎌田愛治 (京都府立醫科大學雜誌第1巻第4號)。

諸種内分泌の冬眠動物含水炭素新陳謝に及ぼす影響, 宮村三郎 (日本内分泌學會雜誌第4巻第6號)。

レントゲン線の睾丸に対する生物學的作用に就ての知見補遺, 古谷滋夫 (慶應レントゲン學叢書第6巻)。

レントゲン線の卵巣に対する生物學的作用に就ての知見補遺, 古谷滋夫 (慶應レントゲン學叢書第6巻)。

(以上, 醫學中央雜誌第27巻所載)

アドレナリン及二三藥物の死後血管に対する作用 秋山久雄, 木下海雄, 松本安太郎 (大阪醫學會雜誌第27巻第10號)。

アドレナリンに因る灌流囊肝臓出糖に及ぼす諸種アミノ酸の影響に就て 谷内與一郎 (大阪醫學會雜誌第27巻第10號)。

酸素代謝調節中樞と腦下垂體との關係(二) 腦下垂體を剔出せる動物に対する中樞性鹽素代謝調節に就て, 山岸幸一, 寺田文次郎 (慶應醫學第8巻第8號)。

カルチウム優勢状態に於けるアドレナリンの反應作用 辛島格 (慶應醫學第8巻第8號)。

甲状腺とアドレナリン過血糖, 岡添武 (慶應醫學第8巻第8號)。

アドレナリンの血管收縮作用に及ぼすカルチウムイオン及びカリウムイオン

の影響, 眞砂一夫 (日本藥物學雜誌第7巻第2號)。

アドレナリンの血管收縮作用に及ぼす, バリウム, リチウム及アンモニウム各いおんの影響に就て 眞砂一夫 (日本藥物學雜誌第7巻第2號)。

蛔蟲體腔液の副腎アドレナリン含有量に及ぼす影響, 阿部龍夫, 平野多賀治 (慶應醫學第8巻第5號)。

肺臓に適用せるアドレナリンの効果に就て, 瀬戸文雄 (日本藥物學雜誌第7巻第1號)。

非徑口的に注入せる睾丸細胞成分の睾丸に及ぼす影響に就て, 野澤廣行 (實驗醫學雜誌第12巻第2號)。

蔗糖使用に因り惹起せらるべき幼若家兎の骨變化に及ぼす内分泌腺剔出及び内分泌腺臓器製劑の影響に就て 奥窪廉司 (大阪醫學會雜誌27巻5號)。

内分泌と體質及び疾病 中村八太郎 (グレンツゲビート第1年第12號)。

産婦人科領域に於けるヒヨリンの研究 吉見鎮夫 (日本婦人科學會雜誌第23巻第3號)。

鉛鹽類の家兎卵巣及び子宮に及ぼす影響に就て, 田原三夫 (日本婦人科學會雜誌第22巻第5號)。

卵巣培養に就て, 白井貞次郎 (日本婦人科學會雜誌第22巻第5號)。

卵巣の子宮内移植に就て 中山安, (日本婦人科學會雜誌第22巻第5號)。

卵巣内分泌作用と腔分泌物と腔壁グリコゲンとの相互關係に就ての研究 三浦久治 (日本婦人科學會雜誌第22巻第5號)。

卵巣剔出術後の脱落症状に就て 西井壽吉 (日本婦人科學會雜誌22巻第5號)。

蜘蛛膜下腔内に注入せるアドレナリンの血壓に及ぼす影響に就て 木下海雄 (大阪醫學會雜誌第23巻第12號)。

家兎腸片法による Folin, Cannon & Denis 氏法, 須藤井上氏法によるエピネフリンの比色定量法の比較 兒島武夫, 齋藤靜 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第10巻第6號)。

牛, 豚, 猫, 犬並に家兎の副腎エキス中エピネフリン定量に対する猫の奇怪瞳孔反應, 家兎腸管片試験及び Folin, Cannon 及び Denis 氏比色法の

- 比較 菅原正 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷第 4.5 冊)。
- 血液及び副腎髓質中に於けるエピネフリン定量法としての稍敏感になせし
猫瞳孔奇怪反應に就て 青村鐵太郎 岡徳潤 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷第 6 號)。
- 正常家兎の副腎髓に皮質髓質のエピネフリン量の比色的及び生物學的測定
法 渡邊政之助 佐藤熙 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 2 卷第 4.5 冊)。
- 出血が犬副腎よりエピネフリン分泌速度に及ぼす影響 齋藤靜 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷第 1.2 號)。
- 非繩縛無麻醉犬に於て瀉血後同時に測定せしエピネフリン排出量血糖値並に
血液凝固時間に就て 齋藤靜 龜井文吉 館宏 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷第 3 號)。
- 犬に於て瀉血後起るエピネフリン排出増加が同時に見らるる過血糖に對する
意義 館宏 齋藤靜 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 11 卷 3 號)
- 犬體に加へし寒冷又は温熱のエピネフリン分泌速度に及ぼす影響 齋藤靜
(The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷第 6 號)。
- 兩側腎血管結紮後家兎副腎のクローム親和力並にエピネフリン含量に就て
渡邊政之助 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 11 卷 4.5 號)
- 家兎兩側副腎血管結紮後の副腎の組織學的研究 鈴木退輔 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷 第 6 號)。
- 餓餓家兎に於ける血糖量の動搖並びにアドレナリン過血糖 洲崎敬三 (十全
會雜誌第 33 卷第 3 號)。
- 大脳半球偏側の全剝出又は損傷を加へたる家兎の葡萄糖及びアドレナリンに
對する血液耐糖能力に就て (一) 葡萄糖試験 岸松郷 (京都醫學雜誌第 23 卷第 8 號)。
- 腺臟及び副腎内分泌に及ぼす鹽化カルシウムの影響に就て附インスリン注射
時に於けるアドレナリン物質の消長 富永謙 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第

- 5 號)。
- インシュリン寡血糖の原因に就て 國分信雄 (社會醫學雜誌第 501 號)。
- 非徑口的に注入せる甲状腺細胞成分の血液脂肪及び類脂肪體に及ぼす影響に
就て(一)血液コレステリン量に及ぼす影響 櫻井信太郎 (實驗醫學雜誌
第 12 卷第 10 號)。
- 浮腫生成の研究(一)甲状腺機能異常時に於ける家兎の股筋標本灌流による浮
腫の生成 佐藤長松 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷
第 1, 2 號)。
- 浮腫生成の研究(三)甲状腺機能異常時に於けるカリウム並にカルチウムの浮
腫傾向に及ぼす影響 佐藤長松 (The Tohoku Journal of Experimental
Medicine 第 11 卷 第 3 號)。
- 浮腫生成の研究(五)甲状腺ホルモン, 腦下垂體及び腺臟の中間水分代謝に對
する相互關係 佐藤長松 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第
11 卷第 4.5 冊)。
- 摘出腸管運動に及ぼすインスリン作用の疑義 大原義司 平橋脩 (熊本醫學
會雜誌第 2 卷第 4 號)。
- インシュリンの諸種哺乳動物及び人間子宮に及ぼす影響 錦見慶介 (愛知醫
學雜誌第 35 卷第 11 號)。
- 内分泌劑殊にインスリン及びピツイトリンが血液凝固時間に及ぼす影響に就
て 田中龜 (日本藥物學雜誌第 7 卷第 3 號)。
- 腎臟浸出液の血壓上昇性物質に就て(一)小林數之介 (滿洲醫學雜誌第 8 卷第
6 號)。
- 腎臟浸出液に關する研究(二)腎臟浸出液の利尿作用に就て 小林數之介 (滿
洲醫學雜誌第 9 卷第 3 號)。
- 人の大脳下垂體病理學的研究補遺 照山昇 (京都醫學雜誌第 23 卷 第 1 號)
- 胸腺のリポイドに就て 本田偉志雄 (長崎醫學會雜誌第 4 卷第 5 號)。
- 胸腺研究補遺 高島彪雄 (福岡醫科大學雜誌第 21 卷第 9 號)。
- 副腎と結核 森茂樹 (熊本醫學會雜誌第 2 卷第 2 號)。

- 辜丸内分泌の喰菌作用に及ぼす影響に就て 森喜作 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第 2 號)。
- インシュリンに依る肥胖作用に就て 大原義司 (鎮西醫海時報第 1 號)。
- バセドウ氏病患者に於ける葡萄糖供給及びアドレナリン注射後の過血糖の状態に就て 織田敬信 (日本内分泌學會雜誌第 4 卷第 4 號)。
- 腦下垂體摘出後に於ける二三内分泌腺の相互關係につきての實驗的研究 武谷凱三 (醫學研究第 2 卷第 6 號)。
- 腦下垂體性惡液質と多腺性内分泌機能不全症(二)内分泌腺疾患の診斷法 山北又十郎 (内外治療第 2 卷第 6 號)。
- 尿崩症 稻田龍吉 (診斷と治療第 15 卷第 4 號)。
- 生殖腺内分泌異常に就て 横森賢治郎 (東京醫事新誌第 2587 號)。
- 腦下垂體肥大による人工妊娠中絶例 大木常松, 山元清一 (治療及處方 98 號)
- 妊娠動物の上皮小體摘出後チトキシンを注射したる實驗 小林茂雄 (日本婦人科學會雜誌第 22 卷第 5 號)。
- 大腦下垂體前葉ホルモンに関する研究 白井貞次郎 (大阪醫學會雜誌第 27 卷第 10 號)。
- 腺の生理に関する論文(一)甲狀腺, 胸腺及び脾臓と骨髓との關係 中尾秀雄 (日本外科學會雜誌第 27 回第 1 號)。
- 腺の生理に関する論文(二)甲狀腺, 胸腺及び脾臓と骨髓との關係 中尾秀雄 (日本外科學會雜誌第 27 回第 1 號)。
- 腺の生理に関する論文(三)甲狀腺, 胸腺及び脾臓と骨髓に関する實驗組織學的研究 中尾秀雄 (日本外科學會雜誌第 27 回第 1 號)。
- ホルモンの話 森茂樹 (衛生と婦人第 4 號)。
- 主要なる生物學的研究方法に就て(二)越智眞逸 (日新醫學第 16 年第 5 號)。
- 健康なる本邦人屍内臟重量の統計的觀察, 佐藤繁, (北越醫學會雜誌第 41 年第 4.5.6. 號)。
- 脾臓剔出動物に於ける内分泌諸臓器の變化について, 西村俊一, (日本内分泌學會雜誌第 4 卷第 6 號)。

- 諸種内分泌と血液内カルチウム含量, 西村俊一, (日本内分泌學會雜誌第 4 卷第 9 號)。
- インシュリンの血糖下降作用に及ぼす諸種物質の影響に就て (内分泌製劑及植物性神經毒), 小室昌義, (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 3 號)。
- インシュリンのグリコリゼに及ぼす影響(一), 吉岐益夫, (日本内科學會雜誌第 16 卷第 10 號)。
- 糖尿病に於けるセクレチンの運命に関する實驗的研究, 中川知一, 原田三樹男, (日新醫學第 16 年第 1 號)。
- 甲狀腺過剩症の實驗的研究, 藤井貞, (日新醫學第 15 年第 11, 12 號)。
- 尿崩症に関する臨牀的觀察(一)一般臨牀的觀察殊に其腎臟機能に就て 黒瀬巖 (岡山醫學會雜誌第 40 年第 8 號)。
- 内分泌腺機能と結合血糖(四), 鎌田愛治, (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 5 號)。
- 血色素抵抗に及ぼす甲狀腺の影響に就て, 新田一衛, (日本内分泌學會雜誌第 4 卷第 1 號)。
- 外界氣温に依る内分泌諸臓器の變化に就て, 西村, 新田, 囊内, (日本内分泌學會雜誌第 4 卷第 9 號)。
- 上皮小體試食ビタミン B 缺乏症に及ぼす影響に就て, 新田, (同上 4 卷 8 號)。
- 膵腺試食並に剔出の内分泌諸臓器に及ぼす影響に就て, 西村俊一, (同上第 4 卷第 8 號)。
- 副腎摘出による諸種内分泌臓器の變化, 井倉, (同上第 3 卷第 3 號)。
- 副腎皮質の機能及其製劑の治療的應用, 辻寛治, (同上第 4 卷第 3 號)。
- 攝護腺機能とアレキシン產生との關係, 山下義夫, (醫學研究第 2 卷第 2 號)。
- 攝護腺抽出液の毒性に就て, 山下義夫, (醫學研究第 2 卷第 2 號)。
- 胎盤の毒性に関する實驗的研究, 沖津巨, (日本婦人科學會雜誌第 22 卷 5 號)
- 副腎剔出の雌性生殖器に及ぼす影響, 北川重夫, (日本婦人科學會雜誌第 22 卷第 5 號)
- 精絲又は辜丸組織注射に因る白鼠生殖腺の官能的及組織的變化に就て, 森棟

- 賢隆, (日本婦人科學會雜誌第 22 卷第 4, 5, 7, 8, 號)。
- 甲状腺中毒に因る雌性生殖腺の變化に關する實驗的研究, 松本清治, (日本婦人科學會雜誌第 22 卷第 4, 5, 6, 號)。
- 卵巢の子宮内移植術に就て, 三矢義士 (日本婦人科學會雜誌第 22 卷第 5 號)。
- 卵巢の腦及脾臓内移植, 秋元東馬, (日本婦人科學會雜誌第 22 卷第 5 號)。
- 卵巢機能と内分泌, 林春雄, (廣島衛生醫事月報第 3, 5, 8, 號)。
- 甲状腺濾胞の大きさに關する計測的觀察, 山下秀之助, (北海道醫學雜誌第 6 年第 10 號)。
- 精蟲の生理學的研究竝に之が臨牀上との關係に就て, 越智眞逸, (日本泌尿器科雜誌 17 卷 4 號)。
- 睾丸エキスの應用に就て, 高岡達也, (皮膚科及泌尿器科雜誌 28 卷 9 號)。
- 蟲様垂の生物學的研究, 岡野友藏, (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 4, 6 號)。
- 精囊の生理に就て, 稻葉通明, (同上 第 2 卷 第 6 號)。
- 血液酸素消費に及ぼす内分泌及び藥物の影響, 塚本榮七郎, (Tohoku Journal 第 6 卷第 3, 4 號)。
- 鶏族の第二次性特徴と生殖腺の内分泌, 阪本三郎, (内分泌學會雜誌第 2 卷第 4 號, 第 5 號)。
- 性ホルモン概近の研究, 石原房雄, (東西醫學大觀, 第 16 號)。
- アウトホルモンとホルモンの關係, 宮川米次, (臺灣醫學會雜誌第 2, 8, 6, 號)。
- 植物生理學上に於けるホルモン説の現状, 續瀨理一郎, (實地醫家と臨床第 3 卷第 1 號)。
- ピットリトリン過血糖に關する實驗的研究, 中村文次, 針谷武夫, (慶應醫學第 8 卷第 7 號)。
- インシュリンの体内水分交換に及ぼす影響に就て, 城下良平, (北海道醫學雜誌第 3 年第 5 號)。
- アヂソン氏病第一例に就いての臨牀的及剖檢的所見, 加藤信治, 山口正道, (醫事新聞第 1, 2, 3, 3, 號)。
- 副腎臟器毒の實驗的研究, 中條五六, (日本病理學會誌第 18 年)。

- ホルモンと毒素との關係殊に副腎皮質とチフス毒素, 片淵秀雄, (日本病理學會々誌第 18 年)。
- 副腎皮質とコレステリン新陳代謝との關係, 大野章三, (日本病理學會々誌第 18 年)。
- 剖檢材料の統計的研究, (一)重量より見たる副腎胸腺の發育, 星三藏, (東北醫學雜誌第 11 卷第 1, 2 冊)。
- ホルモンと細胞毒素との關係, 卵巢ホルモンと破傷風毒素, 今村豊八, (日本病理學會々誌第 18 年)。
- ホルモンと分泌路の研究, 武藤忠治, (日本病理學會々誌第 18 年)。
- ホルモンとアナフィラキシーとの關係, 平田善, (日本病理學會々誌第 18 年)。
- 免疫體とホルモン殊に副腎皮質と凝集素との關係, 片淵秀雄, (日本微生物學病理雜誌第 22 卷第 11 號)。
- 胸腺の臟器特異性に就て, 臟器特異性に關する研究實驗成績, 和田榮一, (日本微生物學病理學雜誌第 22 卷第 10 號)。
- 胸腺の造血機能知見補遺, 吉田鼎, (滿洲醫學雜誌第 9 卷第 5 號)。
- 生殖腺の内分泌的影響による二三血液成分の變動に就て, 小林茂雄, (日本婦人科學會雜誌 23 卷 5 號)。
- 妊婦腦脊髄液内の所謂ピットリトリン様物質の本態に就て, 池田重彦, (日本婦人科學會雜誌第 23 卷第 5 號)。
- 人胎盤乳劑注射による卵巢黃體發生と子宮肥大との關係に就て, 大田義一, (日本婦人科學會雜誌第 23 卷第 5 號)。
- 雌性家兔に雄性家兔生殖腺を移植したる後の子宮粘液水素イオン濃度茲に乳汁分泌作用に就きて, 阿部愼吾, (北海道醫學雜誌第 6 年第 2 號)。
- ガス代謝と分時搏出量に關する研究(三)溫刺による體溫上昇時に於けるガス代謝と分時搏出量並に諸種の解熱劑内分分泌物及び植物神經毒の是等に對する影響, 大平昂, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine)。
- 消化管特に胃及び腸管のホルモンに就ての實驗的研究(四)各種の酸類が M, D ホルモンに及ぼす作用, 越智眞逸, (京都府立醫科大學雜誌第 114 號)。

- 消化管特に胃及び腸管のホルモンに就ての實驗的研究(五)M,Dホルモンに及ぼすアルカリの影響, 越智眞逸 (京都府立醫科大學雜誌第 114 號)。
- 消化管特に胃及び腸管のホルモンに就ての實驗的研究(六)紫外線がM,Dホルモンに及ぼす作用, 越智眞逸, 京都府立醫科大學雜誌第 114 號)。
- 消化管特に胃及び腸管のホルモンに就ての實驗的研究(七)消化酵素がM,Dホルモンに及ぼす作用, 越智眞逸 (京都府立醫科大學雜誌第 114 號)。
- 消化管特に胃及び腸管のホルモンに就ての實驗的研究(八)時日の経過がM,Dホルモンの効力に及ぼす影響, 越智眞逸 (京都府立醫科大學雜誌第 114 號)。
- 消化管特に胃及び腸管のホルモンに就て實驗的研究(九)牛の小腸各部に於ける腸運動促進性ホルモンの分布及び其性質に就て, 越智眞逸, (京都府立醫科大學雜誌第 114 號)。
- アドレナリン過血糖に就て(三)アドレナリン過血糖に於ける還元性物質に就て, 小原敏雄, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 6 卷 3, 4 號)。
- アドレナリン過血糖に就て(四)膵臓ホルモンとアドレナリンとの拮抗作用, 小原敏雄 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 6 卷第 3, 4 號)。
- エーテル麻酔が犬副腎に於けるエピネフリン含量に及ぼす影響, 藤井猪十郎, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 5 卷第 6 號)。
- 片側内臓神経切断家兎の副腎エピネフリン量に就て, 平山宗造, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 5 卷第 6 號)。
- ニコチンが副腎よりのエピネフリン排出速度に及ぼす影響, 菅原正, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 6 卷第 5, 6 號)。
- アドレナリン静脈内注射の家兎血液凝固時間に及ぼす影響に就て, 平山宗造 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 6 卷第 1, 2 號)。
- 副腎皮質機能に関する實驗的研究(2)副腎皮質エキスの血糖に及ぼす影響, 堀江憲治, (滿洲醫學雜誌第 8 卷第 1 號)。
- インシュリンによる血液磷酸鹽減少症に就て, 黒川利雄, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 5 卷第 6 號)。
- 膵ホルモンと鹽素代謝(2)膵ホルモンの正常犬並に膵性糖尿犬の血液成分

- (主として無機成分)に及ぼす影響に就て, 武内宗四郎, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷 4, 5 冊)。
- 膵ホルモンと鹽素代謝(3)膵ホルモンの正常犬並に膵性糖尿犬の胸管淋巴諸成分に及ぼす影響並に血液淋巴に於ける變化の相互的關係, 武内宗四郎, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 11 卷第 6 號)。
- 二三動物膵臓のホルモン含量に就て, 武内宗四郎, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 12 卷第 1 號)。
- 松果腺の年齢的變化に就て, 鈴木直光, 江口恒, 佐藤幹正, (神經學雜誌第 28 卷第 7 卷)。
- 松果腺の病理(一) 木村清二, (神經學雜誌第 29 卷第 3 號)。
- 松果腺腫瘍の一例, 桂島忠良, (東北醫學雜誌第 11 卷第 1, 2 冊)。
- 腦下垂體の病理(一) 岡本良三, (日本病理學會々誌第 18 年)。
- 牛諸臓器水製越幾斯の毒性に就て, 大澤忍婦, (日本微生物學病理學雜誌第 22 卷第 10 號)。
- 非糖尿病者に於けるインシュリン應用の現況, 原素行, (治療新報第 4, 3, 9, 號)。
- インシュリンによる紅斑性疼痛症エリトロルメラルギーの治驗, 喜多兵太郎, (愛知醫學會雜誌第 35 卷第 2 號)。
- インシュリンの血小板數に及ぼす影響, 附, 之が甲状腺との相互關係に就て, 祝洋之助 (内分秘學雜誌第 2 卷第 3 號)。
- インシュリンに関する實驗的知見補遺, 北村邦太郎, (京都府立醫科大學雜誌第 1 卷 3 號)。
- インシュリンの窒素代謝に及ぼす影響に就て, 氏平繁, (日本消化器病學會雜誌第 27 卷第 9 號)。
- 甲状腺, 辻寛治, (日本内分秘學會雜誌第 1 卷第 1, 2, 3, 4, 號, 第 2 卷第 4, 5 號, 第 3 卷第 2, 3 號)。
- 各種動物に於ける甲状腺沃度含有量の比較, 野坂綱定, (内分秘學雜誌第 2 卷第 5 號)。
- 甲状腺内分秘障碍と消化機能, 横森賢次郎, (日本消化器病學會雜誌第 27 卷第

- 12 號)。
- 一酸化炭素並に青酸加里の甲状腺機能に及ぼす影響に就て, 井倉訣 (内分
 泌學雜誌第 2 卷第 3 號)。
- 甲状腺と生體の抵抗力, 菊地千秋 (好生館醫事集談會雜誌第 5 年第 9 號)。
- バセドウ氏病, 山田詩朗, (診斷と治療第 16 卷第 2 號)。
- バセドウ氏病の沃度療法に就て, 岩鶴龍三, (セラピー第 6 年第 3 號)。
- 胸腺に及ぼす諸種内分泌腺の影響に就きて, 清成要平, (日本内分
 泌學會雜誌第 4 卷第 8 號)。
- 腦下垂體後葉エキス, ビツイトリンの中樞作用に就て, 玉木梧郎, (神經學雜
 誌第 29 卷第 3 號)。
- 腦下垂體前葉殊に其所謂特殊細胞に及ぼす内分泌諸臟器剔出の影響に就て,
 清成要平, (日本内分
 泌學會雜誌第 4 卷第 9 號)。
- 腦下垂體機能低下動物の血糖價並に二三の内分泌臟器製劑の之に及ぼす影響
 につきて, 齋藤權左衛門, (日本內科學會雜誌第 14 卷第 1 號)
- 腦下垂體の病理及び生理に關する實驗的研究追加, 齋藤權左衛門, (日本內科
 學會雜誌第 14 卷第 1 號)。
- 尿崩症の臨牀, 伊藤正義, 中龍均, (朝鮮醫學會雜誌第 68 號)。
- 尿崩症に關する知見補遺, 特に水銀利尿劑及びインシュリンの利尿に及ぼす
 影響に就て, 一見尅夫, 佐藤長松, (東北醫學雜誌第 2 卷第 2, 4, 5, 冊)。
- 尿崩症に關する臨牀的觀察(3)腦下垂體製劑の作用に關する實驗並に其他二
 三の藥物の尿量並に尿成分に及ぼす影響, 黒瀬藏, (岡山醫學會雜誌第 40
 年第 9 號)。
- 諸種内分泌の副腎内脂肪及び類脂肪含量に及ぼす影響, 附, 同じく血液及卵巢
 内脂肪及び類脂肪含量に及ぼす影響につきて, 河野勉 (日本内分
 泌學會
 雜誌第 4 卷第 9 號)。
- 副腎機能不全に關する實驗的研究補遺, 小池龜代治, (十全會雜誌第 33 卷第 10 號)。
- 内分泌臟器間の相互關係に關する實驗的研究, 小池龜代治, (十全會雜誌第 33
 卷第 8 號)。

- ホルモン化學と臟器療法, 森茂樹, (東京醫事新誌第 2606, 2608 號)。
- 腦下垂體製劑主としてビツイトリン及アトニン妊娠中應用に就て(一), 篠田
 糺, (日本婦人科學會雜誌第 23 卷第 5 號)。
- セクレチンの腸運動に及ぼす影響, 垣田與二郎, 西井長一郎 (大阪醫學會雜
 誌第 28 卷第 2 號)
- 睾丸内分泌の研究(一)睾丸血管の藥物學的性質に就て, 片岡八束, (朝鮮醫學
 會雜誌第 92 號)。
- 人胎胸腺内に見たる上皮細胞群に就て, 笹浦三郎, (東北醫學雜誌第 10 卷補冊)
 胸腺の組織學的研究, 石崎千仞, (日本病理學會會誌第 18 年)。
- 胸腺の研究(二)白鼠胸腺の組織學的研究, 渡邊建, (日本病理學會會誌第 18 年)。
- 胸腺ハサル氏小體と腮管との關係について腮性器管に關する研究(二), 岡室
 徳之助, (京都府立醫科大學雜誌第 2 卷第 2 號)。
- 胸腺の意義に關する一考察, 竹内清, (長崎醫學會雜誌第 7 卷第 1 號)。
- 馬に於ける胸腺の退縮に就きて, 江島眞平, (實驗醫學雜誌第 12 卷第 1 號)。
- 胃腸機能と生殖器との關係につきての叢談, 横森賢治郎, (日本消化器病學會
 雜誌第 26 卷第 1 號)。
- 甲状腺細胞成分の心臟機能に及ぼす影響に關する知見補遺, 石川省三, (實驗
 醫學雜誌第 12 卷第 12 號)。
- 甲状腺投與并に摘出による尿成分の變化に就て, 西元彦衛, (實驗醫學雜誌第
 12 卷第 12 號)。
- 急性甲状腺炎の一例, 木場武雄, 丸山重雄, (グレンツゲビート第 3 年第 2 號)。
- 脾臟と甲状腺との交互作用に關する研究(三)脾動靜脈の血小板に就て, 綱島
 義人, (岡山醫學會雜誌第 40 年第 11 號)。
- 副腎機能と結核感染(一)海狸の副腎切除試験, 加藤謙一, (日本内分
 泌學會雜誌
 第 4 卷第 4 號)。
- 副腎特に其皮質と内分泌諸臟器との關係に就て, 西村俊一, (日本内分
 泌學會
 雜誌第 4 卷第 11 號)。

インスリン及びアドレナリン反復注射による副腎の組織的所見殊に脂肪及類脂肪體に及ぼす影響に就きて，清成要平，（日本内分泌學會雜誌第4卷第11號）。

骨發育に及ぼす胸腺及生殖腺の影響并に内分泌諸臟器との關係に就て，清成要平，（日本内分泌學會雜誌第4卷第11號）。

攝護腺の内分泌機能に関する實驗的研究，山下義夫，（日本内分泌學會雜誌第4卷第2, 3, 4, 號）。

内分泌腺機能と結合血糖に関する研究(二)インシュリンの結合血糖量に及ぼす影響，鎌田愛治，（京都府立醫科大學雜誌第2卷第6號）。

縛繩による家兎結合血糖の變化并に是に及ぼすインシュリンの影響に就て，鎌田愛治，（京都府立醫科大學雜誌第2卷第6號）。

甲状腺内分泌障碍と消化機能，横森賢治郎，（治療藥報第320號）。

扁桃腺は防護器官なりや，横森賢治郎，（臨床小兒科雜誌第2年第11號）。

牛大脳垂體前葉の卵巣子宮竝に身體發育に及ぼす影響に関する實驗的研究，垂井俊，（日本婦人科學會雜誌第23卷第2號）。

卵巣の副腎に及ぼす影響に就て，尾池元太郎，（日本婦人科學會雜誌第23卷第5號）。

卵巣内分泌と副腎内分泌との關係，雨宮白，（日本婦人科學會雜誌第23卷第5號）。

（以上，醫學中央雜誌第28卷所載）。

セクレチンの性状竝に腭液成分に関する研究(三)，谷口積，（大阪醫學會雜誌第28卷第4號）。

副腎皮質の研究，徳光（Mitteilungen aus dem path. Institut der kaiserlichen Universität zu Sendai 第1卷第2冊）。

副腎皮質の一新機能に就て，（同上，同上）。

副腎皮質に就て，別所正恭（東北醫學雜誌第10卷補冊）。

急性竝に慢性全身性疾患の睾丸に及ぼす影響，大家武夫（Mitteilungen ueber allg. Pathologie und path. Anatomie. 第4卷第3冊）。

睾丸の統計的竝に組織學的研究，大家武夫（同上，同上）。

睾丸摘出が異種移植腫瘍の發育増殖に及ぼす影響に就て，中村盛雄（熊本醫學會雜誌第5卷第2號）。

假性半陰陽の二例に就て，大家武夫（同上第2冊）。

性ホルモンの胎盤不透過性に就て，工藤得安（東北醫學雜誌10卷補冊）。

種々なる病的状態に於ける人工黄体發生に就て，植山太（大阪醫學會雜誌第28卷第3號）。

卵巣黄體の生物學的意義，宮川米次，齋藤公平（實驗醫學雜誌13卷2號）。

副腎臟器毒の實驗的研究，中條五六（細菌學雜誌第396, 397號）。

脾臟ホルモン(リエナリン)に関する研究，大橋，渡部（東北醫學雜誌第11卷第3, 4, 5冊）。

ホルモンと免疫體との關係殊に凝集素と睾丸との關係に就て，尹日善（Acta medicinalia in Keijo 第11卷第3號）。

副甲状腺ホルモンの血液諸成分に及ぼす影響に就て，大島四郎（東京醫學會雜誌第43卷第1號）。

子宮内膜エーテルエッキスの乳汁分泌に對する作用，古家一成（日本婦人科學會雜誌第24卷第5號）。

尿崩症に関する實質的研究，黒瀬巖（岡山醫學會雜誌第40卷第10號）。

ホルモンの分泌路に関する研究，武藤忠次（朝鮮醫學會雜誌第19卷第3號）。

腦下垂體後葉ホルモンの分泌に及ぼす卵巣黄體，竝に胎盤ホルモンの影響，阿南新二（長崎醫學會雜誌第6卷第6號）。

腦下垂體の藥理，石川雄三郎（日本之醫界第18卷第85, 86號）。

食鹽代謝に對する甲状腺物質の作用機轉に就て(甲状腺と食鹽中樞との關係)，杉田隼人（慶應醫學第7卷第9號）。

ヒヨリンの組織化學的研究，廣瀬半次（福岡醫科大學雜誌第22卷第3號）。

白鼠に於ける癌腫の内分泌臟器竝に生殖腺に及ぼす影響に就て，鳥海照雄（癌第19年第3冊）。

甲状腺及腦下垂體と性週期との關係，室原農夫藏（日本内分泌學會雜誌第5卷

第1號)。

甲状腺のホルモン, 松尾巖 (醫海時報第1747號)。

甲状腺機能亢進症に於ける非経口的投與の葡萄糖及びオリーブ油の体内利用に就て, 原禎造 (日本内分泌學會雜誌第4卷第10號)。

甲状腺試食に依る白鼠齒牙の變化, 西村俊一 (日本内分泌學會雜誌第5卷第1號)。

甲状腺成分の内分泌諸臓器並に家兔剔出子宮運動に及ぼす影響に就て, 千野一布 (同上)。

甲状腺上皮細胞及び濾胞内に於ける沃度の分布状態に就て(一), 諸種内分泌腺製劑の之に及ぼす影響, 西川四郎 (同上)。

甲状腺機能と光(一), 血液再生機能に及ぼす影響, 田阪靜哉 (同上)。

健常時脚氣及びバセドウ氏病に於ける體溫晝夜の動搖に就て, 田阪定孝 (日本之醫界第18卷第87號)。

腦下垂體後葉エキスの水分並に食鹽代謝に及ぼす影響, 楠五郎雄, 中村京亮 (日本内分泌學會雜誌第5卷第1號)。

腦下垂體部分的摘出家兔に於ける二, 三の知見, 中村京亮 (同上)。

結合結糖より見たる腦下垂體前葉及び後葉機能, 鎌田愛治 (同上)。

結合血糖より見たるアドレナリンとエフェドリンの作用に就て, 矢野尙之 (同上)。

鶏胎兒の發育に及ぼす諸種内分泌の影響(一), 副腎皮質の影響に就て, 大西康夫 (同上第5卷第1號)。

卵巣ホルモンの單位決定法, 白木慶三, 八井田寛 (同上)。

卵巣ホルモンと血液カルシウムとの關係に就て, 服卷實一 (同上)。

妊娠と卵巣ホルモンの血液内含有量並に尿及乳汁の卵巣ホルモン排泄, 八井田寛, 神宮良一, 河村正之, 上川豊, 小島三郎, 白木慶三 (同上)。

卵巣ホルモンの藥理學的研究, 服卷實一 (同上)。

解糖機轉に及ぼす諸種内分泌腺の影響, 今西義男 (同上)。

二三内分泌腺の赤血球網狀纖維狀物質に及ぼす影響, 角本永一 (同上)。

家鶏内分泌臓器の研究, 二本松錠, 丹羽貞一 (同上)。

二三内分泌腺の血液グルタチオンに及ぼす影響, 田島眞男 (同上)。

諸種内分泌腺の滲出液並に製劑の心臟運動及び冠狀循環に及ぼす影響, 木下良順, 園田千榮 (同上)。

臨牀上より見たるカルチウム代謝と内分泌植物系との關係, 上田春治郎 (治療及處方第107號)。

胸腺淋巴體質, 稻田龍吉 (實驗醫報第175號)。

神經病と内分泌, 高瀬清 (長崎醫學會雜誌第7卷第3號)。

卵巣又は甲状腺の存否がアドレナリン作用に及ぼす影響, 原正平 (日本婦人科學會雜誌第24卷第5號)。

卵巣の乳腺下移植に就て, 大野精七 (日本婦人科學會雜誌第24卷第5號)。

卵巣移植例, 田原三夫 (近畿婦人科學會雜誌第11卷第6號)。

子宮は内分泌臓器なりや, 池上五郎 (鎮西醫海時報第15號)。

耳迷路と内分泌臓器並に自律神經との關係に関する實驗的研究, 西端, 原田 (耳鼻咽喉科第1卷第9號)。

大量沃度の甲状腺剔出白鼠内分泌臓器に及ぼす影響, 簗和益三 (皮膚科記要第12卷第2號)。

大量沃度が白鼠の甲状腺, 腦下垂體, 副腎, 腎臓, 肺臓に及ぼす影響 (同上第5號)。

微量沃度が去勢白鼠の内分泌諸臓器に及ぼす影響, (同上, 同上第6號)。

家禽副甲状腺剔出の實驗, 山岡弘輝 (Acta scholae medicinalis Universitatis Imperialis in Kioto 第7卷第4號)。

肝臓ホルモン(ヤクリトン)の研究, 佐藤彰 (Tohoku Journal of Exp. Medicine 第11卷第3號)。

膵臓内分泌の實驗的研究, 桂, 小塚 (同上第12卷第2, 3, 4, 5, 6號)。

エゼリンの膵臓内分泌に及ぼす影響, 中西 (慶應醫學第9卷第3號)。

生殖腺ホルモンに就て, 緒方章, (愛知醫學雜誌第36卷第6號)。

ホルモン化學の最近の趨勢, 服部彌二郎, (治療及處方第109號)。

牡蠣より得たる血糖降下物質, 熊谷, 敷波, (The Tohoku Journal of Exp. medicine 第12巻第5,6號)。

水分並に食鹽の体内分布に及ぼす甲状腺機能變化の影響, 杉田隼人, (慶應醫學第7巻9號)。

アドレナリン及葡萄糖のヒスタミンに對する解毒に就て, 林田豊次, (國民衛生第6巻第2號)。

アチソン氏病に就て, 野村恒一, (京都府立醫科大學雜誌第3巻第2號)。

甲状腺副腎と睾丸との實驗的相互關係及び一側睾丸と他側睾丸との關係, 槇正男, (北海道醫學雜誌第6年第9號)。

生殖腺及び甲状腺の高氣温に由る諸變化に就て, 江馬正夫, (國民衛生第5巻第12號第6巻第2號)。

アドレナリンの胃運動機能亢進作用に就て, 赤染種章, (日本内科學會雜誌第17巻第2號)。

胃粘膜より硫苦溶液を以て抽出し得る蠕動ホルモン様物質の本態に就て, 加藤聖, (日本内科學雜誌第17巻第2號)。

内臟神經及びアドレナリンの膵液並に膽汁分泌に及ぼす影響に就て, 勝部有郎, (日本外科實験第6巻第1號)。

ホルモンによる妊娠診斷法に就て, 白井貞次郎, (日本醫事新報第341號)。

所謂ホルモンによる妊娠診斷法に就て, 白井貞次郎, (近畿婦人科學會雜誌第11巻第6號)。

胸腺の機能に就て, 竹内清, (臨床研究第1巻第2,3,4號)。

膵臓内分泌の實驗的研究, 星, (Tohoku Journal of Exp. Medicine 第7巻5,6號)。

知覺神經刺激の副腎エピネフリン排出速度に及ぼす影響, 菅原, 渡邊, 齋藤, (同上 第7巻第1號)。

家兎アドレナリン過血糖に就て, 平山宗造, (同上 第7巻 第3,4號)。

副腎別出家兎に於ける鹽化アンモン性過血糖に就て, 佐武安太郎, (同上 第8巻第1號)。

副腎別出家兎に於ける繩縛性過血糖に就て, 平山宗造, (同上第8巻第1號)。

副腎別出家兎に於けるエーテル過血糖に就て, 館, 平山, (同上, 第8巻第1號)。

家兎副腎エピネフリン量に及ぼすインシュリン投與の影響, 齋藤, (同上, 第12巻第2,3號)。

人並に牛胎兒副腎内エピネフリンの存在に就て, 齋藤靜, (同上 12巻2,3號)。

家兎副腎の代償性肥大に就て, 並に兩側副腎別出後の生存時間と副腎皮質組織との關係に就て, 兒島武夫, (同上 第13巻第3,4號)。

偏側又は兩側副腎別出の家兎尿中毒素排泄に及ぼす作用, 兒島武夫, (同上第13巻第3,4號)。

腎臓の血壓上昇性物質に就て(一)早川博, (慶應醫學第8巻第9號)。

腎臓の血壓上昇物質に就て(二)毒物性腎炎を惹起せしめたる腎臓に就ての實驗, 早川博, (慶應醫學第8巻第9號)。

日本酒の内分泌諸臟器組織學的所見に及ぼす影響に就て, 末松務, (日本内分泌學會雜誌第5巻第1號)。

饑餓動物に於ける尿中食鹽及びカルチウム排泄に及ぼす二三内分泌の影響に就て, 溝上三保, 西村俊一, (日本内分泌學會雜誌第5巻第3號)。

内分泌腺機能と結合血糖に關する研究(三)生殖機能と結合血糖量, 附, 生殖腺機能と遊離血糖量及血色素量, 鎌田愛作, (京都府立醫科大學雜誌3巻1號)。

免疫反應と結合血糖(二)卵蛋白の結合血糖に及ぼす影響, 鎌田愛治, (京都府立醫科大學雜誌第3巻第1號)。

糖尿病昏睡の一例, 松井慶事, (日本消化器病學會雜誌第28巻第2號)。

瞳孔のアドレナリン散大と頸部交感神經との關係に就ての知見補遺, 市原文雄, (中央眼科醫報第二〇巻第6號)。

膵臓内分泌の實驗的研究(一〇)膵臓ホルモンの肝臓并に筋肉糖原及脂肪に及ぼす影響, 佐藤基, (The Tohoku Journal of Experimental medicine 第13巻第1,2號)。

膵臓内分泌の實驗的研究(11)胸管淋巴及動靜脈血中糖に及ぼす膵臓ホルモンの作用, 佐藤基, (同上 第13巻第1,2號)。

膵臓内分泌の實驗的研究(12)人工灌流犬肝臓の含水炭酸に及ぼす膵臓ホルモ

- ンの作用, 佐藤基, (同上 第 13 卷第 1, 2 號)。
- 膵臓内分泌に就ての實驗的研究(13)生體より剔出せる犬心臓の糖消費に及ぼす膵臓ホルモンの影響に就て, 佐藤基, (同上 第 13 卷第 3, 4 號)。
- 膵臓内分泌に就ての實驗的研究(14)生體より剔出し人工的に灌流せる犬脚中の含水炭素に及ぼす膵臓ホルモンの影響に就て, 佐藤基, (同上第 13 卷第 3, 4 號)。
- 糖質分解に對するホルモン特に膵臓ホルモンの影響に就て, 内田謙益, (日新醫學第 18 年 4, 5 號)。
- アウトホルモンとホルモンとの關係, 宮川米次, (醫局及藥局第 6 年第 3 號)。
- ホルモンの化學の進歩, 佐藤秀三, (東西醫學大觀第 21 號)。
- 非經口的に注入せる甲狀腺細胞成分の血液脂肪及び類脂肪體に及ぼす影響に就て(2)血液總脂肪酸, 及びレシチン量に及ぼす影響, 櫻井信太郎, (實驗醫學雜誌第 13 卷第 6 號)。
- 非經口的に注入せる甲狀腺細胞成分の血液脂肪及び類脂肪體に及ぼす影響に就て, (3)對照試驗, 櫻井信太郎, (實驗醫學雜誌第 13 卷第 6 號)。
- 非經口的に注入せる甲狀腺細胞成分の血液脂肪及び類脂肪體に及ぼす影響に就て, (4)第一回第二回及び第三回報告の總括并に考察, 櫻井信太郎 (實驗醫學雜誌第 13 卷第 6 號)。
- 甲狀腺機能と血液中のオキシダーゼとの關係に就て, 岸田登美, (大阪醫學雜誌第 28 卷第 6 號)。
- 唾液腺の機能に關する研究, 近藤藤平, (日本外科學會雜誌第 30 卷第 4 號)。
- 副腎皮質機能に關する實驗的研究(一)副腎皮質とコリスチリン新陳代謝, 堀江憲治, (滿洲醫學雜誌第 7 卷第 6 號)。
- 胸腺の病理組織學的所見, 石橋松藏, 渡邊建, (日本病理學會雜誌第 16 號)。
- 石炭タールに因る諸臓器の變化特に甲狀腺の變化に就て, 中野操, (日本內分泌學會雜誌第 5 卷第 1 號)。
- 女性生殖器に及ぼす內分泌腺作用の實驗的并に臨牀的研究, (一)腦下垂體前葉と女性生殖器との關係, 中島東雄, (日本婦人科學會雜誌第 24 卷第 5 號)。

- 雌性ホルモンと腦下垂體の性ホルモンに關する最近の研究, 石原房雄, (日本之醫界第 18 卷第 62 號)。
- 肝臓の解毒作用(一)附鹽谷氏法剔出蛙心に對するデギトキシシン(メルク)の作用, 阪田外吉, (朝鮮醫學會雜誌第 19 卷第 3 號)。
- ヒヨリンの組織化學的研究, 廣瀬平次, (東京醫學會雜誌第 43 卷第 6 號)。
- 內分泌物質并に二三藥物の膽汁分泌に及ぼす影響, 森健吉, (日本內分泌學會雜誌第 5 卷第 2 號)。
- 脾臓の內分泌機能に就て, 松岡謙之助, (日本內分泌學會雜誌第 5 卷第 2 號)。
- 卵巢黃體の生物學的意義, 黃體ホルモンに就てモルモット性週期に伴ふ諸臓器の變化, 宮川米次, 齋藤公平, (實驗醫學雜誌第 13 卷第 1 號)。
- 卵巢黃體の生物學的意義, 黃體ホルモンに就て(二)モルモット妊娠に伴ふ諸臓器の變化, 宮川米次, 齋藤公平, (實驗醫學雜誌第 13 卷第 1 號)。
- 甲狀腺過剰症の胎兒及び母體特に其乳腺, 卵巢に及ぼす影響に關する實驗的研究, 淺田弘太郎, (日本婦人科學會雜誌第 24 卷第 3, 4 號)。
- 腦下垂體と甲狀腺, 宮崎明夫, (大日本耳鼻咽喉科會々報第 33 卷第 6 號)。
- 腦下垂體前葉製劑注射實驗成績, (特に甲狀腺)に就て, 宮崎明夫, (大日本耳鼻咽喉科會々報第 33 卷第 9 號)。
- 甲狀腺剔出が實驗スピロヘータ病の經過に及ぼす影響に就て, 若杉金一, (皮膚科及泌尿器科雜誌第 29 卷第 6 號)。
- (以上 醫學中央雜誌第 29 卷所載)。
- 糖化酵素作用に對する諸種ホルモンの態度, 太田登博, (福岡醫科大學雜誌第 22 卷第 7 號)。
- 甲狀腺物質飼養動物の肝内糖原生成に及ぼす腦類脂體の影響に就て, 齋藤平義, (慶應醫學第 9 卷第 10 號)。
- ピットリリンによる多水症の成因, 渡邊, (慶應醫學第 8 卷第 12 號)。
- 尿崩症に關する實驗的研究, (一)尿崩症患者に於ける腦下體製劑の尿分泌抑制作用に關する研究(二)腦下垂體製劑の蟻蜂の血管に及ぼす影響並に之とアドレナリンとの比較, 黒瀬巖, (岡山醫學會雜誌第 454 號)。

- 腦下垂體と尿崩症との關係(一)崩尿症患者に於ける腦下垂體製劑の尿分泌抑制作用に関する研究(二)腦下垂體製劑の血管作用の本態に就て, 黒瀬巖, (岡山醫學會雜誌第 455 號)。
- 甲狀腺機能異常の瓦斯代謝に及ぼす影響竝に二, 三内分泌腺製劑の相互關係に就て, 劉清井, (東京醫學會雜誌第 43 卷第 8 號)。
- 甲狀腺劑の利尿作用機轉に関する研究, 細野尙是, (實驗藥物學雜誌第 1 卷第 1 號)。
- 内分泌腺の病理及病理解剖, 那須省三郎, (東北醫學雜誌第 12 卷補冊の一)。
- 剖檢材料の統計的研究(一)特に重量より見たる副腎, 胸腺の發育, 附, 腦重に就て, 星三藏, (日本病理學會雜誌第 17 號)。
- 非徑口的に注入せる副腎髓質乳劑注射による内臟特に内分泌臓器の變化に就て, 附, 血液像竝に血糖量, 小島井護, (東京醫學會雜誌第 43 卷第 6 號)。
- 甲狀腺乾粉給與の副腎の大きさに及ぼす影響に就て, 劉清井, (東京醫學會雜誌第 43 卷第 7 號)。
- 甲狀腺機能知見補遺(四)甲狀腺機能障礙を起さしめたる家兎血清注射が家兎新生存の身體竝に甲狀腺の發育に及ぼす影響, 浮田友樹, 吉富昇, (滿洲醫學雜誌第 10 卷第 4 號)。
- 甲狀腺機能異常血清注射が新生家兎仔内臟の發育に及ぼす影響, 吉富昇, (滿洲醫學雜誌第 10 卷第 4 號)。
- 種々内分泌の甲狀腺に及ぼす影響, 須賀井正謙, (北海道醫學雜誌第 7 年第 4 號)。
- 白鼠の松果腺剔出試験及該腺剔出の出産に及ぼす影響に就て, 伊澤好爲, (日本病理學會雜誌第 16 年)。
- 上皮細胞内リポイドの研究竝に其意義, 大森三彦, (岡山醫學會雜誌第 41 年第 2 號)。
- 鹽化アドレナリンの腹腔内注射に就て, 佐々木好母, (臨床研究第 1 卷第 3 號)。
- 多腺性内分泌機能不全症に関する實驗的研究, 杉本誠一, (十全會雜誌第 34 卷臨時號)。
- 靑酸加里反復供給による過血糖竝に血液乳酸量に及ぼす諸種内分泌の影響,

- 織田敬信, (日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 1 號)。
- 含水炭素新陳代謝に関する研究(二)脾臓の内分泌に関する研究, 一色嗣武, (醫事新聞第 1251 號)。
- 葡萄糖反復供給のインシュリン, アドレナリン血糖作用竝に耐糖力に及ぼす影響, 織田敬信, (日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 1 號)。
- 外界氣温の血糖量, 殊にインシュリン竝にアドレナリン血糖作用に及ぼす影響, (一)正常家兎に於ける實驗, 美間武, (日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 4 號)。
- 外界氣温の血糖量, 殊にインシュリン及アドレナリン血糖作用に及ぼす影響(二)甲狀腺機能障礙を起さしめたる白鼠に於ける實驗, 美間武, (日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 4 號)。
- インシュリン, 及アドレナリン血糖作用に及ぼす, 副腎皮質及卵巣(間質及び黃體), の影響, 織田敬信, (日本内分泌學會雜誌第 4 卷第 5 號)。
- インシュリン注射後糖尿病患者に現はるる一症候, (血糖減少症の一新解釋) 服部彌二郎, (治療新報第 28 卷第 8 號)。
- 諸臓器のオキシダーゼ反應に對するキニーネと甲狀腺の相互作用に就て, 森健吉, (日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 4 號)。
- ピットリトリン, の尿分泌制限機轉に関する研究補遺, 鎌田愛治, (京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 2 號)。
- アヂソン氏病に就て, (臨床的所見), 川西武夫, (京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 2 號)。
- アヂソン氏病, 日下部周利, (醫學輯覽第 45 號)。
- アヂソン氏病, 吳健, (實驗醫報第 176 號)。
- オイヌコイデイスムス患者供覽, 穴戸正元, (日本內科學會雜誌第 17 卷第 4 號)。
- ホルモン化學と臓器療法, 森茂樹, (醫局及藥局第 6 年第 4, 5 號)。
- 胎盤の發情ホルモンに関する研究, 山本文陸郎, 島村虎猪, (中央獸醫學雜誌第 41 卷第 10 號)。
- 耐熱性人胎盤毒に関する研究, 藤井原男, (日本婦人科學雜誌第 24 卷第 5 號)。

- 胎盤エキスの胃液に及ぼす影響，附，妊娠及産褥時の胃液に就て，中山貞次，（日本婦人科學會雜誌第 24 卷第 5 號）。
- 人胎盤製劑を以てせる月經異常の治療，川添正道，（日本婦人科學會雜誌第 24 卷第 5 號）。
- 産科に於けるピツイトリンの分割應用に就て，酒井鑒二，（産科婦人科研究第 2 卷 4 號）。
- 産科に於けるピツイトリンの應用範圍，竹下武彦，（鹿兒島醫學雜誌第 49 號）。
- ピツイトリン類注射の胎兒に及ぼす影響，篠由紀，（日本婦人科學會雜誌第 24 卷第 5 號）。
- 母體に於ける甲状腺機能障礙が其胎兒又は乳兒の内分泌器に及ぼす影響に就て（一）母體のバセドウ氏病が其胎兒に及ぼす影響に就て，高橋敏行，（日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 5 號）。
- 母體に於ける甲状腺機能障礙が其胎兒又は乳兒の内分泌臓器に及ぼす影響に就て，（二）實驗的甲状腺機能亢進が其胎兒に及ぼす影響に就て，高橋敏行，（日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 5 號）。
- 母體に於ける甲状腺機能障礙が其胎兒又は乳兒の内分泌臓器に及ぼす影響に就て，（三）母體の甲状腺機能障礙が其乳兒に及ぼす影響に就て，高橋敏行，（日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 5 號）。
- 胸腺製劑の家兎生殖器及蛙蝌蚪の發育に及ぼす影響，宮崎展亮，（日本婦人科學會雜誌第 24 卷第 8 號）。
- 胸腺淋巴性體質女兒に於ける内分泌臓器特に其卵巢の組織學的研究，近藤洪，（日本婦人科學會雜誌第 24 卷第 9 號）。
- 卵巢黄體の解毒機能に就て，高橋七郎，（滿洲醫學雜誌第 11 卷第 2 號）。
- 卵巢濾胞ホルモンに就て，島村虎猪，（現代之醫學第 21 卷第 6 號）。
- 雌性のホルモンに関する實驗的研究，藤井明人，（東京醫事新誌第 2641 號）。
- 所謂性ホルモンに関する實驗的研究，白井貞次郎，（關西醫事第 5, 6, 號）。
- アトニンに對する子宮の反應性と黄體ホルモンとの關係に就て，中野哲夫，（東京醫事新誌第 2635 號）。

- 腦下垂體前葉の雌性生殖器に及ぼす影響，山崎雄造，（日本婦人科學會雜誌第 24 卷第 8 號）。
- ビタミン缺乏食と卵巢機能との關係，三好宗一，（臨床産科婦人科第 4 卷第 5 號）。
- 内生殖器發育不全症に對する卵巢製劑の應用，尾池元太郎，（近畿婦人科學會雜誌第 12 卷第 3 號）。
- 内分泌腺製劑毛髮發育に及ぼす影響に関する實驗的研究，谷村忠保，遠藤益市，（大阪醫學會雜誌第 28 卷第 4 號 皮膚科及泌尿器科雜誌第 29 卷第 5 號）。
- 内臓神經及アドレナリンの脾臓及膽汁分泌作用竝に脾臓神經の相互促進作用に就て，勝部育郎，（大阪醫學會雜誌第 28 卷第 9 號）。
- 消化管特に胃及腸管のホルモンに就ての實驗的研究（一〇）越智眞逸，（京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 5 號）。
- セクレチンに関する研究，西川恒彌，（成醫學會雜誌第 47 卷第 10 號）。
- 唾液腺の機能に関する研究（三），近藤藤平，（京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 4 號）。
- 唾液腺の機能に関する研究（四），近藤藤平，（京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 4 號）。
- 唾液腺の機能に関する研究（五），近藤藤平，（京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 5 號）。
- 唾液腺機能に関する實驗的研究（二），唾液腺剔出の海狸體重に及ぼす影響に就て，石田俊孝，（千葉醫學會雜誌第 7 卷第 9 號）。
- 副腎皮質の機能に関する研究（二），近藤藤平，（日本外科寶函第 6 卷第 4 號）。
- 副腎皮質の機能に関する研究（三），近藤藤平，（日本外科寶函第 6 卷第 5 號）。
- 副腎皮質の機能に関する研究（四），近藤藤平，（日本外科寶函第 6 卷第 5 號）。
- 諸種内分泌物質の膽汁分泌に及ぼす影響に就て，岡村昶二，（Arbeiten aus der Medizinischen Universität zu Okayama 第 1 卷第 3 號）。
- 副腎のヒヨリン產生に関する實驗的研究，大野四郎，（福岡醫科大學雜誌第 20 卷第 9 號）。

- 副甲状腺とカルシウム代謝との關係に就て, 一本杉虎二, (Mittsilungen über allgemeine Pathologie u. pathol. Anatomie 第3卷第2冊)。
- 血液尿素調節中樞と副腎内分泌との關係, 池口輝雄, (實驗藥物學雜誌第1卷第2, 3, 號)。
- 諸内分泌物質のカルシウム代謝に及ぼす影響, 小田美穂, (實驗藥物學雜誌第1卷, 第2, 3, 號)。
- 過敏状態に於けるアドレナリン内分泌の變化, 佐藤宗三郎, (實驗藥物學雜誌第1卷第1號)。
- 乳腺の發育及退縮に就て, 平田勇吉, (日本病理學會々誌第17年)。
- 肝臟機能に及ぼす上皮小體ホルモンの影響(一)金明學, (朝鮮醫學雜誌第19卷第8號)。
- 肝臟機能に及ぼす上皮小體ホルモンの影響(二)金明學, (同上 第19卷第8號)。
- 結核症に於ける内分泌腺の病理解剖學的及組織學的研究(一)睾丸の變化に就て, 宮田榮, (十全會雜誌第34卷第7號)。
- 鹽化ヒヨリンに因る卵巢の組織的變化に就て, 栗本春吉, (北海道醫學雜誌第7年第5號)。
- 雌雄動物生殖器のオキシダーゼ反應(一)性週期に關聯する健常白鼠の生殖器のオキシダーゼ反應に就て, 土屋慶三, (熊本醫學會雜誌第5卷第10號)。
- 一側副腎剔出竝にアドレナリン注射による動脈硬變症に對する二三藥物の影響, 梶村外吉, (岡山醫學會雜誌第41年第8號)。
- 内分泌臟器と齒牙發育との關係に就て, 生田信保, (日本病理學會雜誌第17年)。
- ホルモン分泌路に關する研究, (一)脾臟及睾丸ホルモンの分泌, 武藤忠次, (日本病理學會會誌第17年)。
- ホルモンと免疫體との關係特に凝集素と睾丸との關係に就て, 尹日善, (日本病理學雜誌第17年)。
- ホルモンと免疫體との關係, 肝臟及び腎臟物質に因る凝集價變動の成因に就て, 金明學, 徳光美福, (日本病理學雜誌第17年)。

- ホルモンと免疫體との關係, 腦下垂體後葉製劑, "Pituitary Solution" による凝集價變動の成因に就て, 梅田薫, (日本病理學會々誌第17年)。
- ホルモンと免疫體との關係, 副腎皮質による凝集價變動の成因に就て, 片淵秀雄, (日本病理學會々誌第17年)。
- ホルモンと免疫體との關係, 徳光美福, 野崎美穂, (日本病理學會々誌第17年)。
- 胸腺の研究(二)白鼠胸腺の生後發育竝に生理的退縮の組織學的研究, 渡邊建, (千葉醫學會雜誌第7卷第5號)。
- 胸腺病理補遺(一)胸腺の脂肪に就て, 高島彪雄, (日本病理學會々誌第17年)。
- 上皮小體の病理組織的竝に顯微化學的研究, 黒川清之, (日本病理學會々誌第17年)。
- 上皮小體細胞内リボイドの實驗的研究, 殊に其の意義に就て, 大森三彦, (岡山醫學會雜誌第41年第7號)。
- 石炭タールに因る諸臟器の變化に就て, 中野操, (日本内分泌學會雜誌第5卷第4號)。
- 甲状腺病理 Basedow 氏病甲状腺變化に就て, 福士政一, 江口勝四郎, (日本病理學會雜誌第17年)。
- 生殖腺及甲状腺の高溫に因る諸變化に就て, (三)高氣温が甲状腺に及ぼす影響及高溫環境内の生物學的諸現象と甲状腺機能亢進症狀との關係, 江馬正夫, (國民衛生第6卷第8號)。
- 副腎と甲状腺との關係に就て實驗的研究, 梶村外吉, (岡山醫學會雜誌第41年第8號)。
- 副腎神經支配の形態學的實驗研究, 星騰吉, (Mitteilungen über allgemeine Pathologie und pathologische Anatomie 第3卷第2冊)。
- 松果腺の研究, 生後二〇日に松果腺を剔出せる白鼠に於ける病的變化, 伊澤好爲, 秋山成六, (日本病理學會々誌第17年)。
- 松果腺竝に他の内分泌臟器の機能障礙に於ける該腺の銀反應に就て, 鹽谷壽, (北海醫學雜誌第7年第7號)。

- 甲狀腺機能消長の過敏症に及ぼす影響に就て, 石田俊孝, (千葉醫學會雜誌第7卷第8號)。
- 胸腺及び腦下垂體混合エキスの妊娠性子宮に對する作用, 西島重樹, (東京醫事新誌第2628號)。
- 肥大性扁桃腺エキスの摘出臓器に及ぼす影響に就て, 中島豊, (耳鼻咽喉科臨床第20卷第3號)。
- 消化腺分泌の研究(一)インシュリンによる膵分泌亢進は副交感神經の中樞刺激によるべし, 行徳健助, 川島震一, (實驗消化器病學第4卷第8號)。
- 消化腺分泌の研究(二)インシュリンによる胃液分泌の實驗的檢索, 行徳健助, 寺島正一, (實驗消化器病學第4卷第8號)。
- 消化腺分泌の研究(三)胃液及膵液の分泌知見補遺, 行徳健助, 岩永芳男, (實驗消化器病學第4卷第8號)。
- 胃腸ホルモンの生理的性質と其臨床上の意義, 越智眞逸, (日本消化器病學雜誌第28卷第12號)。
- 副甲狀腺切除テタニーの本態に就て, 飯田四郎, (社會醫學雜誌第514號)。
- 内分泌物質の中間物質代謝に及ぼす影響及相互關係, 武藤虎雄, (福岡醫科大學雜誌第22卷第8號)。
- 諸種内分泌腺の血液グルタチオンに及ぼす影響, 田桑眞男, (京都府立醫科大學雜誌第3卷第5號)。
- ヒヨリンの正常血糖竝にアドレナリン過血糖に及ぼす影響に就て, 清松辰夫, (大阪醫學會雜誌第26卷第1號)。
- 冷血動物(龜)に對するインシュリンの態度, 田桑眞男, (京都府立醫科大學雜誌第3卷第4號)。
- インシュリンの作用, 小田要, (日本生化學會々報第3卷第6號)。
- 諸内分泌器飼育蟾蜍蝌蚪に於ける前肢の發現, 戸荻近太郎, (解剖學雜誌第1卷第1號)。
- 健常犬腦下垂體細菌學的研究, 高島俊吉, (解剖學雜誌第1卷第3號)。
- 犬甲狀腺微細構造に關する實驗的研究, 村上來藏, (解剖學雜誌第1卷第1號)。

- 甲狀腺濾體の大きさに關する計測的觀察, 山下秀之助, (北海道醫學雜誌第6年第10號)。
- 甲狀腺の發生に就て, 溝口嘉雄, (解剖學雜誌第1卷第3號)。
- 有尾兩棲類に於ける甲狀腺の血管に就て, 津崎孝道, (解剖學雜誌第1卷第1號)。
- 犬上皮小體の細胞學的研究, 村上來藏, (解剖學雜誌第1卷第2號)。
- 日本人胎兒の胸腺重量に就て, 國友昇, 笹浦三郎, (解剖學雜誌第1卷第4號)。
- 海猿副腎に就て, 別所正恭, (解剖學雜誌第1卷第1號)。
- 内分泌に關係ある二三臓器の淋巴管に關する研究(一)卵巢の淋巴管に就て(二)甲狀腺の實質淋巴系統と其分泌(三)胸腺の實質性淋巴管に就て, 松永茂助, (解剖學雜誌第1卷第2號)。
- 卵巢間質腺細胞の由來(犬に就て), 塚口利三郎, 岡本達三郎, (解剖學雜誌第1卷第1號)。
- インシュリンの膵臓外分泌に及ぼす影響の臨床的實驗, 吉田武夫, (實驗消化器病學第2卷第9號)。
- 蟲様突起に關する研究(一)蟲様突起の生理に關する實驗的研究, 秋武勝雄, (醫學研究第3卷第8號)。
- 蟲様突起に關する研究(二)蟲様突起の解剖學的組織學的竝に比較解剖學的研究, 秋武勝雄, (醫學研究第3卷第8號)。
- 糖尿病患者の血糖に關する研究, 今西義男, (京都府立醫科大學雜誌第3卷第4號第5號)。
- 臨床上から見たインシュリン, 竹田正次, (醫海時報1703, 4, 6, 7, 1712, 3號)。
- インシュリン注射後の初期血糖上昇に就て, 小室昌義, (日本内分泌學會雜誌第5卷第6號7號)。
- アドレナリン及インシュリン血糖作用に對する脾臓の態度に就て, 小室昌義, 上同, 第7號)。
- 副甲狀腺ホルモンの淋巴諸成分に及ぼす影響に就て, 大島四郎, (北海道醫學雜誌第7年第9號)。

- 上皮小體の機能に関する實驗的研究, 李丙勳, (日本內分泌學會雜誌第 5 卷第 7 號)。
- 粘液水腫に就て, 垂水, 田桑, (京都府立醫科大學雜誌第 1 卷第 4 號)。
- バセドウ氏病に就て, 小島, (日本之醫界第 19 卷第 24 號)。
- 人體溫の研究, 田阪定孝, (東京醫學會雜誌第 43 卷第 9 號)。
- 晚發類宦官症に就て, 安藤宇吉, (愛知醫學會雜誌第 36 卷第 8 號)。
- 女性生殖器に及ぼす內分泌腺作用の實驗的竝に臨床的研究, 中島東雄, (東京醫事新誌第 2646 號)。
- 諸種藥物の摘出灌流子宮に對する作用竝に特にカルチウム, 及, カリウム量増減のアドレナリン作用に及ぼす影響に就て, 島居松次郎, (東京醫事新誌第 2644 號)。
- 腦下垂體と扁桃腺との關係, 宮崎明夫, (大日本耳鼻咽喉科學會報第 33 卷第 10 號)。
- 扁桃腺の還元性物質に就て, 景山・富永, (京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 6 號)。
- 結婚と遺傳, 越智眞逸, (優生學第 59 號)。
- 唾液腺機能に関する實驗的研究, 石田俊孝, (千葉醫學會雜誌第 7 卷第 11 號)。
- 消化管特に胃及び腸管のホルモンに就ての實驗的研究, (11) 豚の M, D, ホルモンに就て, 越智眞逸, (京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 6 號)。
- 同上, (12) M, D, ホルモンが精蟲に及ぼす影響, 越智眞逸, 小松伊三郎, (同上 第 3 卷第 6 號)。
- 肝臟の生物學的研究, 稻葉通明, (同上第 3 卷第 6 號)。
- セクレチンによる腺液竝に膽汁分泌機作に関する實驗, 中川, 秋山, 久保, 宇佐美, (大阪醫學會雜誌第 28 卷第 11 號)。
- 骨筋灌流に於けるインシュリンの糖消失促進作用と交感神經との關係に就て, 菊名寛一 (大阪醫學會雜誌第 28 卷第 11 號)。
- 腺臟ホルモン過剩竝に缺如に関する實驗的研究, 久米實一 (福岡醫科大學雜誌第 20 卷第 1 號)。
- 骨筋灌流に於けるインシュリンの糖消失促進作用と交感神經との關係に就て, 菊名寛一 (大阪醫學會雜誌第 28 卷第 11 號)。

- 腺臟ホルモン過剩(中毒)并に缺如に関する實驗的研究, 久米實一 (福岡醫科大學雜誌第 20 卷第 1 號)。
- ラッテに於ける血糖并にインシュリンの生理的作用に関する研究, 島村虎猪, 梅津元昌 (中央獸醫學會雜誌第 41 年第 3 號)。
- 甲狀腺製劑の糖排出閾に及ぼす影響, 川島震一 (The Journal of Biochemistry 第 7 卷第 2 號)。
- 卵巢剔出の糖排出閾に及ぼす影響, 川島震一 (The Journal of Biochemistry 第 7 卷第 2 號)。
- 辜丸剔出の糖排出閾に及ぼす影響, 川島震一 (The Journal of Biochemistry 第 7 卷第 2 號)。
- 副腎アドレナリン含量及肝臟并に筋肉グリコゲン含量の歳時による影響に就て, 飯野豊 (京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 6 號)。
- 各種內分泌液のカルチウム新陳代謝に及ぼす影響に就て(一), アドレナリンのカルチウム新陳代謝に及ぼす影響, 中谷吉太郎 (大阪醫學雜誌第 27 卷第 7 號)。
- 各種鹽類による細胞賦活作用とホルモンの關係(一), カルチウム鹽類の血小板に及ぼす影響と上皮小體ホルモンとの關係, 横村浩 (朝鮮醫學雜誌第 19 卷第 11 號)。
- 超生囊肝臟に於けるアドレナリン出糖に對するアトロピンの拮抗作用に就て, 谷内與一郎, 清原徹一 (日本藥物學雜誌第 8 卷第 3 號)。
- アトロピン屬アルカロイドのアドレナリン作用に及ぼす影響, 繼博 (實驗藥物學雜誌第 1 卷第 4 號)。
- 血中カルチウム量の増減がアドレナリンの血壓作用に及ぼす影響に就て, 町井秀成 (日本藥物學雜誌第 8 卷第 3 號)。
- アドレナリン囊肝出糖作用に及ぼすヒヨリンの影響に就て, 谷内與一郎, 清原徹一 (日本藥物學雜誌第 8 卷第 4 號)。
- 家兔筋肉及血液の燐酸新陳代謝に及ぼすインシュリン及アドレナリンの影響に就て, 中村八郎 (京都府立醫科大學雜誌第 3 卷第 6 號)。

- インシュリンの効果に関する実験的研究(一), 小川正善 (日本薬物学雑誌第 8 卷第 3 号)。
- インシュリンの効果に関する実験的研究(二), 小川正善 (日本薬物学雑誌第 8 卷第 4 号)。
- インシュリンの効果に関する実験的研究(三), 小川正善 (日本薬物学雑誌第 9 卷第 1 号)。
- アドレナリン, コカイン, 兩者間の Gynergismus は Glykogenolyse に於ても成立するや否や, 石川菜兒, 佐方眞三 (日本薬物学雑誌第 8 卷第 3 号)。
- 腸管の薬理的的研究(三), 腸管吸収の薬理, 鹽谷信男 (朝鮮医学会雑誌第 19 卷第 2 号)。
- 腸管の薬理学的的研究補遺(三), 子宮粘膜に於ける薬物の吸収に就て, 寺坂源雄 (朝鮮医学会雑誌第 19 卷第 2 号)。
- β イミドアゾリール・エチルアミン, 即ヒスタミンの作用に関する生物化学的研究(一), ヒスタミンと血液含有量との関係に就て, 木下友敬 (医学研究第 2 卷第 7 号)。
- β イミド・アゾリール・エチルアミン即ヒスタミンの作用に関する生物化学的研究(二), ヒスタミンの蛋白代謝に及ぼす影響に就て 木下友敬 (医学研究第 2 卷第 7 号)。
- β イミド・アゾリール・エチルアミン即ヒスタミンの作用に関する生物化学的研究(三), ヒスタミンと随意筋の交感神経性緊張との関係, (同上第 2 卷第 7 号)。
- 甲状腺と性週期との関係, 室原農夫藏 (熊本医学会雑誌第 5 卷第 11 号)。
- 脳下垂體と性週期との関係, 室原農夫藏 (同上第 5 卷第 11 号)。
- 白鼠の大脳垂體剔出及び大脳垂體前葉エキスに関する実験的研究, 小山修 (兒科雑誌第 351 号)。
- 妊娠と卵巣ホルモン血液内含量に就て, 神宮良一 (熊本医学会雑誌第 5 卷第 11 号)。
- 所謂ホルモン性不妊化に関する実験的研究(一), 白井貞次郎 (大阪医学会雜

- 誌第 28 卷第 3 号)。
- 所謂脳下垂體ホルモンの分布, 白井貞次郎, 曾我直彦 (近畿婦人科学會雑誌第 12 卷第 6 号)。
- 甲状腺機能低下と耳鼻咽喉科, 中村登 (關西醫事第 2 卷第 1 号)。
- 禿髮病と内分泌との関係, 遠藤益市 (皮膚科記要第 13 卷第 2 号)。
- アドレナリンの蛙死後血管に対する作用, 木下海雄 (大阪医学会雑誌第 29 卷第 1 号)。
- 漿液内腔に注入せるアドレナリンの血圧に及ぼす影響に就て, 宮崎森治 (大阪医学会雑誌第 29 卷第 1 号)。
- アドレナリンの家兎腸管并に薑肢血管に対する逆反應に就て, 閻德潤 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 14 卷第 56 号)。
- 諸臓器抽出液の子宮に対する作用に就て, 志馬晃 (大阪医学会雑誌第 28 卷第 12 号)。
- オゾン及紫外線のセクレチンに及ぼす影響に就て, 秋山久雄, 島崎敏雄 (大阪医学会雑誌第 28 卷第 11 号)。
- セクレチンの血圧に対する作用, 石井要, 久保秀雄 (大阪医学会雑誌第 29 卷第 2 号)。
- セクレチンの家兎血糖に及ぼす影響に就て, 菊名寛一 (大阪医学会雑誌第 29 卷第 3 号)。
- 腸管の神経主宰に就て, 吉岡敏雄 (大阪医学会雑誌第 29 卷第 1 号)。
- 内分泌生理概観, 藤田敏彦 (東北医学会雑誌第 12 卷補冊の 2)。
- ホルモン學說の大要, 越智眞逸 (診療第 1 年第 4, 5 号)。
- 消化器系統のホルモン及び之が臨牀上の關係に就て, 越智眞逸 (四國医学会第 1 号)。
- 胃腸ホルモンに就て, 越智眞逸 (診療第 2 卷第 3 号)。
- 消化管特に胃及び腸管ホルモンの実験的研究(13), 豚の腸ホルモンの実験的研究に就て, 越智眞逸 (京都府立醫科大學雑誌第 4 卷第 1 号)。
- 消化管特に胃及腸管のホルモンの実験的研究(14), 豚の M, D ホル

- モン及び腸ホルモンと消化酵素との關係, 越智眞逸 (京都府立醫科大學雜誌第4卷第1號)。
- 肝臓の生物學的研究, 稻葉通明 (京都府立醫科大學雜誌第4卷第1號)。
- 牛の精蟲に就ての生理學的研究(二), 小松伊三郎 (京都府立醫科大學雜誌第4卷第1號)。
- 性能力の内分泌, 諸岡存 (臨床研究第2卷第1號)。
- インシュリンの化學, 富田雅次 (長崎醫學會雜誌第8卷第1號)。
- 大脳下垂體前葉の微細構造に関する實驗的研究(二), 去勢後に於ける變化に就て, 高島俊治 (解剖學雜誌第2卷第4號)。
- 蟾蜍腦下垂體前葉細胞の微細構造に就て, 高島俊治 (解剖學雜誌第2卷第4號)。
- 硫黃の内分泌諸臓器に及ぼす影響に就て, 三島寛 (日本內分泌學會雜誌第5卷第11號)。
- 異物熱と網狀織内被細胞系統と脾臓ホルモンの關係, 今村豊八 (朝鮮醫學會雜誌第20卷第3號)。
- 胸腺皮髓兩質の意義殊に生殖腺との關係, 衣笠茂 (朝鮮醫學會雜誌第20卷第3號)。
- 甲狀腺機能に関する研究, 小松通允 (兒科雜誌第352號)。
- 幼兒甲狀腺機能亢進症の一例, 仁田良一 (臨牀小兒科雜誌第2年第12號)。
- 腦下垂體腫瘍に因るインファンチリズムの一例, 森義弘 (中央眼科醫報第21卷第8號)。
- 卵巢製劑の止血作用機轉に就て, 小副川茂 (臨牀産科婦人科第4卷第6號)。
- 女性性ホルモンの物理化學的并に生物學的性狀に就て, 中村身加榮 (臨牀産科婦人科第4卷第6號)。
- 定型的ヴェスダリン妊娠の二例, 大塚珍三 (日新治療第153號)。
- アドレナリンに因る肝臓并に骨格筋温度の變動に就て, 小阪隆雄 (滿州醫學會雜誌第11卷第1號)。
- 頸動脈竇神經刺戟の犬副腎エピネフリン排出に及ぼす影響, 青村鐵太郎 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第15卷第1, 2號)。

- ウレタンの犬副腎エピネフリン排出速度に及ぼす影響, 佐藤熙, 青村鐵太郎 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第15卷第1, 2號)。
- テトロドトキシンの犬エピネフリン排出に及ぼす作用, 青村鐵太郎, 閻德潤, 及川幸五郎 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第15卷第1, 2號)。
- ウレタン靜脈内注入の猫エピネフリン分泌速度に及ぼす影響, 小玉作治 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第15卷第1, 2號)。
- 内臓神經及アドレナリンの腺液及び膽汁分泌に及ぼす影響に就て, 勝部育郎 (日本外科學會雜誌第304臨時號)。
- アドレナリン過血糖知見補遺, 富永實 (大阪醫學會雜誌第28卷第12號)。
- 内臓神經切斷の副腎アドレナリン含量及び肝臓并に筋肉グリコゲン含量に及ぼす影響に就て, 飯野豊 (京都府立醫科大學雜誌第4卷第1號)。
- 温度の副腎アドレナリン含量及び肝臓并に筋肉グリコゲン含量に及ぼす影響に就て, 飯野豊 (京都府立醫科大學雜誌第4卷第1號)。
- 甲狀腺の蝦蟇副腎アドレナリン含量及び肝臓并に筋肉グリコゲン含量に及ぼす影響に就て, 飯野豊 (京都府立醫科大學雜誌第4卷第2號)。
- 副腎皮質の機能に関する研究補遺, 近藤藤平 (京都府立醫科大學雜誌第4卷第1號)。
- 血液膠質滲透壓に及ぼすホルモンの作用, 多田三郎, 中澤房吉 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第15卷第1, 2號)。
- アウトホルモンと自家調節現象, 宮川米次 (醫海時報第1743號より第1791號に至る)。
- 女性ホルモンの化學, 緒方章 (日本化學總覽第3卷第4號)。
- 諸種内分泌と臓器組織呼吸に就て(二), 脾臓剔出并に脾臓及び甲狀腺剔出と臓器組織呼吸に就て, 前田盛久 (日本內分泌學會雜誌第5卷第10號)。
- 諸種内分泌と臓器組織呼吸に就て(三), 生殖腺剔出と臓器組織呼吸に就て, 前田盛久 (同上)。
- 副腎皮質特にコレステリンに就て, 小幡博 (福岡醫科大學雜誌第22卷第11號)。

- インシュリンに因る餓感の本態に就て, 津下百太 (東京醫事新誌第 2669 號)。
 甲状腺製剤を應用せる脱脂療法に就て, 横森賢次郎 (治療及處方第 121 號)。
 巨人症兼肢端肥大症, 稻田龍吉 (診断と治療第 17 卷第 5 號)。
 尿崩症に關する實驗的研究(三), 牛の腦下垂體の神經部并に中葉浸出液の血管作用の比較并に腦下垂體分泌液の作用路に就て, 黒瀬巖 (岡山醫學會雜誌第 41 年第 4 號)。
 類宦官症の五例に就て, 中村京亮 (福岡醫科大學雜誌第 23 卷第 1 號)。
 色慾の障碍及性的衝動行爲并に憤怒性刺戟症に對する去勢の治療價値に就て, 長山泰政 (臨床醫學第 16 年第 7, 8, 10 號)。
 (以上 醫學中央雜誌第 30 卷所載)
 消化管特に胃及び腸管ホルモンに就ての實驗的研究 (15), 豚の腸ホルモンが生理的及び病的腸管運動に及ぼす影響, 越智眞逸 (京都市立醫科大學雜誌第 4 卷第 2 號)。
 消化管特に胃及び腸管ホルモンに就て(講演), 越智眞逸 (日本醫事新報第 404, 405 號)。
 セクレチンの透析性に就て, 石川儀三郎 (大阪醫學會雜誌第 25 卷第 5 號)。
 所謂心臟ホルモンに就て, 木下良順, 鹽谷壽 (日本內分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
 腦下垂體の含水炭素代謝(一), ピットリンの血糖に及ぼす影響に就て, 山本太郎 (岡山醫學會雜誌第 41 年第 10 號)。
 腦下垂體と含水炭素代謝(二), ピットリンの過血糖發來機轉に就て, 山本太郎 (岡山醫學會雜誌第 41 年第 12 號)。
 大腦下垂體前葉性成熟ホルモンに就て, 島村虎猪 (臨床月報第 235 號)。
 腦下垂體前葉ホルモン知見補遺, 木川浩逸 (日本之醫界第 20 卷第 20 號)。
 紫外線照射アドレナリンの光化學的研究 (紫外線照射アドレナリンの生理的作用增強の理由), 寺田文次郎, 伊藤亮一 (滿洲醫學雜誌第 12 卷第 4 號)。
 非特異性細胞賦活物質による體温上昇と「ホルモン」との關係特に鹽類熱と上皮小體との關係, 今村豊八 (日本內科學會雜誌第 17 卷第 8 號)。

- 甲状腺及び副腎素殊にプリン代謝に及ぼす影響に就て, 小川篁 (日本內分泌學會雜誌第 6 卷第 8 號)。
 硫黃及甲状腺の脂肪新陳代謝に及ぼす影響, 久保昇準 (同上第 6 卷第 1 號)。
 甲状腺成分の蛙剔出心に及ぼす影響に就て, 千野一布 (同上第 6 卷第 1 號)。
 甲状腺ホルモンと植物性神經との關係, 鈴木健太郎 (同上第 6 卷第 1 號)。
 各種內分泌機能と血糖, 森茂樹 (同上, 同上)。
 インシュリン寡血糖症殊に痙攣發來の原因, 杜陵山人 (醫海時報 1858, 1861, 1862)。
 インシュリン持續的注射家兎に於ける二三の血液所見, 金森敬吉 (臨床と講座第 4 卷第 4 號)。
 インシュリンの腺外分泌に及ぼす影響, 鈴木猛 (熊本醫學會雜誌第 6 卷第 3 號)。
 腺機能に關する研究, 進藤直作 (岡山醫學會雜誌第 41 年第 10 號)。
 諸種內分泌と臟器組織呼吸に就て, 前田盛久 (日本內分泌學會雜誌第 5 卷第 11 號第 6 卷第 1 號)。
 ヴイタミン B 缺乏症動物の臟器組織呼吸に及ぼす諸種內分泌の影響に就て, 前田盛久 (同上第 5 卷第 12 號)。
 諸種臟器オキシゲンに及ぼす副腎の影響, 安田徳太郎 (同上第 5 卷第 9 號)。
 甲状腺乾粉投與による實驗的動脈硬變症の生成に及ぼすインシュリンの影響に就て, 小出貞次郎 (日本內分泌學雜誌第 6 卷第 1 號)。
 アドレナリン靜脈内注射に因る實驗的動脈硬變症の生成に及ぼす亞硝酸ナトリウムの影響に就て, 小出貞次郎 (日本內分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
 胸腺皮髓兩質の意義殊に其生殖腺との關係(一), 胸腺皮髓兩質の生理的發育及び退縮(皮髓兩質比率の年齢的變遷), 衣笠茂 (朝鮮醫學會雜誌第 20 卷第 1 號)。
 胸腺皮髓兩質の意義, 殊に其生殖腺との關係(二)胸腺皮髓兩質と生殖腺及び腦下垂體前葉との內分泌的相互關係, 衣笠茂 (同上)。
 副腎皮質移植と其機能検査に就て, 原田民藏 (福岡醫科大學雜誌第 23 卷第 1

- 號)。
- 結核症に於ける内分泌腺の病理解剖學的及組織學的研究(二), 腦下垂體の變化に就て, 宮田榮 (十全會雜誌第 34 卷第 12 號)。
- 鶏松果腺に就て, 梶本信明, (解剖學雜誌第 2 卷第 2 號)。
- マウス副腎皮質網狀層の組織的構造并に其機能に就て, 久木田五郎 (實驗醫學雜誌第 14 卷第 1 號)。
- インシュリン反覆注射による家兎副腎皮質の組織學的變化, 原田民藏 (福岡醫科大學雜誌第 23 卷第 1 號)。
- 腦下垂體別出家兎に於ける二三の所見, 中村京亮 (日本内分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- 上皮小體細胞内リポイドの研究殊に其意義に就て, 大森三郎 (解剖學雜誌第 2 卷第 2 號)。
- 癩患者上皮小體の病理組織學的研究, 鈴江懷外 2 氏 (日本内分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- 上皮小體の實驗的研究 肝臟の菌排泄に就て, 附, 組織學的檢索(2), 李丙勳 (日本内分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- 生殖腺并に脾臟の臟器糖原質量に及ぼす影響, 千野一布 (日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 11 號)。
- 生殖腺ホルモンによる血液類脂肪消長に及ぼすアルカリ及アルカリ土類鹽の影響に就て(一), 卵巣摘出による血液類脂肪消長に及ぼすアルカリ及アルカリ土類鹽の影響に就て, 三苦守仁 (大阪醫學會雜誌第 29 卷第 2 號)。
- 生殖ホルモンによる血液類脂肪消長に及ぼすアルカリ及アルカリ土類鹽の影響に就て(二), 睪丸摘出による血液類脂肪消長に及ぼすアルカリ及アルカリ土類鹽の影響に就て, 三苦守仁 (同上)。
- Doppler 氏の所謂化學的交感神經排除法に對する吟味, 三峰寛 (日本内分泌學雜誌第 6 卷第 1 號)。
- 煙草エキス, アトロピンの内分泌諸臟器組織學的所見に及ぼす影響, 末松務 (日本内分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。

- 結核菌毒素の内分泌諸臟器に及ぼす影響, 吉野三郎 (日本内分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- ヒスタミン連續注射が内分泌諸臟器に及ぼす變化に就て, 伊藤昭七, 三島寛 (日本内分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- エルゴタミン(ヂネルゲン)が内分泌諸臟器の組織學的所見に及ぼす實驗的研究, 高橋敏行, 末松務 (日本内分泌學會雜誌第 5 卷第 8 號)。
- 日本酒の内分泌諸臟器組織學的所見に及ぼす影響に就て, 末松務 (同上第 9 號)。
- ビタミンB 缺乏症動物の瓦斯代謝に及ぼす影響諸種内分泌の影響, 篠部信一 (日本内分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- チロキシンに就て, 服部彌二郎 (内外治療第 5 年第 5 號)。
- 腸チフスを合併せる Basedow 氏病に就て 五十嵐久雄 (實驗消化器病學第 5 卷第 5 號)。
- Basedow 氏病に就て(講演), 稻田龍吉 (臨床醫學第 18 年第 4 號)。
- 女性の性ホルモンに關する實驗的研究(一), 藤井明人 (東京醫事新誌第 2618 號)。
- 女性ホルモンを中心とする内分泌研究の發達, 後藤直 (醫事公論第 859 號)。
- 家兎腦下垂體完全破壊を行ふ予が方法(土耳其鞍内タンボン法), 小榮次郎 (近畿婦人科學會雜誌第 13 卷第 1 號)。
- 脾臟の血小板抑留作用に及ぼす卵巣ホルモンの影響, 川田達彌, 岩城恵伍 (北越醫學會雜誌第 44 年第 8 號)。
- 消化管特に胃及び腸管のホルモンに就ての實驗的研究(16), 豚の腸ホルモンに關する研究補遺, 越智眞逸 (京都府立醫科大學雜誌第 4 卷第 3 號)。
- 卵巣濾胞液内有效物質の生化學的研究補遺(一), 平野寛一 (實驗醫學雜誌第 13 卷第 10 號)。
- 卵巣濾胞液内有效物質の生化學的研究補遺(二), 平野寛一 (同上第 12 號)。
- 卵巣濾胞液内有效物質の生化學的研究補遺(三), 平野寛一 (同上)。
- 卵巣濾胞液内有效物質の生化學的研究補遺(第一, 二, 三報告總括), 平野寛

- 一 (同上)。
- 二三内分泌臓器の血清コレステリン量に及ぼす實驗的研究, 得能倫二 (岡山醫學會雜誌第 41 年第 7 號)。
- 脾臓及副腎のコレステリン新陳代謝に及ぼす影響, 得能倫二 (同上第 8 號)。
- 解糖機轉に及ぼす諸種内分泌腺の影響, 特に結合血糖との關係に就ての研究(二), インシュリン, アドレナリン及インテレニンの影響, 今西義男 (京都府立醫科大學雜誌第 4 卷第 1 號)。
- 解糖機轉に及ぼす諸種内分泌腺の影響, 特に結合血糖との關係に就て(三) 腦下垂體エキスの影響, 今西義男, (同上第 2 號)。
- 解糖機轉に及ぼす諸種内分泌腺の影響, 特に結合血糖との關係に就て(四) 葡萄糖支給の影響に就て, 今西義男, (同上 第 2 號)。
- 解糖機轉に及ぼす諸種内分泌腺の影響, 特に結合血糖との關係に就て, (五), 附, 糖尿病患者血液解糖機轉, 今西義男, (同上 第 3 號)。
- アドレナリンに因る灌流臺肝臓出糖に及ぼす諸種アミノ酸の影響に就て, 谷内與一郎, (日本藥物學雜誌第 10 卷第 1 號)。
- 實驗的血管硬變症生成に及ぼす各種内分泌腺の影響に就て, 武田勝男, (北海道醫學會雜誌第 7 年第 10 號)。
- 正常家兔胸腺の年齢的變化并に二三臓器との比較, 小川貞雄, (軍醫團學誌雜 200 號)。
- 生理的并に病的狀態に於ける腦下垂體前葉の所謂前葉ホルモン含有量に就て, 植山太, (大阪醫學會雜誌第 29 卷第 1 號)。
- 新陳代謝異常と甲状腺機能, 須賀井正謙, (北海道醫學雜誌第 7 年第 10 號)。
- 副腎皮質の銀反應に就て, 園田千榮, (同上)。
- 副腎皮質の銀反應に就て(3) ラノリン飼養と銀反應との關係, 園田千榮, (同上)。
- アドレナリン注射による各臓器の組織形態學的研究, (一) 腎臓の變化に就て, 中聖雨, (日本病理學會會誌第 19 年)。
- ホルモンと免疫體との關係, 徳光美福, Acta Medica in Keijo 第 12 卷第 1

- 號)。
- 脾臓と甲状腺との交互作用に關する研究, 網島義人, (岡山醫學會雜誌第 42 年第 2 號)。
- 脾臓内分泌と雌性生殖機能, 明比竹馬, (日本婦人科學會第 25 卷第 5 號)。
- 雌性生殖器と脾臓との關係に就ての實驗的研究, 加納知男, (同上)。
- 女性生殖器に及ぼす腦下垂體前葉ホルモンの影響, 筒井忠, (同上)。
- 腦下垂體前葉と女性生殖器との關係, 中嶋東雄, (同上)。
- Kastromon か前葉ホルモンか, 後藤直, (同上)。
- 性ホルモン特に卵巣濾胞ホルモンの分布及び抽出に就て, 伊藤正雄, (治療新報第 29 卷第 6 號)。
- 卵巣ホルモンの藥理學的研究, 卵巣ホルモンの血管作用に就て, (一) 服卷實一, (熊本醫學會雜誌第 6 卷第 3 號)。
- 卵巣ホルモンの藥理學的研究, 卵巣ホルモンの子宮作用に就て(二), 服卷實一, (同上第 5 號)。
- 卵巣乳腺下移植に就て, 大野精七, (日本婦人科學會雜誌第 25 卷第 5 號)。
- 副甲状腺別出家兎と妊娠, 齋藤勳 (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 第 15 卷第 34 號)。
- ホルモンの話, 結晶インシュリンに就て, 緒方章, (日本藥報 3 年 1 號)。
- 大脳下垂體前葉性成熟ホルモンに就て, 島村虎猪, (醫事公論第 932 號)。
- 腦下垂體の機能 武谷廣, (滿州醫學雜誌第 9 卷第 1 號)。
- 脾臓内分泌に關する實驗的研究, 柴山義雄, (臨床醫學第 15 年第 11, 12 號)。
- インシュリンの糖分解機轉に就て, 野口猪之助, (日本藥報第 2 年第 4 號)。
- 内分泌, 石川日出鶴丸, (生理學研究第 3 卷第 2, 3, 4, 7 號)。
- 外分泌, 石川日出鶴丸, (同上 第 4 卷第 1, 7, 8, 9 號第 5 卷 1 號)。
- 甲状腺別出が饑餓時蛋白中間代謝に及ぼす影響に就て, 森繁春, (社會醫學雜誌第 519 號)。
- 副腎別出が肝筋肉グリコゲン及血清量并に血中コレステリン量に及ぼす影響に就て, 志波敘逸, (岡山醫學會雜誌第 41 年第 10 號)。

- 饑餓による副腎の變化及其アドレナリン含有量に就て, 附, 饑餓による家兎血液の沃度酸値の變化, 石橋無事, (北越醫學會雜誌第 45 年第 5 號)。
- 特異性乃至非特異性細胞賦活作用とホルモンの關係に就て, 徳光美福, (日本病理學會々誌第 19 年)。
- 副腎と生殖腺との關係に對する疑義, 衣笠茂, (朝鮮醫學會雜誌第 20 卷第 3 號)。
- 副腎髓質細胞學的研究, 平井正民, (日本病理學會會誌第 19 年)。
- バラチフス B 毒素に因る副腎の變化, 井上實和, 新井二郎, 喜々津恭胤, (日本病理學會々誌第 19 年)。
- 副腎髓質乳劑非腹腔内注入による内臟特に内分泌臓器の變化に就て, 小島井讓, (日本病理學會々誌第 19 年)。
- 胸腺病理知見補遺, 中村八太郎, (同上)。
- コレステリン代謝に對する腦下垂體の意義, 武田勝男, (同上)。
- 去勢動物の腦下垂體前葉の機能に就て, 衣笠茂, (朝鮮醫學會雜誌第 20 卷第 3 號)。
- 内分泌腺(睾丸及甲状腺)累積剔出の赤血球沈降速度に及ぼす影響に就て, 東田一夫, (大阪醫學會雜誌第 29 卷第 2 號)。
- 甲状腺成分の蛙蝌蚪變態に及ぼす影響に就て, 千野一郎, 西川四郎, (日本内分泌學會雜誌第 6 卷第 1 號)。
- 甲状腺疾患の基礎新陳代謝に及ぼす影響に及ぼす二三新療法の影響, 辻寛治 (日本内科學會雜誌第 15 卷第 3 號)。
- Addison 氏病の内分泌外科的療法に就て, 榊原亨, 新藤輝雄, (岡山醫學會雜誌第 42 年第 6 號)。
- アドレナリン及ピロカルピンの物質代謝に及ぼす影響に關する實驗的研究 (一) 饑餓時に於けるアドレナリンの作用に就て, 桑原郡司 (日本消化器學會雜誌第 29 卷第 6 號)。
- インシュリン肥胖療法及其二三治驗例, 木場武雄, (實驗醫報第 189 號)。
- アクロメガリーの一例, 山中覺, 倉位, (臺灣醫學會雜誌第 298 號)。
- 眼内壓と内分泌(一)邦人健康眼壓, 高橋武衝, (日本眼科學會雜誌第 32 卷第 8

- 號)。
- 眼内壓と内分泌(三)生殖腺と眼内壓, 高橋武衝, (同上 第 10 號)。
- 眼内壓と内分泌(四)腦下垂體, 上皮小體, 睪臟, 副腎, 高橋武衝, (同上 第 11 號)。
- 眼内壓と内分泌(五)各内分泌腺相互と眼内壓との關係, 高橋武衝, (同上 第 12 號)。
- ピットリンの局所應用による眼内壓の變動に就て, 菅澤奈良彦, (日本眼科學會雜誌第 32 卷第 6 號)。
- 各種卵巢製劑の家兎子宮運動に及ぼす影響と之がピットリンの併用に就て, 佐光彌三郎, (日本婦人科學會雜誌第 25 卷第 5 號)。
- 摘出灌流子宮の收縮運動并に之に對するアセチルヒヨリンと, アドレナリン作用に就て, 鳥居松次郎, (日本婦人科學會雜誌第 25 卷第 5 號)。
- 睪臟内分泌と雌性生殖機能(一)妊娠, 産褥時の家兎睪臟特にランゲルハンス氏島に關する組織學的研究, 明比竹馬, (近畿婦人科學會雜誌第 13 卷第 3 號)。
- 頸動脈腺の病理解剖に就て, 古城九州男, (大日本耳鼻咽喉科會報第 35 卷第 8 號)。
- 頸動脈腺の病理學的研究, 古城九州男, (耳鼻咽喉科第 3 卷第 2 號)。
- 頸動脈腺の病理學的實驗研究, 古城九州男, (同上 第 5 號)。
- 頸動脈腺の病理解剖學的研究, 古城九州男, (同上 第 6 號)。
- 鶏族の第二次性特徴と生殖腺内分泌(三)卵巢摘出と第二次性特徴, 實驗的第二次性特徴の轉換と兩性具有, 阪本三郎, (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 2 號)。
- 鶏族の第二次性特徴と生殖腺の内分泌(四)睾丸に對するレ線の影響と雄第二次性特徴, 阪本三郎, (同上)。
- 消化管特に胃及腸管ホルモンに就ての實驗的研究(一七), 實驗的尿毒症に對する M.D. ホルモンの影響に就て, 越智貞逸, 福岡實信, (京都府立醫科大學雜誌第 4 卷第 4 號)。

- 腸運動促進性ホルモンに就ての實驗的研究, 越智眞逸, (日本醫事新報第 410 號 411 號)。
- 灸の生理學的研究, 駒井一夫, (京都府立醫科大學雜誌第 4 卷第 4 號)。
- インシュリンニに關する研究の現状, 藤波, 川合, (日本化學總覽第 3 卷第 5 號)。
- 腦下垂體と尿との交渉實驗, 朝日庸, (愛知醫學會雜誌第 37 卷第 6 號)。
- 肝臟解毒ホルモン(ヤクリトン)の研究, 佐藤彰, (Tohoku Journal of Exp. Medicine 第 13 卷第 5, 6 號)。
- 副腎摘出家兎血糖に對する諸種内分泌の影響に就て, 美間武, (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 4 號)。
- 内分泌の「ストリヒニン」中毒死に及ぼす影響に就て, 李聖恩, (日本微生物學及病理學雜誌第 24 卷第 8 號)。
- 卵巢製劑の血液内糖量及びカルチウム量に及ぼす影響, 佐藤豊雄, (日本藥物學雜誌第 10 卷第 3 號)。
- インシュリンのバセドウ氏病及甲狀腺機能亢進症患者窒素新陳代謝に及ぼす影響並に臨牀的觀察, 溝上三保, (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 3 號)。
- バセドウ氏病患者血清の平滑筋に對する作用に就て, 久保園, (同上)。
- 軟近に於ける, ホルモン療法之趨勢, 松岡謙之助, (同上第 3 卷第 5 號)。
- 失血に關する實驗的研究(二), 福地省吾, (醫學研究第 4 卷第 4 號)。
- 甲狀腺の機能に關する研究, 佐久間, 木村, (東北醫學雜誌第 13 卷第 2 冊)。
- 副腎アドレナリン含量に及ぼす雪花菜偏食及ヴィガガントールの影響に就て, 三條英一, (兒科雜誌 353 號)。
- 副腎と眼壓(一), 副腎剔出の眼壓に及ぼす影響, 東泰一, (實驗眼科雜誌第 105 號)。
- 細菌毒素とホルモンとの關係, 卵巢濾胞水の破傷風毒素に及ぼす影響と子宮ホルモンとの關係, 今村豊八, (日本內科學會雜誌 17 卷 5, 6 號)。
- 乳腺下卵巢移植, 大野精七, (日本婦人科學會雜誌第 25 卷第 8 號)。
- 腦下垂體前葉と女性生殖器との關係, 中島東雄, (東京醫事新誌 2682 號)。
- 女性性ホルモンに關する研究の現況, 安田龍夫, (日新醫學 18 年 11, 12 號)。

- 甲狀腺と胎盤との關係に就て, 久保園善次郎, (日本内分泌學會雜誌 3 卷 4 號)。
- 甲狀腺と血液凝固時間及血漿中フィブリノーゲン含量との關係に就て, 市川格之助, 佐々木徳太郎, (同上)。
- 甲狀腺の代償性肥大と沃度含有量, 甲狀腺劑及び沃度劑の之に及ぼす影響に就て, 齋藤隆, 田中賢三, (同上第 3 號)。
- 寒冷の際に於ける血糖及之に及ぼす甲狀腺の影響, 青木徹, (北海道醫學會雜誌 8 卷 6 號)。
- 鹽化ヒヨリン注射による諸種内分泌臟器の變化并にアドレナリン及ヒヨリンの相互關係に就て, 井倉詠, (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 4 號)。
- 甲狀腺試食動物の腦下垂體に於ける組織學的所見に就て, 清成要平, 西村俊一, (日本内分泌學會雜誌第 3 卷第 3 號)。
- 卵巢物質の甲狀腺及び其他内分泌臟器に及ぼす影響, 殊に黃體と體質との拮抗作用に就て, 井倉詠, (同上第 5 號)。
- インシュリン反覆注射による甲狀腺, 脾臟及び腦下垂體の變化に就て, 井倉詠, (同上)。
- 齧齒類に於ける副腎皮質, 戸荻近太郎, (日本の醫界 20 卷 24 號)。
- 膽汁酸鹽類の性慾發現并に生殖器肥大作用に就て, 衣笠茂, (朝鮮醫學會雜誌 第 5 號)。
- 卵巢ホルモンの藥理學的研究, 服卷實一, (日本病理學會々誌 19 年)。
- 妊娠時期と卵巢ホルモンの血液内含量, 尿及乳汁の卵巢ホルモン排泄, 八井田寛, 他五氏, (同上)。
- 卵巢ホルモンと血液カルチウム及び血液コレステリン量との關係, 森茂樹, 服卷實一, (同上)。
- 甲狀腺剔出家兎に於ける卵巢の小嚢胞性變性に就て, 植山太, 村田宮吉, (同上)。
- 鉛中毒に於ける卵巢所見, 久布白兼, (同上)。
- ビタミン缺乏と性週期との關係, 中村盛雄, (同上)。
- 去勢後 28 年間生存せし男子の内分泌臟器所見, (同上)。

- 副腎皮質末試食及び副腎皮質乳劑エキス注射の結核感染に及ぼす影響, 附, 腎實質成分注射の家兎血糖量に及ぼす影響, 加藤謙一 (結核 8 卷 5 號)。
 ホルモン注射による皮膚感受性の變動, 横尾守中, (皮膚科及泌尿器科雜誌 29 卷 13 號)。
 アドレナリン作用の臨牀的觀察(二)所謂アドレナリン試験の基礎的標準決定に就て, 松永清夫, (京都醫學雜誌 27 卷 6 號)。
 アドレナリン作用の臨牀的觀察(二)諸種疾患者のアドレナリン刺戟閾に就て, 松永清夫, (同上 第 7 號)。
 粘膜水腫の臨牀的實驗, 田章吾, (兒科雜誌 342 號)。
 消化管特に胃及腸管ホルモンに就ての實質的研究, (一八), 越智眞逸, 高木盟治, (京都府立醫科大學雜誌 4 卷 5 號)。
 消化管特に胃及び腸管ホルモンに就ての實驗的研究, (一九)リヅノールと腸ホルモン(D,H)との關係に就て, 越智眞逸, 高木盟治, (同上)。
 諸種血管内に注入せるセクレチンの膝液及び膽汁分泌に及ぼす作用の比較試驗, 谷口積, (大阪醫學會雜誌 25 卷 6 號)。
 セクレチンの血球并に色素量に及ぼす影響, 杉本安太郎, (同上, 第 12 號)。
 男性附屬生殖腺の内分泌學的考察, 藤田宗一, (醫事公論 708 號)。
 胸腺及淋巴腺リパーゼに關する研究補遺, 小山順治, (大阪醫學會雜誌 25 卷 12 號)。
 内分泌臟器と血液及び腺臟カタラーゼとの關係(一)李先根, (朝鮮醫學會雜誌 第 94 號)。
 内分泌臟器カタラーゼとの關係(二)睾丸と血液及臟器カタラーゼとの關係, 李先根, (兒科雜誌 354 號)。
 副腎皮質製劑の腎臟機能に及ぼす影響, 水野良辰 (日本生化學會々報 4 卷 5)。
 甲狀腺沃度含有量に及ぼす諸種内分泌物質の影響, 齋藤隆, (日本内分泌學會雜誌第 3 卷 1 號)。
 饑動物に於ける窒素新陳代謝に及ぼす内分泌の影響, 溝上三保, (同上 3 卷 1 號)。

- 腎臟の血壓上昇物質に就て, 小林數之介, (滿州醫學雜誌 7 卷 6, 3 號)。
 實驗的甲狀腺中毒症に於ける自律神經末梢の感受性に就て, 小林專一, (東京醫學會雜誌 44 卷 7 號)。
 諸種内分泌及藥物の膽汁分泌に及ぼす影響, 森健吉, (日本内分泌學會雜誌 5 卷 1 號)。
 睾丸内分泌の研究, 片岡八束, (滿州醫學會雜誌 7 卷 2, 3 號)。
 インシュリンによる胃液分泌及び饑餓發生の本態に就て, 津下百太, (東京醫學會雜誌 44 卷 9 號)。
 胃液に關する研究, (二)ノイトラルロート及びヒスタミンに來る胃粘膜機能試驗, 杉浦朝重, (愛知醫學會雜誌 37 卷 9 號)。
 Basedow 氏病の外科的療法に就て, 勝屋弘辰, (東京醫事新誌 2681 號)。
 産褥尿に於ける所謂腦下垂前葉ホルモンの出現に就て, (家兎を試験動物としての成績), 福田正材, (大阪醫學會雜誌 29 卷 3 號)。
 Zondek 氏プロランA(腦下垂體前葉ホルモン)の抽出方法, 伊藤正雄, (治療新報 29 卷 9 號)。
 再歸熱と内分泌系との關係に就て實驗的研究(一)再歸熱と甲狀腺, 杉若金一郎, (皮膚科記要 15 卷 1 號)。
 再歸熱と内分泌系との關係に就ての實驗的研究, (二)再歸熱と睾丸, 杉若金一郎, (同上)。
 再歸熱と内分泌系との關係に就ての實驗的研究, (三)再歸熱と脾臟, 杉若金一郎, (同上 3 號)。
 再歸熱と内分泌系との關係に就ての實驗的研究, (四)再歸熱と副腎, 杉若金一郎, (同上第 4 號)。
 (以上 醫學中央雜誌第 31 卷所載)。
 別出せる家兎腸管のリチン吸收(一), 井上寅一郎, (日本藥物學雜誌 3 卷 9 號)。
 別出せる家兎腸管のリチン吸收(二), 井上寅一郎, (軍醫團雜誌 200 號)。
 同 (三), 井上寅一郎, (同上第 205 號)。
 別出子宮の藥理學的研究補遺(四)子宮粘膜に於ける蛋白體の吸收, 寺阪源雄,

- (日本藥物學雜誌 9 卷 3 號)。
- 生殖腺の甲状腺沃度含有量に及ぼす影響に就て, 齋藤隆, (日本内分泌學會雜誌 6 卷 3 號)。
- 蛙皮膚色素透過性に及ぼす甲状腺の影響, 齋藤隆, (同上)。
- 鶏胎兒發育に及ぼす諸種内分泌の影響(一)副腎皮質の影響に就て, 大西康夫, (同上 5 號)。
- 摘出マウス子宮は子宮緊縮劑價值檢定として用ひ得べきか(四), 佐藤十九一, (藥學雜誌 50 卷 9 號)。
- ヒスタミンの肺臟血管作用, 宮城盛次, (京都醫學雜誌 27 卷 4 號)。
- 灌流液内電解質の増減がアドレナリン及びピツイトリンの血管作用に及ぼす影響, 附, 臟器灌流の際灌流液の蒙むる變化, 神田善吾 (愛知醫學會雜誌第 37 卷 9 號)。
- 輸卵管ノ藥理(二), 輸卵管血管の藥理, 血管灌流法による二, 三藥物の作用, 去勢家兎輸卵管に於ける藥物の作用及び卵巢内分泌液注射による之が拮抗作用に就て, 橋本吉藏 (日本藥物學雜誌 9 卷 3 號)。
- 二三藥物の蛙皮膚色素細胞擴張作用, 特にピツイトリンの血管作用物質と蛙皮膚色素作用物質との異同に就て, 大村喜作 (同上)。
- 白鼠の大腦垂體剔出及大腦垂體前葉エキスに關する實驗的研究, 小山良修 (同上)。
- ピツイトリンの腎臟作用に就て, 難波驥逸 (岡山醫學會雜誌 42 年 2 號)。
- 脾臟有效成分の研究(二), 脾臟の生理的一成分に就て, 伊東幹愛, 片山誠意 (衛生試驗所彙報 37 號)。
- 甲状腺機能異常の瓦斯代謝に及ぼす影響并に二三内分泌製劑の相互關係に就て, 劉清井 (日本藥物學雜誌 9 卷 3 號)。
- 甲状腺の骨折治癒現象に及ぼす影響の實驗的研究, 古川俊勝 (同上)。
- 諸種要約の下に於けるアドレナリンの作用, 山本千任 (社會醫學雜誌 518 號)。
- アドレナリン連續注射による血色素の態度, 宮崎捨吉 (同上)。
- アドレナリン系列諸種アミンの摘出臟器に對する藥理作用の比較研究, 特に

- 其造構と作用との關係に就て, 岡崎正 (日本藥物學雜誌 9 卷 3 號)。
- アドレナリンによる白血球増加の成因に就て, 中島靜夫 (同上)。
- アドレナリン過血糖に對するチロキシンの影響に就て, 鎗居修三 (同上)。
- インシュリン及びアドレナリン注射に依る家兎血液并に筋肉磷酸化合物及び血糖の消長に就て, 中村八郎 (同上)。
- 胸腺皮質及髓質の機能, 殊に之等と生殖腺との關係, 衣笠茂 (The Keijo of Medicine 1 卷 1 號)。
- 生殖腺臟器の臟器并に種屬特異性に就て(特に睾丸の自家免疫), 大城眞郷 (岡山醫學會雜誌 32 年 2 號)。
- アドレナリン作用の臨牀的觀察(三), アドレナリン逆反應に就ての知見補遺 松永清夫 (京都醫學雜誌 27 卷 8 號)。
- アドレナリン作用の臨牀的觀察(四), アドレナリンの電氣心動圖に及ぼす影響に就て 松永清夫 (同上 9 號)。
- アドレナリン作用の臨牀的觀察(五), アドレナリンの橈骨動脈波型に及ぼす影響に就て 松永清夫 (同上 10 號)。
- 腎臟の機能及び疾患に就て, 小澤修造 (日本內科學會雜誌 18 卷 1 號)。
- インシュリン分泌過多症に就て, 角尾晉, 中村英夫 (グレンツゲビート 4 年 9 號)。
- 實驗的貧血に關する研究(九), 實驗的貧血に及ぼす臟器食餌の影響(四), 甲状腺食餌の影響, 馬島禎人 (好生館醫事研究會雜誌 36 卷 1, 2, 3 號)。
- 粘液水腫のチロキシン治驗例, 濱田宗之助 (兒科雜誌 366 號)。
- 卵巢濾胞ホルモンの生物學的效力檢定法に就て, 島村虎猪 (臨床月報第 239 號)。
- 卵巢の乳腺下移植に就て, 大野精七 (日本婦人科學會雜誌 25 卷 11 號)。
- 卵巢製劑ギナンドールの動物實驗成績に就て, 吉森延 (同上)。
- 胎盤及び腦下垂體前葉移植の性週期に及ぼす影響, 太田徳次郎 (岡山醫學會雜誌 42 年 2 號)。
- 胎盤エキス并に妊婦尿の雄性幼若マウス生殖器に及ぼす影響, 空閑重秋

- (滿州醫會雜誌 13 卷 5 號)。
- 唾液腺の内分泌機能に就て, 石田俊孝 (實驗醫報 193 號)。
- 甲狀腺の神經支配と沃度含量に就て, 深江一 (十全會雜誌 35 卷 10 號)。
- アドレナリンの血清及び皮膚酵素に及ぼす影響, 野口三郎 (朝鮮齒科醫學會雜誌 8 號)。
- インシュリンの副腎アドレナリン含量に及ぼす影響, 平木孫治 (熊本醫學會雜誌 5 卷 4 號)。
- アドレナリン注射と家兎毛髮色素形成の變調, 福井謙一 (解剖學雜誌 3 卷 3 號)。
- 胸腺の發生に就て, 溝口壽夫 (同上 4 號)。
- 假性半陰陽の一剖檢例, (實地醫家と臨床 7 卷 7 號)。
- 齧齒類に於ける副腎皮質, 戶荻近太郎, 別所正恭 (同上)。
- 胃液分泌自身の胃液分泌促進作用, 吉田吉春 (長崎醫學會雜誌 8 卷 5 號)。
- アドレナリン及びヒロカルピンの物質代謝に及ぼす影響に関する實驗的研究 (三), アドレナリンの肝臟機能に及ぼす影響に就て, 桑原邦司 (日本消化器學會雜誌 29 卷 11 號)。
- インシュリンに依る電氣心動曲線の變化に就て, 前田毅, 井上隆雄 (長崎醫學會雜誌 8 卷 5 號)。
- 癌と内分泌, 口下部周利 (診斷と治療臨時増刊 7 編)。
- 松果腺腫瘍に就て, 清水寛一外三氏 (東西醫學大觀 34 號)。
- Basedow 氏病の沃度療法, 佐藤亨 (日本醫事新報 431 號)。
- 粘膜炎腫症の一例特に其二三血液化學的所見に就て, 占部虎雄 (日本內科學會雜誌 18 卷 8 號)。
- 内分泌腺製劑の鼻腔内使用と其效果(一), アドレナリン鼻腔内使用の實驗及び臨牀的效果, 伊藤正雄 (東京醫事新誌 2698 號)。
- 家兎摘出膽管に對するセクレチン及自律神經毒作用に就て, 保田哲太郎 (大阪醫學會雜誌 29 卷 6 號)。
- セクレチン及びヒヨリンの膵液蛋白消化に及ぼす影響, 久田賢次 (同上)

- 十二指腸内に排出せる胃内容の酸度及びセクレチン抽出に及ぼす酸の濃度の影響, 久田賢次 (同上)。
- セクレチンの透折に就て, 石川儀三郎 (同上)。
- 膵液分泌と血液水素イオン濃度に就て, 三宅孔 (同上 12 號)。
- 液體性機作による膵液成分に就て, 石川儀三郎 (同上)。
- 卵巢實質及び黃體の窒素新陳代謝に及ぼす影響に就て, 小川篁 (日本内分泌學會雜誌 5 卷 12 號)。
- 甲狀腺上皮細胞及び濾胞内容に於ける沃度の分布に就て(一), 沃度加里及び二三内分泌腺製劑の影響, 西川四郎 (同上 6 卷 7 號)。
- 硫黃新陳代謝に及ぼす諸種内分泌の影響(一), 硫黃新陳代謝に及ぼす甲狀腺の影響に就て, 田坂靜哉 (同上 6 號)。
- 硫黃新陳代謝に及ぼす内分泌の影響(二), インシュリンの影響に就て, 田坂靜哉 (同上 9 號)。
- 硫黃新陳代謝に及ぼす諸種内分泌の影響(三), 副腎皮質の影響に就て, 田坂靜哉 (同上)。
- アドレナリンの一新證明法, 築地美暢 (福岡醫科大學雜誌 23 卷 7 號)。
- クレアチニン排泄に及ぼすアドレナリン并に膽汁酸の影響に就て, 上代皓三, 多久愛次郎 (The Journal of Biochemistry 11 卷 2 號)。
- ピロカルピン注射の内分泌諸臟器組織學的所見に及ぼす影響に就て, 末松務 (日本内分泌學會雜誌 6 卷 6 號)。
- 甲狀腺の上皮細胞及膠様兩物質の作用に就て(一), 兩物質の内分泌諸臟器に及ぼす影響に就て, 千野一布 (同上 5 號)。
- 非經口的に注入せる甲狀腺成分の生體に及ぼす影響に就て(一), 血液像に及ぼす影響, 石川省三 (實驗醫學雜誌 12 卷 4 號)。
- 非經口的に注入せる甲狀腺成分の生體に及ぼす影響に就て(二), 一般狀態體重并に諸臟器重量に及ぼす影響, 石川省三 (同上 6 號)。
- 甲狀腺機能の免疫沈降素に及ぼす影響に就て, 大田原一祥 (岡山醫學會 42 年 2 號)。

- 人類慢性モルヒネ中毒と甲状腺との關係に就て(二), 含水炭素新陳代謝に就て 金銓植 (朝鮮醫學會雜誌 20 卷 11 號)。
- 睾丸ホルモン製劑に就て, 藤田宗一 (臨床醫學 19 年 1 號)。
- 胃粘膜抽出物の皮下注射による人體消化液分泌に就て(一), 胃酸分泌促進作用 松井薫作 (臺灣醫學會雜誌 308 號)。
- 血液像に及ぼす硫黃インシュリン并に甲状腺の相互關係に就て, 田坂靜哉 (日本內分泌學會雜誌 6 卷 10 號)。
- 尿管症患者の臨牀例并に其新陳代謝試驗, 宮島淑夫 (乳兒學雜誌 8 卷 2 號)。
- 母體上皮小體剔出の胎兒齒牙發育に及ぼす影響, 生田信保, 増田二郎 (大日本齒科醫學會々誌 57 卷)。
- 內分泌腺と乳仔齒牙發育との關係に就て, 野澤鈎 (朝鮮齒科醫學會雜誌 9 號)。
- ホルモンの家兔腸管に於ける尿素吸収并に排泄機轉に及ぼす影響に就て, 大木文雄 (北海道醫會雜誌 8 年 9 號)。
- ヒヨリンの消化酵素力促進機能に關する研究并に再びエンテロキナーゼ及ゼクレチンの本態に就て, 大野良藏 (日新醫學 19 年 2 號)。
- 內分泌臟器と血液及臟器カタラーゼとの關係(三), 脾臟と血液及臟器カタラーゼとの關係, 李先根 (朝鮮醫學會雜誌 19 卷 11 號)。
- 內分泌臟器と血液及臟器カタラーゼとの關係(四), 脾臟及び甲状腺と骨髓カタラーゼとの關係, 李先根 (兒科雜誌 366 號)。
- 人屍體腦下垂體前葉內性ホルモンの含有量に就て, 植野晃徳, 村田宮吉 (大阪醫學會雜誌 30 卷 1 號)。
- 上皮小體ホルモン并に石灰新陳代謝の研究, 稻葉通明 (The Journal of Biochemistry 12 卷 1 號)。
- 兩側副腎全剔出白鼠の諸種內分泌腺製劑に對する敏感度に就て, 中澤盛興 (日本內分泌學會雜誌 6 卷 10 號)。
- 家兔血液內殘餘窒素量に及ぼす諸種內分泌腺製劑影響に就て, 中澤盛興 (同上 9 號)。
- 內分泌と肝臟內尿素生成に就て(一), インシュリンの影響, 森健吉 (同上 5

- 卷 3 號)。
- 內分泌と肝臟內尿素生成に就て(二), 森健吉 (同上)。
- 血糖に對するゼクレチンの作用に就て, 安田守男 (The Journal of Biochemistry 11 卷 3 號)。
- 脂肪新陳代謝に及ぼす硫黃の影響并に之と甲状腺との關係に就て, 久保昇準 (日本內分泌學會雜誌 6 卷 8 號)。
- 脾臟及甲状腺剔出後の諸臟器脂肪含有量に就て, 中澤盛興 (同上)。
- 甲状腺及砒素製劑の二十日鼠全身脂肪量及體重に及ぼす影響殊に兩者の關係に就て, 中澤盛興 (同上 10 號)。
- 數種の中樞性原因による呼吸制止殊にアドレナリンに因る呼吸停止の機轉に就て, 小坂隆雄 (滿州醫學雜誌 12 卷 3 號)。
- 血管及氣管枝筋の緊張に就ての研究(一), 肺及末梢動靜脈并に氣管枝筋條片標本に及ぼす諸種物質の作用, 三宅儀 (同上 4 號)。
- 血管及氣管枝筋の緊張に就ての研究(二), 血管及氣管枝筋の條片標本に及ぼす諸種物質の作用(二), 三宅儀 (同上 5 號)。
- 血管及氣管枝筋の緊張に就ての研究(三), 摘出灌流家兔肺臟に及ぼす二三物質, 三宅儀 (同上 6 號)。
- 血糖量の變化より觀たる二, 三藥物の比較, 小山義作 (臨床醫學 19 年 1 號)。
- 腦下垂體前葉ホルモンに關する晩近の研究に就て, 原田三郎 (治療及處方 103 號)。
- 腦下垂體後葉製劑の尿排泄に及ぼす作用機轉, 村岡正夫 (實驗藥物學雜誌 2 卷 4 號)。
- ピットリットの尿素代謝に及ぼす作用機轉に就て, 大橋芳彦 (同 3 號)。
- インシュリンの尿素代謝に及ぼす作用機轉に就て, 大橋芳彦 (同上)。
- インシュリンの藥理に關する實驗的研究補遺, 新津茂良 (成醫會雜誌 49 卷 2 號)。
- 甲状腺物質の尿素代謝に及ぼす影響及其作用機轉に就て, 大橋芳彦 (同上)。
- 種々の操作を施せる甲状腺物質の蛙剔出心臟に及ぼす影響に就て, 千野一布

(日本内分泌學會雜誌 6 卷 10 號)。

Basedow 氏病甲狀腺の病理, 黒川清之 (慶應醫學 10 卷 12 號)。

諸種内分泌物質が脂肪組織糖原質生成に及ぼす影響, 佐野進 (岡山醫學會雜誌 42 第 2 卷)。

諸種内分泌臓器の健常自家血球凝集素に及ぼす影響に就て, 前田辰男 (熊本醫學會雜誌 6 卷 12 號)。

内分泌諸臓器の變化より見たる特發性食道擴張症に就て, 高橋敏行 (日本内分泌學會雜誌 5 卷 6 號)。

内分泌腺機能と胃運動(一), 甲狀腺, 服部靖純 (實驗消化器病學 5 卷 5 號)。

内分泌と體質及び疾病, 中村八太郎 (診斷と治療臨時増刊)。

Basedow 氏病, 岡田清三郎 (診斷と治療 18 年 1 號)。

甲狀腺機能亢進患者血清の平滑筋に對する作用, 特にアドレナリン増強作用に就て, 久保園善次郎 (日本内分泌學會雜誌 4 卷 3 號)。

甲狀腺機能亢進症の基礎代謝に及ぼす内分泌臓器製劑の影響に就て(1)總論及び甲狀腺機能亢進症患者の基礎代謝に及ぼす副腎製劑に就て, 原禎造 (日本内分泌學會雜誌 4 卷 3 號)。

甲狀腺機能亢進症の基礎代謝に及ぼす内分泌臓器製劑の影響に就て(2), 甲狀腺機能亢進症患者の基礎代謝に及ぼすインシュリンの影響に就て, 原禎造 (日本内分泌學會雜誌 4 卷 3 號)。

甲狀腺機能亢進症の基礎代謝に及ぼす内分泌臓器製劑の影響に就て(3), 甲狀腺機能亢進症患者の基礎代謝に及ぼす上皮小體製劑の影響に就て, 原禎造 (同上 4 卷 4 號)。

甲狀腺機能亢進症の基礎代謝に及ぼす内分泌臓器製劑の影響に就て(4), 甲狀腺機能亢進症患者の基礎代謝に及ぼす沃度(Lugol 氏液)の影響及び沃度と内分泌臓器製劑の合併療法の影響に就て, 原禎造 (同上 4 卷 4 號)。

甲狀腺機能亢進症に於ける非經口的葡萄糖及オリーブ油の體內作用に就て, 原禎造 (同上 4 卷 1 號)。

甲狀腺劑の著效を奏せし發育不全症の二例, 日下部周利 (治療及處方 192 號)。

上皮小體剔出性テタニー, 稻田龍吉 (診斷と治療 18 年 1 號)。

Simmonds 氏病(腦下垂體性惡液質), 中川諭 (實驗醫報 196 號)。

類宦官症の二例に於ける呼吸瓦斯代謝の研究, 原禎造 (日本内分泌學會雜誌 4 卷 8 號)。

Addison 氏病に於ける基礎新陳代謝に就て, 岡田稔 (同上 4 卷 1 號)。

體溫の研究(二), 自律神經毒及び内分泌腺製劑が人體溫に及ぼす影響に就て(健康者, 脚氣及び Basedow 氏病患者に就ての實驗), 田坂定孝 (東京醫學會雜誌 45 卷 1 號)。

腸ホルモンの腸管痙攣に對する腸運動亢進劑としての臨牀的應用に就て, 岩島武次 (京都府立醫科大學雜誌 4 卷 5 號)。

アドレナリンの吸収に關する實驗的研究特に年齢的差異に就て, 高階修 (兒科雜誌 368 號)。

ネコイラズ中毒に對するヤクリトンの臨牀實驗例, 柳川重雄, 朝倉久松 (兒科雜誌 362 號)。

副腎と眼壓(一)副腎摘出の眼壓に及ぼす影響, 東泰一 (日本眼科學會雜誌 33 卷 5 號)。

疾病治療と體質眼科方面, 菅沼定男 (診斷と治療臨時増刊 220)。

腦下垂體後葉製劑アトニンの效力定準に就て, 中野哲夫 (東京醫事新誌 2692 號)。

膵臓内分泌と雌性生殖機能(二), インシュリンの生物學的研究, 明比竹馬 (近畿婦人科學會雜誌 13 卷 6 號)。

膵臓内分泌と雌性生殖機能(三)卵巢剔出 黃體及び濾胞破壊が膵臓ラ氏島に及ぼす影響に關する組織學的研究, 明比竹馬 (同上 13 卷 6 號)。

膵臓内分泌と雌性生殖機能(四)膵臓剔出が雌性生殖器に及ぼす影響に關する組織學的研究, 明比竹馬 (同上 13 卷 6 號)。

膵臓内分泌と雌性生殖機能(五)インシュリン膵肝臓アルコールエキス注射が家兎雌性生殖器に及ぼす影響に關する組織學的研究付生體染色, 明比竹馬 (同上 13 卷 6 號)。

膵臓内分泌と雌性生殖機能(六)妊娠及び非妊娠時に於ける膵臓 Langerhans 氏

- 島の抵抗, 附, 胎仔臓内内分泌腺機能に就て, 明比竹馬 (同上 13 卷 6 號)。
 膵臓内分泌と雌性生殖機能 (七) インシュリンの生物學的研究(續編), 明比竹馬 (同上 13 卷 6 號)。
 人體女性内生殖器特に子宮, 輸卵管及び卵巢に於ける神經 吉原敬 (東京醫事新誌 2696 號)。
 卵巢濾胞水に對する黃體の拮抗作用に就て, (一) 性週期上に於ける濾胞水と黃體の拮抗作用, 糸井一良, (實驗醫學雜誌 14 卷 12 號)。
 卵巢濾胞水に對する黃體の拮抗作用に就て(二) 雌性生殖器に於ける組織的所見より見たる濾胞水と黃體との拮抗作用, 糸井一良, (同上 14 卷 12 號)。
 雌性ホルモンに關する實驗的研究(三), 藤井明人, (東京醫事新誌 1695)。
 性週期に影響すべき外因に關する實驗的研究, 池井柳藏, (日本内分秘學會雜誌 6 卷 11 號)。
 卵巢ホルモンのアドレナリン及インシュリン 血糖作用に及ぼす影響, 藤川良雄, (日本婦人科雜誌 26 卷 1 號)。
 子宮剔出の卵巢に及ぼす影響に關する 實驗的研究, 田中貞夫, (日本婦人科學雜誌 26 卷 1 號)。
 胸腺エキスの人剔出子宮に對する作用及び家兎血壓に及ぼす影響に就て, 西島重樹, (東京醫事新誌 2693 號)。
 摘出灌流子宮の收縮運動並に之に對するアセチール, ヒョリンとアドレナリン作用に就て, 島居松次郎, (同上 2694 號)。
 動物體內に於ける水分の分布に就て, (一) 甲狀腺機能障害家兎に於ける水分分布, 草刈兵衛, 武田健次郎, (The Tohoku Journal of Experimental Medicine 16 卷 3, 4 號)。
 肺臓脂肪消化に及ぼす腎臓及副腎の影響(二) 特に家兎に於ける實驗, 寺尾敏行, (長崎醫科大學法醫學教室業報 2 卷 3 號)。
 諸種内分秘腺と臓器還元グルタチオン含有量, 龜井鼎三, 佐々木徳太郎, (日本内分秘學會雜誌 5 卷 1 號)。
 内分秘腺の臓器還元グルタチオン含有量に及ぼす影響, 龜井鼎三, 佐々木徳

- 太郎, (日本内分秘學會雜誌 5 卷 1 號)。
 ヴィタミンB 缺乏犬血中肝臓及び筋肉乳酸量並に筋肉ラクトアチドゲン量に就て, 附, 内分秘腺の變化に就て, 田中賢三, (同上 4 卷 5 號)。
 靑酸加里反覆注射が臓器乳酸量並に筋肉ラクトアチドゲン量に及ぼす影響に就て, 特に之れに及ぼすインシュリン作用に就て, 田中賢三, (同上 5 卷 5 號)。
 脾臓並に甲狀腺の血中乳酸に及ぼす影響に就て, 田中賢三, (同上 5 卷 5 號)。
 甲狀腺並に脾臓の血液乳酸量に及ぼす影響にて, 田中賢三, (同上 4 卷 1 號)。
 副腎皮質の血中, 肝臓及び筋肉乳酸量並に筋肉ラクトアチドゲン量に及ぼす影響に就て, 田中賢三, (同上 5 卷 4 號)。
 辜丸卵巢(黃體並に間質)副腎皮質脾臓の血中肝臓筋肉乳酸量並にラクトアチドゲン量に及ぼす影響に就て, 田中賢三, (同上 5 卷 1 號)。
 辜丸の血中, 肝臓及び筋肉乳酸量並に筋肉ラクトアチドゲン量に及ぼす影響に就て, 田中賢三, (同上 5 卷 4 號)。
 卵巢(黃體並に間質)の血中, 肝臓及び筋肉乳酸量並に筋肉ラクトアチドゲン量に及ぼす影響に就て, 田中賢三, (同上 5 卷 5 號)。
 脾臓並に甲狀腺の肝臓及び筋肉糖原質量に及ぼす影響に就て, 村尾勝雄, (日本内分秘學會雜誌 6 卷 4 號)。
 副腎皮質並にインシュリンの肝臓及び筋肉糖原質量に及ぼす影響, 村尾勝雄, (同上 6 卷 4 號)。
 肝臓及び筋肉糖原質量に及ぼすインシュリン 副腎皮質並に黃體の相互關係に就て, 村尾勝雄, (同上 6 卷 6 號)。
 肝臓及び筋肉糖原質量に及ぼす卵巢黃體並に副腎と甲狀腺との相互關係に就て, 村尾勝雄, (同上 6 卷 6 號)。
 肝臓及び筋肉糖原質量に及ぼすキニーネと甲狀腺の相互作用に就て, 村尾勝雄, (同上 6 卷 7 號)。
 動物母性本能の發來に關する 考察, 阪本三郎, (日本内分秘學會雜誌 3 卷 6 號)。
 生殖腺と諸種内分秘臓器との關係に就て, 安田徳太郎, (日本内分秘學會雜誌第 5

卷7號)。

諸種臟器オキシダーゼに及ぼす生殖腺の影響(一)睾丸の影響に關して, 安田徳太郎, (同上 3卷6號)。

諸種オキシダーゼに及ぼす生殖腺の影響, (二)卵巢の影響に關して, 安田徳太郎, (同上 5卷7號)。

諸種オキシダーゼに及ぼす副腎の影響, 安田徳太郎, (同上 5卷9號)。

副腎剔出に關する二, 三の實驗に就て, 安田徳太郎, (同上 5卷8號)。

副腎剔出及び副腎皮質が血液炭酸瓦斯含量及び水素イオン濃度に及ぼす影響

(一)副腎剔出が血液炭酸瓦斯含量及び水素イオン濃度に及ぼす影響に就て, 市川格之助, (日本内分秘學雜誌第5卷8號)。

副腎剔出及び副腎皮質が血液炭酸瓦斯含量及び水素イオン濃度に及ぼす影響

(二)副腎皮質物質が血液炭酸瓦斯含量及び水素イオン濃度に及ぼす影響並に之が甲狀腺物質及インシュリンとの關係, 市川格之助, (同上 5卷8號)。

副腎剔出及び副腎皮質試食が血液炭酸瓦斯含量, 水素イオン濃度並に血液凝固時間に及ぼす影響に就て, 市川格之助, (同上 5卷1號)。

副腎剔出及び副腎皮質試食が血液凝固時間に及ぼす影響に就て, 市川格之助, (同上 5卷9號)。

インシュリン及葡萄糖が血液凝固時間に及ぼす影響に就て, 市川格之助, (同上 4卷1號)。

脾臟及インシュリンの血液CO₂量及びPhに及ぼす影響, 市川格之助, (同上 4卷1號)。

脾臟甲狀腺並にインシュリンが血液炭酸瓦斯含量及び水素イオン濃度に及ぼす影響, (一)脾臟剔出が血漿炭酸含量及び水素イオン濃度に及ぼす影響並に之と甲狀腺との關係, 市川格之助, (同上 4卷12號)。

脾臟, 甲狀腺並にインシュリンが血液炭酸瓦斯含量及び水素イオン濃度に及ぼす影響(二)インシュリンが血液炭酸瓦斯含量及び水素イオン濃度に及ぼす影響並に之れと脾臟との關係, 市川格之助, (同上 5卷1號)。

ビタミンB缺乏症動物の瓦斯代謝に及ぼす諸種内分泌の影響, (一)甲狀腺の影響に就て, 篠部信一, (同上 5卷1號)。

ビタミンB缺乏犬の血糖量に及ぼす諸種内分泌の影響, 美間武, (同上 4卷第1號)。

インシュリン注射時, 饑餓時及び甲狀腺劑投與時の脂酸沃度數に就て, 古久保富治, (慶應醫學10卷12號)。

諸種臟器脂肪含量に對する甲狀腺及インシュリンの相互關係, 大村節次郎, (日本内分秘學雜誌4卷1號)。

葡萄糖反復供給のインシュリン, アドレナリン血糖作用并に耐糖力に及ぼす影響に就て, 織田敬信, (同上 5卷3號)。

インシュリン及アドレナリン血糖作用に及ぼす副腎皮質及び卵巢, (實質及び黃體)の影響, 織田敬信, (同上 4卷1號)。

青酸加里反復注射による血液内糖, 及, 乳酸量増加に及ぼす諸種内分泌の影響(一), 織田敬信, (同上 5卷, 2號)。

青酸加里反復注射による血液内糖, 及, 乳酸量増加に及ぼす諸種内分泌の影響(二), 織田敬信, (同上 5卷, 2號)。

インシュリン注射直後の血糖量變化に就て, 大原義司, 鈴木猛, (同上 4卷1號)。
繩縛による血液諸物質の變化に及ぼすインシュリンの影響に就て, 岡本, (同上 4卷, 1號)。

インシュリン血糖降下作用に及ぼすトリプシン及血清内アンチトリプシン, の影響に就て, 小室昌義, (同上 5卷, 1號)。

再びインシュリン注射後の初期血糖上昇に就て, 小宮昌義, (同上 5卷1號)。

インシュリンの血壓に對する作用に就て, 那須眞壽夫, (同上 4卷1號)。

インシュリンの血糖降下作用に及ぼす酸及アルカリの影響に就て, 那須眞壽夫, (同上 5卷1號)。

アドレナリン并にインシュリン溶液を直接脾臟に作用せしめたる際の血糖變化に就て, 那須眞壽夫, (同上 5卷1號)。

インシュリンが血清蛋白量に及ぼす影響及之と他の内分泌との關係に就て,